

# 高津区区民生活に関わる ニーズ調査

## 報告書



2013（平成25）年3月

高 津 区



## はじめに

少子高齢化の急速な進展や低経済成長への移行など、大きな社会の転換期を迎え、市民のライフスタイルが多様化しています。それに伴い、行政には、地域の視点や様々な価値観に基づく公共サービスの提供が求められており、特に区役所には、日常的なまちづくりの課題を的確に把握し、地域で解決する役割が求められています。

高津区においても、マンション建設に伴う人口急増、放置自転車、防犯・防災、子育て支援など様々な課題がありますが、これらの課題を解決するためには、区民の視点・感覚を踏まえて区政を進めていくことが大切と考えています。

そこで高津区では、区政の主役である区民一人ひとりが個人や地域で抱える課題について、どのような意識や意見を持っているかを把握し、地域の声を最大限に反映できる施策のあり方や解決手法を検討し、選択する際の資料とするため、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を2006（平成18）年度から3年に1度実施しています。

今回の調査では、前回調査した「区役所業務に対する要望と評価」、「まちの課題・問題点」、「区事業の認知度と評価」に加えて、特定のテーマに関する調査として区民会議で審議されている「地域防災について」を調査項目として取り上げています。

これらの調査結果を区が行う施策・事業に反映し、区民本位のよりよい区政運営に活かしていきたいと考えております。

2013（平成25）年3月

高津区長 秋岡 正充



# 目 次

I 調査概要 .....	3
II 調査回答者の属性 .....	7
III 調査結果	
1. 区の施策について .....	13
(1) 区役所業務の評価 .....	13
(2) 区役所業務への要望 .....	17
(3) 放置自転車対策 .....	21
(4) 街頭犯罪防止対策 .....	24
(5) 地震や風水害対策 .....	27
(6) 健康推進 .....	30
(7) 高齢者支援 .....	33
(8) 子育て支援 .....	36
(9) 地域住民のつながりを深める手法 .....	39
(10) 市民活動支援 .....	42
(11) 区の情報提供 .....	45
(12) 区民の要望収集 .....	48
(13) 花と緑のまちづくり推進 .....	50
(14) 区の文化の振興 .....	53
(15) 「音楽のまち」推進 .....	56
(16) 区のイメージアップ .....	59
(17) 区役所の窓口サービス向上 .....	62
(18) まちの課題・問題点 .....	65
2. 区の事業について .....	70
(1) 各事業への評価・認知度① .....	70
各事業への評価・認知度② .....	71
(2) 各事業への評価・参加度① .....	72
各事業への評価・参加度② .....	73
各事業への評価・参加度③ .....	74
(3) 各事業への評価・閲覧度① .....	75
各事業への評価・閲覧度②・利用度 .....	76

(4) 各事業の評価 .....	77
「エコシティたかつ」推進事業 .....	77
高津大山街道周辺整備活性化事業 .....	78
「たちばな農のあるまちづくり」推進事業 .....	79
たかつ区健康福祉まつり .....	80
高津公園体操推進事業 .....	81
子育て情報誌発行事業（あつたかつうしん） .....	82
高津区「音楽のまち」推進事業 .....	83
高津区子どもフェア .....	84
高津地区親子運動会事業 .....	85
橘地区親子運動会事業 .....	86
橘ふるさと祭り 子どもイベント .....	87
高津区文化振興事業 .....	88
高津区まちづくり推進事業 .....	89
高津区総合ガイドマップ作成事業 .....	90
高津区区民会議 .....	91
子ども・子育て情報発信事業	
（ホッとこそだて・たかつ（情報ガイドブック）） .....	92
子ども・子育て情報発信事業	
（ホッとこそだて たかつ（ホームページ）） .....	93
地域子育て支援センター事業 .....	94
子ども・子育てフェスタ事業 .....	95
高津区スポーツネットワーク事業 .....	96
高津区ふるさとアーカイブ事業 .....	97
3. 地域防災について .....	98
(1) 大規模地震発生時の「不安度」 .....	98
(2) 大規模地震発生時の「不安内容」 .....	102
(3) 大規模地震発生後に「頼る人」 .....	107
(4) 町内会・自治会主催の防災訓練参加有無 .....	112
(5) 町内会・自治会主催の防災訓練に参加しない理由 .....	117
(6) 防災力を高めるために必要なこと .....	122

(7)	大規模地震派生への備え.....	127
(8)	大規模地震発生に備え、特に準備をしていない理由.....	132
(9)	最寄りの避難所の認知.....	137
(10)	最寄りの避難所を知らないことについての意識.....	140
(11)	防災について必要な情報.....	145
(12)	防災知識の向上を図る学習会への参加意向.....	150
IV	使用した調査票.....	158





# I . 調 査 概 要



# I 調査概要

## 1. 調査の目的

高津区が執行する事業について、区民ニーズを的確に把握し、効率的、効果的に執行するため、「区民がどのような施策・事業を執行してほしいと思っているのか」、「高津区で実施している施策・事業をどのように評価しているのか」、また、特定のテーマに関する区民意識について、アンケート調査を実施する。

## 2. 調査の方法

- (1) 調査の地域 …… 川崎市高津区全域
- (2) 調査の対象者 …… 川崎市高津区在住の満20歳以上の男女個人（外国人含む）
- (3) 標本の抽出 …… 平成24年9月現在の住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- (4) 標本数 …… 1,006 サンプル
- (5) 調査方法 …… 郵送配布郵送回収法
- (6) 調査期間 …… 平成24年10月1日（月）～11月30日（金）
- (7) 調査委託機関 …… 株式会社 総合企画

## 3. 主要な調査項目

- (1) 区役所業務に対する評価と要望
- (2) 区の施策・事業についての手法
- (3) まちの課題・問題点
- (4) 区事業の認知度と評価
- (5) 地域防災について

## 4. 標本誤差

この調査の標本誤差（サンプル誤差）は、概ね下表のとおりである。標本誤差は次の式により得られる。標本誤差の幅は ①比率算出の基数（n）及び ②回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差  
n=比率算出の基数（サンプル数）  
P=回答の比率

回答の比率 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,006	± 2.7	± 3.6	± 4.1	± 4.4	± 4.5
750	± 3.1	± 4.1	± 4.7	± 5.1	± 5.2
700	± 3.2	± 4.3	± 4.9	± 5.2	± 5.3
500	± 3.8	± 5.1	± 5.8	± 6.2	± 6.3
300	± 4.9	± 6.5	± 7.5	± 8.0	± 8.2
100	± 8.5	± 11.3	± 13.0	± 13.9	± 14.1

(注) 1. 上表は  $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$  として算出した。

2. この表は、ある設問の回答者数が1,006人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±4.4%以内ということを表す。

## 5. 回収状況

町名	20歳以上人口 (構成比)	標本数	有効回収数 (構成比)	有効回収率	
高津地区	宇奈根	1,010 (0.6%)	11	4 (0.4%)	36.4%
	梶ヶ谷	8,229 (4.6%)	92	50 (5.0%)	54.3%
	上作延	8,992 (5.0%)	101	56 (5.6%)	55.4%
	北見方	7,044 (3.9%)	79	43 (4.3%)	54.4%
	久地	9,945 (5.6%)	113	48 (4.8%)	42.5%
	坂戸	7,198 (4.0%)	81	46 (4.6%)	56.8%
	下作延	17,364 (9.7%)	191	93 (9.2%)	48.7%
	下野毛	3,082 (1.7%)	35	10 (1.0%)	28.6%
	諏訪	5,294 (3.0%)	59	30 (3.0%)	50.8%
	瀬田	749 (0.4%)	8	7 (0.7%)	87.5%
	久本	9,871 (5.5%)	111	68 (6.8%)	61.3%
	二子	10,919 (6.1%)	123	45 (4.5%)	36.6%
	溝口	12,337 (6.9%)	138	64 (6.4%)	46.4%
	向ヶ丘	1,942 (1.1%)	23	10 (1.0%)	43.5%
高津地区・計	103,976 (58.2%)	1165	574 (57.1%)	49.3%	
橘地区	明津	2,674 (1.5%)	30	19 (1.9%)	63.3%
	蟹ヶ谷	6,475 (3.6%)	72	30 (3.0%)	41.7%
	子母口・ 子母口富士見台	7,432 (4.2%)	83	43 (4.3%)	51.8%
	新作	12,359 (6.9%)	139	74 (7.4%)	53.2%
	末長	16,488 (9.2%)	186	94 (9.3%)	50.5%
	千年	10,418 (5.8%)	117	52 (5.2%)	44.4%
	千年新町	2,464 (1.4%)	26	15 (1.5%)	57.7%
	野川	3,719 (2.1%)	41	20 (2.0%)	48.8%
	久末	12,601 (7.1%)	141	71 (7.1%)	50.4%
橘地区・計	74,630 (41.8%)	835	418 (41.6%)	50.1%	
			14 (1.4%)		
全体・計	178,606 100.0%	2000	1006 (100.0%)	50.3%	

※20歳以上人口は、平成24年9月末の住民基本台帳による

## 6. 図表の見方

- (1) 表中のnは回答者総数のことである。いくつでも○（複数回答）などの場合は回答が2つ以上ありうる。したがって、合計比は100%をこえる。
- (2) 百分比はNを100%として算出し、図表中では原則として単純集計については小数点第2位を四捨五入して第1位まで、その他のクロス集計については小数第1位を四捨五入して整数としたものを使用した。このため、百分比の合計が100%に満たない、又は上回る場合がある。

## 7. 数の表現

全体＝調査対象者数

n＝質問ごとの回答者数

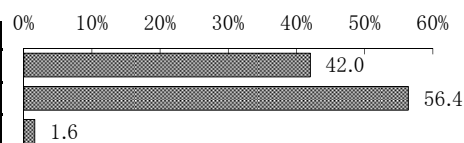
## Ⅱ. 調査回答者の属性



## Ⅱ 調査回答者の属性

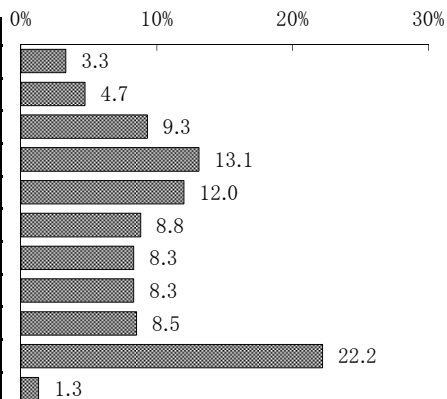
### (1) 性別【F1】

	n	構成比
1 男性	423	42.0%
2 女性	567	56.4%
(無回答)	16	1.6%
全体	1,006	100.0%



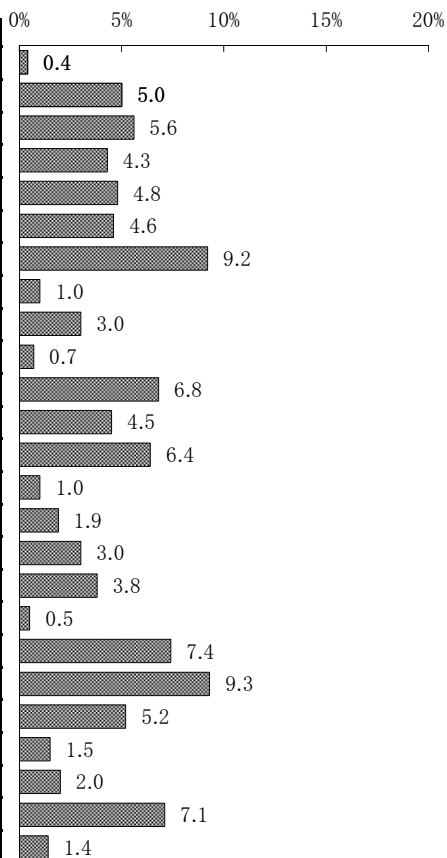
### (2) 年齢【F2】

	n	構成比
1 20～24歳	33	3.3%
2 25～29歳	47	4.7%
3 30～34歳	94	9.3%
4 35～39歳	132	13.1%
5 40～44歳	121	12.0%
6 45～49歳	89	8.8%
7 50～54歳	84	8.3%
8 55～59歳	84	8.3%
9 60～64歳	86	8.5%
10 65歳以上	223	22.2%
(無回答)	13	1.3%
全体	1,006	100.0%



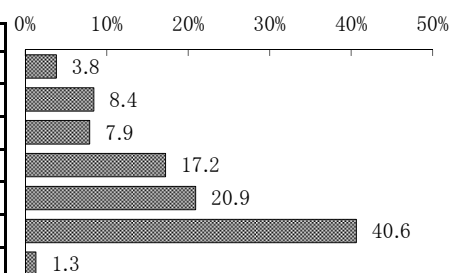
### (3) 居住地【F3】

	n	構成比
1 宇奈根	4	0.4%
2 梶ヶ谷	50	5.0%
3 上作延	56	5.6%
4 北見方	43	4.3%
5 久地	48	4.8%
6 坂戸	46	4.6%
7 下作延	93	9.2%
8 下野毛	10	1.0%
9 諏訪	30	3.0%
10 瀬田	7	0.7%
11 久本	68	6.8%
12 二子	45	4.5%
13 溝口	64	6.4%
14 向ヶ丘	10	1.0%
15 明津	19	1.9%
16 蟹ヶ谷	30	3.0%
17 子母口	38	3.8%
18 子母口富士見台	5	0.5%
19 新作	74	7.4%
20 末長	94	9.3%
21 千年	52	5.2%
22 千年新町	15	1.5%
23 野川	20	2.0%
24 久末	71	7.1%
(無回答)	14	1.4%
全体	1,006	100.0%



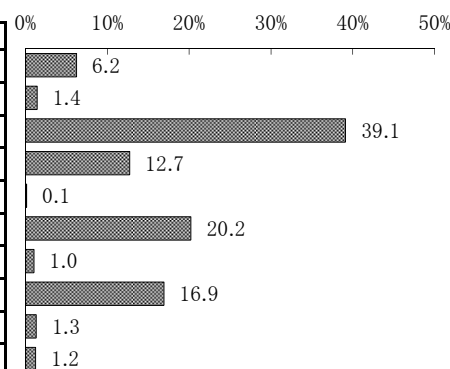
(4) 居住年数【F 4】

	n	構成比
1 1年未満	38	3.8%
2 1年～3年未満	85	8.4%
3 3年～5年未満	79	7.9%
4 5年～10年未満	173	17.2%
5 10年～20年未満	210	20.9%
6 20年以上	408	40.6%
(無回答)	13	1.3%
全 体	1,006	100.0%



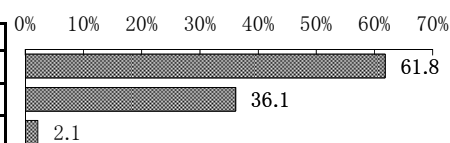
(5) 職 業【F 5】

	n	構成比
1 自営業主	62	6.2%
2 家族従業 (家事手伝い)	14	1.4%
3 勤め (全日)	393	39.1%
4 勤め (パートタイム)	128	12.7%
5 内職	1	0.1%
6 主婦 (仕事はしていない)	203	20.2%
7 学生	10	1.0%
8 無職	170	16.9%
9 その他	13	1.3%
(無回答)	12	1.2%
全 体	1,006	100.0%



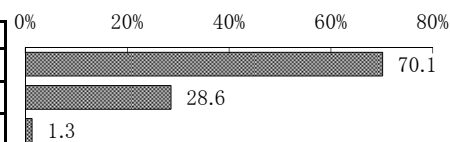
(6) 町内会・自治会加入【F 6】

	n	構成比
1 はい (加入している)	622	61.8%
2 いいえ (加入していない)	363	36.1%
(無回答)	21	2.1%
全 体	1,006	100.0%



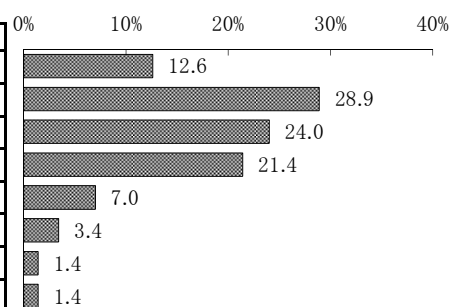
(7) インターネット利用【F 7】

	n	構成比
1 はい (利用している)	705	70.1%
2 いいえ (利用していない)	288	28.6%
(無回答)	13	1.3%
全 体	1,006	100.0%



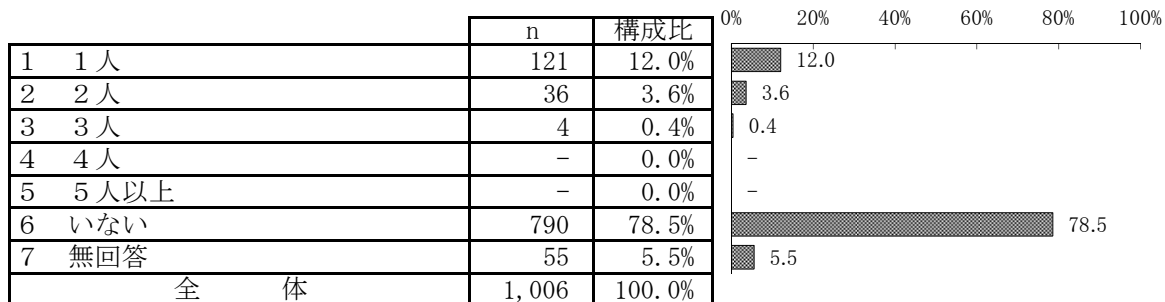
(8) 家族構成【F 8】

	n	構成比
1 1人	127	12.6%
2 2人	291	28.9%
3 3人	241	24.0%
4 4人	215	21.4%
5 5人	70	7.0%
6 6人	34	3.4%
7 7人以上	14	1.4%
(無回答)	14	1.4%
全 体	1,006	100.0%





(9) 家族構成 (未就学児) 【F8-1】



(10) 家族構成 (小学生) 【F8-1】



(11) 家族構成 (中学生) 【F8-1】



(12) 家族構成 (高校生) 【F8-1】



(13) 65歳以上の方との同居 【F10】





### Ⅲ. 調 查 結 果



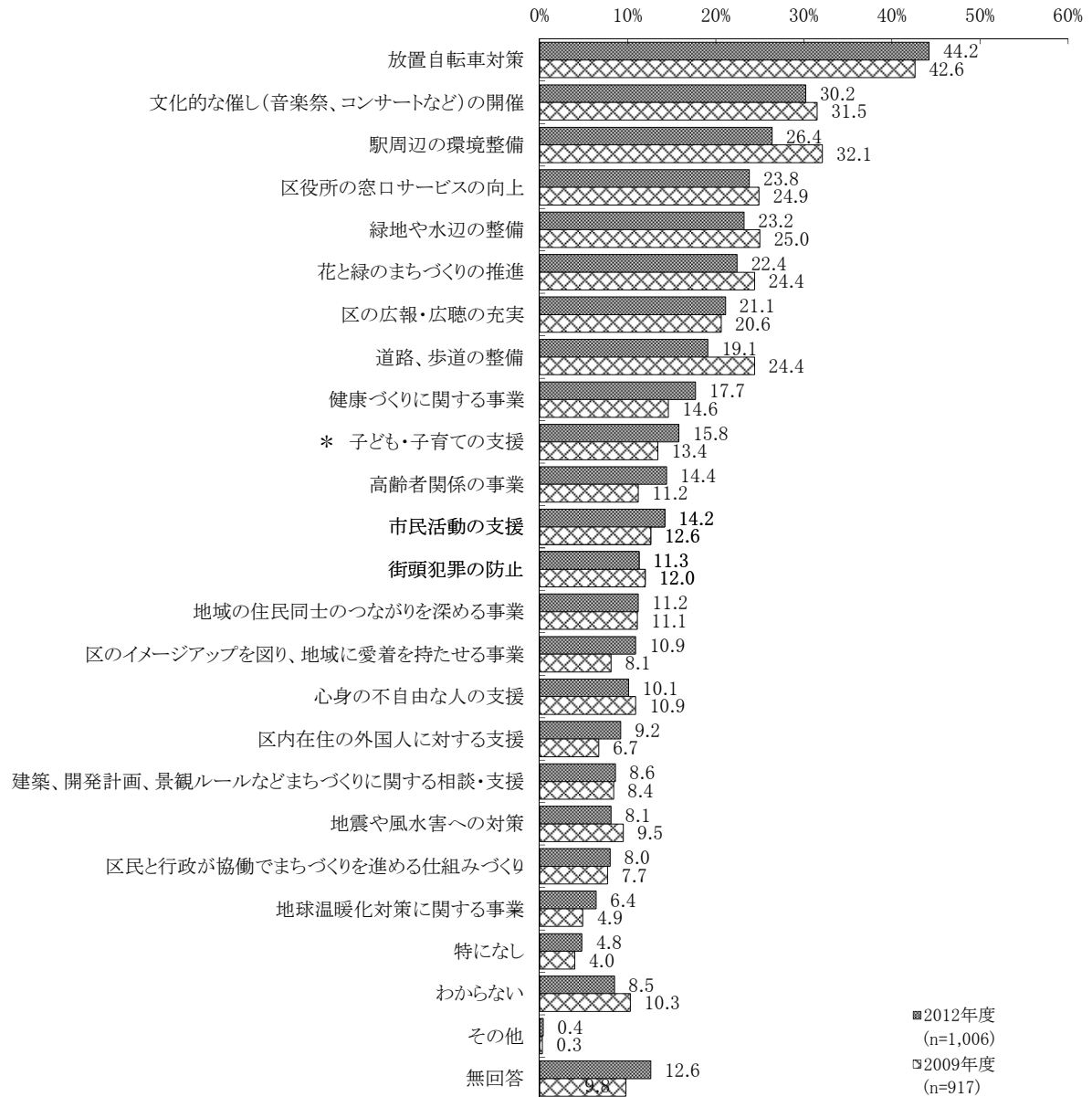
### Ⅲ 調査結果

#### 1. 区の施策について

##### (1) 区役所業務の評価

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。  
(いくつでも○)

図 1-1

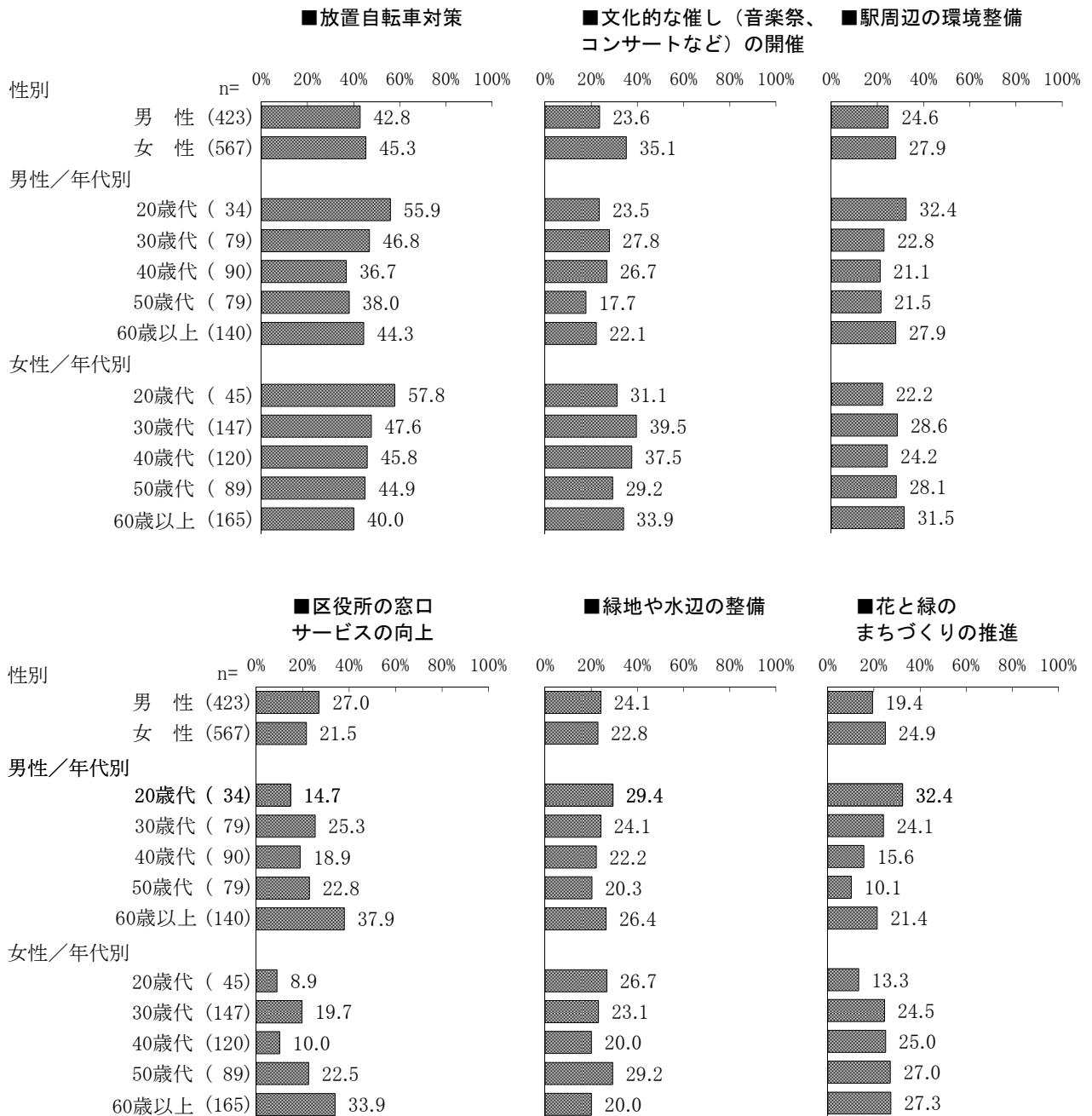


\* 2009年度では「区民の子ども・子育ての支援」として聴取している

区役所業務の評価については、「放置自転車対策」(44.2%)が最も高く、次いで「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」(30.2%)、「駅周辺の環境整備」(26.4%)、「区役所の窓口サービスの向上」(23.8%)、「緑地や水辺の整備」(23.2%)、「花と緑のまちづくりの推進」(22.4%)と続いている。

2009年度と比較すると、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」が3位から2位へ、「区役所の窓口サービスの向上」が5位から4位へと順位が上がっている。

図 1-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催」「駅周辺の環境整備」「花と緑のまちづくりの推進」で『女性』の方が『男性』よりも高く、「区役所の窓口サービスの向上」では『男性』の方が『女性』よりも高くなっている。

性・年代別では、「放置自転車対策」で男女ともに『20歳代』が他の年代よりも高く、女性は年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

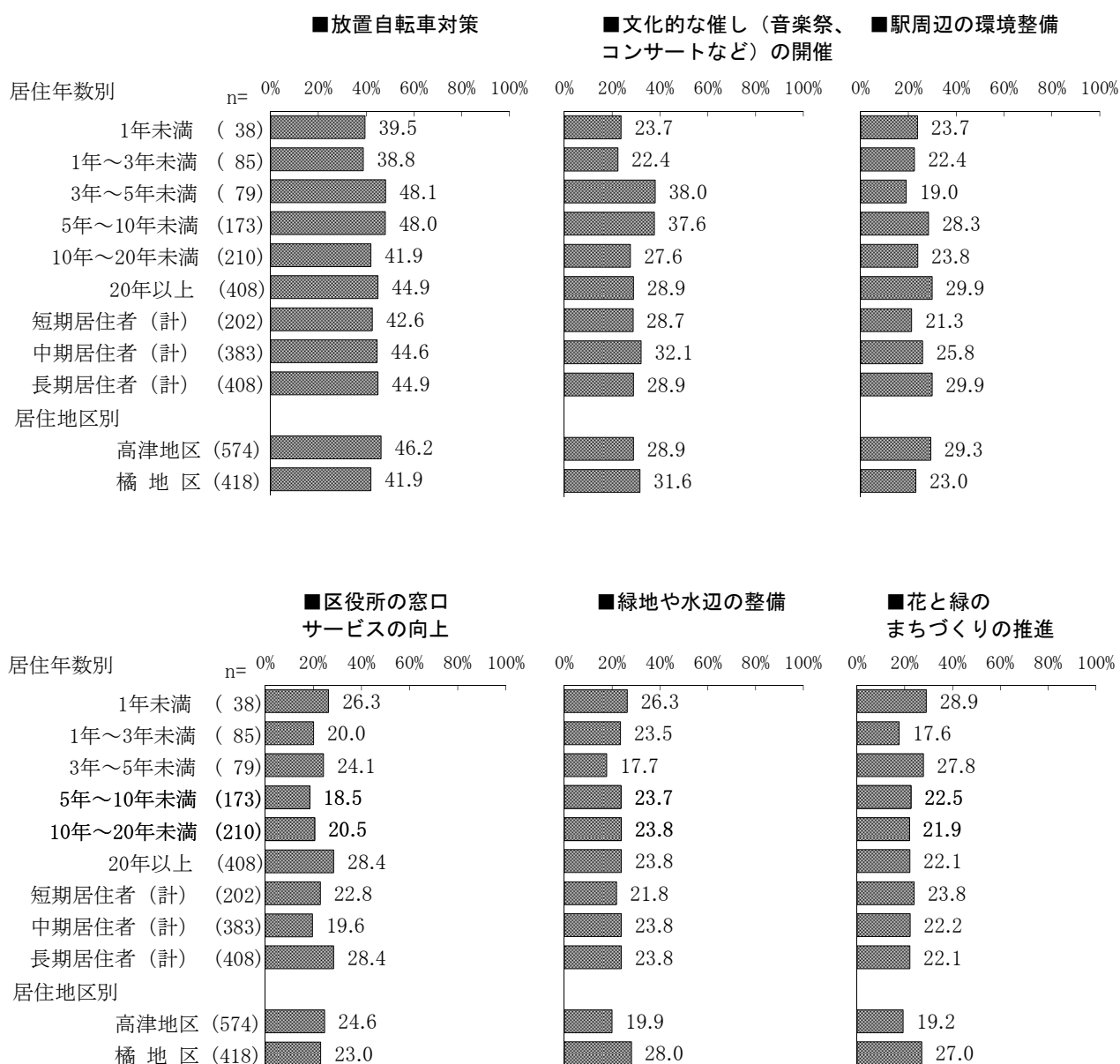
「文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催」では、『女性』の方が『男性』よりも11.5ポイント高く、女性の『30歳代』と『40歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

「駅周辺の環境整備」では、『女性』の方が『男性』よりも3.3ポイント高く、男性は『20歳代』、女性は『60歳以上』が他の年代に比べて高くなっている。

「区役所の窓口サービスの向上」では、『男性』の方が『女性』よりも5.5ポイント高く、男女ともに『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

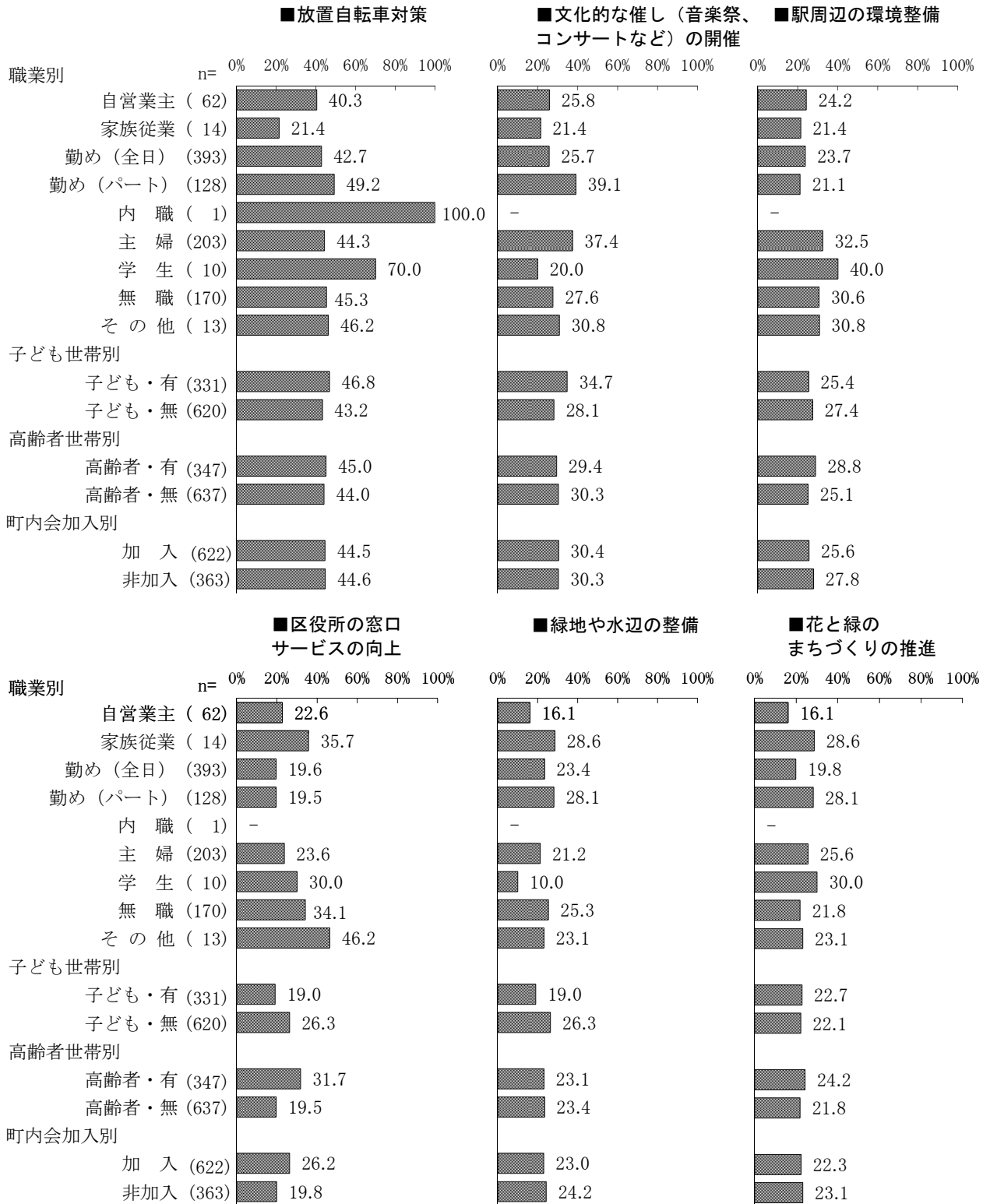
「花と緑のまちづくりの推進」では、『女性』の方が『男性』よりも5.5ポイント高く、女性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 1-3 居住年数別 / 居住地区別 (上位6項目)



居住年数別では、「駅周辺の環境整備」で居住年数が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。居住地区別では、「放置自転車対策」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも4.3ポイント高く、同様に「駅周辺の環境整備」では『高津地区』の方が『橘地区』よりも6.3ポイント高くなっている。また、「緑地や水辺の整備」と「花と緑のまちづくりの推進」では、『橘地区』の方が『高津地区』よりも8ポイント程度高くなっている。

図 1-4 職業別／子ども世帯別／高齢者世帯別／町内会加入別（上位6項目）



職業別では、「文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催」で『勤め（パート）』と『主婦』が他の職業に比べて高くなっている。

子ども世帯別では、「放置自転車対策」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも3.6ポイント高く、同様に「文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催」では『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも6.6ポイント高くなっている。

高齢者世帯別では、「駅周辺の環境整備」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも3.7ポイント高く、同様に「区役所の窓口サービスの向上」では『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも12.2ポイント高くなっている。

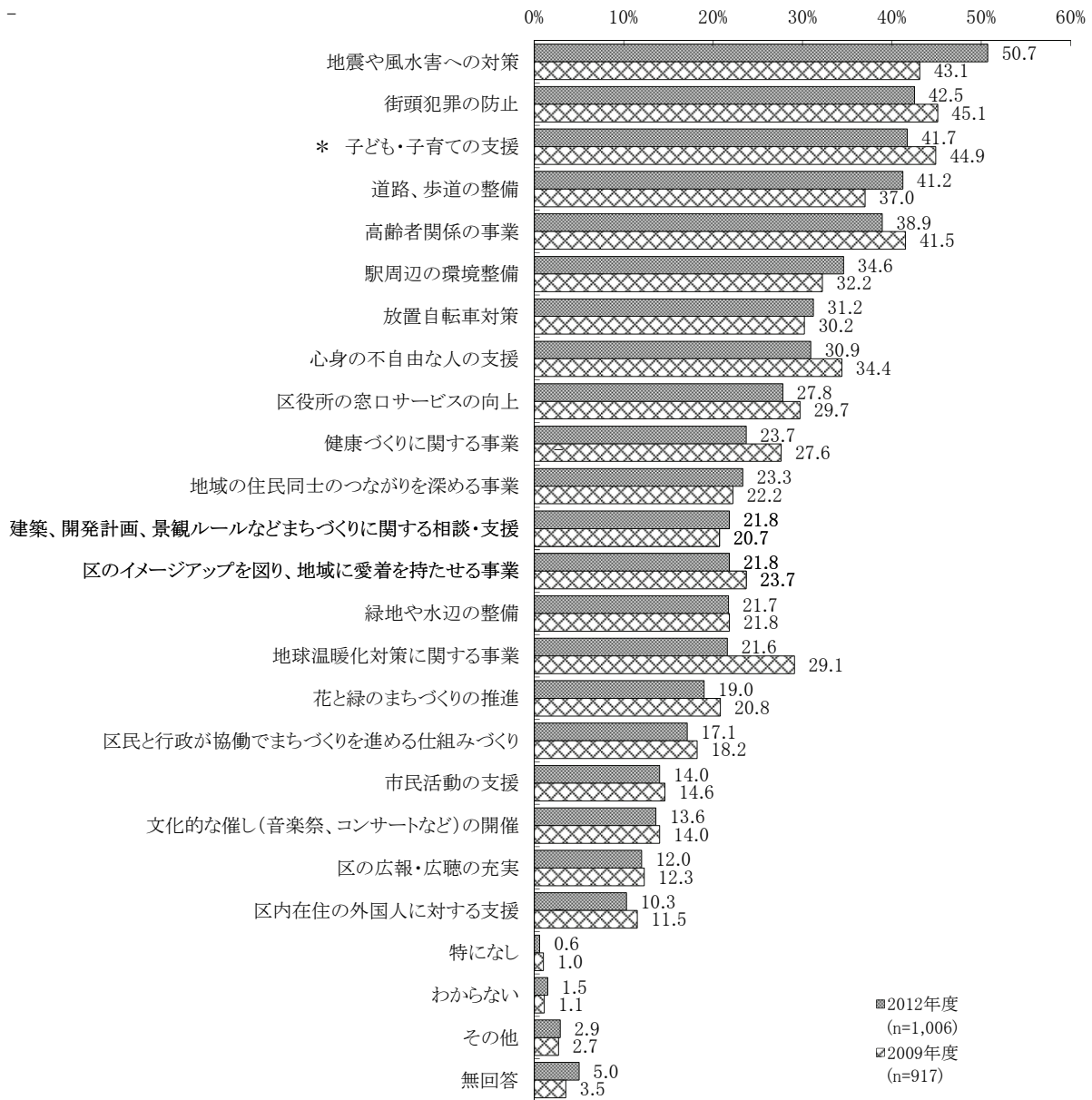
町内会加入別では、「区役所の窓口サービスの向上」で『加入』の方が『非加入』よりも6.4ポイント高くなっている。



## (2) 区役所業務への要望

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(いくつでも○)

図 2-1

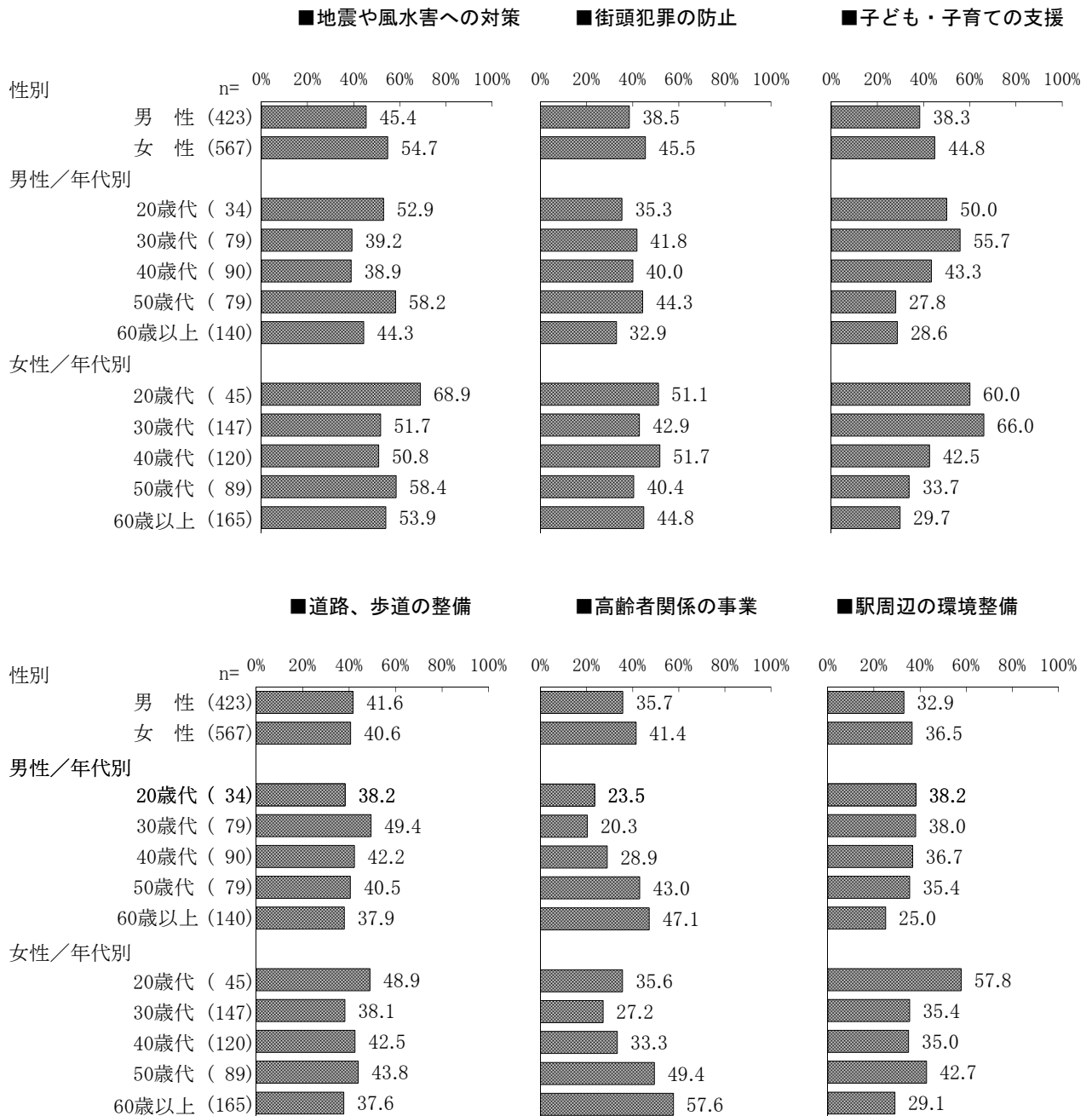


\* 2009年度では「区民の子ども・子育ての支援」として聴取している

区役所業務への要望については、「地震や風水害への対策」(50.7%)が最も高く、「街頭犯罪の防止」(42.5%)、「子ども・子育ての支援」(41.7%)、「道路、歩道の整備」(41.2%)、「高齢者関係の事業」(38.9%)、「駅周辺環境整備」(34.6%)と続いている。

2009年度と比較すると、「地震や風水害への対策」が7.6ポイント増加で3位から1位へ、「道路、歩道の整備」が4.2ポイント増加で5位から4位へと順位が上がっている。

図 2-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「道路、歩道の整備」を除く5項目において『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。性別・年代別では、「地震や風水害への対策」で男女ともに『20歳代』と『50歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「街頭犯罪の防止」では、女性の『20歳代』と『40歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

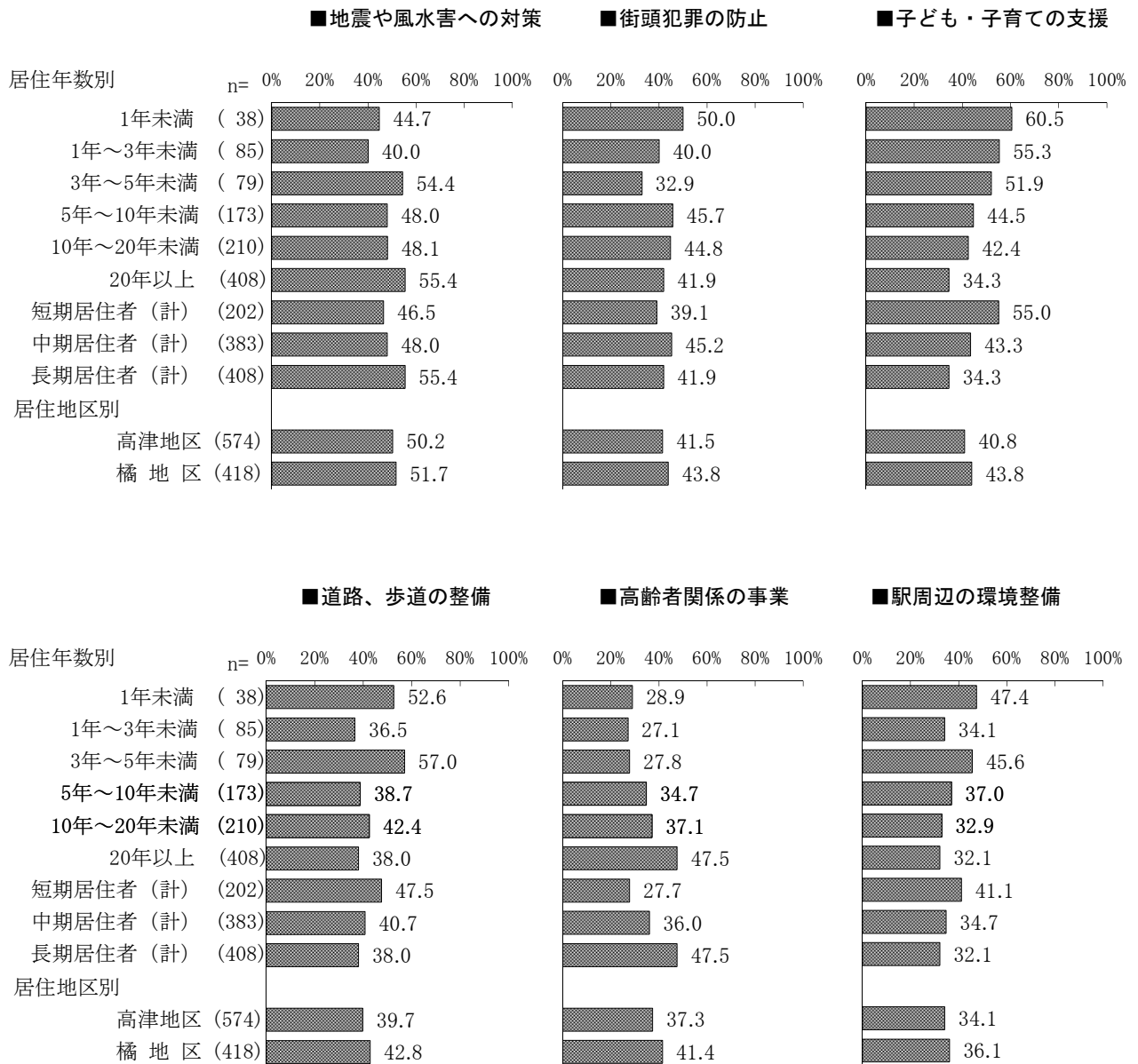
「子ども・子育ての支援」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男女の『30歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「道路、歩道の整備」では、男性『30歳代』と女性『20歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

「高齢者関係の事業」では、『女性』の方が『男性』よりも5.7ポイント高く、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「駅周辺の環境整備」では、女性の『20歳代』と『50歳代』が他の年代よりも高くなっている。

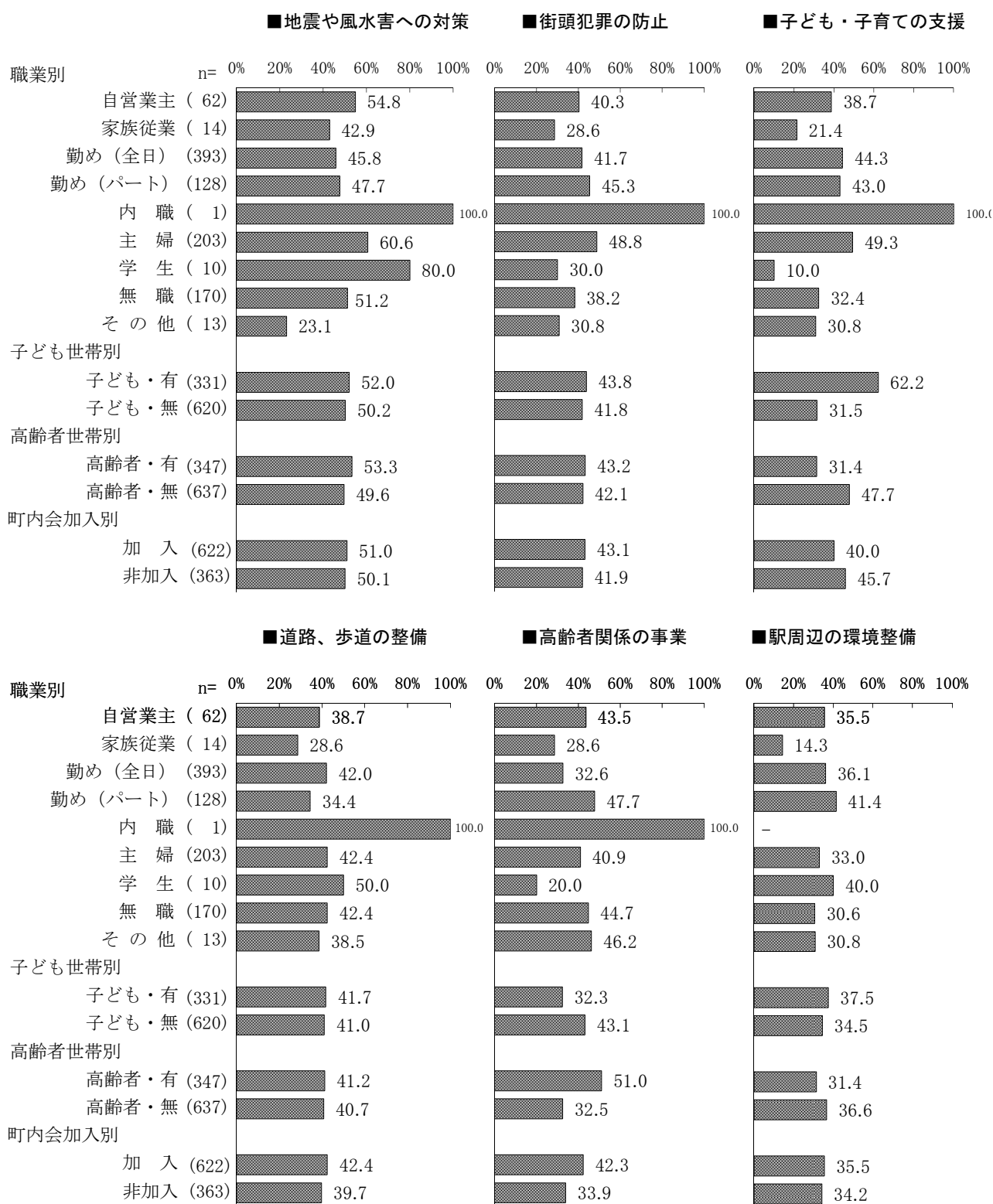
図 2-3 居住年数別／居住地区別（上位6項目）



居住年数別では、「地震や風水害への対策」と「高齢者関係の事業」で居住年数が増えるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、「子ども・子育ての支援」「道路、歩道の整備」「駅周辺の環境整備」で居住年数が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

居住地区別では、「子ども・子育ての支援」「道路、歩道の整備」「高齢者関係の事業」で『橘地区』の方が『高津地区』よりも3ポイント以上高くなっている。

図 2-4 職業別／子ども世帯別／高齢者世帯別／町内会加入別（上位6項目）



職業別では、上位3項目において『主婦』が他の職業に比べて高くなっている。

子ども世帯別では、「子ども・子育ての支援」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも30.7ポイント高く、また、町内会「加入」の方が「非加入」よりも5.7ポイント高くなっている。

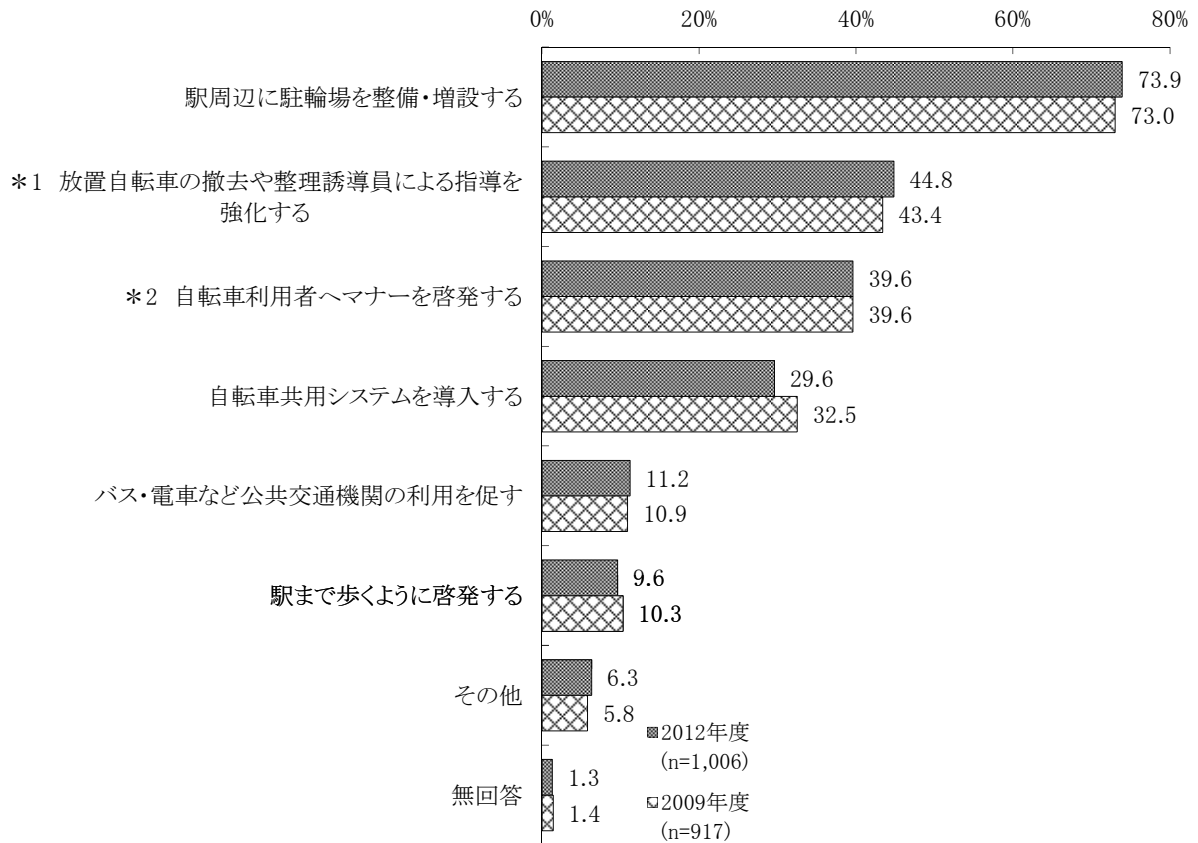
高齢者世帯別では、「地震や風水害への対策」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも3.7ポイント高く、同様に「高齢者関係の事業」では『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも18.5ポイント高くなっている。

町内会加入別では、「高齢者関係の事業」で『加入』の方が『非加入』よりも8.4ポイント高くなっている。

### (3) 放置自転車対策

問3 放置自転車対策として、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 3-1



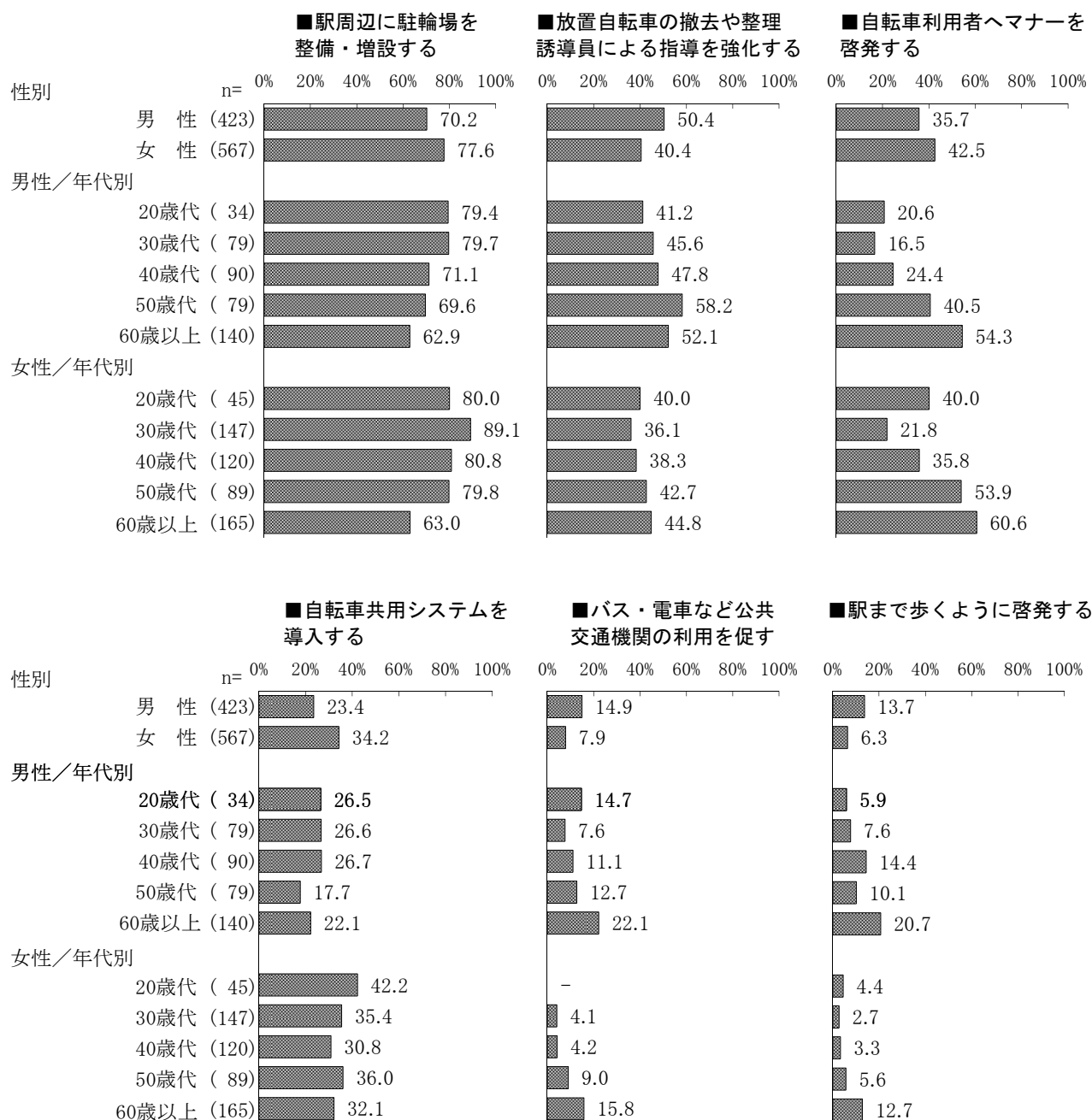
\*1 2009年度では「誘導整理員による放置自転車の撤去・指導を強化する」として聴取している

\*2 2009年度では「自転車利用者へマナーを啓発し普及させる」として聴取している

放置自転車対策については、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」(73.9%)が最も高く、「放置自転車の撤去や整理誘導員による指導を強化する」(44.8%)、「自転車利用者へマナーを啓発する」(39.6%)、「自転車共用システムを導入する」(29.6%)、「バス・電車など公共交通機関の利用を促す」(11.2%)、「駅まで歩くように啓発する」(9.6%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「自転車共用システムを導入する」が僅かに減少している。

図 3-2 性別／性年代別



性別では、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」「自転車利用者へマナーを啓発する」「自転車共用システムを導入する」で『女性』の方が『男性』よりも高く、「放置自転車の撤去や整理誘導員による指導を強化する」「バス・電車など公共交通機関の利用を促す」「駅まで歩くように啓発する」では『男性』の方が『女性』よりも高くなっている。

性・年代別では、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」で『女性』の方が『男性』よりも7.4ポイント高く、女性『30歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

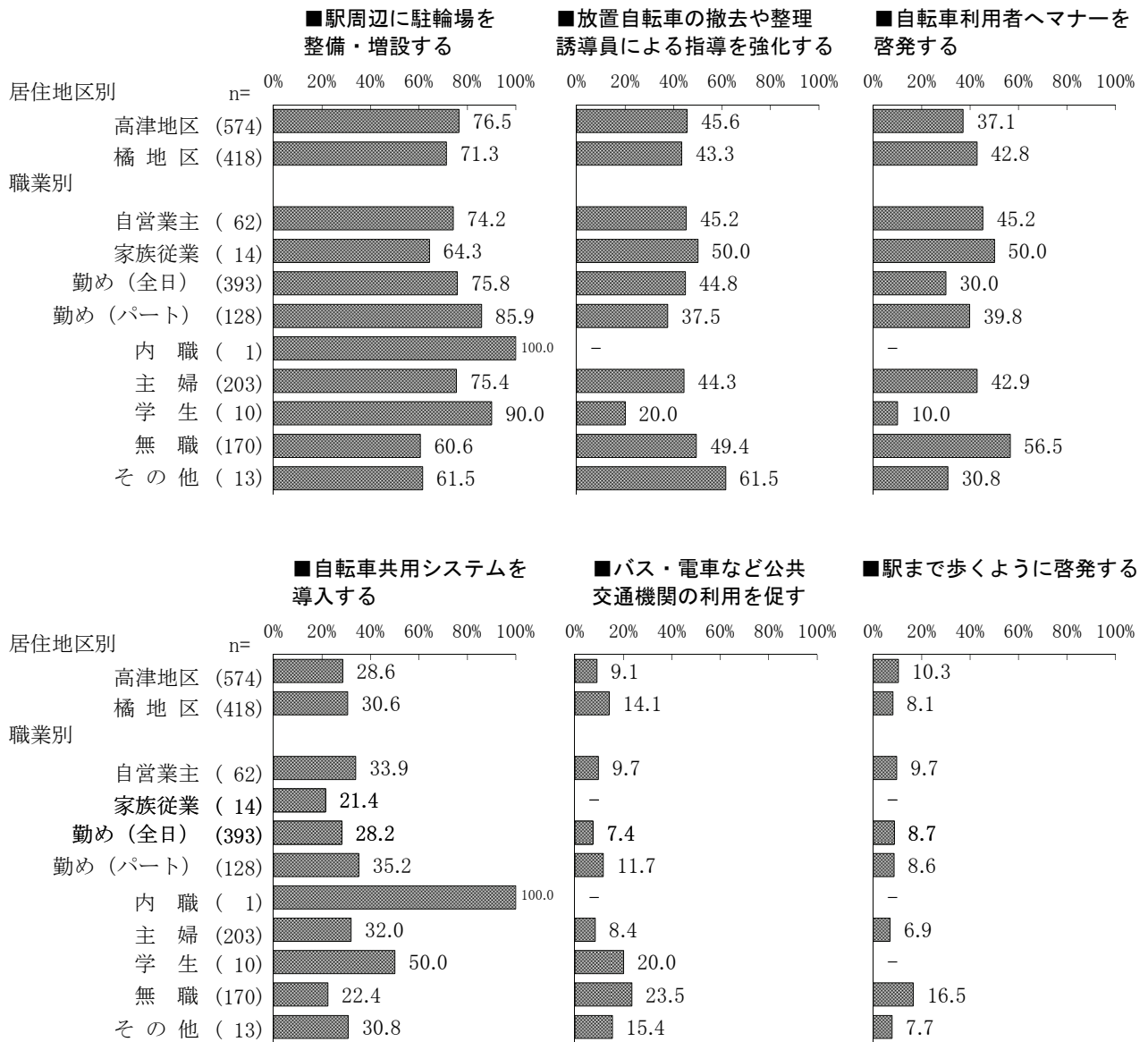
「放置自転車の撤去や整理誘導員による指導を強化する」では、『男性』の方が『女性』よりも10ポイント高く、男性『50歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

「自転車利用者へマナーを啓発する」では、『女性』の方が『男性』よりも6.8ポイント高く、男女ともに『50歳代』『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

「自転車共用システムを導入する」では、『女性』の方が『男性』よりも10.8ポイント高く、女性『20歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「バス・電車など公共交通機関の利用を促す」と「駅まで歩くように啓発する」では、『男性』の方が『女性』よりも7ポイント以上高く、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 3-3 居住地区別／職業別



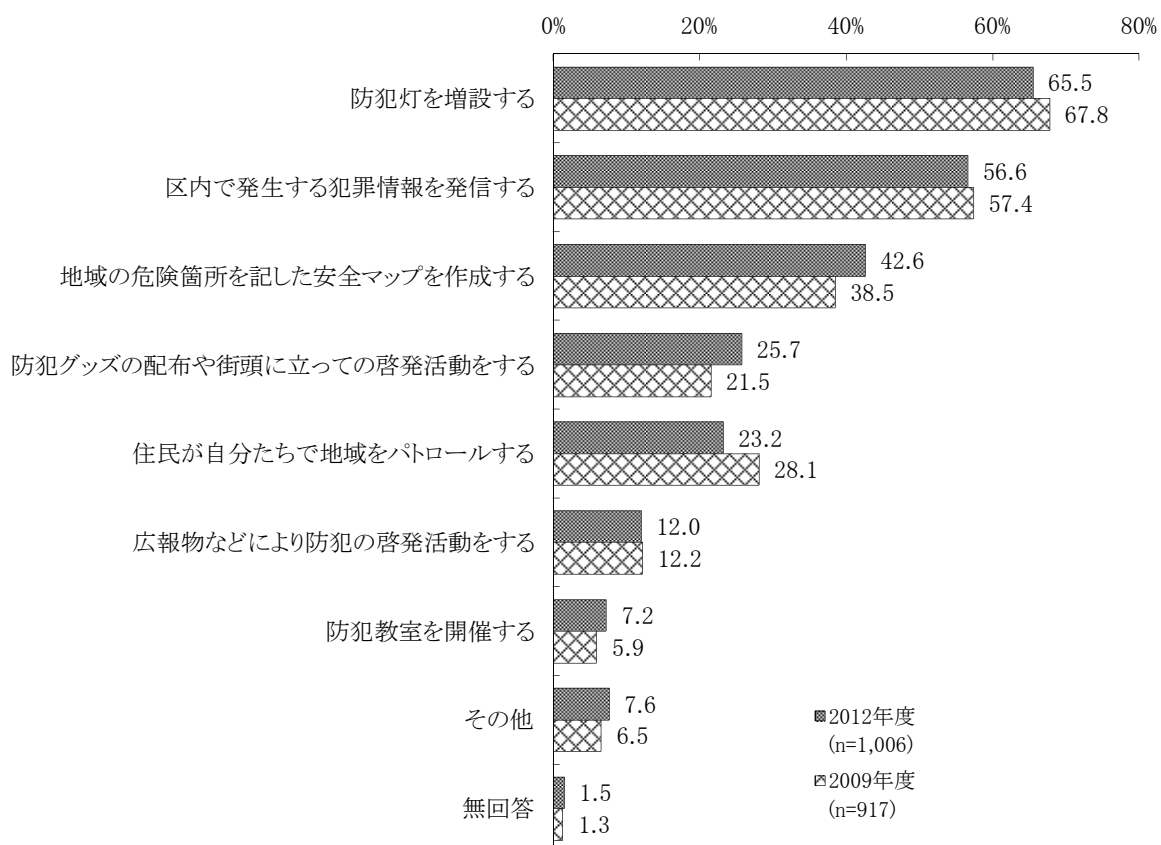
居住地区別では、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも5.2ポイント高く、「自転車利用者へマナーを啓発する」と「バス・電車など公共交通機関の利用を促す」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも5ポイント以上高くなっている。

職業別では、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」で『勤め(パート)』が85.9%と他の職業に比べて高く、「自転車利用者へマナーを啓発する」では『無職』が56.5%と他の職業よりも高くなっている。

#### (4) 街頭犯罪防止対策

問4 街頭犯罪などを防止するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 4-1

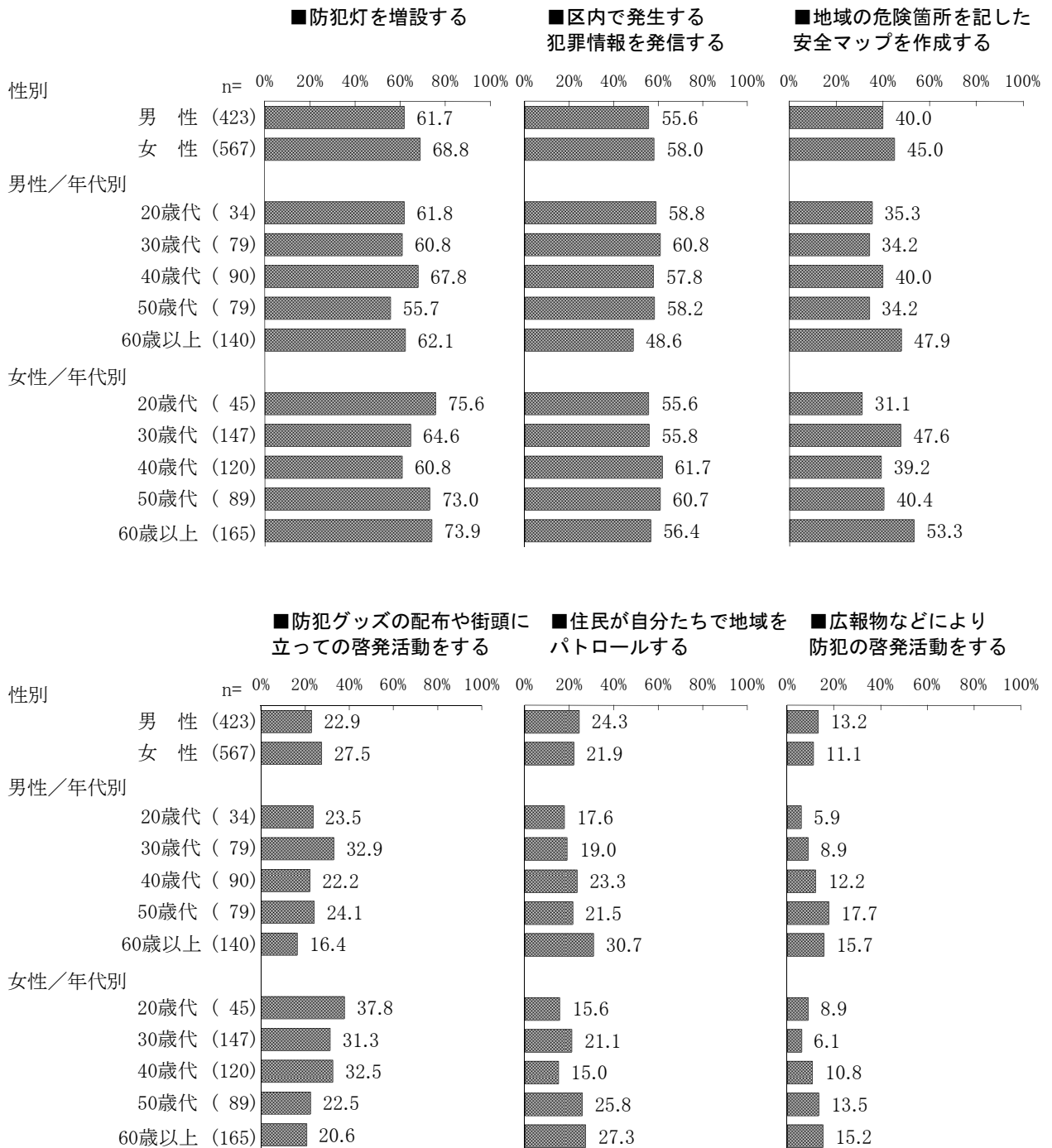


街頭犯罪防止対策については、「防犯灯を増設する」(65.5%)が最も高く、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(56.6%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(42.6%)、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」(25.7%)、「住民が自分たちで地域をパトロールする」(23.2%)、「広報物などにより防犯の啓発活動をする」(12.0%)、「防犯教室を開催する」(7.2%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」が4.2ポイント増加で5位から4位へと順位が上がっている。また、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」は4.1ポイント増加、「住民が自分たちで地域をパトロールする」は4.9ポイント減少している。



図 4-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、上位4項目で『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。

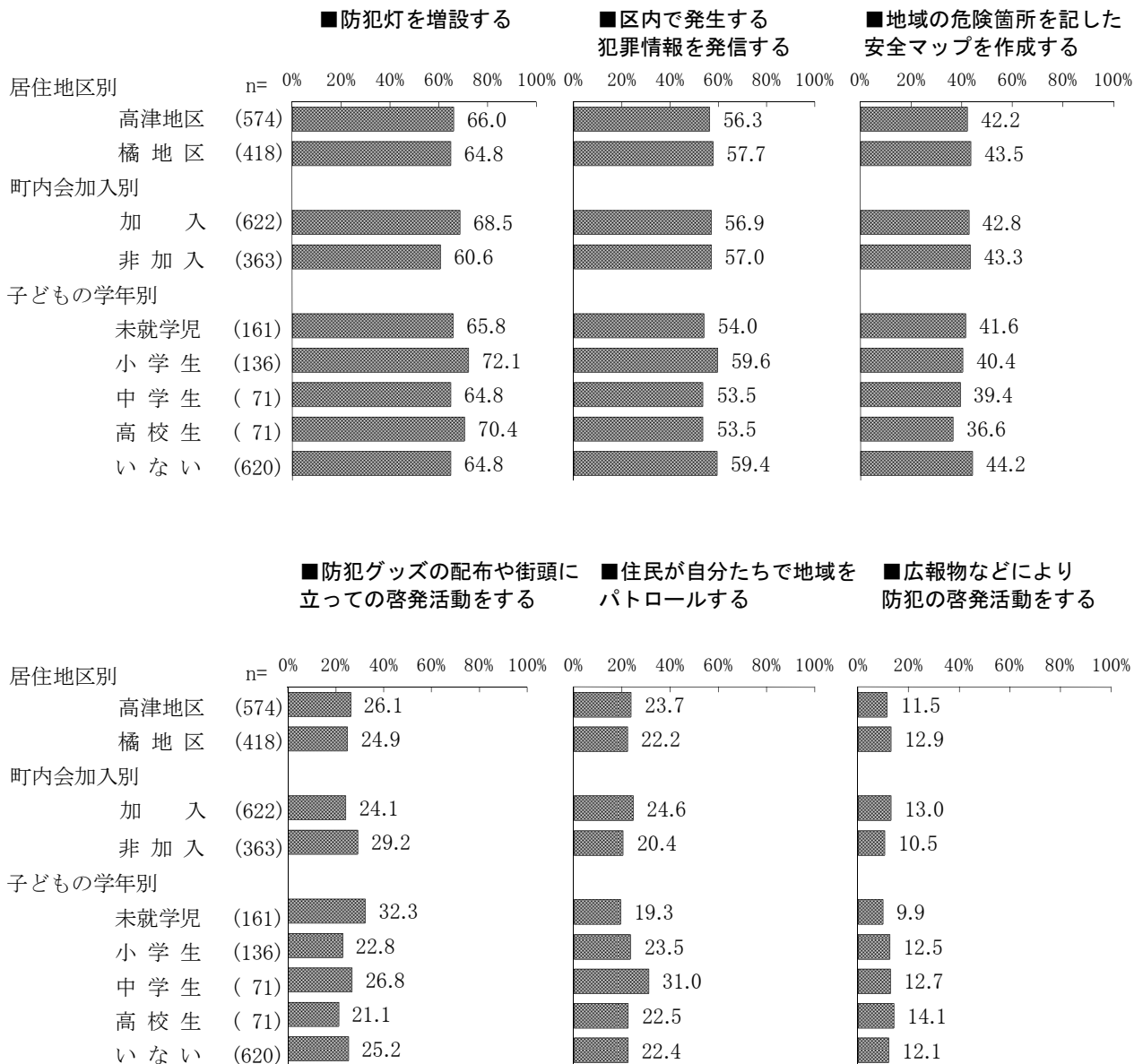
性・年代別では、「防犯灯を増設する」で『女性』の方が『男性』よりも7.1ポイント高く、女性の『20歳代』『50歳代』『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」では、『女性』の方が『男性』よりも5ポイント高く、男女の『60歳以上』と女性『30歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」では、『女性』の方が『男性』よりも4.6ポイント高く、男性は『30歳代』が他の年代よりも高く、女性は年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「住民が自分たちで地域をパトロールする」と「広報物などにより防犯の啓発活動をする」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 4-3 居住地区別／町内会加入別／子どもの学年別（上位6項目）



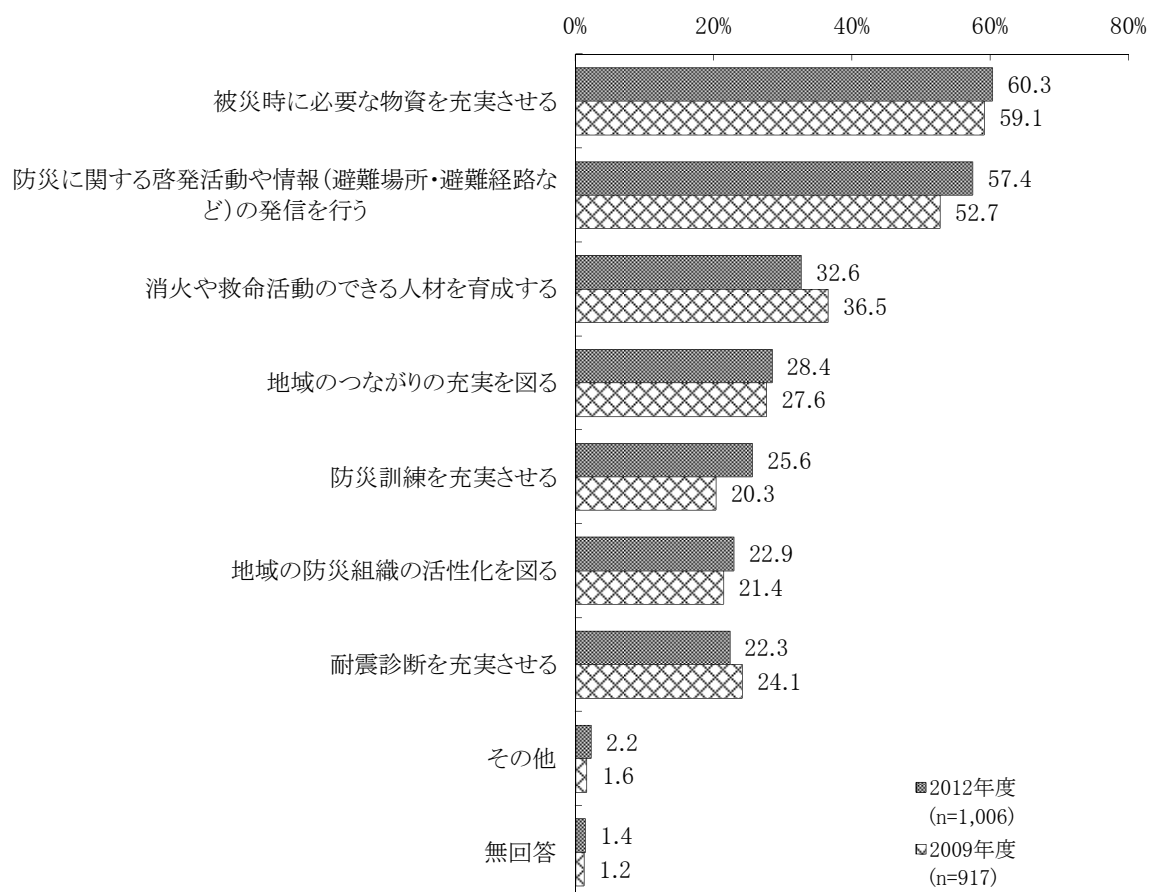
町内会加入別では、「防犯灯を増設する」で『加入』の方が『非加入』よりも7.9ポイント高く、同様に「住民が自分たちで地域をパトロールする」では『加入』の方が『非加入』よりも4.2ポイント高くなっている。また、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」で『非加入』の方が『加入』よりも5.1ポイント高くなっている。

子どもの学年別では、「防犯灯を増設する」と「区内で発生する犯罪情報を発信する」で『小学生』と『高校生』が7割を超えて他の学年よりも高く、「住民が自分たちで地域をパトロールする」では『中学生』が3割を超えて高くなっている。また、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」で学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

## (5) 地震や風水害対策

問5 地震や風水害への対策として、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

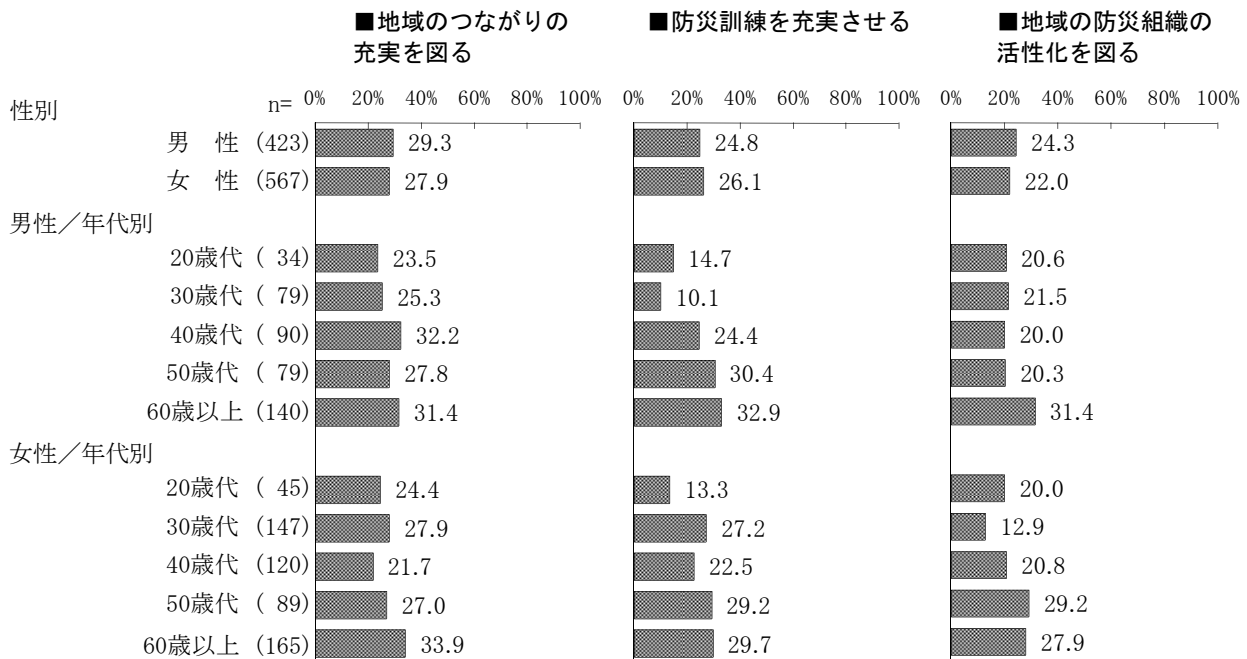
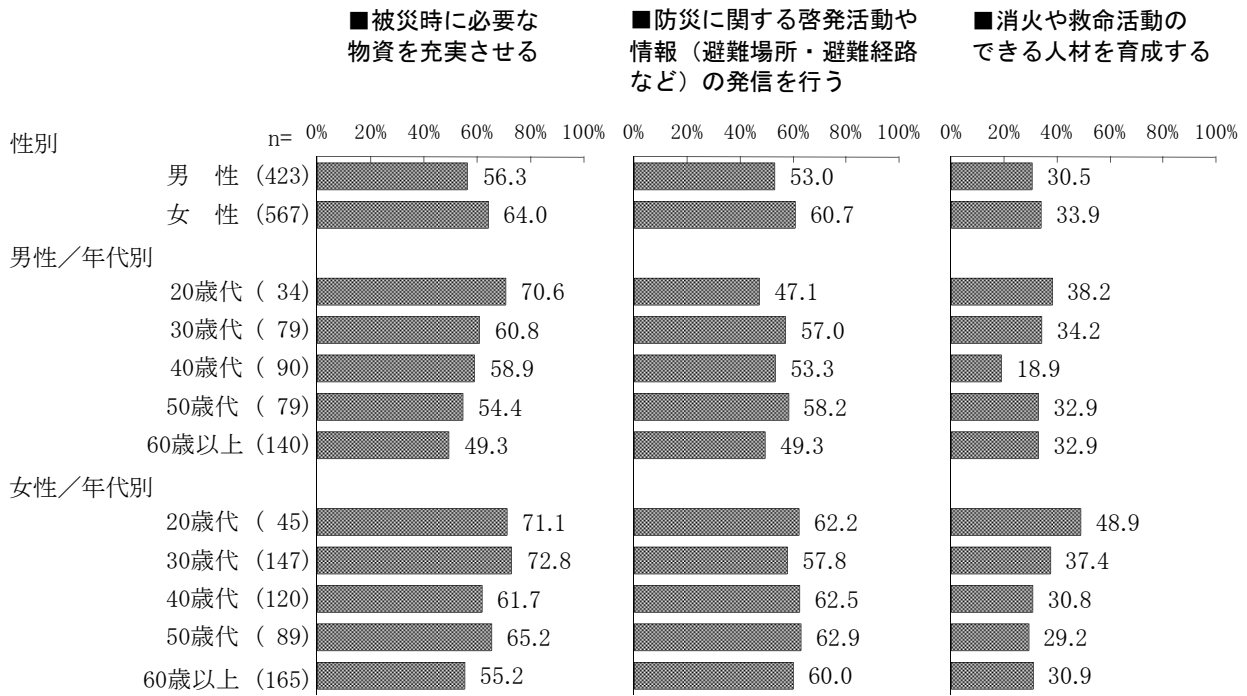
図 5-1



地震や風水害対策では、「被災時に必要な物資を充実させる」(60.3%)が最も高く、「防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う」(57.4%)、「消火や救命活動のできる人材を育成する」(32.6%)、「地域のつながりの充実を図る」(28.4%)、「防災訓練を充実させる」(25.6%)、「地域の防災組織の活性化を図る」(22.9%)、「耐震診断を充実させる」(22.3%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う」が4.7ポイント増加しており、また、「防災訓練を充実させる」が5.3ポイント増加で7位から5位へと順位が上がっている。

図 5-2 性別／性年代別（上位6項目）



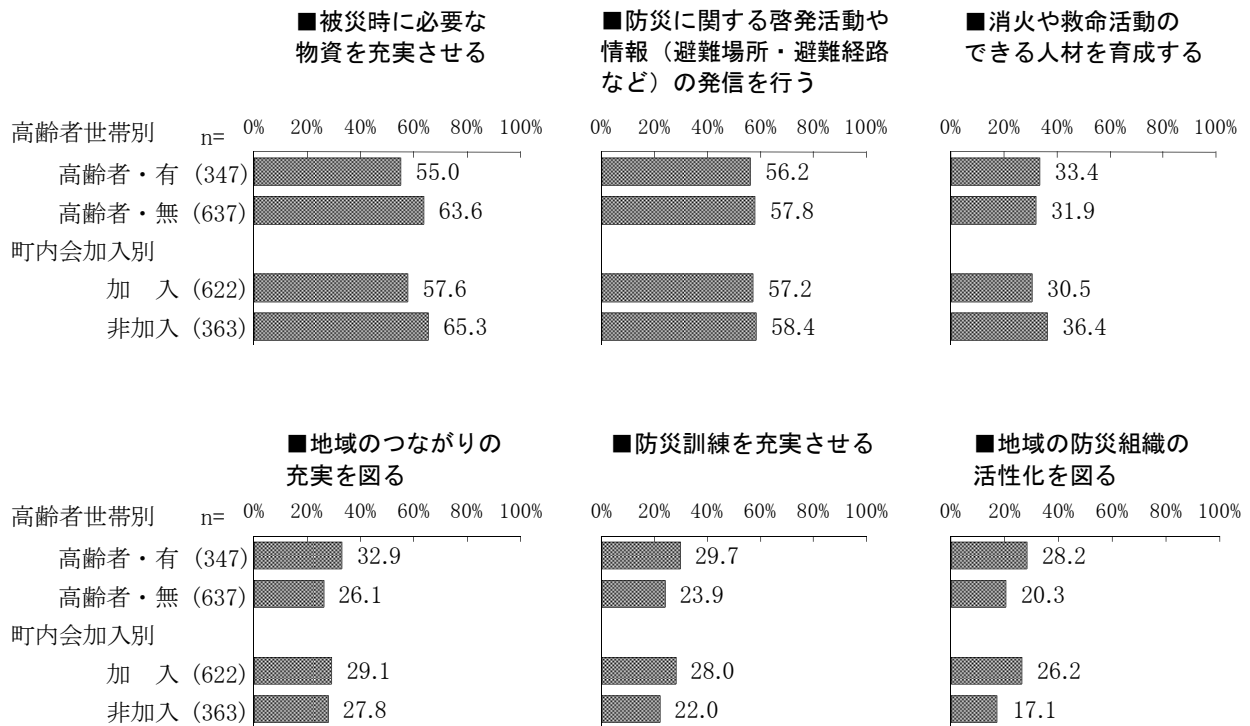
性別では、上位3項目において『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。

性・年代別では、「被災時に必要な物資を充実させる」で男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男性『20歳代』と女性の『20歳代』『30歳代』は7割を超えている。

「防災に関する啓発活動や情報（避難場所・避難経路など）の発信を行う」では、『女性』の方が『男性』よりも7.7ポイント高く、女性は『30歳代』を除くすべての年代が6割を超えている。

「消火や救命活動のできる人材を育成する」では、『女性』の方が『男性』よりも3.4ポイント高く、女性は年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、女性『20歳代』が48.9%と他の年代よりも高くなっている。

図 5-3 高齢者世帯別／町内会加入別（上位6項目）



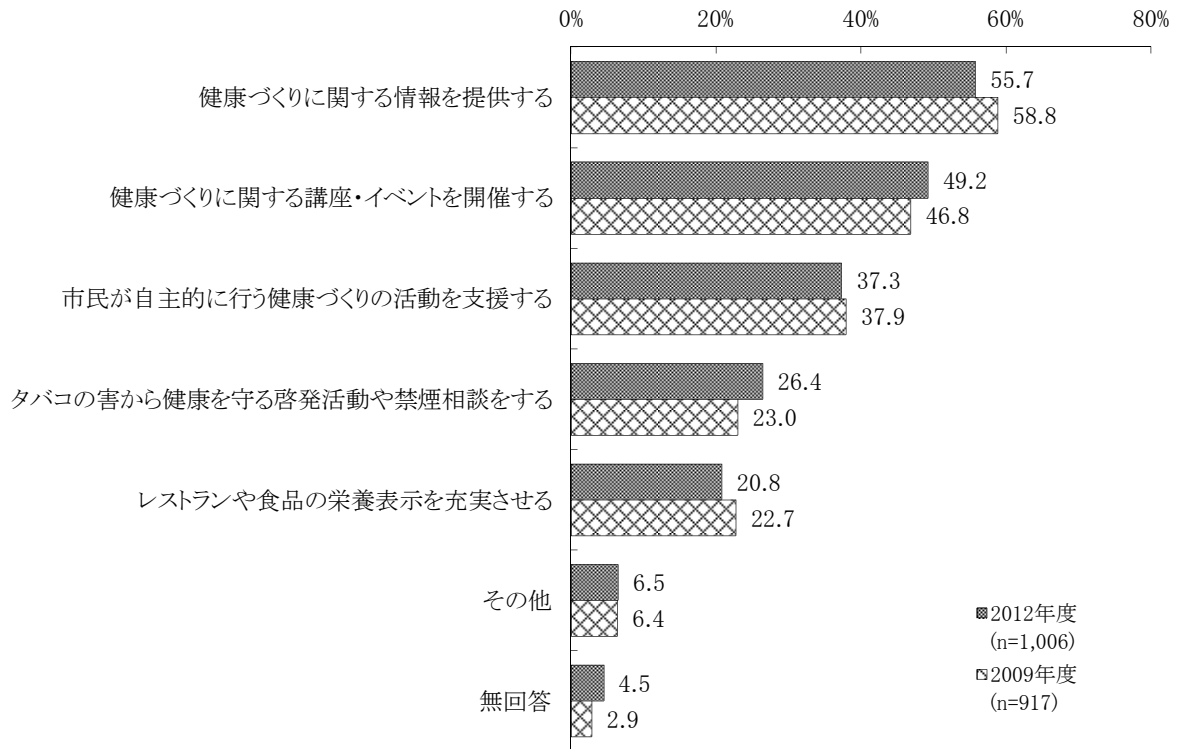
高齢者世帯別では、「地域のつながりの充実を図る」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも6.8ポイント高く、同様に「防災訓練を充実させる」では5.8ポイント、「地域の防災組織の活性化を図る」では7.9ポイント、『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

町内会加入別では、「被災時に必要な物資を充実させる」で『非加入』の方が『加入』よりも7.7ポイント高く、同様に「消火や救命活動のできる人材を育成する」で『非加入』の方が『加入』よりも5.9ポイント高くなっている。反対に、「防災訓練を充実させる」では『加入』の方が『非加入』よりも6ポイント高く、同様に「地域の防災組織の活性化を図る」で『加入』の方が『非加入』よりも9.1ポイント高くなっている。

(6) 健康推進

問6 区民の健康づくりを推進していくためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

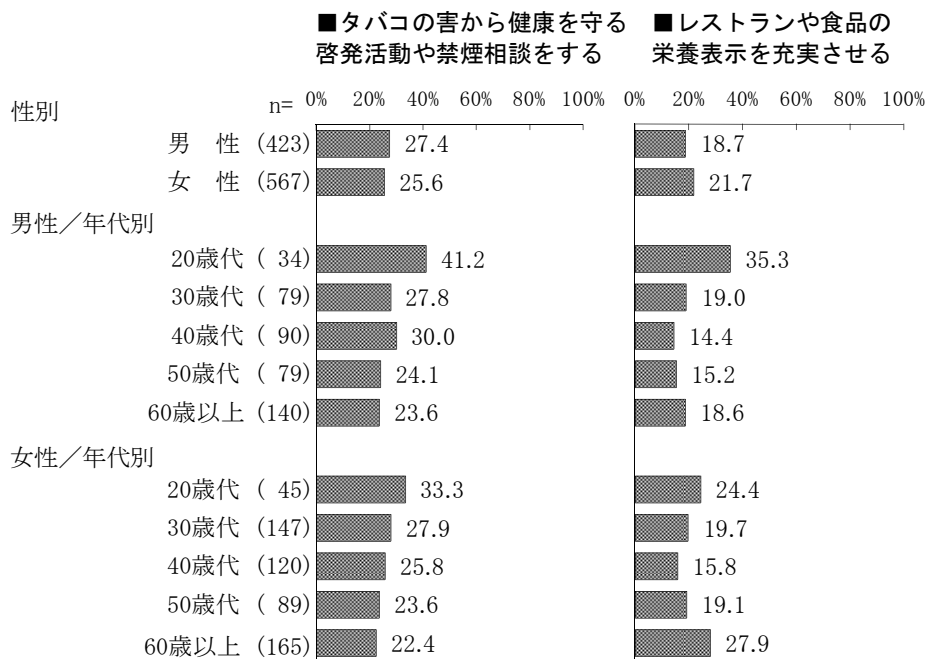
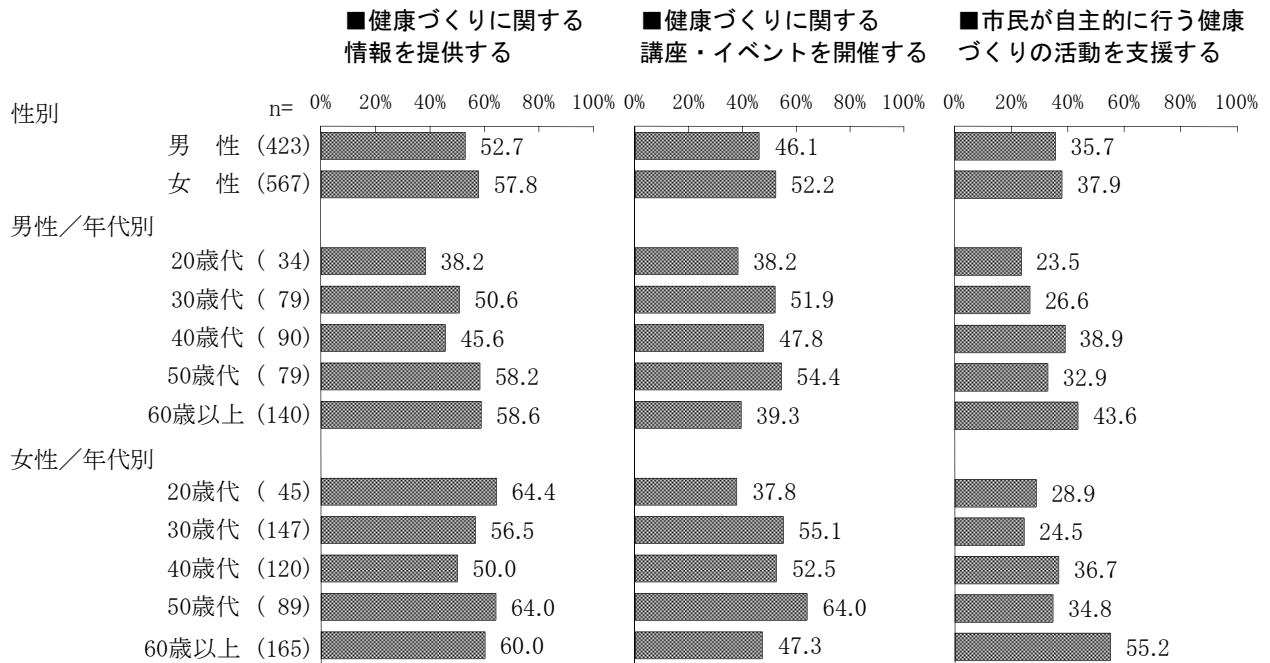
図 6-1



健康推進については、「健康づくりに関する情報を提供する」が55.7%と最も高く、次いで「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」(49.2%)、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」(37.3%)、「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」(26.4%)、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」(20.8%)の順で続いている。

2009年度と比較すると、「健康づくりに関する情報を提供する」が3.1ポイント減少、「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」が3.4ポイント増加している。

図 6-2 性別／性年代別



性別では、「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」を除く4項目において、『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。

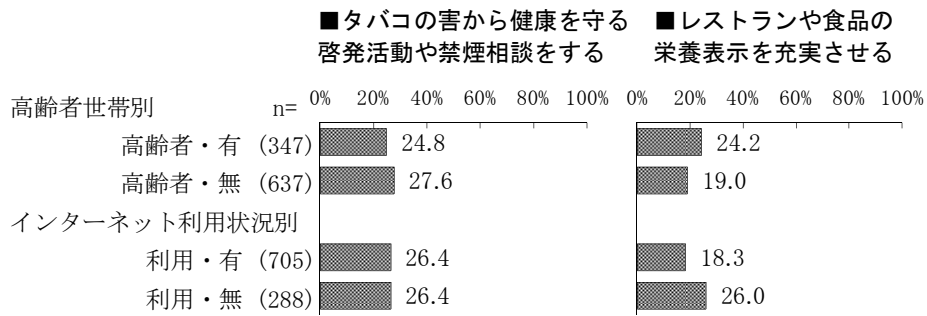
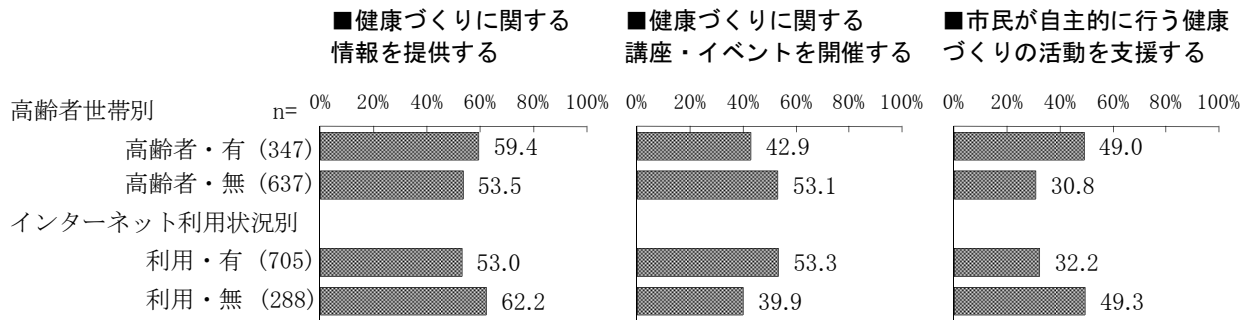
性・年代別では、「健康づくりに関する情報を提供する」で『女性』の方が『男性』よりも5.1ポイント高くなっており、男性は『50歳代』と『60歳代』が他の年代よりも高く、女性は『20歳代』『50歳代』『60歳以上』が6割を超えている。

「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」では、『女性』の方が『男性』よりも6.1ポイント高く、女性『50歳代』が6割を超えている。

「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」では、男女ともに『60歳以上』で他の年代よりも高く、女性『60歳以上』は5割を超えている。

「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図6-3 高齢者世帯別／インターネット利用状況別



高齢者世帯別では、「健康づくりに関する情報を提供する」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも5.9ポイント高く、同様に「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」では18.2ポイント、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」では5.2ポイント、『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

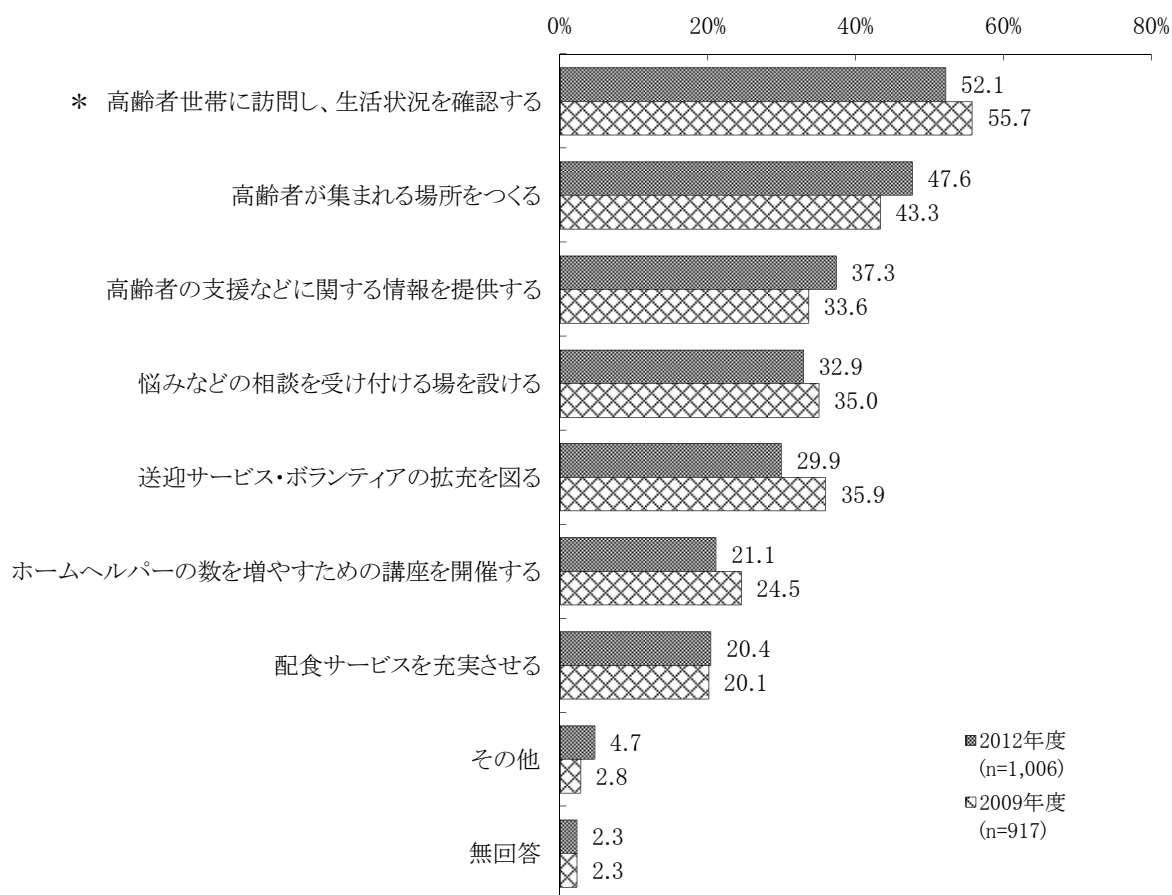
インターネット利用状況別では、「健康づくりに関する情報を提供する」で『利用・無』の方が『利用・有』よりも9.2ポイント高く、同様に「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」では17.1ポイント、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」では7.7ポイント、『利用・無』の方が『利用・有』よりも高くなっている。



## (7) 高齢者支援

問7 高齢者を支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 7-1

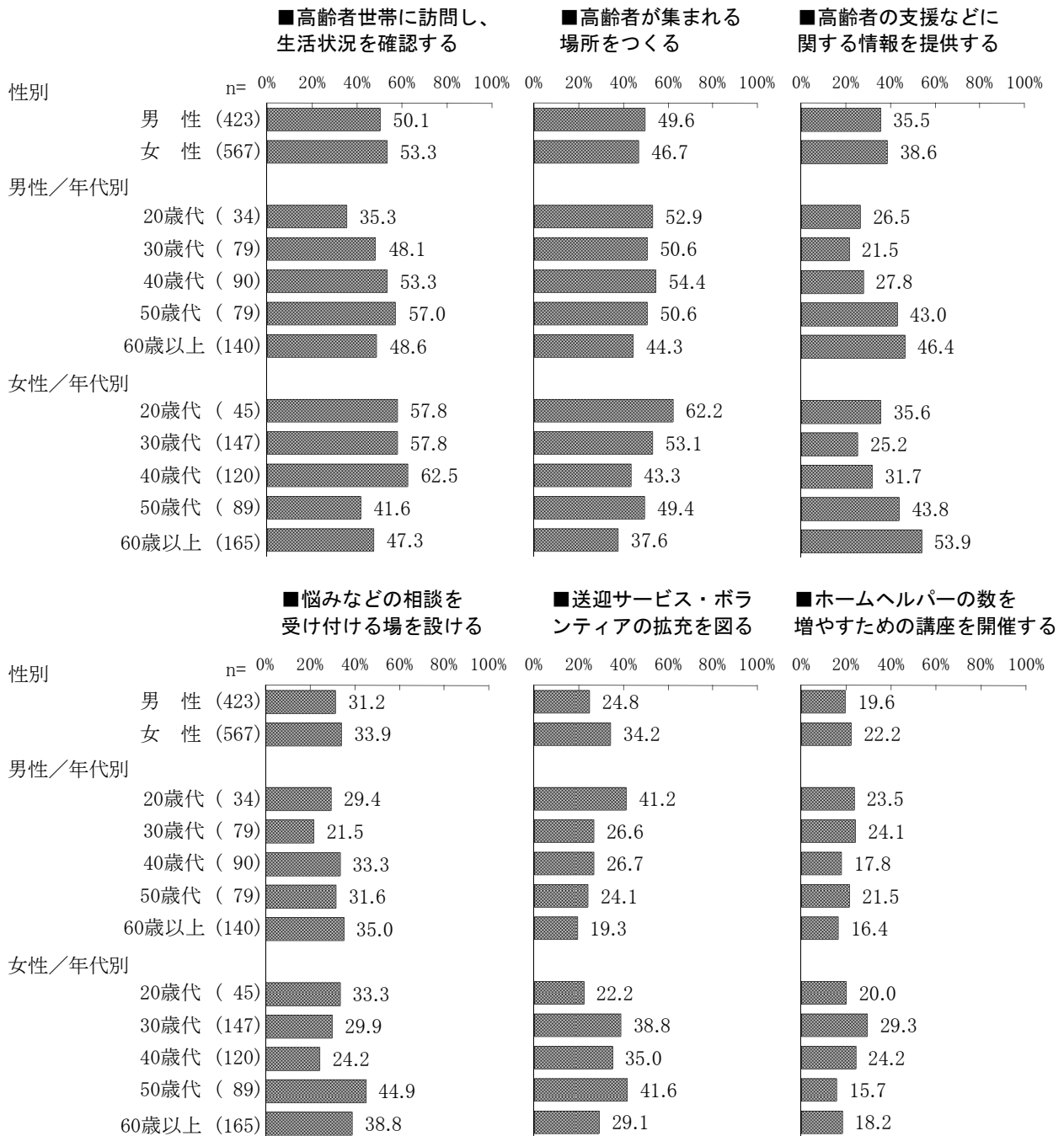


\* 2009年度では「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」として聴取している

高齢者支援については、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(52.1%)が最も高く、次いで「高齢者が集まれる場所をつくる」(47.6%)、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(37.3%)、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」(32.9%)、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」(29.9%)、「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」(21.1%)、「配食サービスを充実させる」(20.4%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「高齢者が集まれる場所をつくる」が4.3ポイント増加しており、また、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」が3.7ポイント増加で5位から3位へと順位が上がっている。そのほか、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」が3.6ポイント減少、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」が6ポイント減少、「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」が3.4ポイント減少している。

図 7-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「高齢者が集まれる場所をつくる」を除く5項目において『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。

性・年代別では、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」で『女性』の方が『男性』よりも3.2ポイント高く、女性『40歳代』は6割を超えている。

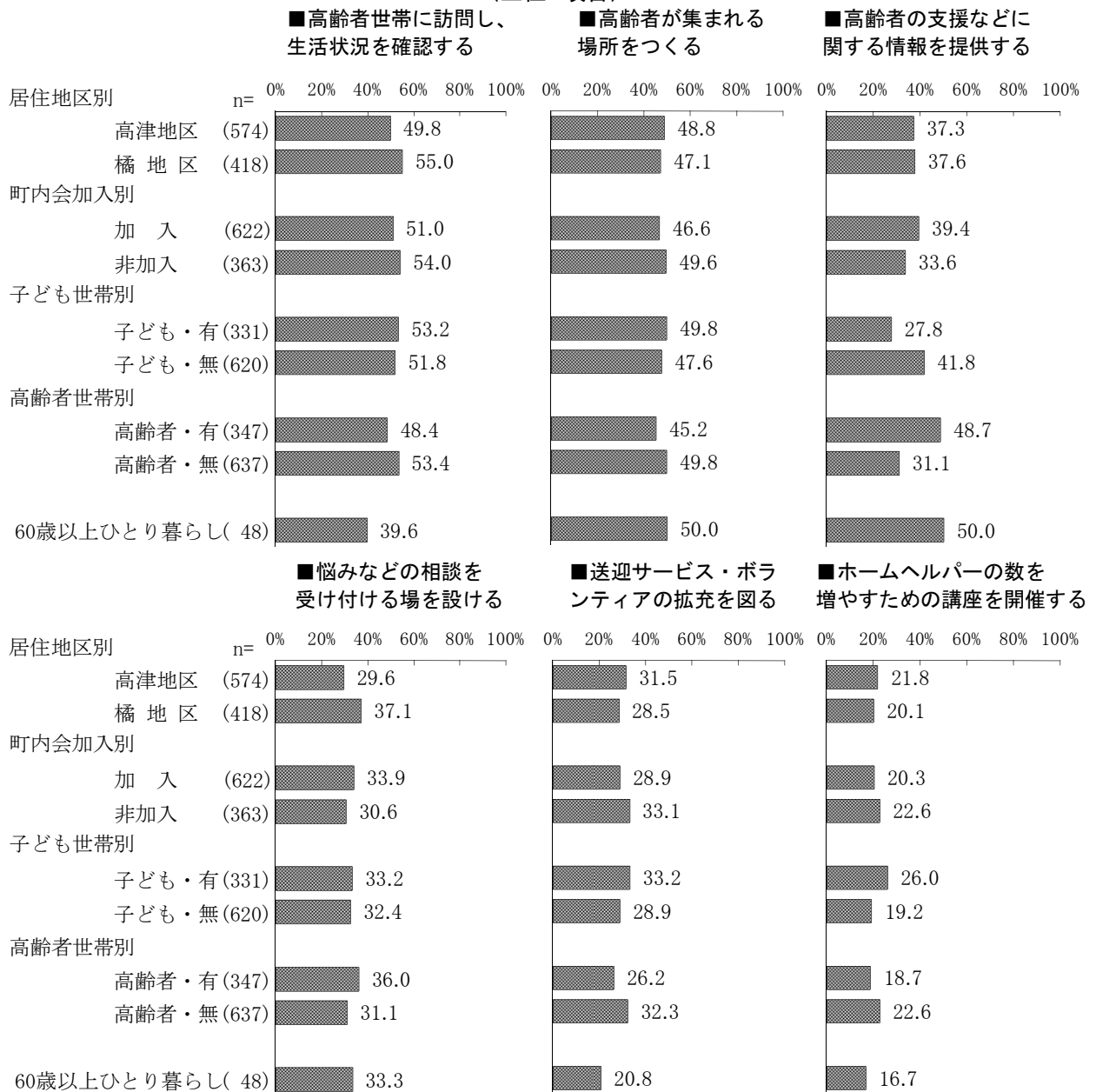
「高齢者が集まれる場所をつくる」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、女性『20歳代』は6割を超えている。

「高齢者の支援などに関する情報を提供する」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男女の『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」では、女性『50歳代』が4割を超え、女性『60歳以上』（38.8%）が続いている。

「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」では、『女性』の方が『男性』よりも9.4ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男性『20歳代』、女性『50歳代』が4割を超えている。

図 7-3 居住地区別／町内会加入別／子ども世帯別／高齢者世帯別  
(上位6項目)



居住地区別では、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」で『橋地区』の方が『高津地区』よりも5.2ポイント高く、同様に「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」で『橋地区』の方が『高津地区』よりも7.5ポイント高くなっている。また、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」では『高津地区』の方が『橋地区』よりも3ポイント高くなっている。

町内会加入別では、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」「高齢者が集まれる場所をつくる」「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」で『非加入』の方が『加入』よりも3ポイント以上高くなっている。また、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」で『加入』の方が『非加入』よりも5.8ポイント高く、同様に「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」で『加入』の方が『非加入』よりも3.3ポイント高くなっている。

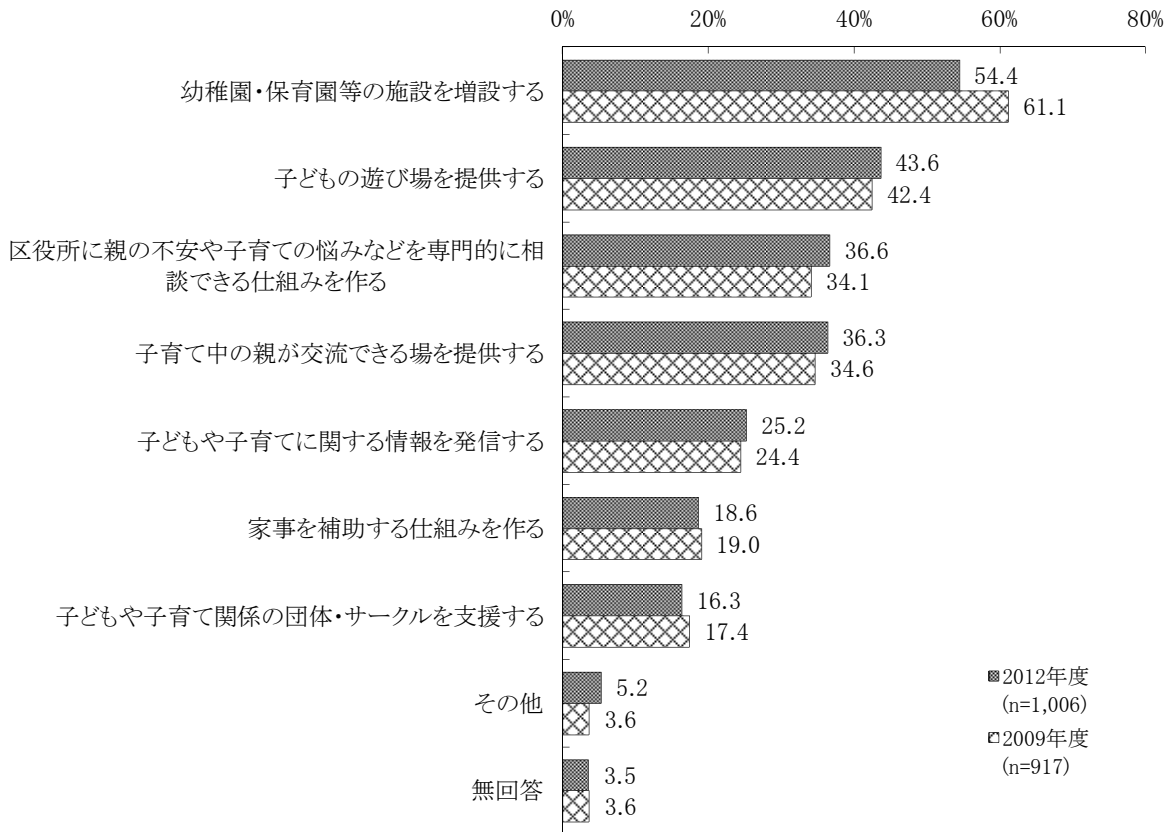
高齢者世帯別では、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも17.6ポイント高く、同様に「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも4.9ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「高齢者が集まれる場所をつくる」(50.0%)と「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(50.0%)が同率で最も高く、次いで「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(39.6%)が続いている。

(8) 子育て支援

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

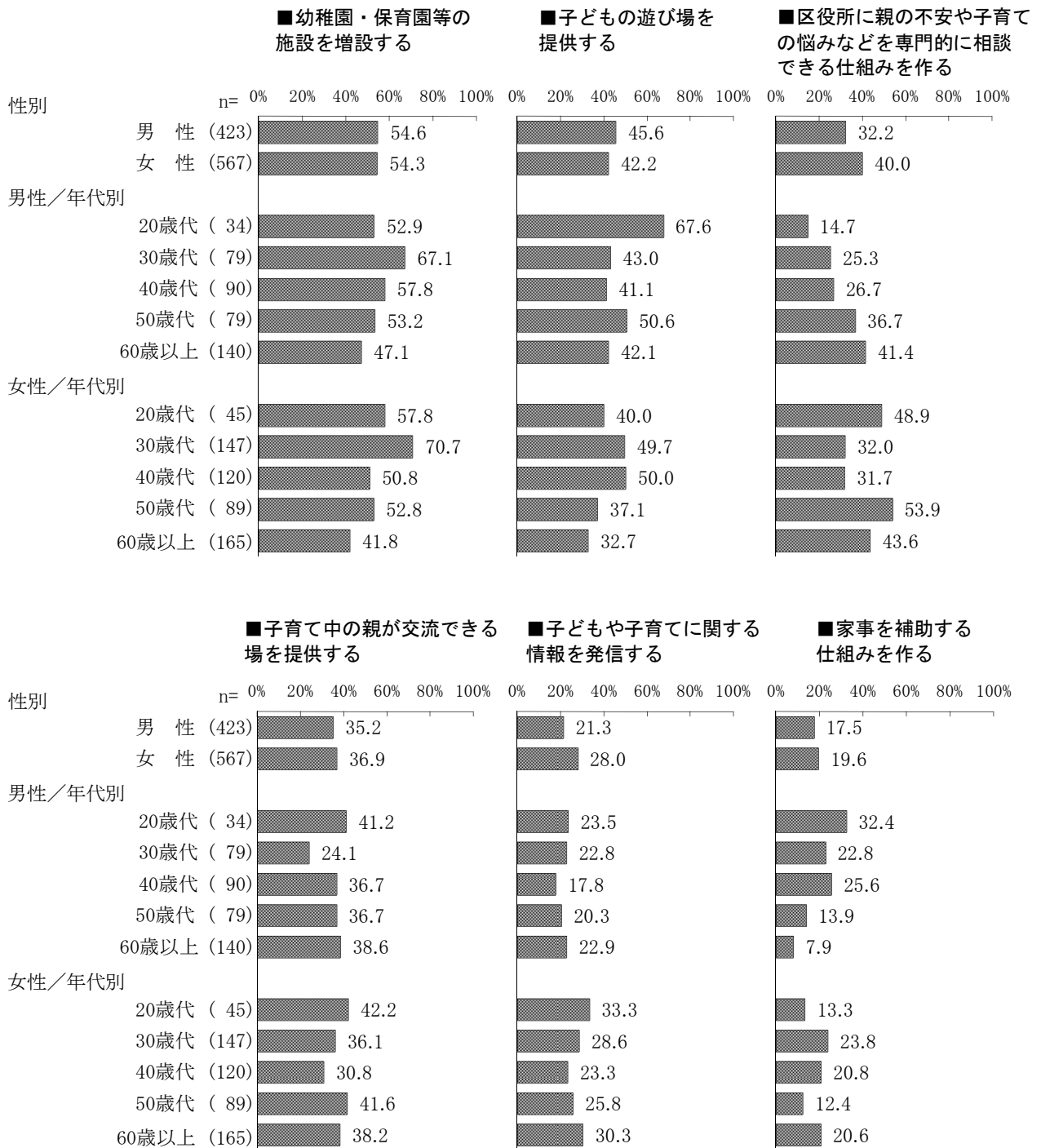
図 8-1



子育て支援については、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」が54.4%と最も高く、次いで「子どもの遊び場を提供する」(43.6%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」(36.6%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(36.3%)、「子どもや子育てに関する情報を発信する」(25.2%)、「家事を補助する仕組みを作る」(18.6%)、「子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する」(16.3%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」が4位から3位へと順位が上がっている。また、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」が6.7ポイント減少している。

図 8-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「子どもの遊び場を提供する」で『男性』の方が『女性』よりも3.4ポイント高くなっている。また、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」で『女性』の方が『男性』よりも7.8ポイント高く、同様に「子どもや子育てに関する情報を発信する」で『女性』の方が『男性』よりも6.7ポイント高くなっている。

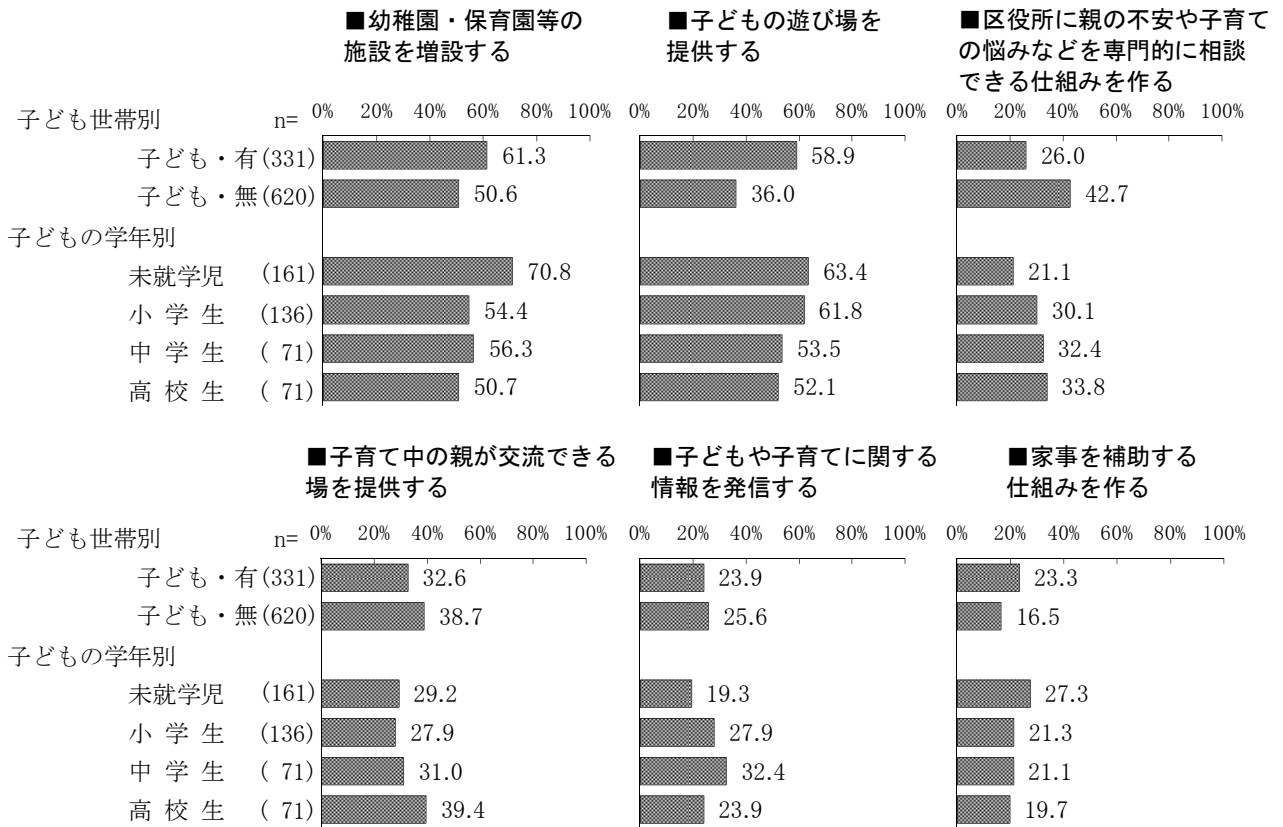
性・年代別では、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」で男女ともに『30歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「子どもの遊び場を提供する」では、男性『20歳代』が67.6%と他の年代よりも高くなっている。

「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」では、男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、女性は『20歳代』と『50歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「子育て中の親が交流できる場を提供する」では、男女の『20歳代』と女性『50歳代』で4割を超えている。

図 8-3 子ども世帯／子どもの学年別（上位6項目）



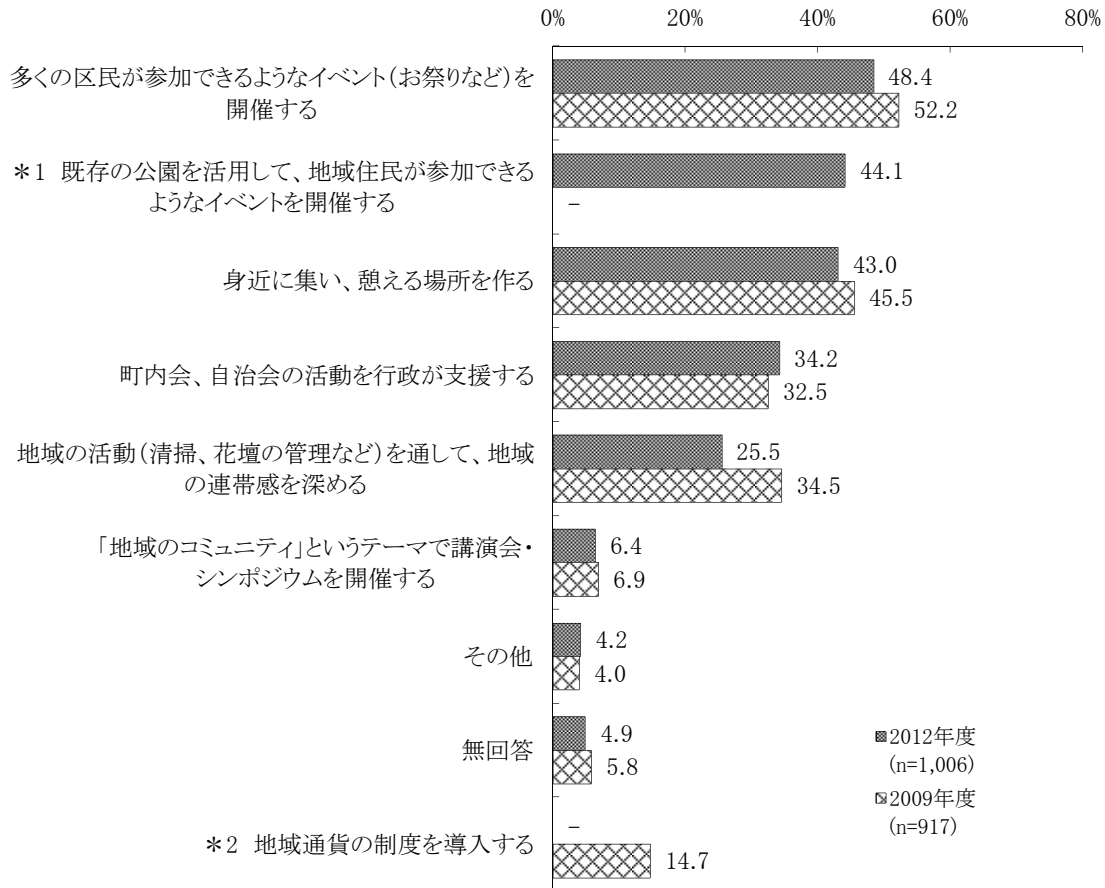
子ども世帯別では、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも10.7ポイント高く、同様に「子どもの遊び場を提供する」で22.9ポイント、「家事を補助する仕組みを作る」で6.8ポイント、『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも高くなっている。

子どもの学年別では、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」「子どもの遊び場を提供する」「家事を補助する仕組みを作る」で学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。反対に、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」「子育て中の親が交流できる場を提供する」では学年が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

(9) 地域住民のつながりを深める手法

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

図 9-1



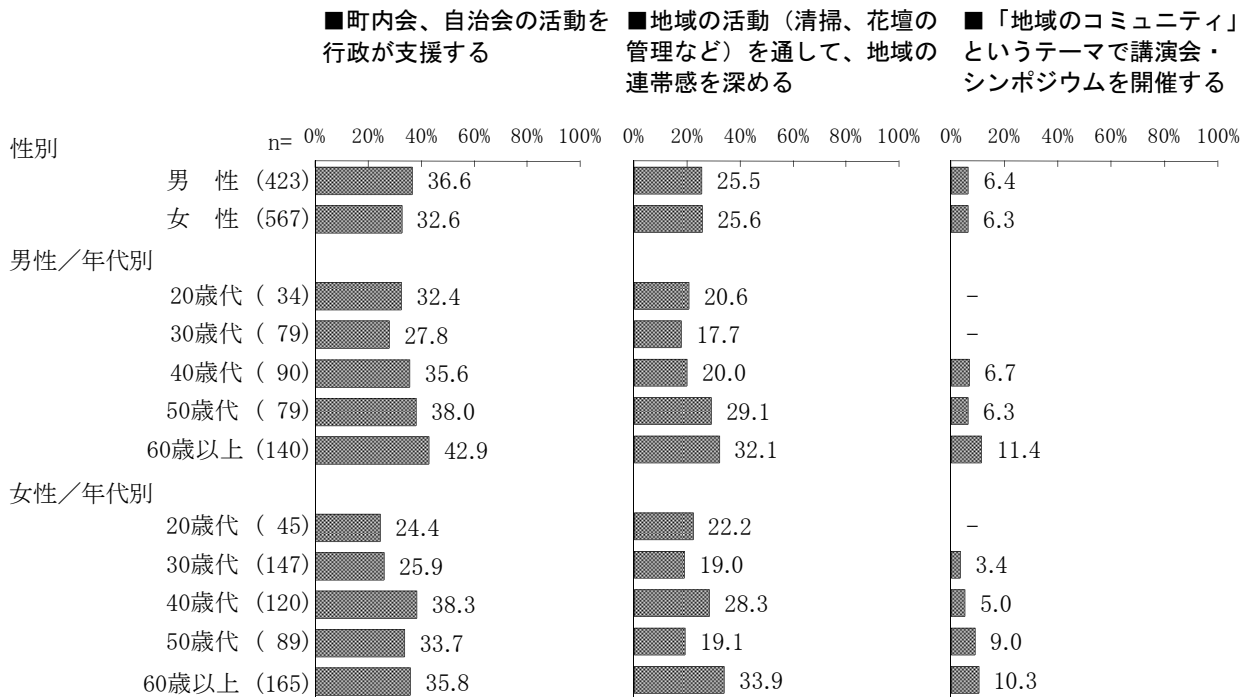
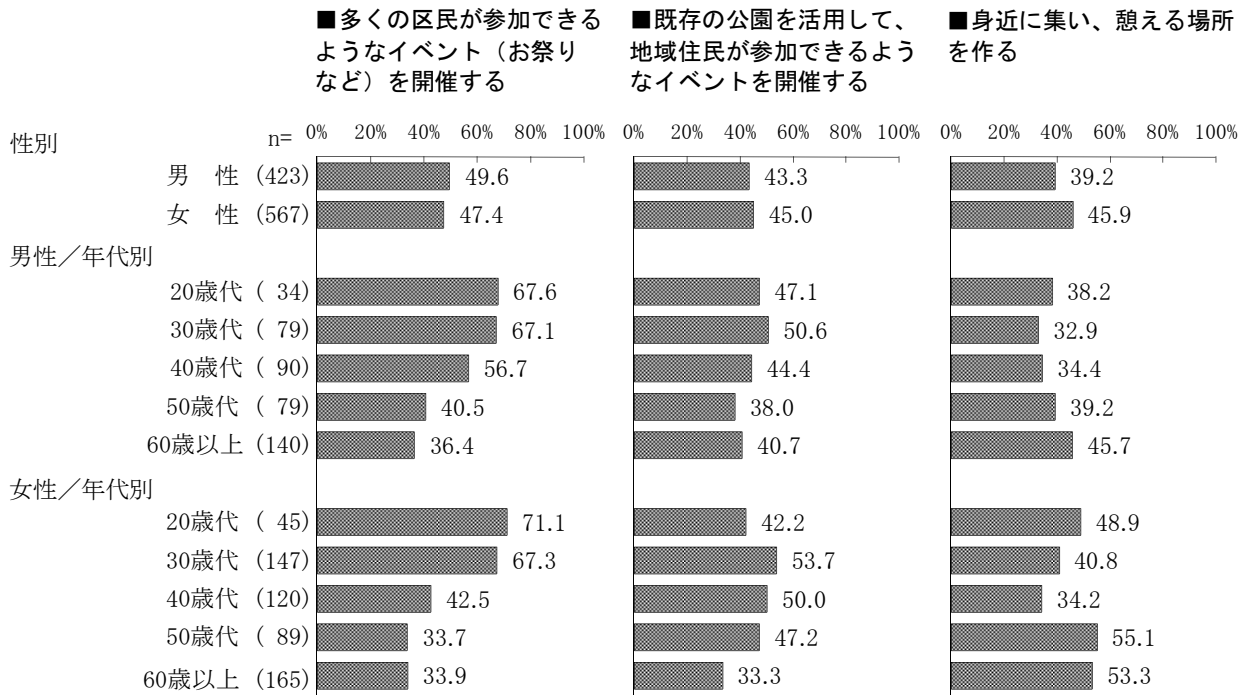
\*1 この項目は、2012年度より実施した

\*2 この項目は、2012年度では聴取していない

地域住民のつながりを深める手法については、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」が48.4%と最も高い。次いで、「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」（44.1%）、「身近に集い、憩える場所を作る」（43.0%）、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」（34.2%）、「地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める」（25.5%）、「『地域のコミュニティ』というテーマで講演会・シンポジウムを開催する」（6.4%）の順となっている。

2009年度と比較すると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」が3.8ポイント減少、「地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める」が9ポイント減少している。

図 9-2 性別／性年代別



性別では、「身近に集い、憩える場所を作る」で『女性』の方が『男性』よりも6.7ポイント高く、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」では『男性』の方が『女性』よりも4ポイント高くなっている。

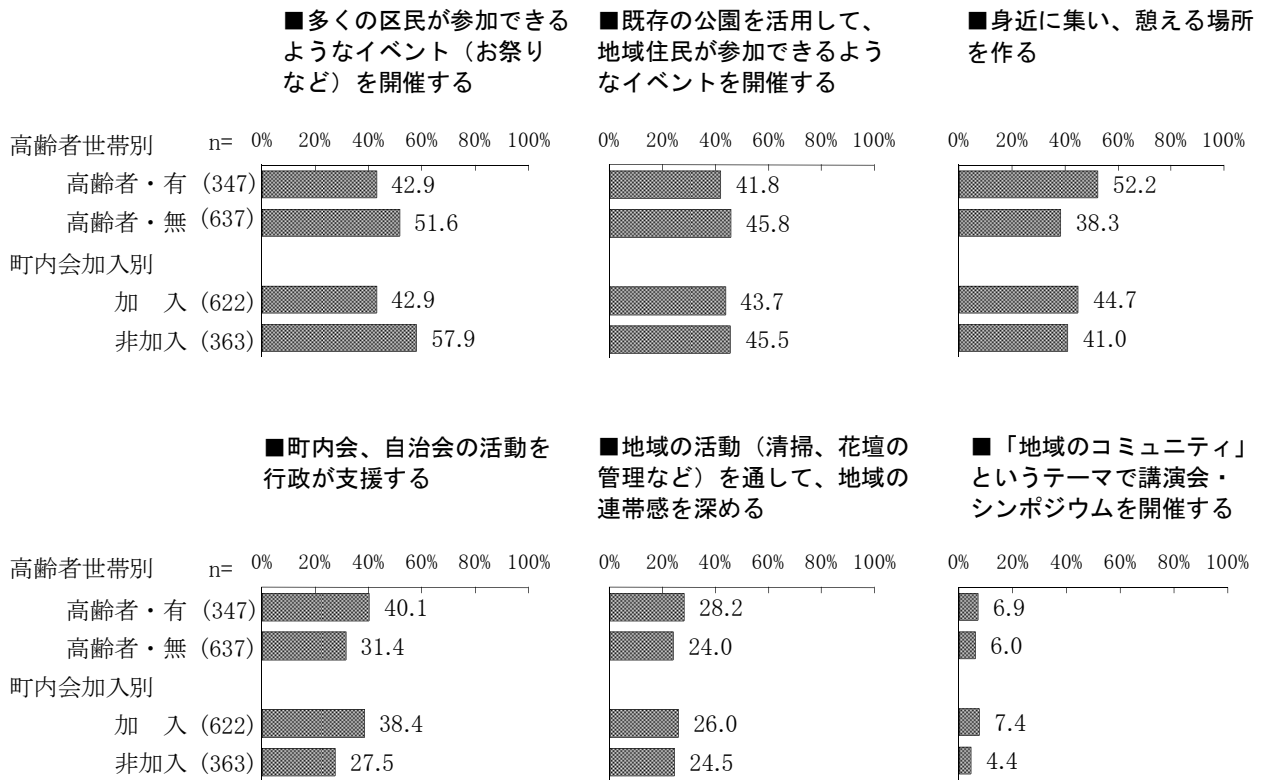
性・年代別では、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」で男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男女の『20歳代』と『30歳代』で他の年代よりも高くなっている。

「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」では、男性『30歳代』、女性『30歳代』、女性『40歳代』で5割を超えている。

「身近に集い、憩える場所を作る」では、女性の『50歳代』と『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。



図 9-3 高齢者世帯別／町内会加入別



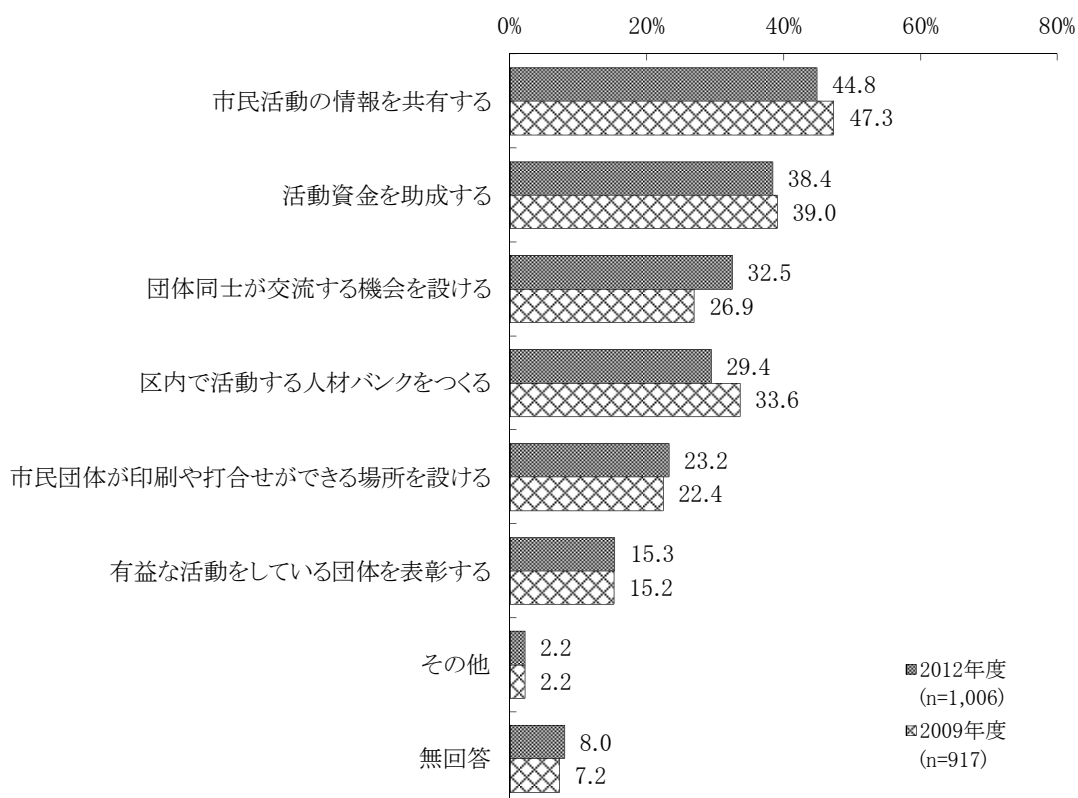
高齢者世帯別では、「身近に集い、憩える場所を作る」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも13.9ポイント高く、同様に「町内会、自治会の活動を行政が支援する」では8.7ポイント、「地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める」では4.2ポイント、『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

町内会加入別では、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」で『非加入』の方が『加入』よりも15ポイント高く、反対に、「身近に集い、憩える場所を作る」では3.7ポイント、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」では10.9ポイント、「『地域のコミュニティ』というテーマで講演会・シンポジウムを開催する」では3ポイント、『加入』の方が『非加入』よりも高くなっている。

## (10) 市民活動支援

問10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

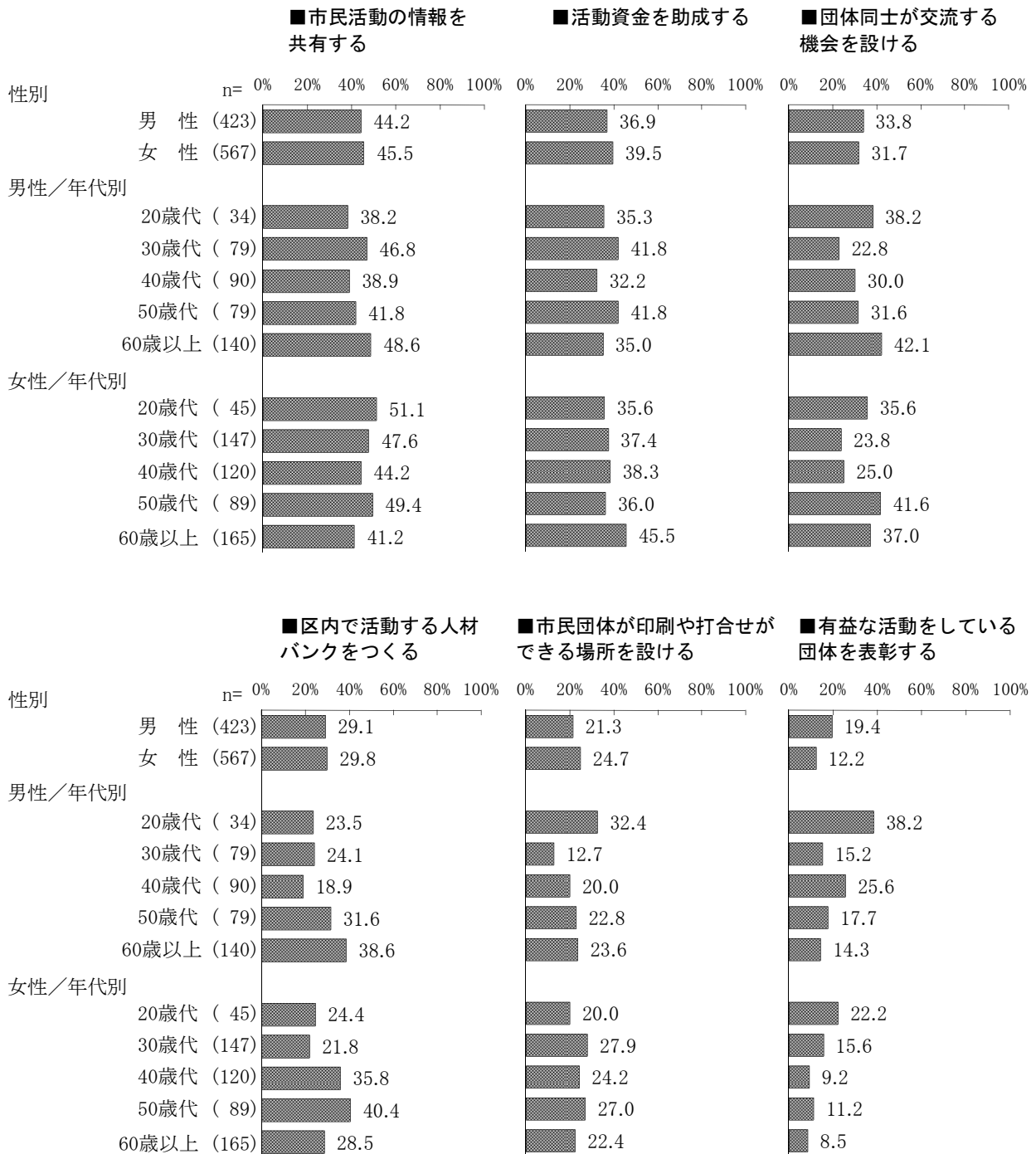
図 10-1



市民活動支援については、「市民活動の情報を共有する」が44.8%と最も高く、次いで、「活動資金を助成する」(38.4%)、「団体同士が交流する機会を設ける」(32.5%)、「区内で活動する人材バンクをつくる」(29.4%)、「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」(23.2%)、「有益な活動をしている団体を表彰する」(15.3%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「団体同士が交流する機会を設ける」が5.6ポイント増加で4位から3位へと順位が上がっている。また、「区内で活動する人材バンクをつくる」が4.2ポイント減少している。

図 10-2 性別／性年代別



性別では、「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」で『女性』の方が『男性』よりも3.4ポイント高く、「有益な活動をしている団体を表彰する」では『男性』の方が『女性』よりも7.2ポイント高くなっている。

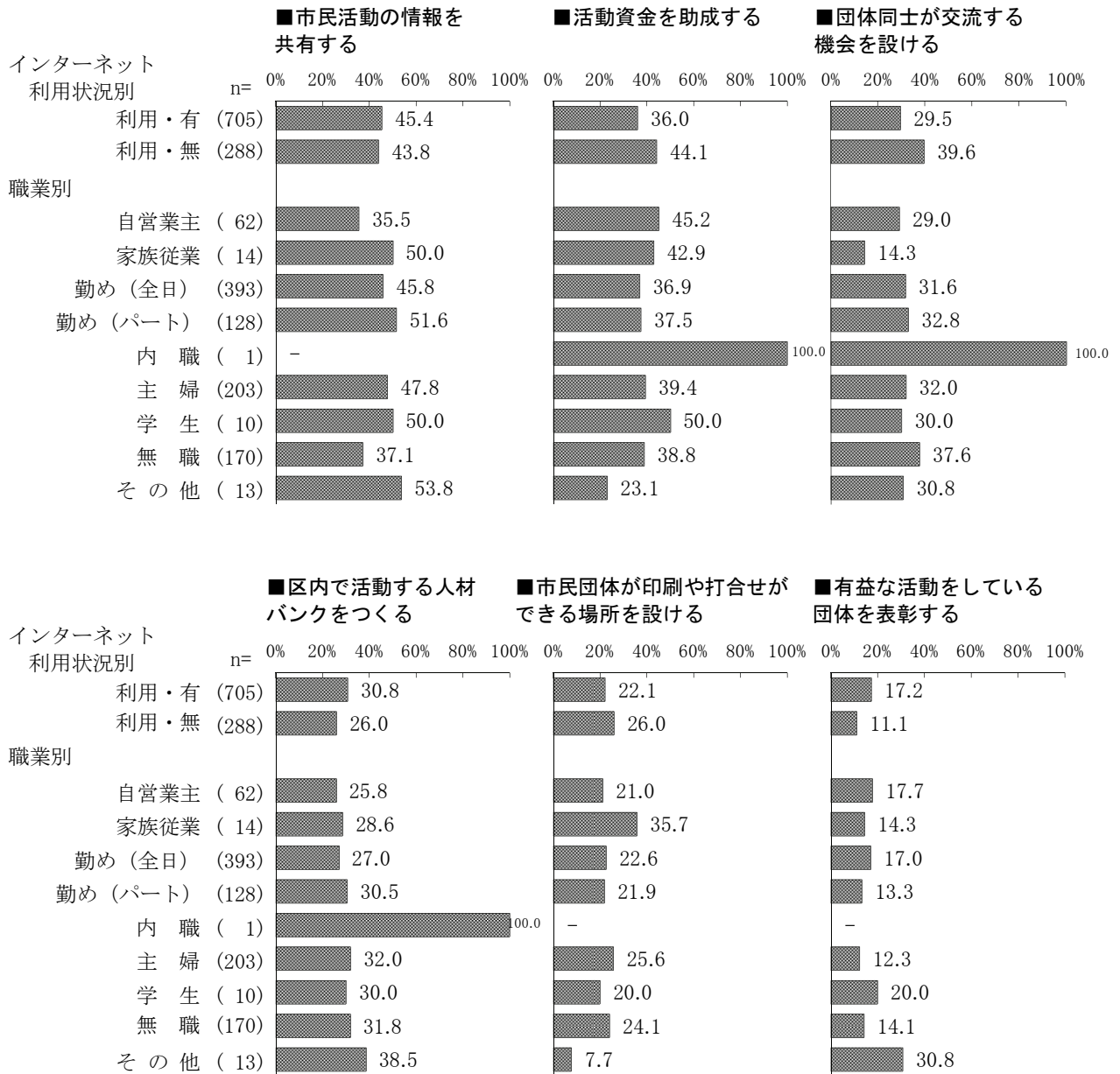
性・年代別では、「団体同士が交流する機会を設ける」で男性は『20歳代』と『60歳以上』が、女性は『20歳代』『50歳代』『60歳以上』が他の年代に比べて高くなっている。

「区内で活動する人材バンクをつくる」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、女性『50歳代』は4割を超えている。

「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」では、男性『20歳代』が3割を超えて他の年代よりも高くなっている。

「有益な活動をしている団体を表彰する」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男性『20歳代』は38.2%と他の年代よりも高くなっている。

図 10-3 インターネット利用状況別／職業別



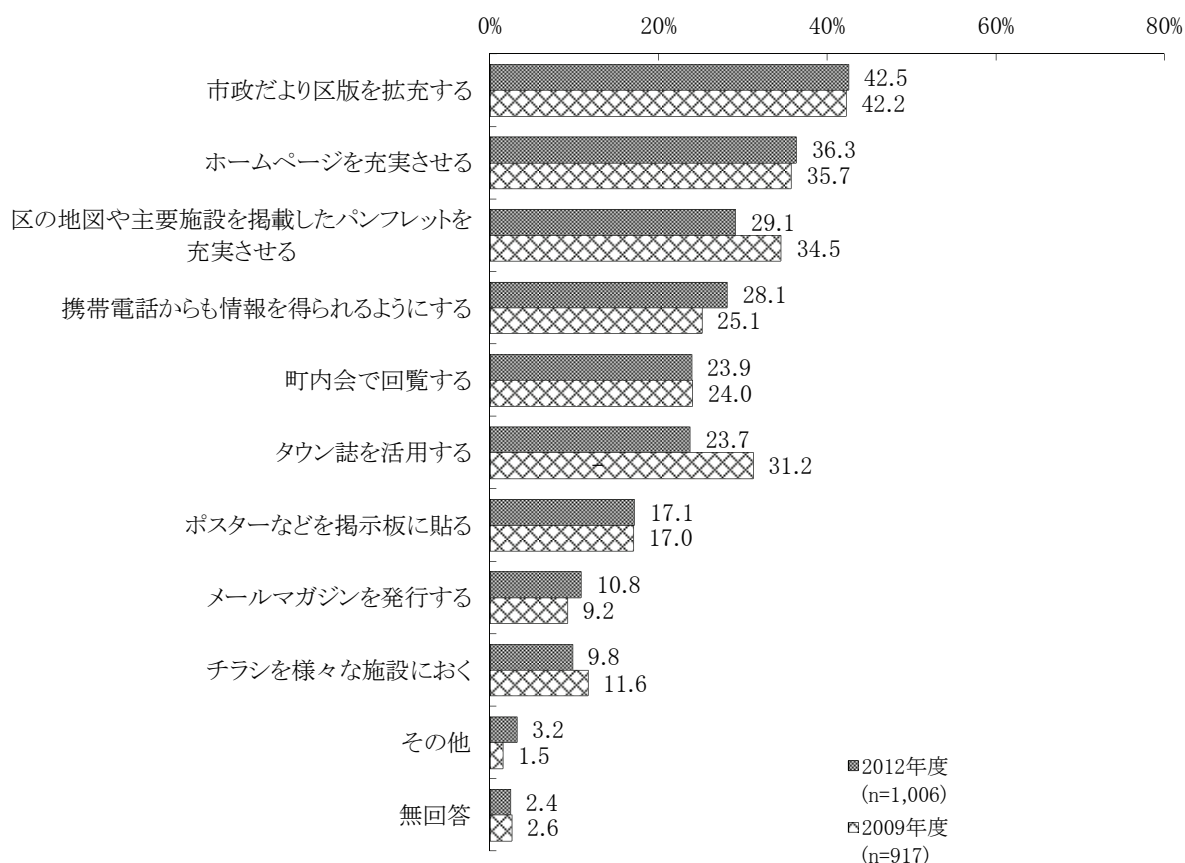
インターネット利用状況別では、「活動資金を助成する」で『利用・無』の方が『利用・有』よりも8.1ポイント高く、同様に「団体同士が交流する機会を設ける」では10.1ポイント、「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」では3.9ポイント、『利用・無』の方が『利用・有』よりも高くなっている。また、「区内で活動する人材バンクをつくる」では『利用・有』の方が『利用・無』よりも4.8ポイント高く、同様に「有益な活動をしている団体を表彰する」では『利用・有』の方が『利用・無』よりも6.1ポイント高くなっている。

職業別では、「市民活動の情報を共有する」で『勤め(全日)』『勤め(パート)』『主婦』が他の職業に比べて高くなっている。また、「団体同士が交流する機会を設ける」で『無職』が他の年代よりも高くなっている。

## (11) 区の情報提供

問11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

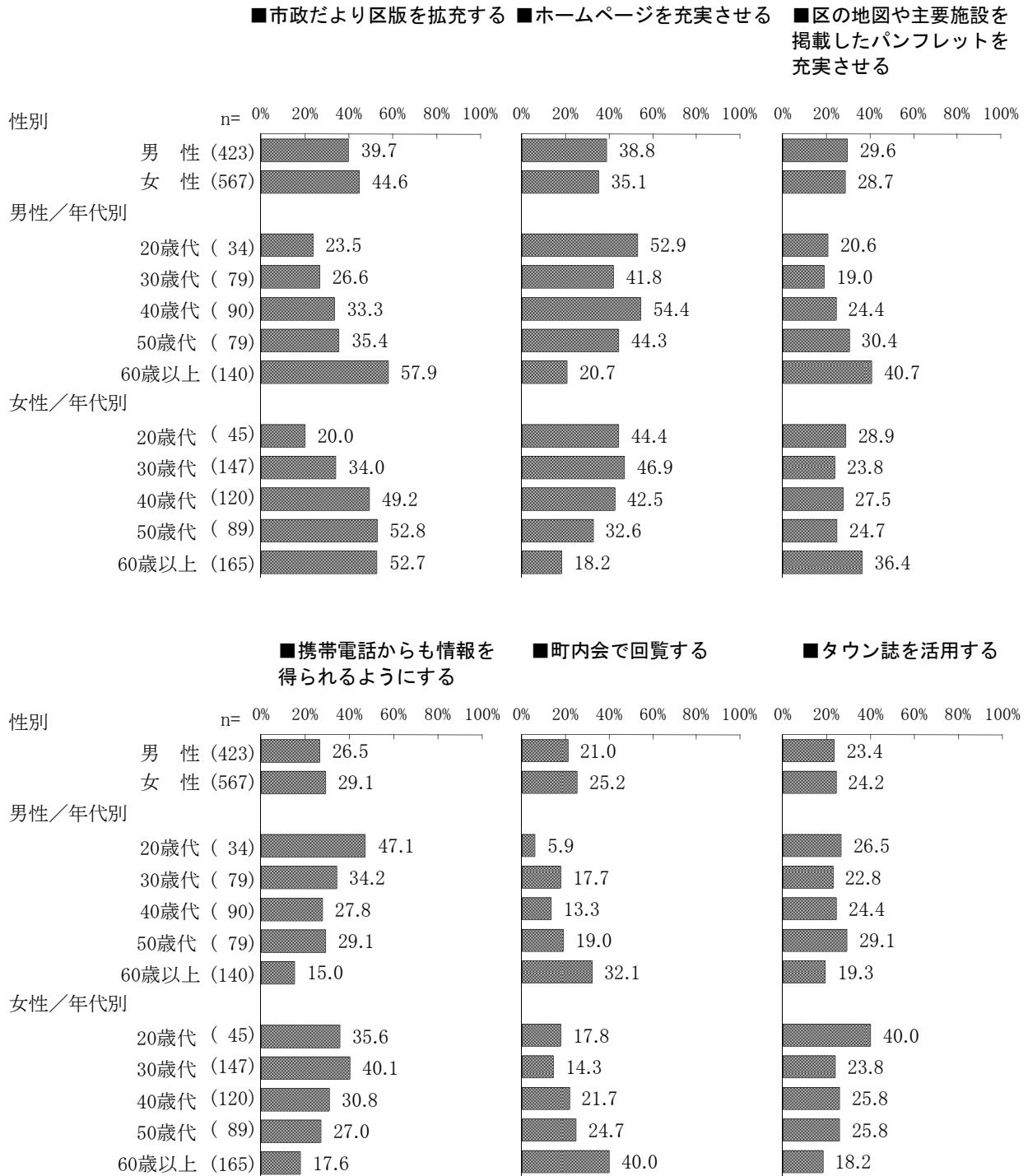
図 11-1



区の情報提供については、「市政だより区版を拡充する」が42.5%で最も高い。次いで「ホームページを充実させる」(36.3%)、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」(29.1%)、「携帯電話からも情報を得られるようにする」(28.1%)、「町内会で回覧する」(23.9%)、「タウン誌を活用する」(23.7%)、「ポスターなどを掲示板に貼る」(17.1%)、「メールマガジンを発行する」(10.8%)、「チラシを様々な施設におく」(9.8%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「携帯電話からも情報を得られるようにする」が3ポイント増加で5位から4位へ、「町内会で回覧する」が6位から5位へ、「メールマガジンを発行する」が9位から8位へと順位が上がっている。また、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」が5.4ポイント減少、「タウン誌を活用する」が7.5ポイント減少している。

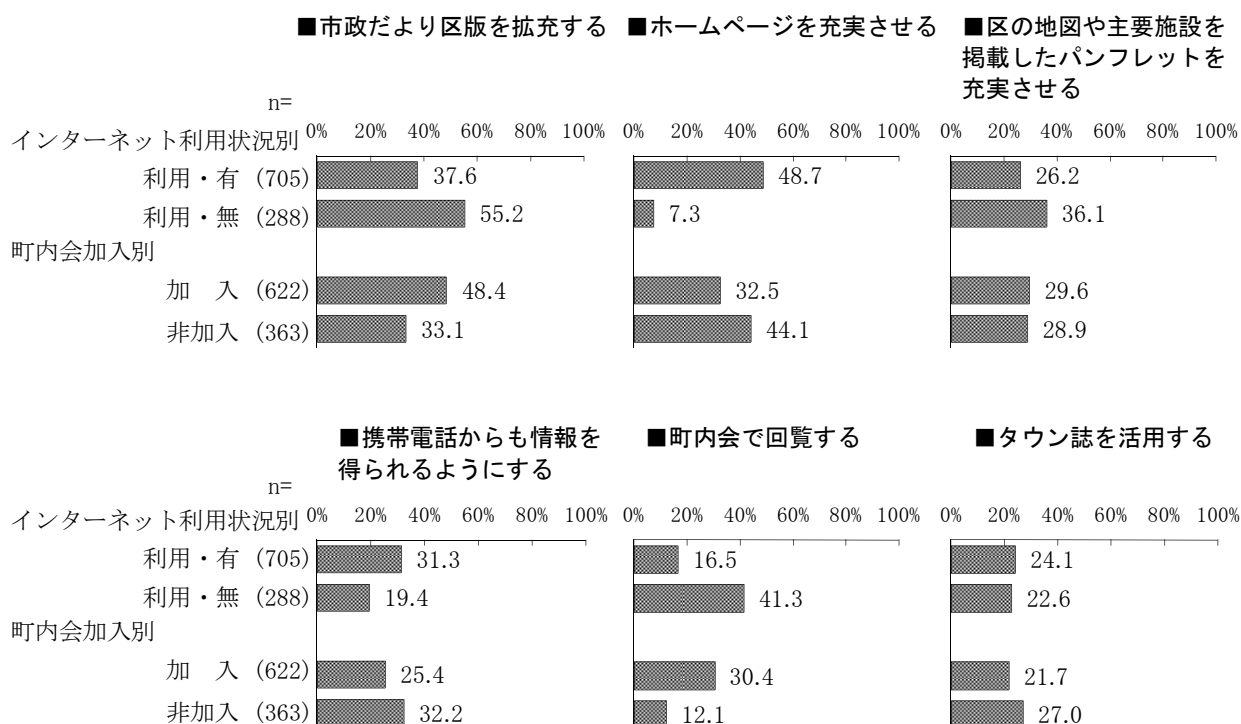
図 11-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「市政だより区版を拡充する」と「町内会で回覧する」で『女性』の方が『男性』よりも4ポイント以上高く、「ホームページを充実させる」で『男性』の方が『女性』よりも3.7ポイント高くなっている。

性・年代別では、「市政だより区版を拡充する」「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」「町内会で回覧する」で男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。反対に、「ホームページを充実させる」「携帯電話からも情報を得られるようにする」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

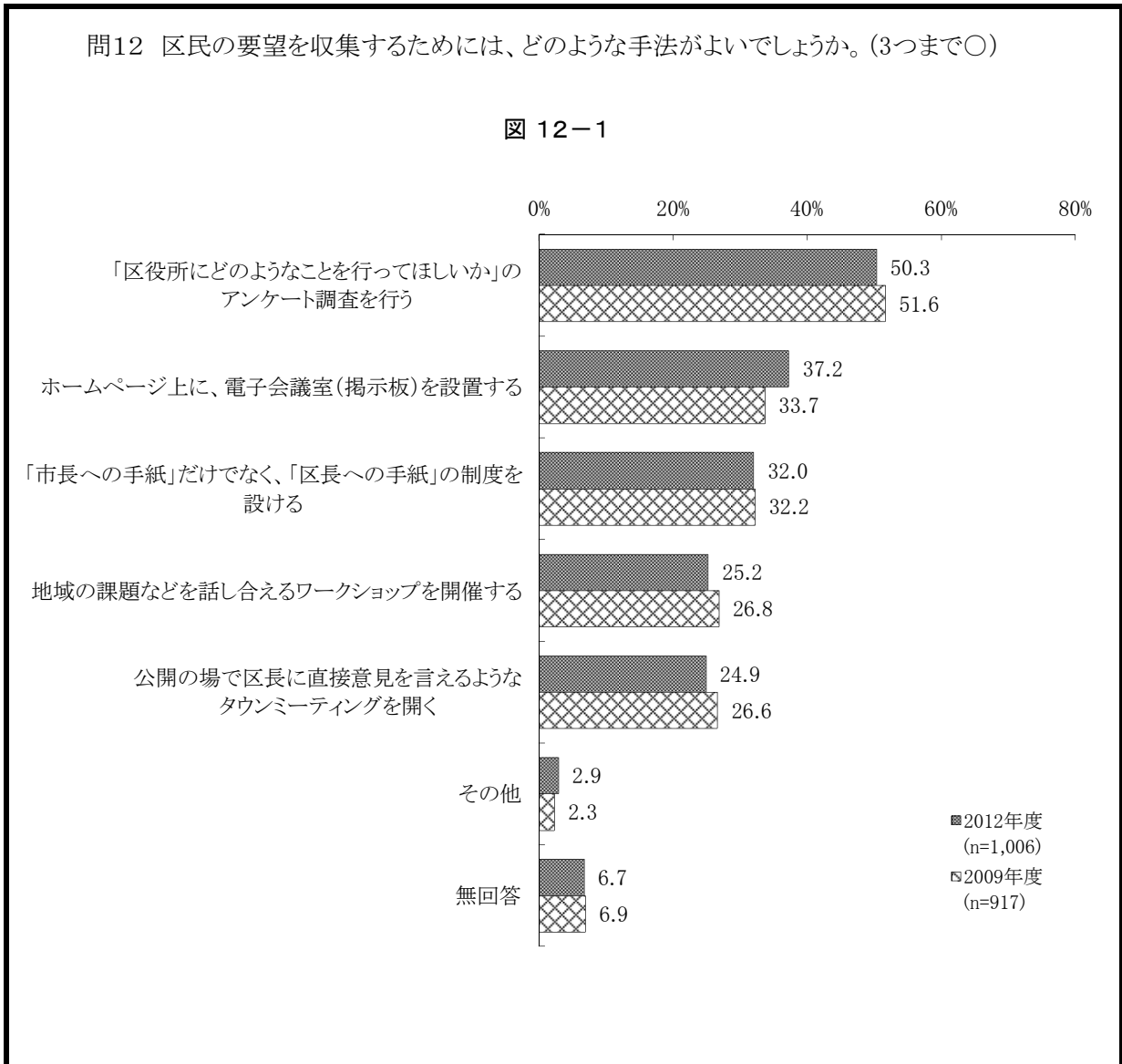
図 11-3 インターネット利用状況別 / 町内会加入別(上位6項目)



インターネット利用状況別では、『利用・有』は、「ホームページを充実させる」が48.7%と最も高く、次いで「市政だより区版を拡充する」(37.6%)、「携帯電話からも情報を得られるようにする」(31.3%)、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」(26.2%)、「タウン誌を活用する」(24.1%)、「町内会で回覧する」(16.5%)の順となっている。『利用・無』は、「市政だより区版を拡充する」が55.2%と最も高く、次いで「町内会で回覧する」(41.3%)、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」(36.1%)、「タウン誌を活用する」(22.6%)、「携帯電話からも情報を得られるようにする」(19.4%)、「ホームページを充実させる」(7.3%)の順となっている。

町内会加入別では、「市政だより区版を拡充する」で『加入』の方が『非加入』よりも15.3ポイント高く、同様に「町内会で回覧する」では『加入』の方が『非加入』よりも18.3ポイント高くなっている。また、「ホームページを充実させる」では『非加入』の方が『加入』よりも11.6ポイント高く、同様に「携帯電話からも情報を得られるようにする」では6.8ポイント、「タウン誌を活用する」では5.3ポイント、『非加入』の方が『加入』よりも高くなっている。

(12) 区民の要望収集

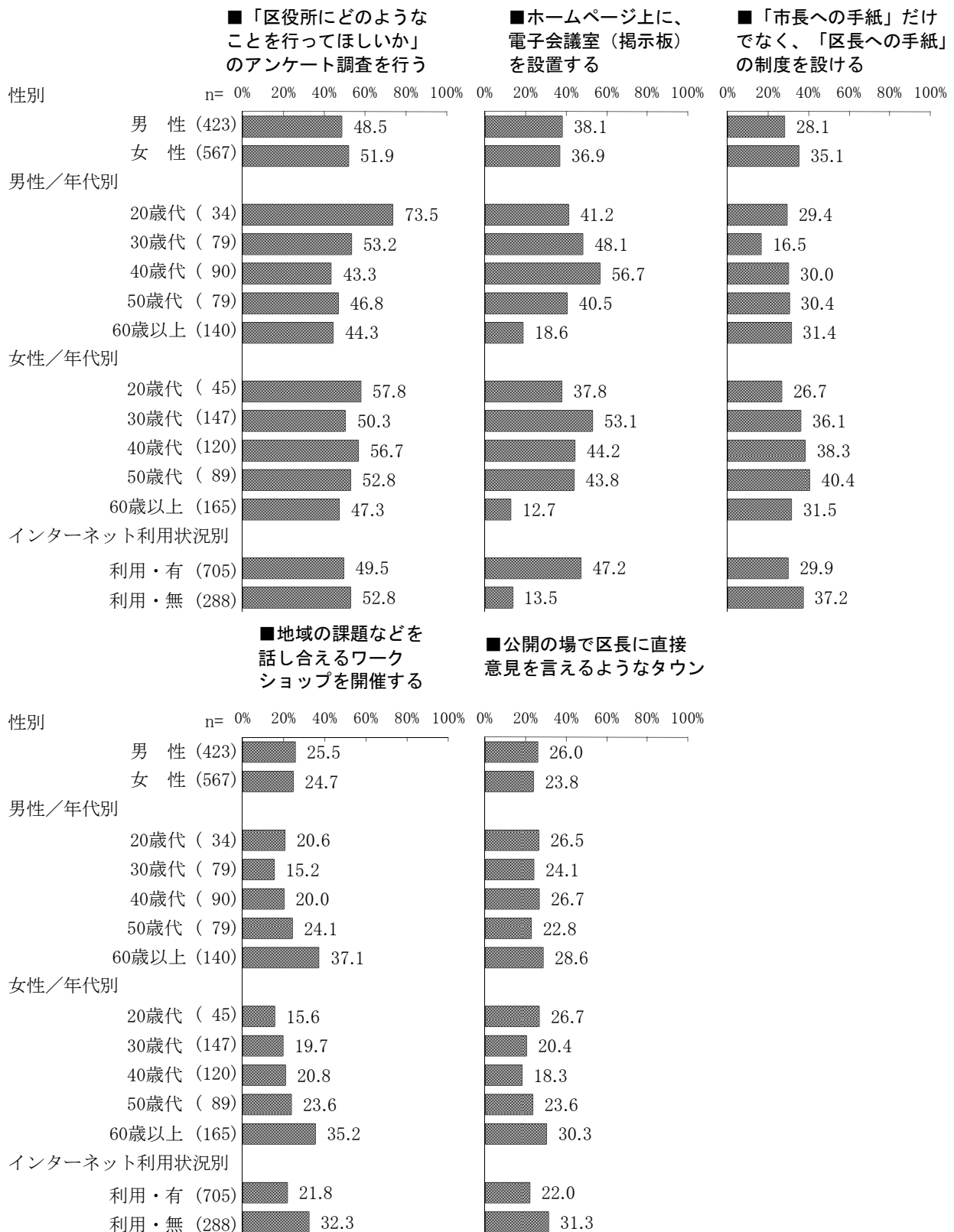


区民の要望収集については、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」が50.3%と最も高くなっている。次いで、「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」（37.2%）、「『市長への手紙』だけでなく、『区長への手紙』の制度を設ける」（32.0%）、「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」（25.2%）、「公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く」（24.9%）の順となっている。

2009年度と比較すると、「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」が3.5ポイント増加している。



図 12-2 性別／性年代別／インターネット利用状況



性別では、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」で『女性』の方が『男性』よりも3.4ポイント高く、同様に「『市長への手紙』だけでなく、『区長への手紙』の制度を設ける」で『女性』の方が『男性』よりも7ポイント高くなっている。

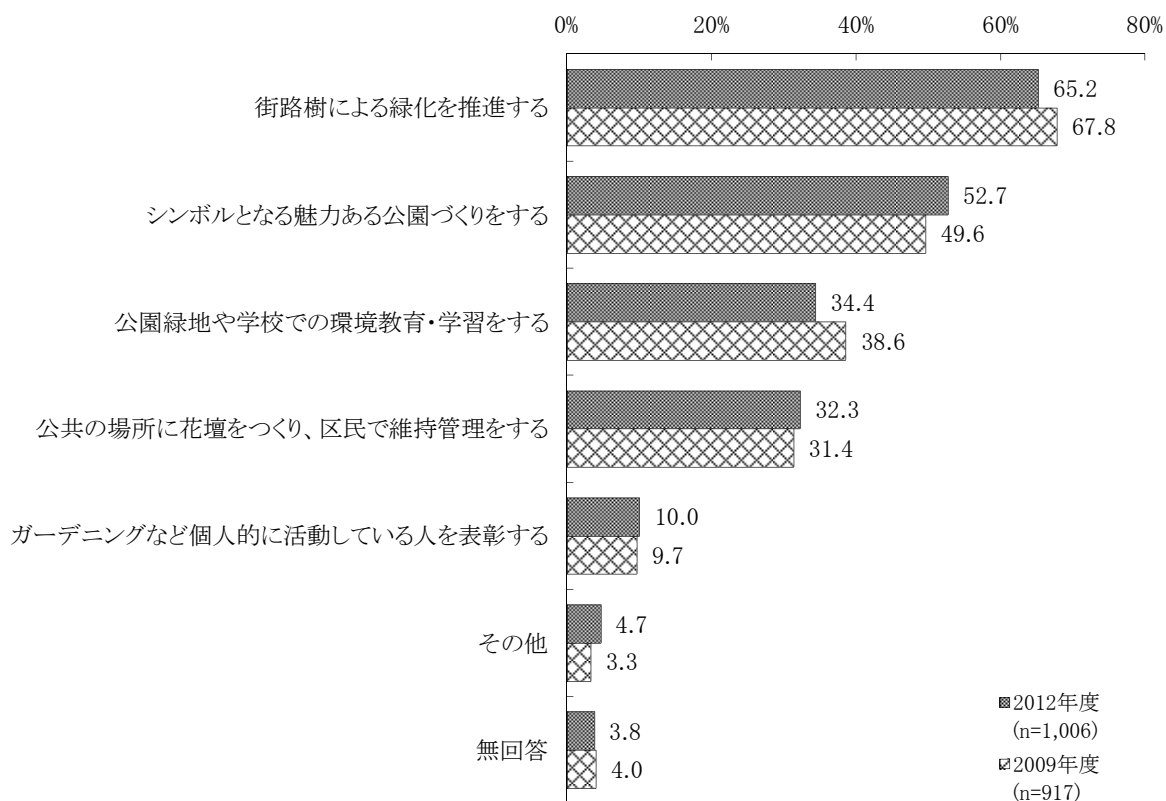
性・年代別では、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」で男性で年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男性『20歳代』が7割を超えて他の年代よりも高くなっている。また、「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

インターネット利用状況別では、「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」で『利用・有』の方が『利用・無』よりも33.7ポイント高くなっている。

### (13) 花と緑のまちづくり推進

問13 花と緑のまちづくりを推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。(3つまで○)

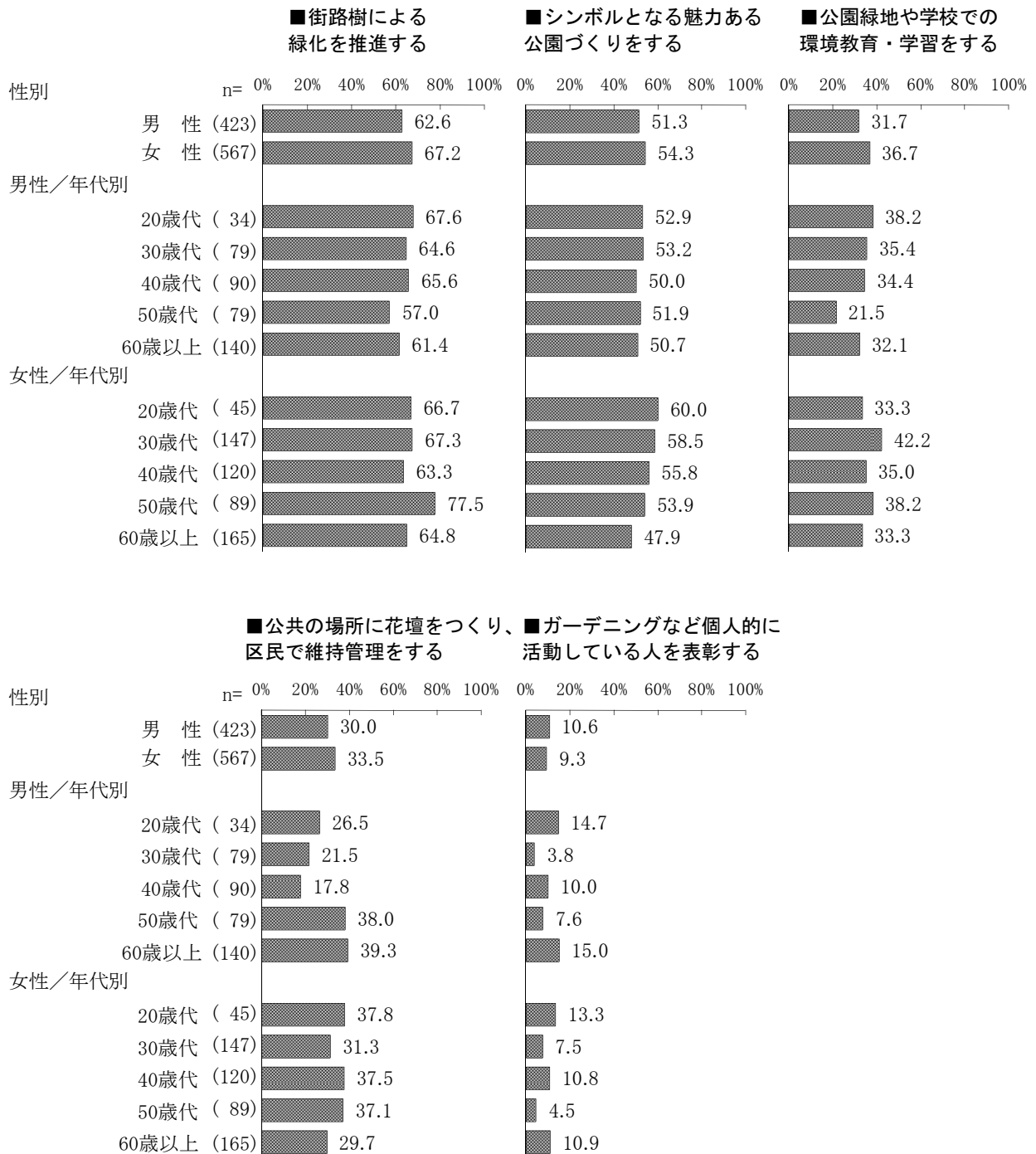
図 13-1



花と緑のまちづくり推進については、「街路樹による緑化を推進する」が65.2%で最も高い。次いで、「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」(52.7%)、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」(34.4%)、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」(32.3%)、「ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する」(10.0%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」が3.1ポイント増加、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」が4.2ポイント減少している。

図 13-2 性別／性年代別



性別では、上位4項目において『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。

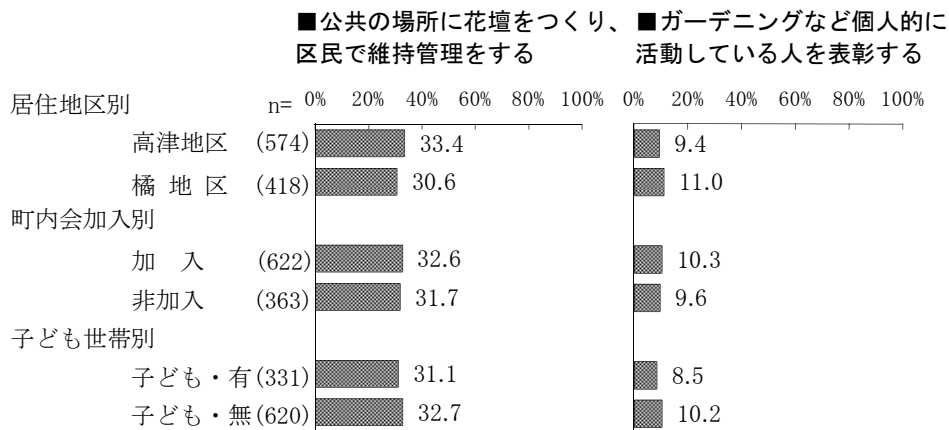
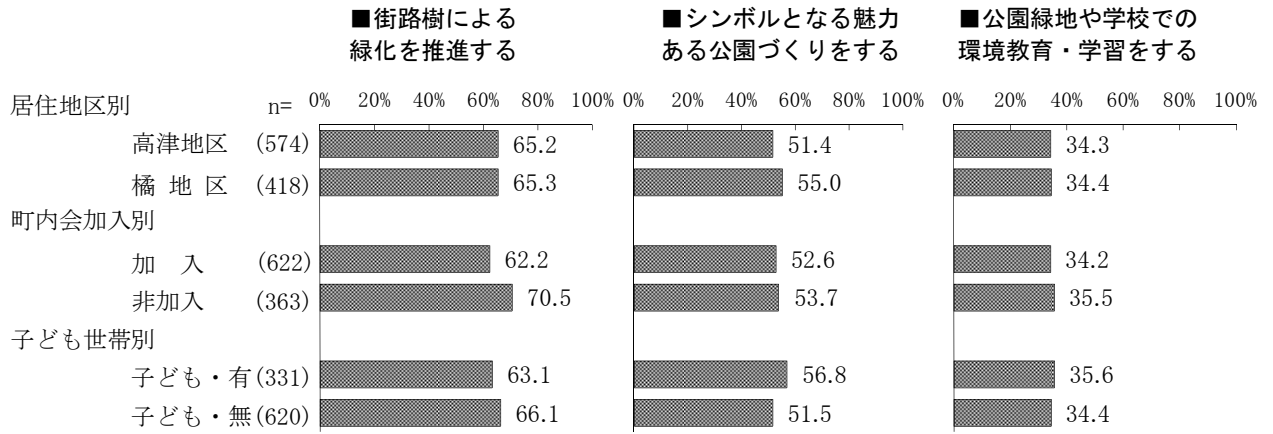
性・年代別では、「街路樹による緑化を推進する」で『女性』の方が『男性』よりも4.6ポイント高く、女性『50歳代』が77.5%と他の年代よりも高くなっている。

「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」では、『女性』の方が『男性』よりも3ポイント高く、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」では、『女性』の方が『男性』よりも5ポイント高く、女性『30歳代』が4割を超えている。

「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」では、『女性』の方が『男性』よりも3.5ポイント高く、男性は『50歳代』と『60歳代』が他の年代よりも高くなっている。

図 13-3 居住地区別／町内会加入別／子ども世帯別



居住地区別では、「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」で『橋地区』の方が『高津地区』よりも3.6ポイント高くなっている。

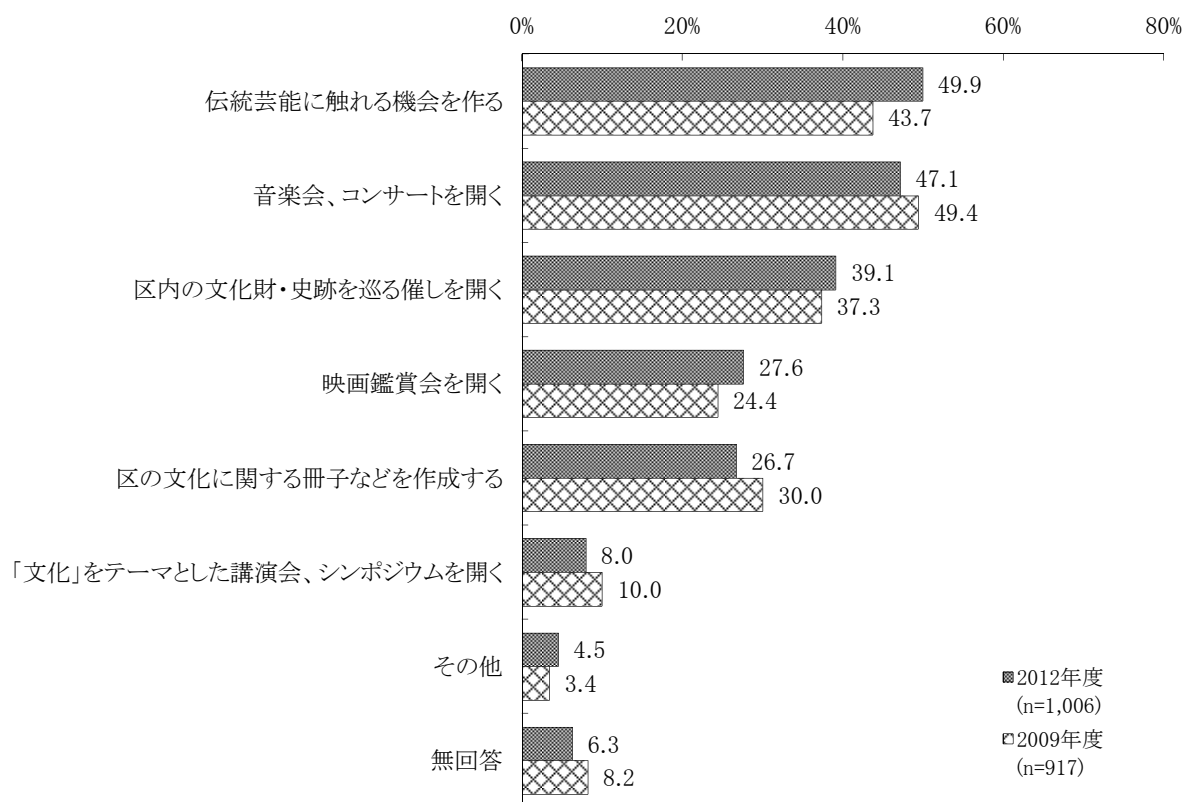
町内会加入別では、「街路樹による緑化を推進する」で『非加入』の方が『加入』よりも8.3ポイント高くなっている。

子ども世帯別では、「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも5.3ポイント高くなっている。

## (14) 区の文化の振興

問14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

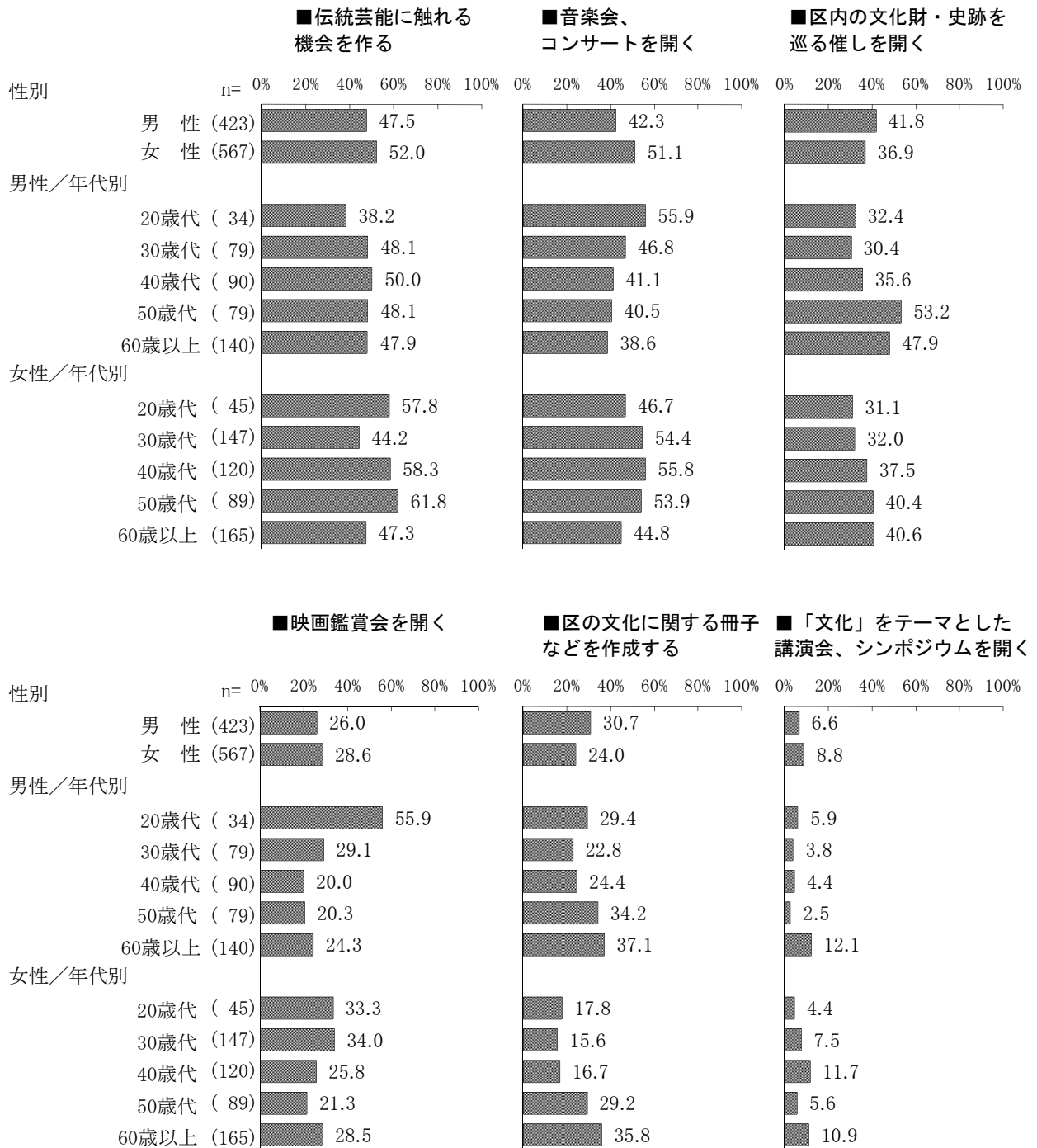
図 14-1



区の文化の振興については、「伝統芸能に触れる機会を作る」が49.9%と最も高い。次いで、「音楽会、コンサートを開く」(47.1%)、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」(39.1%)、「映画鑑賞会を開く」(27.6%)、「区の文化に関する冊子などを作成する」(26.7%)、「『文化』をテーマとした講演会、シンポジウムを開く」(8.0%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「伝統芸能に触れる機会を作る」が6.2ポイント増加で2位から1位へ、「映画鑑賞会を開く」が3.2ポイント増加で5位から4位へと順位が上がっている。また、「区の文化に関する冊子などを作成する」が3.3ポイント減少している。

図 14-2 性別／性年代別



性・年代別では、「伝統芸能に触れる機会を作る」で『女性』の方が『男性』よりも4.5ポイント高く、女性『50歳代』が6割を超えている。

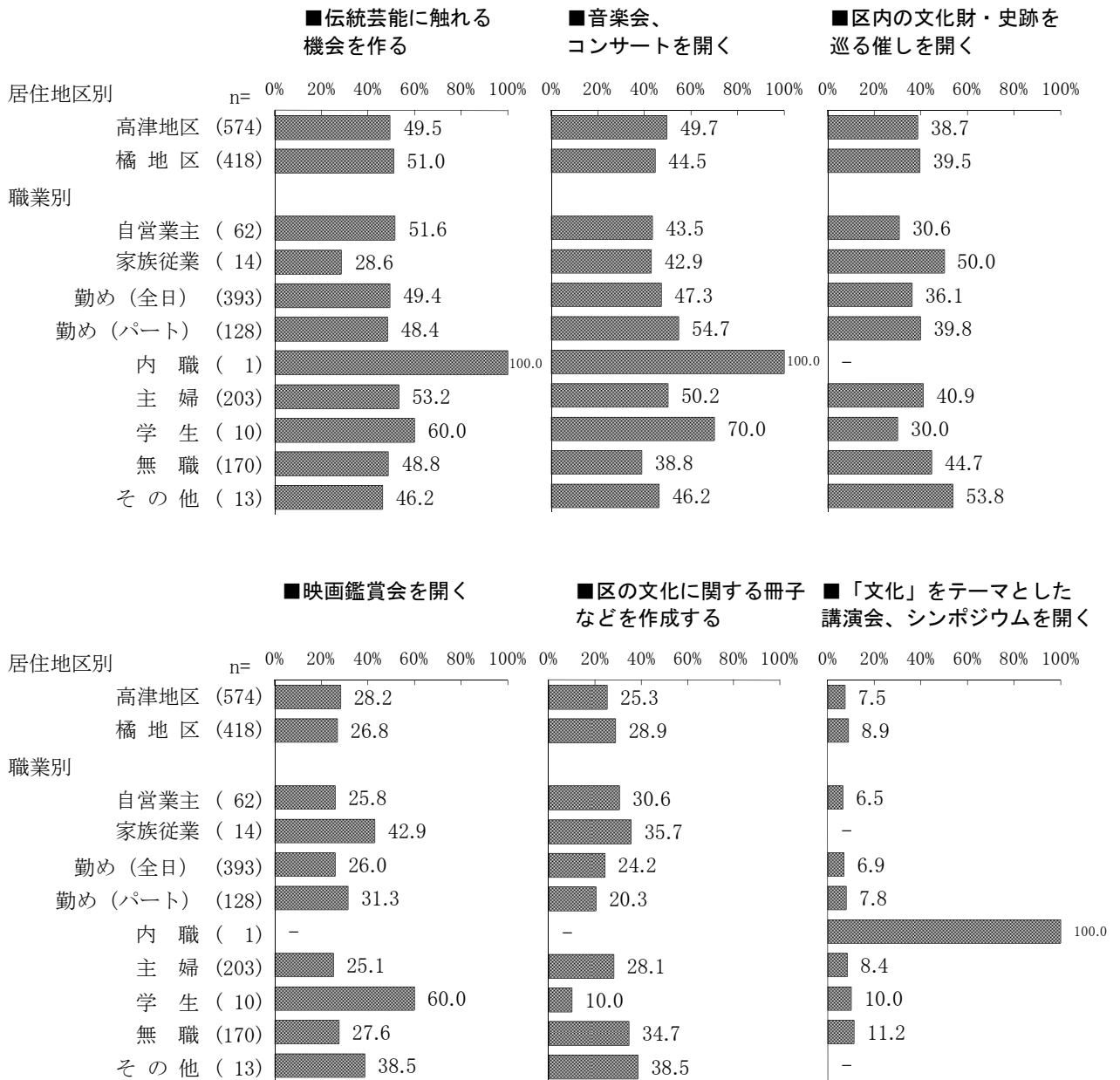
「音楽会、コンサートを開く」では、『女性』の方が『男性』よりも8.8ポイント高いものの、男性『20歳代』が55.9%と最も高く、男性は年代が下がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」では、『男性』の方が『女性』よりも4.9ポイント高く、男性『50歳代』は5割を超えており、男女ともに年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

「映画鑑賞会を開く」では、男性『20歳代』が55.9%と他の年代よりも高くなっている。

「区の文化に関する冊子などを作成する」では、『男性』の方が『女性』よりも6.7ポイント高く、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 14-3 居住地区別 / 職業別



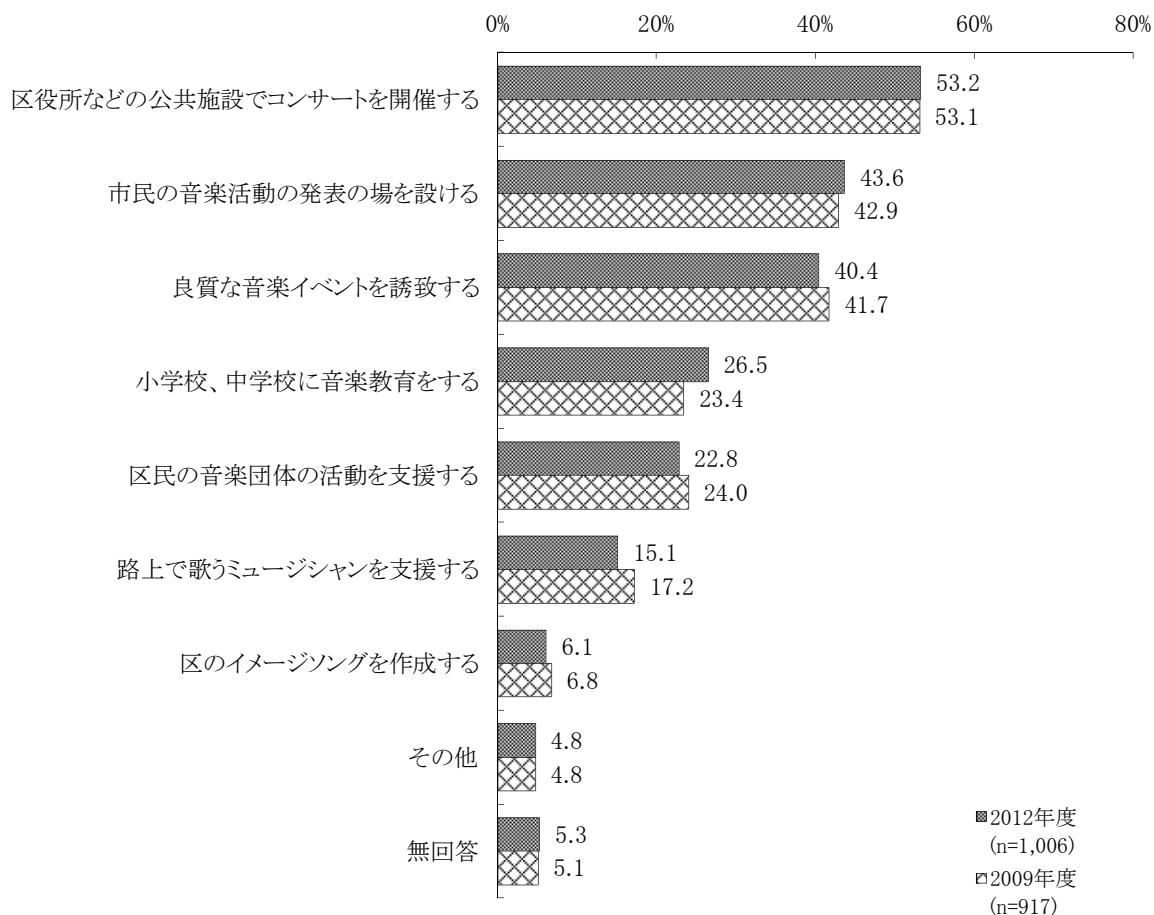
居住地区別では、「音楽会、コンサートを開く」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも5.2ポイント高くなっている。また、「区の文化に関する冊子などを作成する」で『橘地区』の方が『高津地区』よりも3.6ポイント高くなっている。

職業別では、「音楽会、コンサートを開く」で『勤め(パート)』と『主婦』が、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」では『主婦』と『無職』が、他の職業に比べて高くなっている。

(15) 「音楽のまち」推進

問15 高津区において「音楽のまち」を推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

図 15-1

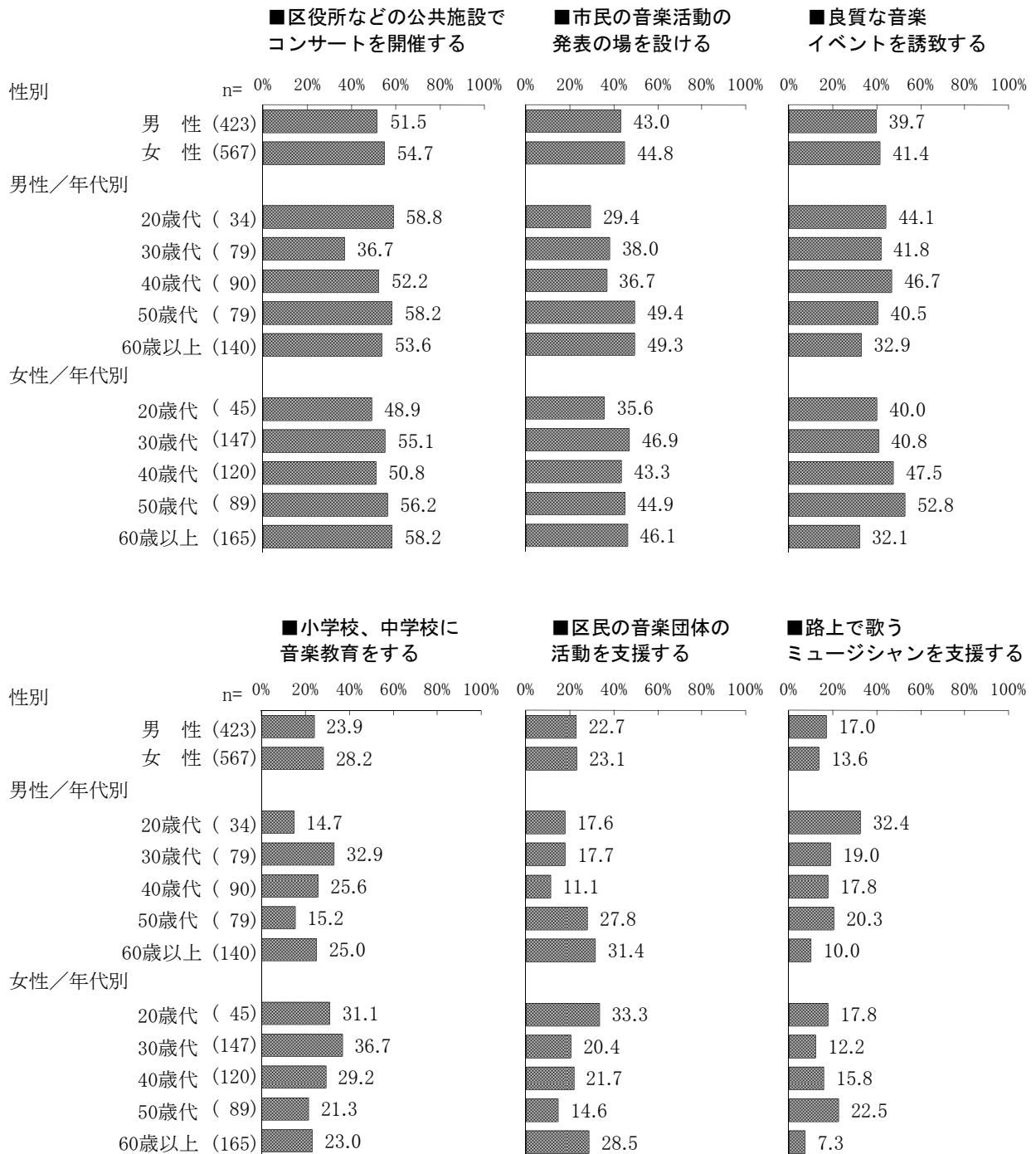


「音楽のまち」推進については、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」が53.2%と最も高く、次いで、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」（43.6%）、「良質な音楽イベントを誘致する」（40.4%）、「小学校、中学校に音楽教育をする」（26.5%）、「区民の音楽団体の活動を支援する」（22.8%）、「路上で歌うミュージシャンを支援する」（15.1%）、「区のイメージソングを作成する」（6.1%）の順となっている。

2009年度と比較すると、「小学校、中学校に音楽教育をする」が3.1ポイント増加で5位から4位へと順位が上がっている。



図 15-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、上位5項目において『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。

性・年代別では、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」で『女性』の方が『男性』よりも3.2ポイント高く、男性の『20歳代』と『50歳代』、女性『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。また、女性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「市民の音楽活動の発表の場を設ける」では、男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

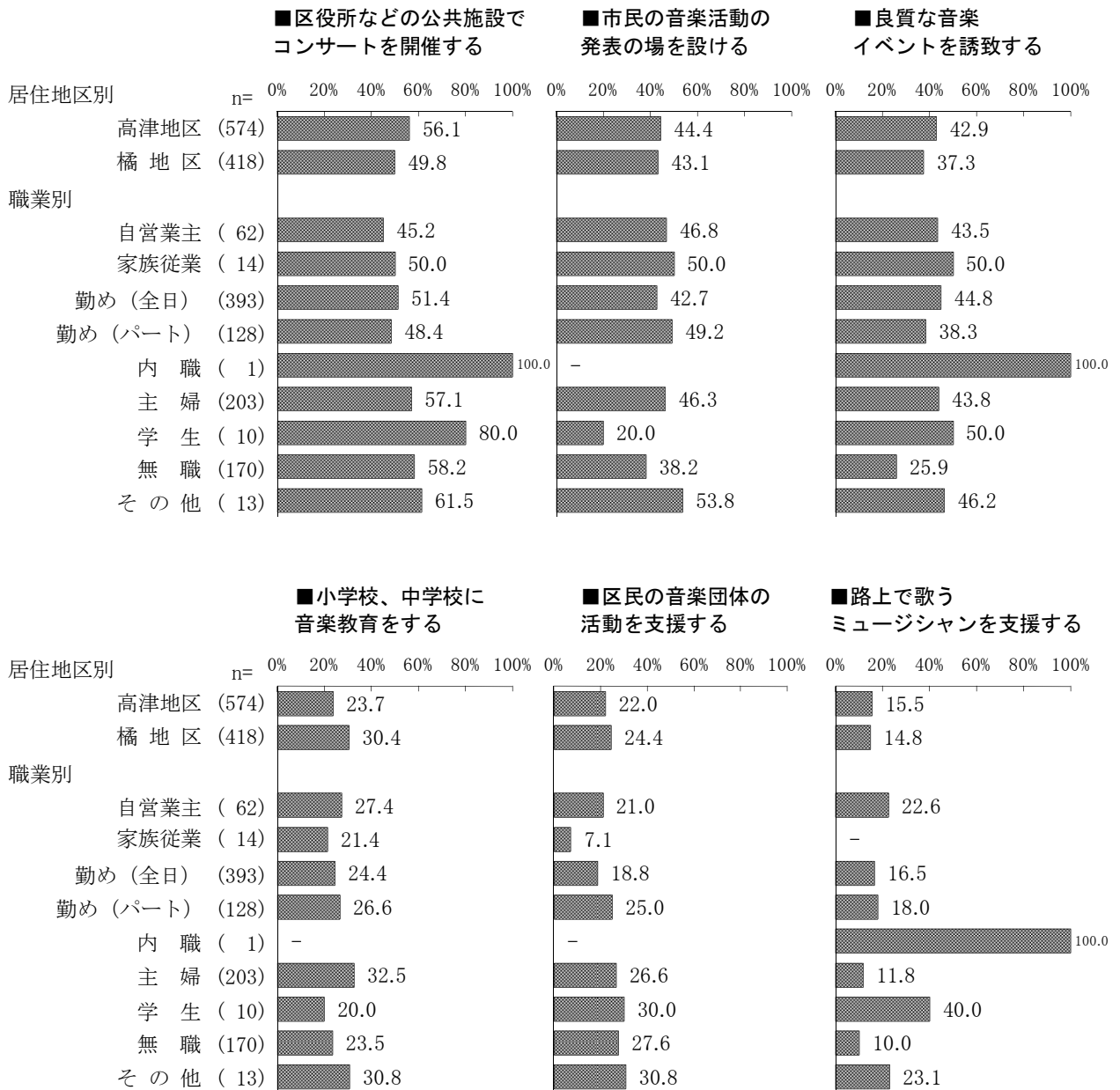
「良質な音楽イベントを誘致する」では、女性『50歳代』が5割を超えて他の年代よりも高くなっている。

「小学校、中学校に音楽教育をする」では、男女ともに『30歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「区民の音楽団体の活動を支援する」では、男性は『50歳代』と『60歳代』が、女性は『20歳代』と『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

「路上で歌うミュージシャンを支援する」では、男性『20歳代』が3割を超えている。

図 15-3 居住地区別／職業別（上位6項目）



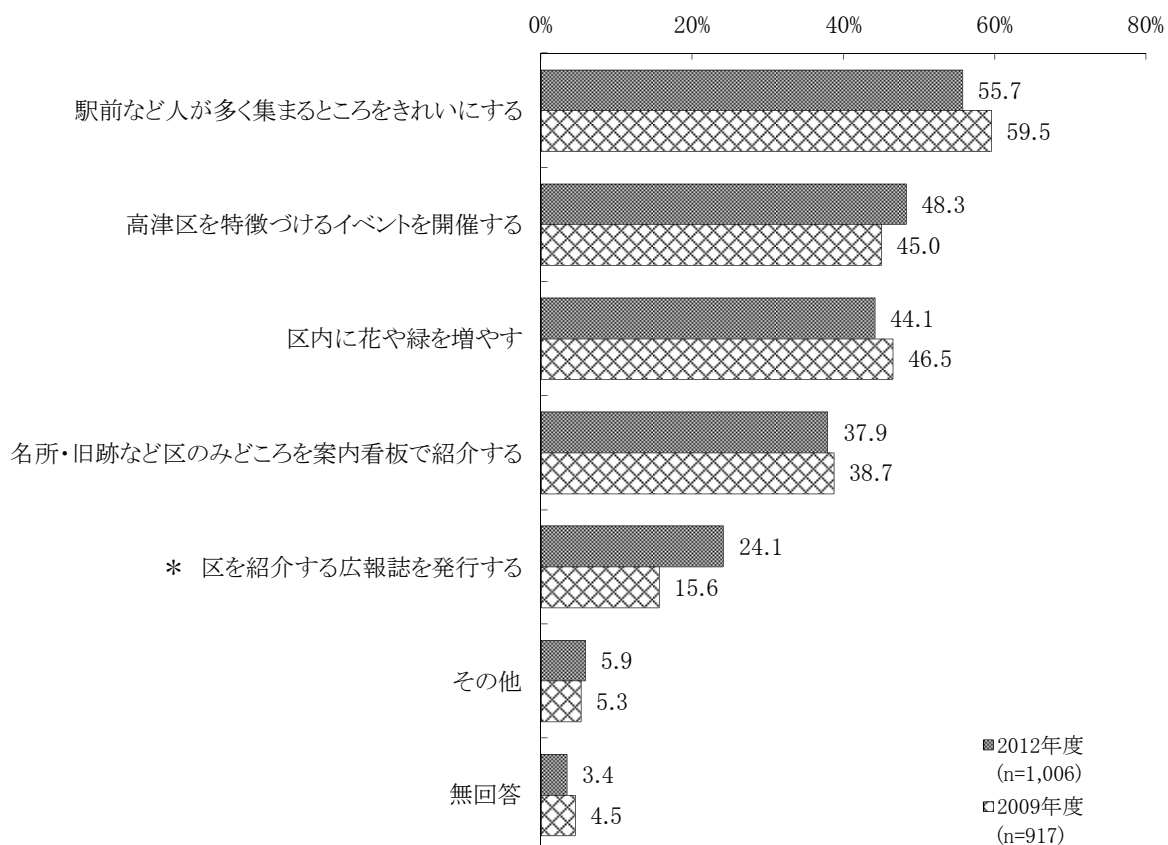
居住地区別では、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも6.3ポイント高く、同様に「良質な音楽イベントを誘致する」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも5.6ポイント高くなっている。また、「小学校、中学校に音楽教育をする」で『橘地区』の方が『高津地区』よりも6.7ポイント高くなっている。

職業別では、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」で『主婦』と『無職』が、「小学校、中学校に音楽教育をする」で『主婦』が、他の職業に比べて高くなっている。

## (16) 区のイメージアップ

問16 区のイメージアップを図り、区民が地域に愛着をもつようにするためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 16-1

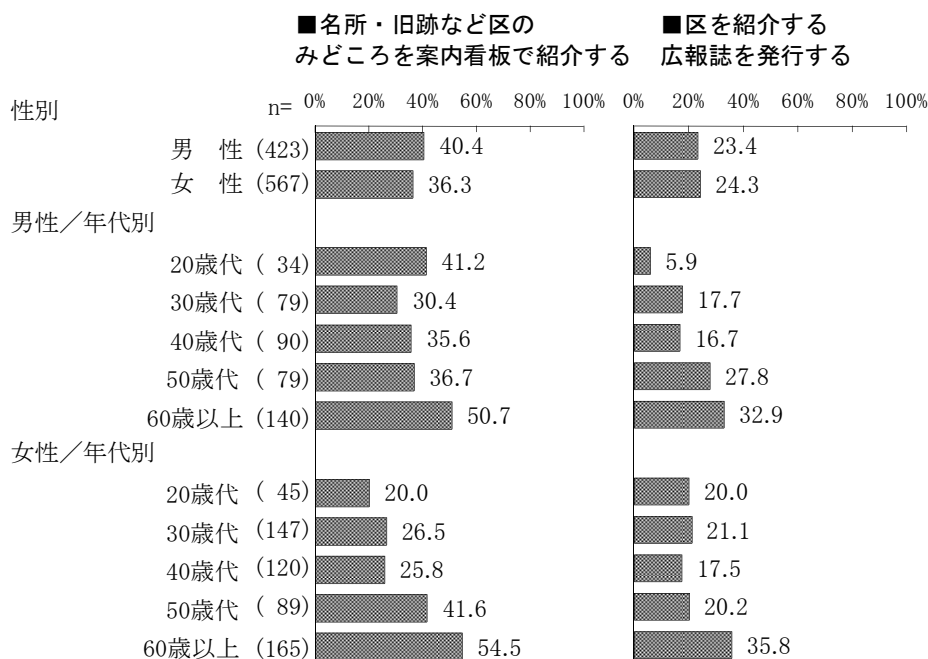
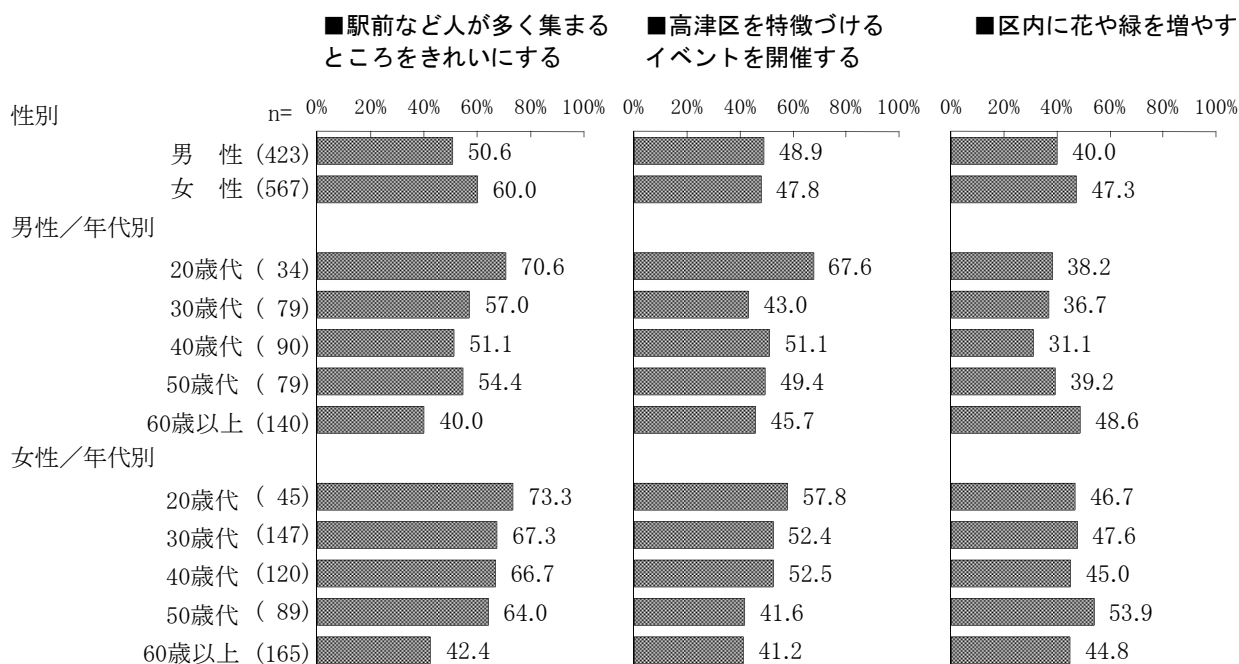


\* 2009年度では「区を紹介するグラフ誌を発行する」として聴取している

区のイメージアップについては、「駅前など人が多く集まる場所をきれいにする」が55.7%と最も高く、次いで、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(48.3%)、「区内に花や緑を増やす」(44.1%)、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」(37.9%)、「区を紹介する広報誌を発行する」(24.1%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」が3.3ポイント増加で3位から2位へと順位が上がっている。また、「駅前など人が多く集まる場所をきれいにする」が3.8ポイント減少、「区を紹介する広報誌を発行する」が8.5ポイント増加している。

図 16-2 性別／性年代別



性別では、「駅前など人が多く集まる所をきれいにする」で『女性』の方が『男性』よりも9.4ポイント高く、同様に「区内に花や緑を増やす」で『女性』の方が『男性』よりも7.3ポイント高くなっている。また、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」で『男性』の方が『女性』よりも4.1ポイント高くなっている。

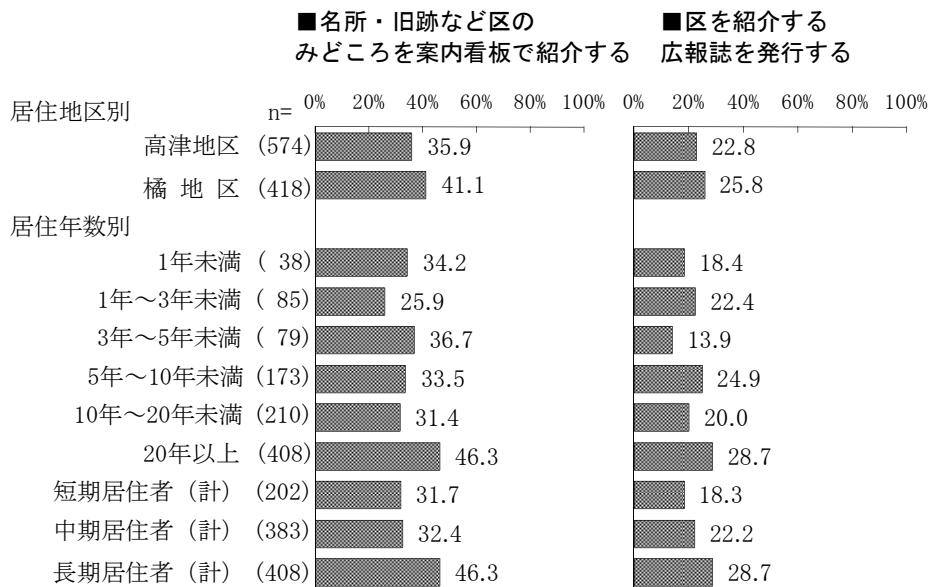
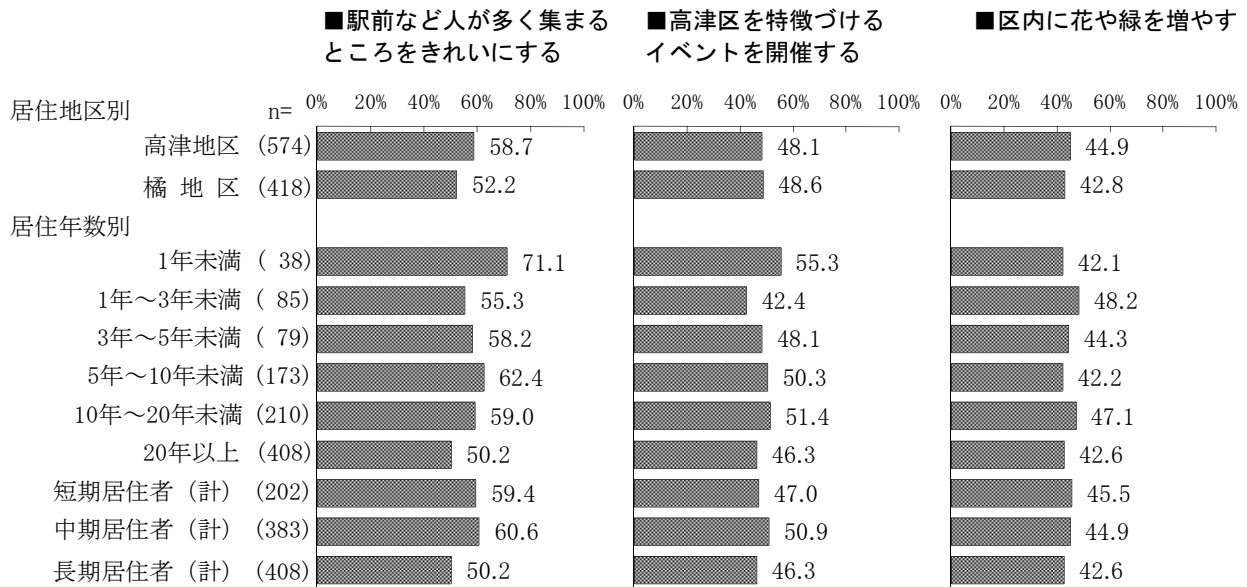
性・年代別では、「駅前など人が多く集まる所をきれいにする」で男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男女の『20歳代』が7割を超えて他の年代よりも高くなっている。

「高津区を特徴づけるイベントを開催する」では、男性『20歳代』が67.6%と他の年代よりも高く、女性は年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「区内に花や緑を増やす」では、女性『50歳代』が5割を超えている。

「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」では、女性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男女ともに『60歳以上』が5割を超えている。

図 16-3 居住地区別／居住年数別



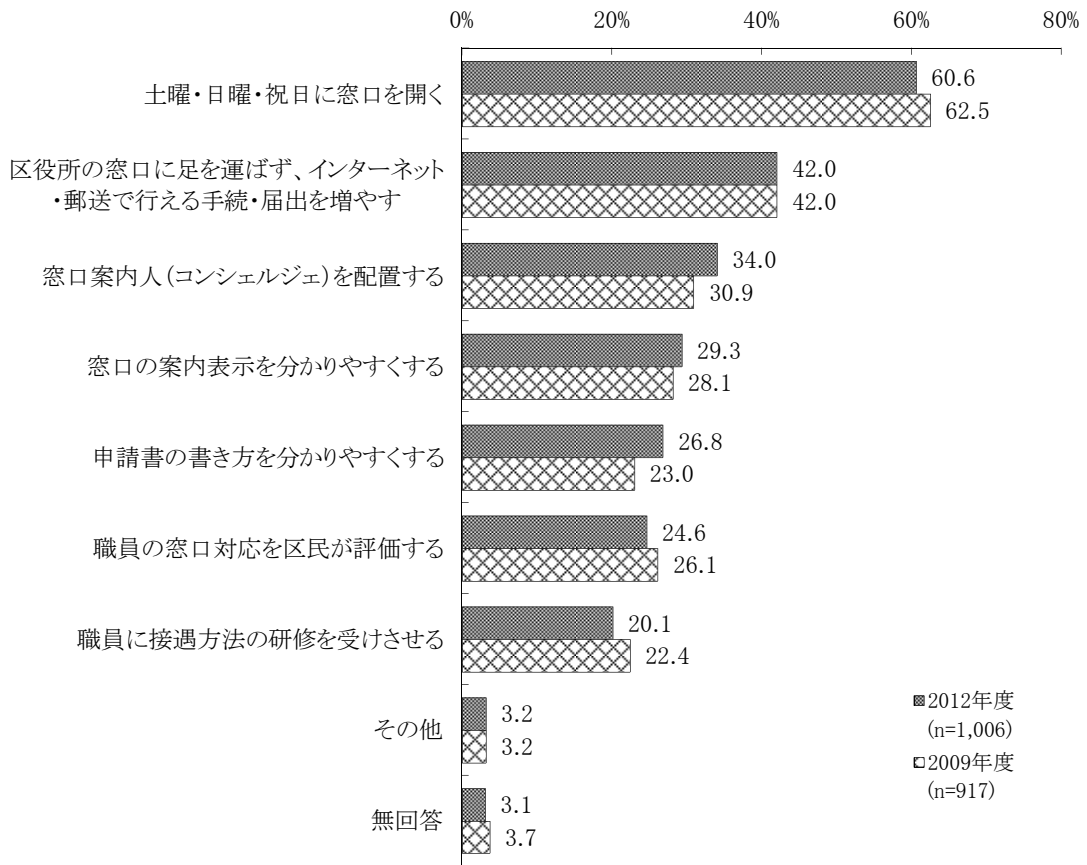
居住地区別では、「駅前など人が多く集まる場所をきれいにする」で『高津地区』の方が『橋地区』よりも6.5ポイント高くなっている。また、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」で『橋地区』の方が『高津地区』よりも5.2ポイント高く、同様に「区を紹介する広報誌を発行する」では『橋地区』の方が『高津地区』よりも3ポイント高くなっている。

居住年数別では、「駅前など人が多く集まる場所をきれいにする」と「高津区を特徴づけるイベントを開催する」で『1年未満』が他の居住年数よりも高くなっている。また、「区内に花や緑を増やす」で居住年数が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、反対に、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」と「区を紹介する広報誌を発行する」では居住年数が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

(17) 区役所の窓口サービス向上

問17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

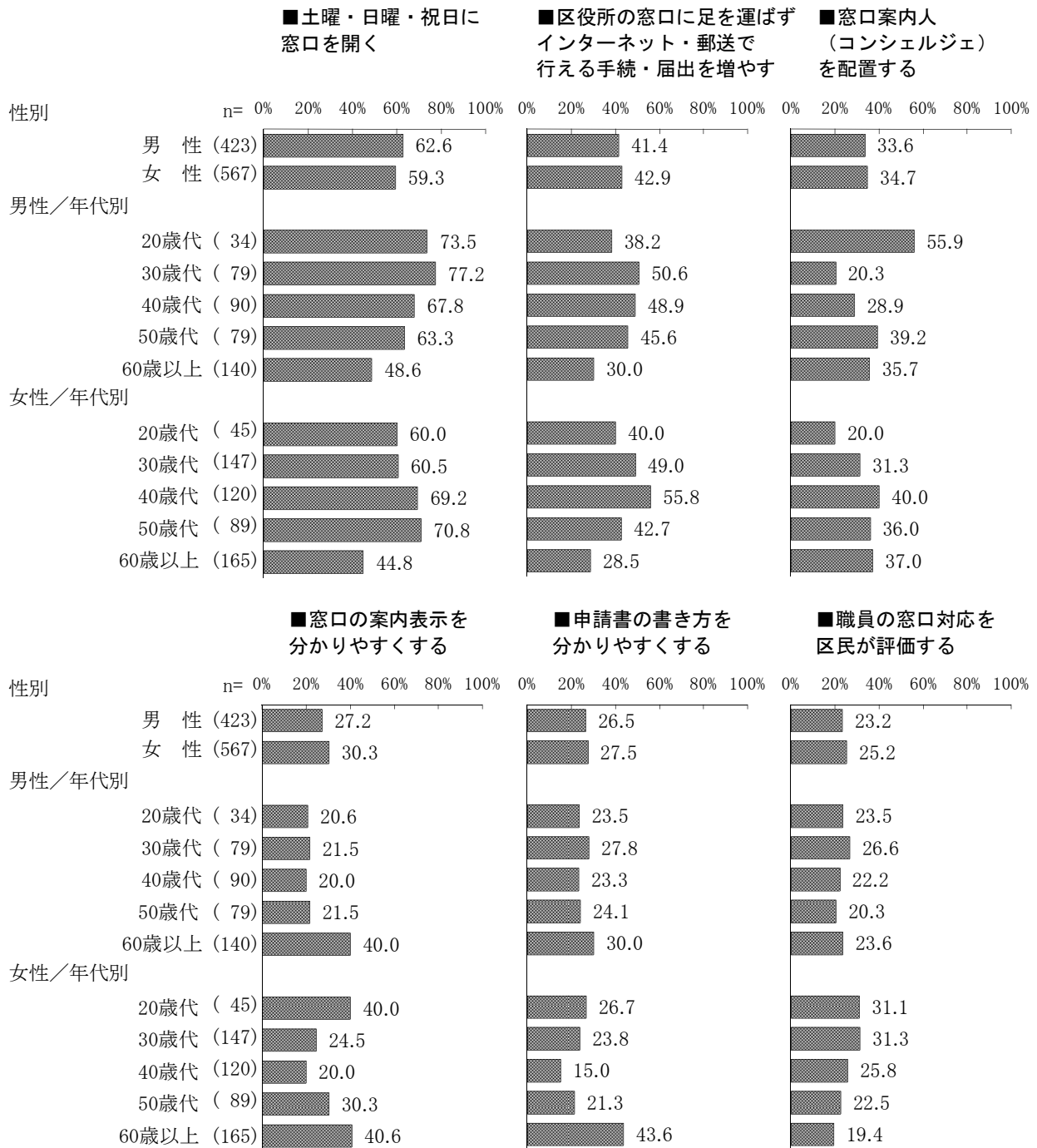
図 17-1



区役所の窓口サービス向上については、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」が60.6%と最も高くなっている。次いで、「区役所の窓口に通わず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」(42.0%)、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」(34.0%)、「窓口の案内表示を分かりやすくする」(29.3%)、「申請書の書き方を分かりやすくする」(26.8%)、「職員の窓口対応を区民が評価する」(24.6%)、「職員に接客方法の研修を受けさせる」(20.1%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」が3.1ポイント増加しており、また、「申請書の書き方を分かりやすくする」が3.8ポイント増で6位から5位へと順位が上がっている。

図 17-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」で『男性』の方が『女性』よりも3.3ポイント高く、「窓口の案内表示を分かりやすくする」で『女性』の方が『男性』よりも3.1ポイント高くなっている。性・年代別では、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」で男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男性の『20歳代』と『30歳代』は7割を超えている。

「区役所の窓口で足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」では、男性『30歳代』と女性『40歳代』が5割を超えている。

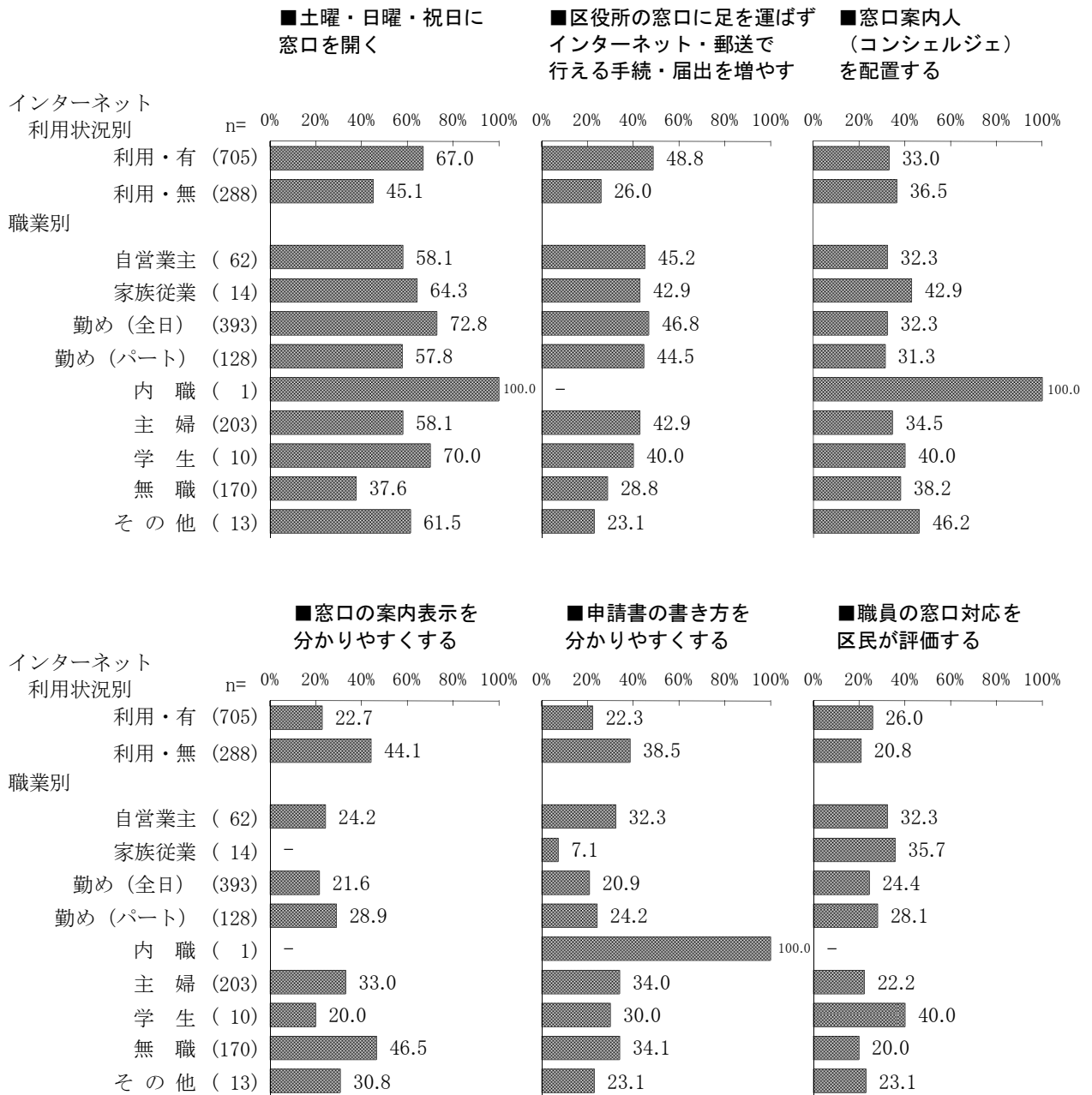
「窓口案内人（コンシェルジュ）を配置する」では、男性『20歳代』が55.9%と他の年代よりも高くなっている。

「窓口の案内表示を分かりやすくする」では、男性『60歳以上』、女性『20歳代』、女性『60歳以上』が4割を超えて他の年代よりも高くなっている。

「申請書の書き方を分かりやすくする」では、女性『60歳以上』が4割を超えて他の年代よりも高くなっている。

「職員の窓口対応を区民が評価する」では、女性は年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 17-3 インターネット利用状況別／職業別（上位6項目）



インターネット利用状況別では、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」と「区役所の窓口で足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」で『利用・有』の方が『利用・無』よりも21ポイント以上高くなっている。また、「窓口の案内表示を分かりやすくする」では、『利用・無』の方が『利用・有』よりも21.4ポイント高く、同様に「申請書の書き方を分かりやすくする」では、『利用・無』の方が『利用・有』よりも16.2ポイント高くなっている。

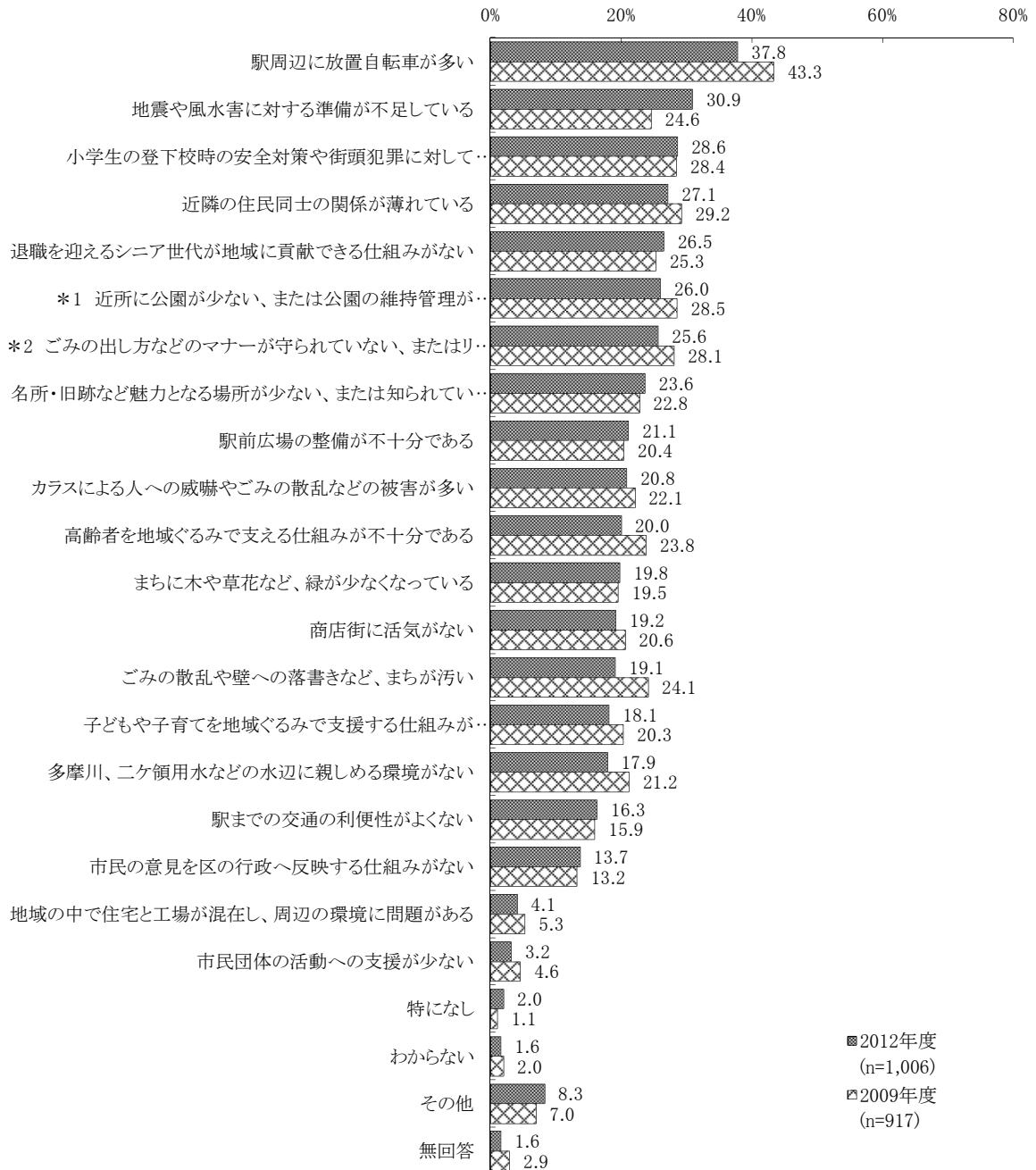
職業別では、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」で『勤め（全日）』が7割を超えており、「窓口の案内表示を分かりやすくする」では『無職』が46.5%と他の職業よりも高くなっている。



(18) まちの課題・問題点

問18 あなたのまちの課題・問題点と思うものは何ですか。(いくつでも○)

図 18-1



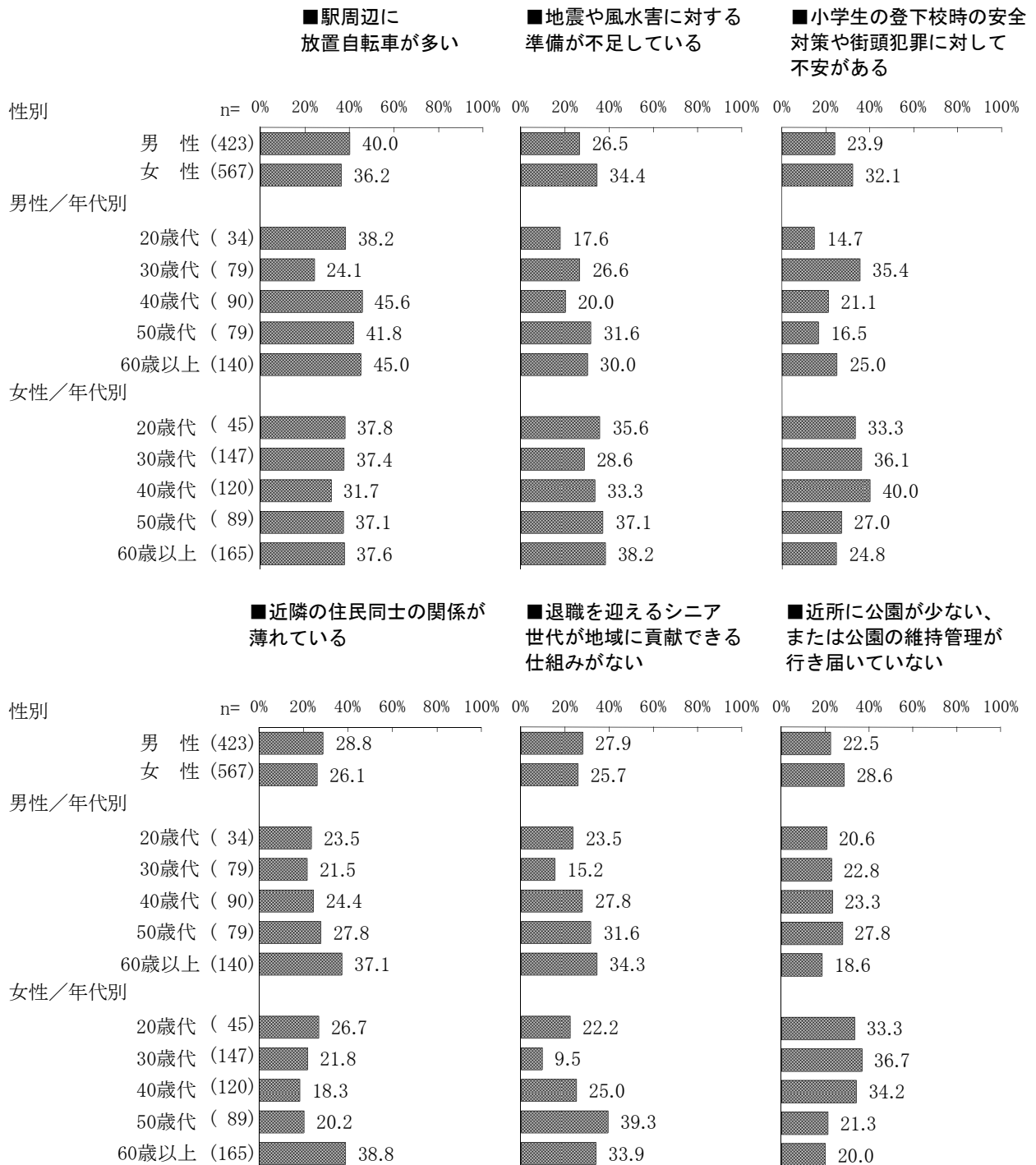
\*1 2009年度では「近所に公園が少ない。または、公園の維持管理が行き届いていない」として聴取している

\*2 2009年度では「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心が少ない」として聴取している

まちの課題・問題点については、「駅周辺に放置自転車がが多い」が37.8%と最も高く、次いで、「地震や風水害に対する準備が不足している」(30.9%)、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」(28.6%)、「近隣の住民同士の関係が薄れている」(27.1%)、「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」(26.5%)、「近所に公園が少ない、または公園の維持管理が行き届いていない」(26.0%)と続いている。

2009年度と比較すると、「駅周辺に放置自転車がが多い」は順位に動きはないものの5.5ポイント減少している。また、「地震や風水害に対する準備が不足している」が6.3ポイント増加で7位から2位へと順位が上がっている。

図 18-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「駅周辺に放置自転車がが多い」で『男性』の方が『女性』よりも3.8ポイント高くなっている。また、「地震や風水害に対する準備が不足している」と「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」で『女性』の方が『男性』よりも8ポイント前後高く、同様に「近所に公園が少ない、または公園の維持管理が行き届いていない」で『女性』の方が『男性』よりも6.1ポイント高くなっている。

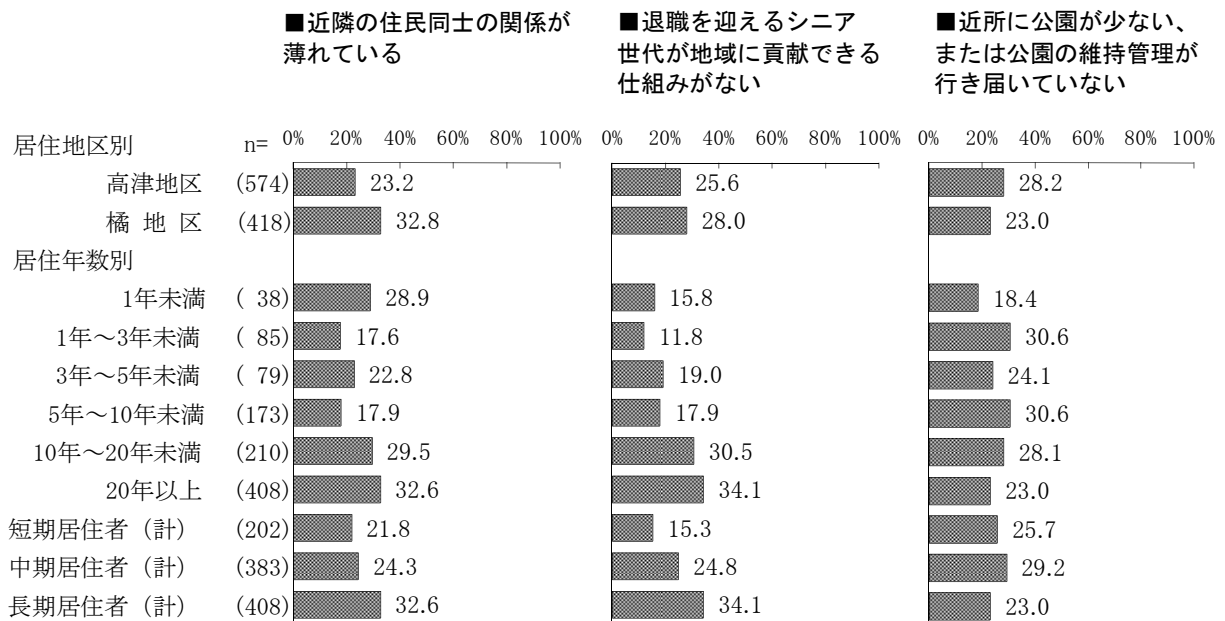
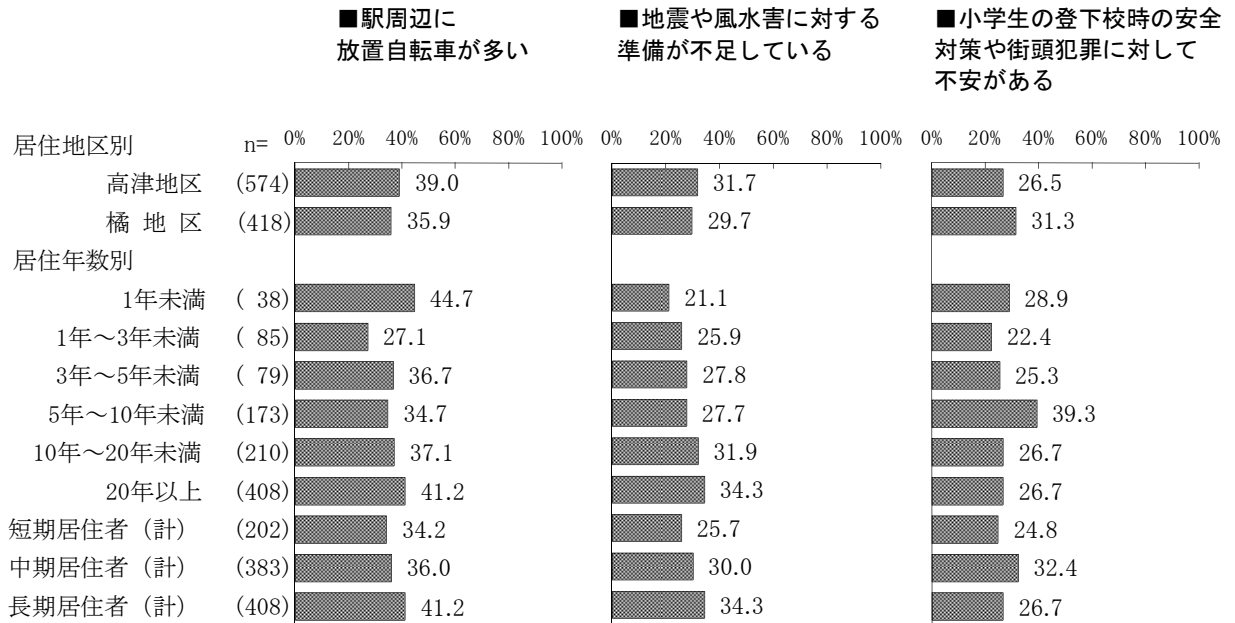
性・年代別では、「駅周辺に放置自転車がが多い」で男性の『40歳代』『50歳代』『60歳以上』が4割を超えている。

「地震や風水害に対する準備が不足している」では、男女ともに『50歳代』と『60歳以上』が他の年代に比べて高くなっている。

「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」では、男性は『30歳代』、女性は『20歳代』『30歳代』『40歳代』が他の年代よりも高くなっている。

「近隣の住民同士の関係が薄れている」では、男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男女ともに『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

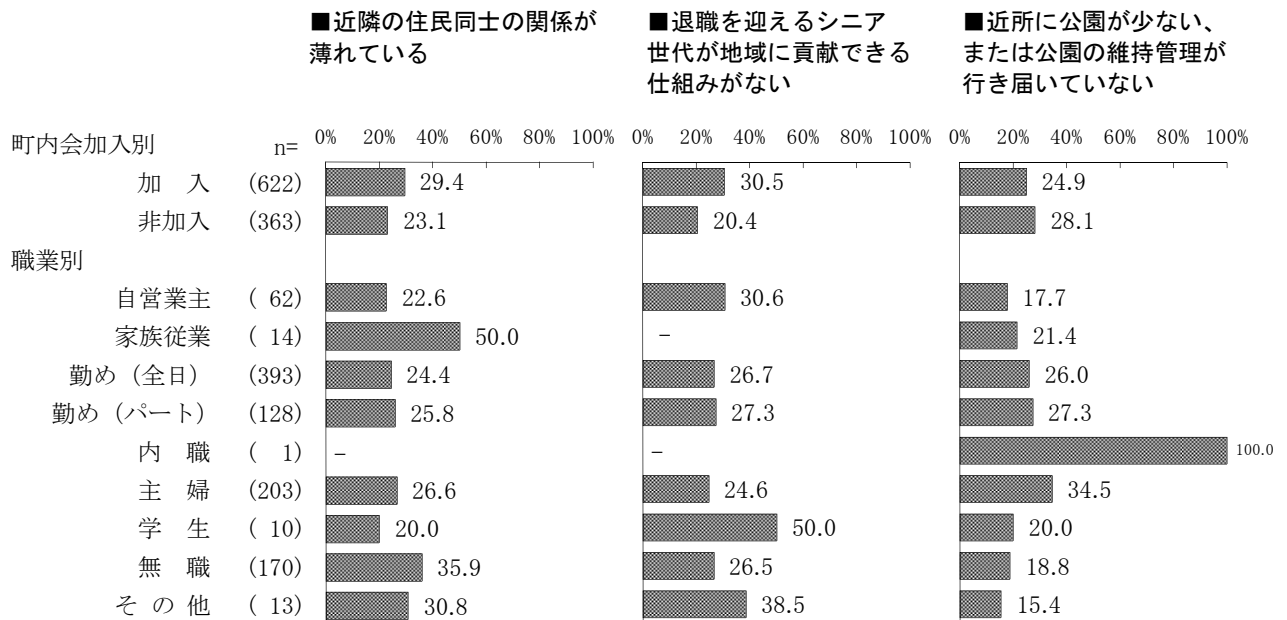
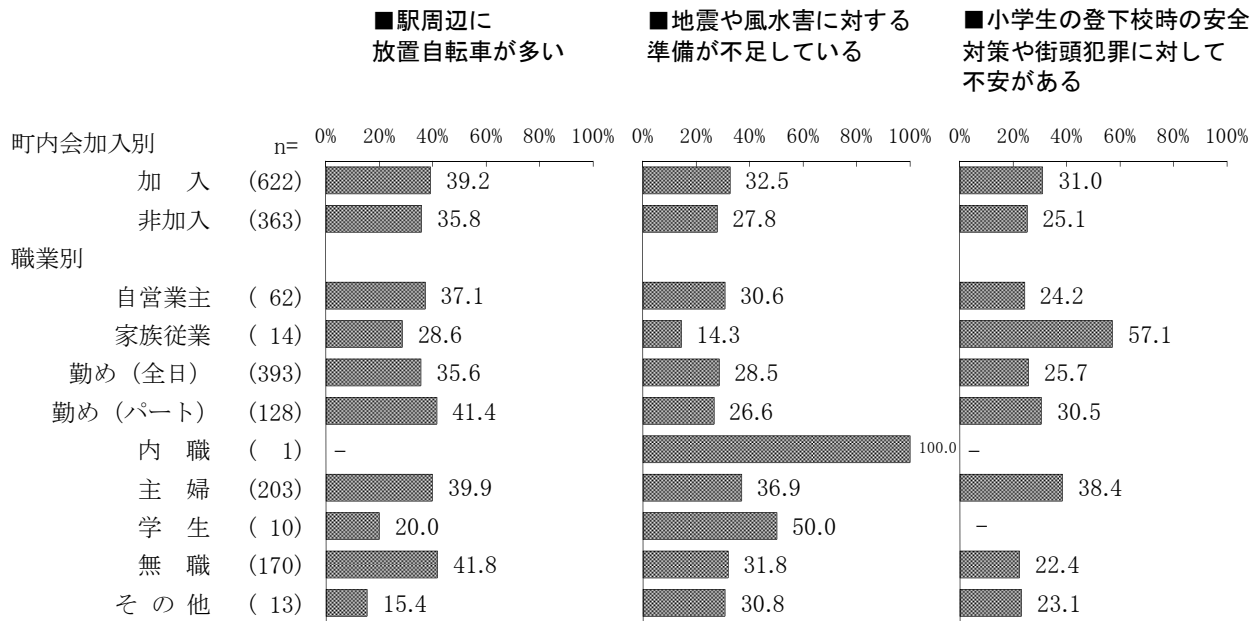
図 18-3 居住地区別／居住年数別（上位6項目）



居住地区別では、「駅周辺に放置自転車がが多い」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも3.1ポイント高く、同様に「近所に公園が少ない、または公園の維持管理が行き届いていない」では『高津地区』の方が『橘地区』よりも5.2ポイント高くなっている。また、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」で『橘地区』の方が『高津地区』よりも4.8ポイント高く、同様に「近隣の住民同士の関係が薄れている」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも9.6ポイント高くなっている。

居住年数別では、「駅周辺に放置自転車がが多い」「地震や風水害に対する準備が不足している」「近隣の住民同士の関係が薄れている」「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」で居住年数が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

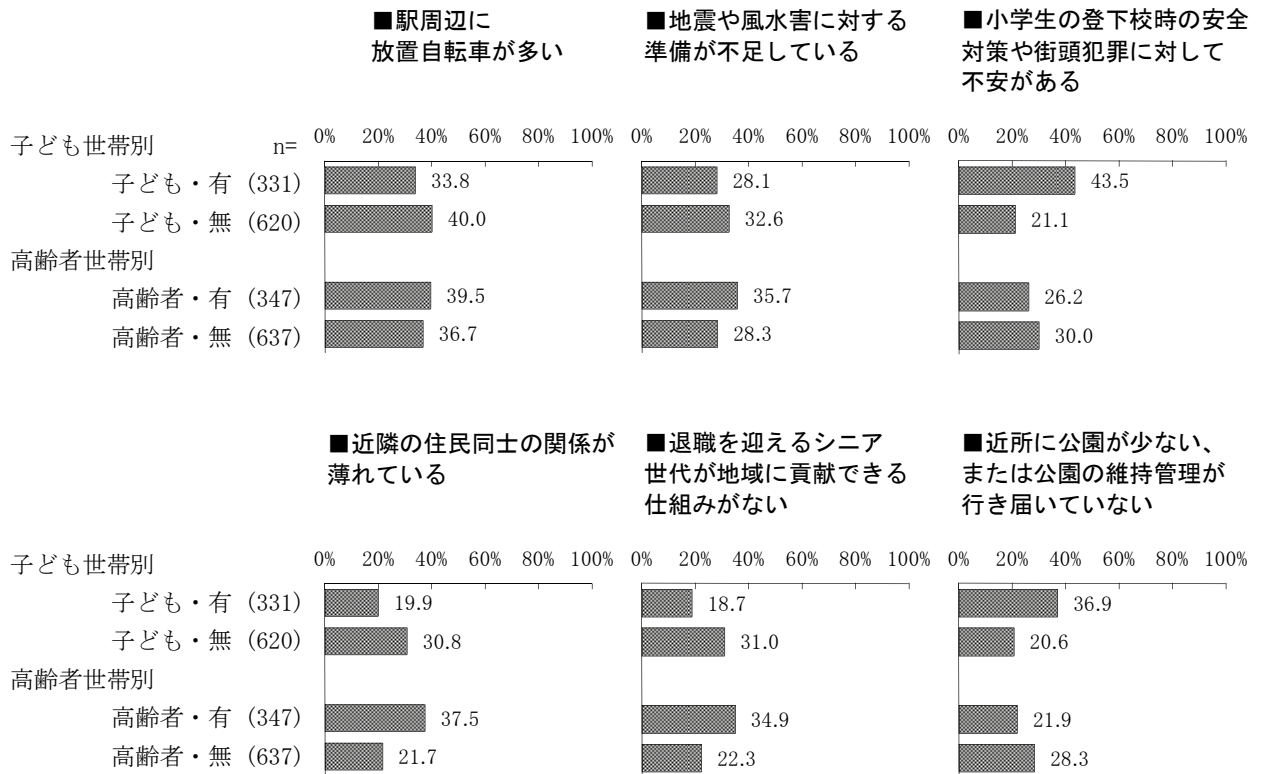
図 18-4 町内会加入別／職業別（上位6項目）



町内会加入別では、「駅周辺に放置自転車がが多い」で『加入』の方が『非加入』よりも3.4ポイント高く、同様に「地震や風水害に対する準備が不足している」では4.7ポイント、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」では5.9ポイント、「近隣の住民同士の関係が薄れている」では6.3ポイント、「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」では10.1ポイント、『加入』の方が『非加入』よりも高くなっている。

職業別では、「駅周辺に放置自転車がが多い」で『勤め(パート)』と『無職』が4割を超えている。また、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」と「近所に公園が少ない、または公園の維持管理が行き届いていない」で『主婦』が他の職業に比べて高くなっている。

図 18-5 子ども世帯別／高齢者世帯別（上位6項目）

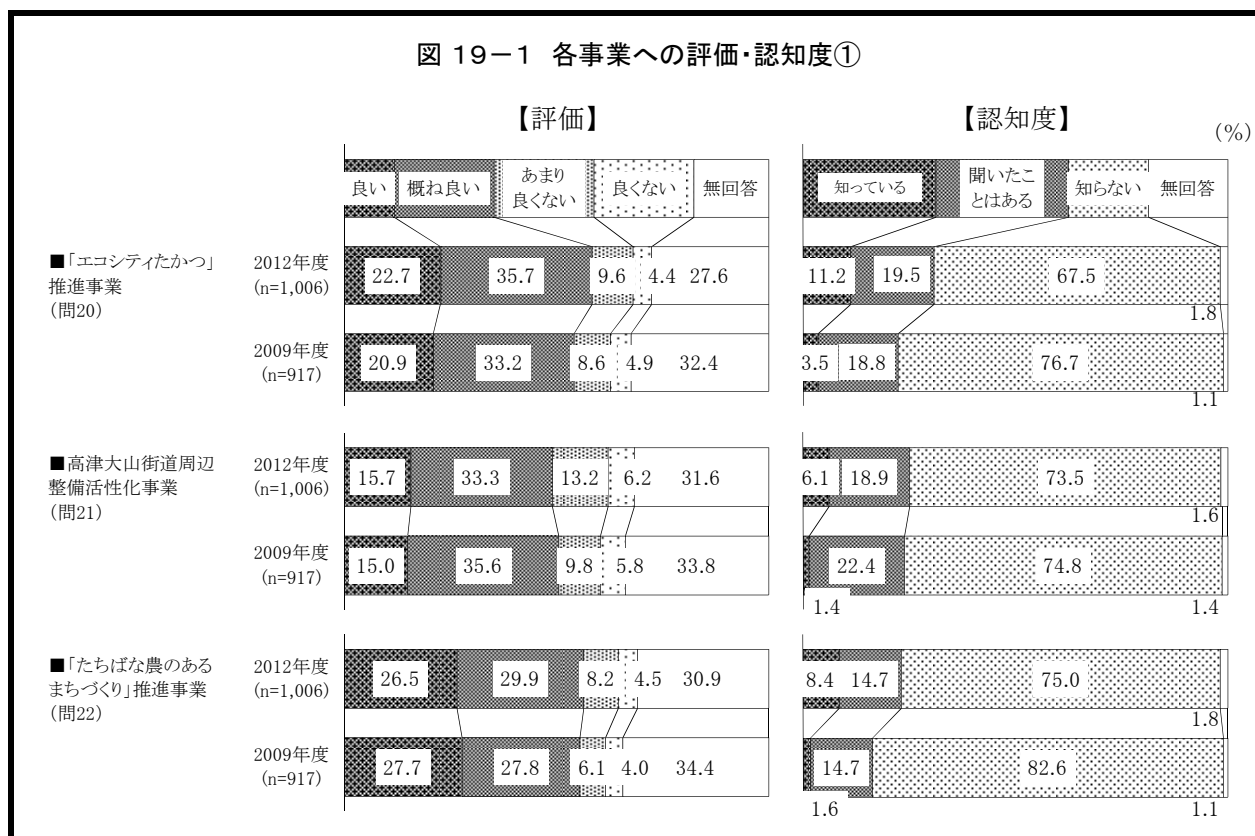


子ども世帯別では、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも22.4ポイント高く、同様に「近所に公園が少ない、または公園の維持管理が行き届いていない」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも16.3ポイント高くなっている。また、「近隣の住民同士の関係が薄れている」で『子ども・無』の方が『子ども・有』よりも10.9ポイント高くなっている。

高齢者世帯別では、「地震や風水害に対する準備が不足している」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも7.4ポイント高く、同様に「近隣の住民同士の関係が薄れている」で15.8ポイント、「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」で12.6ポイント、『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

## 2. 区の事業について

### (1) 各事業への評価・認知度①



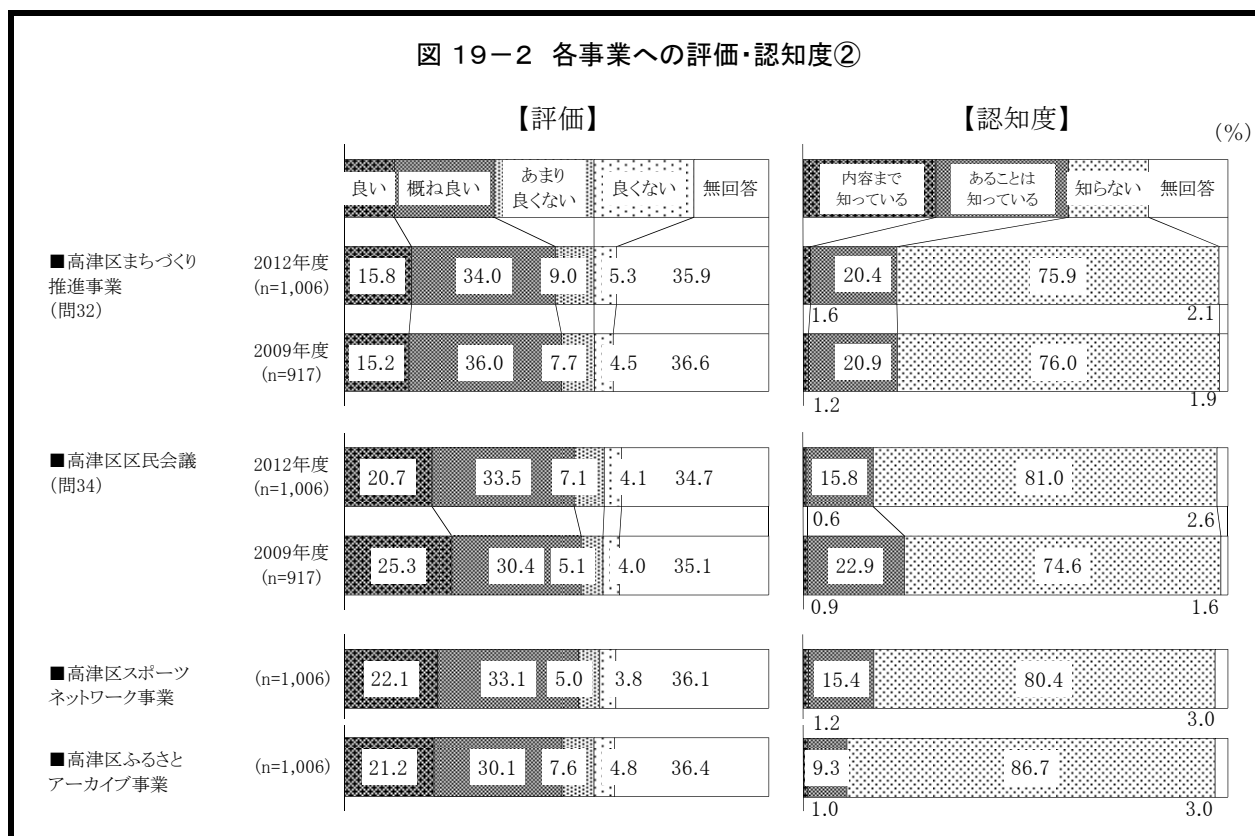
事業別の評価・認知度の「認知度」をみると、「知っている」では、「『エコシティたかつ』推進事業」が11.2%、「高津大山街道周辺整備活性化事業」が6.1%、「『たちばな農のあるまちづくり』推進事業」が8.4%となっている。

2009年度と比較すると、「『エコシティたかつ』推進事業」を「知っている」割合が7.7ポイント増加、「高津大山街道周辺整備活性化事業」を「知っている」割合が4.7ポイント増加、「『たちばな農のあるまちづくり』推進事業」を「知っている」割合が6.8ポイント増加している。

事業別の評価・認知度の「評価」をみると、「良い」では、「『エコシティたかつ』推進事業」が22.7%、「高津大山街道周辺整備活性化事業」が15.7%、「『たちばな農のあるまちづくり』推進事業」が26.5%となっている。

2009年度と比較すると、「高津大山街道周辺整備活性化事業」で「あまり良くない」が3.4ポイント増加している。

(1) 各事業への評価・認知度②



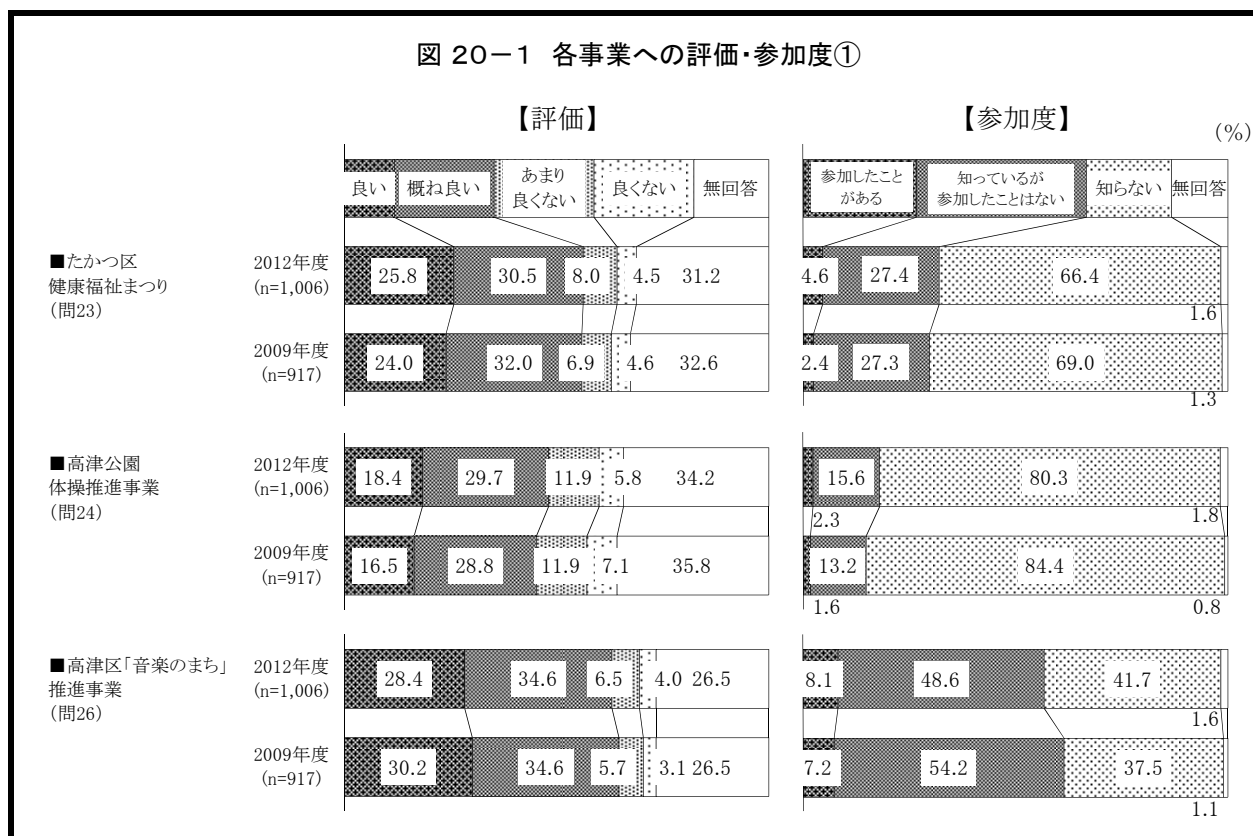
事業別の評価・認知度の「認知度」をみると、「内容まで知っている」と「あることは知っている」を合わせた「知っている（計）」では、「高津区まちづくり推進事業」が22.0%、「高津区区民会議」が16.4%、「高津区スポーツネットワーク事業」が16.6%、「高津区ふるさとアーカイブ事業」が10.3%となっている。

2009年度と比較すると、「高津区区民会議」を「あることは知っている」割合が7.1ポイント減少している。

事業別の評価・認知度の「評価」をみると、「良い」では、「高津区まちづくり推進事業」が15.8%、「高津区区民会議」が20.7%、「高津区スポーツネットワーク事業」が22.1%、「高津区ふるさとアーカイブ事業」が21.2%となっている。

2009年度と比較すると、「高津区区民会議」で「良い」が4.6ポイント減少、「概ね良い」が3.1ポイント増加している。

(2) 各事業への評価・参加度①



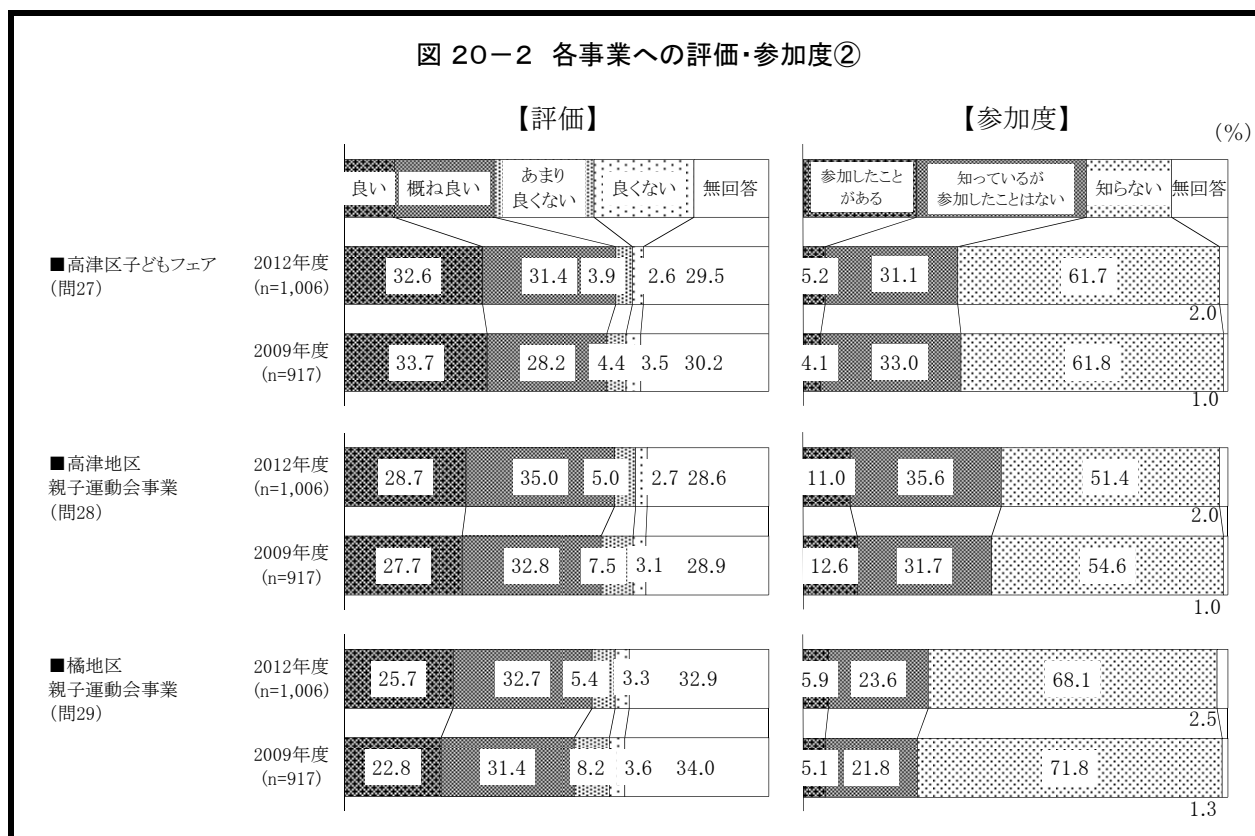
事業別の評価・参加度の「参加度」をみると、「参加したことがある」では、「たかつ区健康福祉まつり」が4.6%、「高津公園体操推進事業」が2.3%、「高津区『音楽のまち』推進事業」が8.1%となっている。

2009年度と比較すると、「高津公園体操推進事業」を「知らない」割合が4.1ポイント減少、「高津区『音楽のまち』推進事業」を「知っているが参加したことはない」割合が5.6ポイント減少、「知らない」割合が4.2ポイント増加している。

事業別の評価・参加度の「評価」をみると、「良い」では、「たかつ区健康福祉まつり」が25.8%、「高津公園体操推進事業」が18.4%、「高津区『音楽のまち』推進事業」が28.4%となっている。



(2) 各事業への評価・参加度②



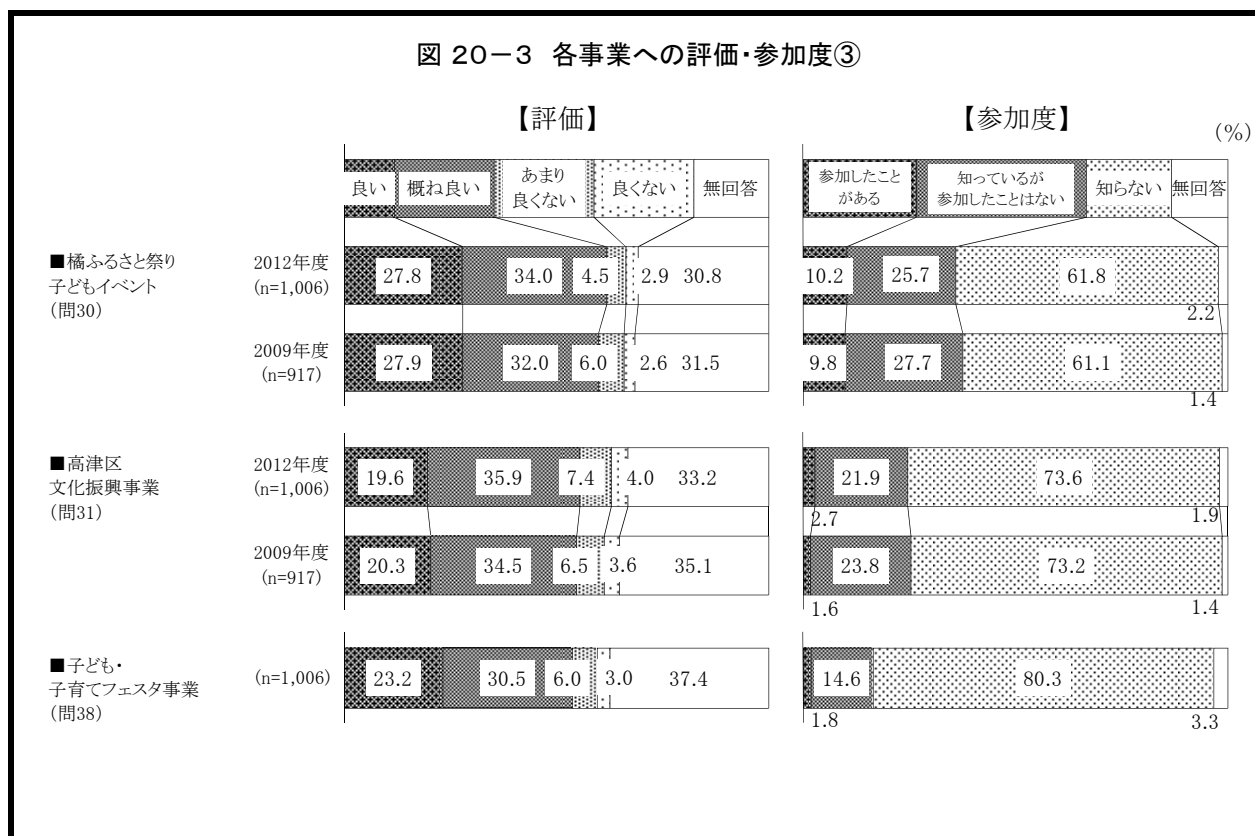
事業別の評価・参加度の「参加度」をみると、「参加したことがある」では、「高津区子どもフェア」が5.2%、「高津地区親子運動会事業」が11.0%、「橘地区親子運動会事業」が5.9%となっている。

2009年度と比較すると、「高津地区親子運動会事業」を「知っているが参加したことはない」割合が3.9ポイント増加、「知らない」割合が3.2ポイント減少、「橘地区親子運動会事業」を「知らない」割合が3.7ポイント減少している。

事業別の評価・参加度の「評価」をみると、「良い」では、「高津区子どもフェア」が32.6%、「高津地区親子運動会事業」が28.7%、「橘地区親子運動会事業」が25.7%となっている。

2009年度と比較すると、「高津区子どもフェア」で「概ね良い」が3.2ポイント増加している。

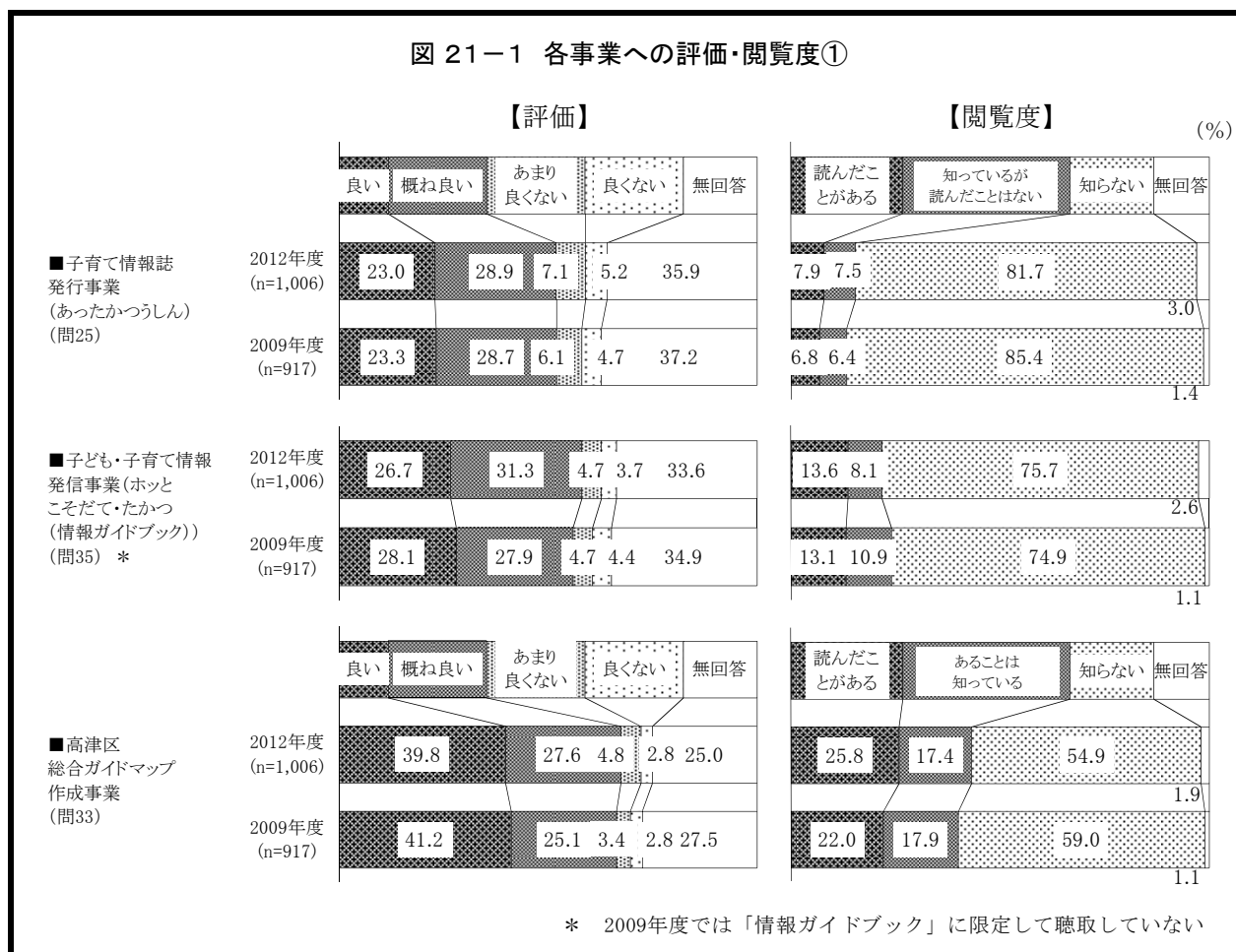
(2) 各事業への評価・参加度③



事業別の評価・参加度の「参加度」をみると、「参加したことがある」では、「橘ふるさと祭り 子どもイベント」が10.2%、「高津区文化振興事業」が2.7%、「子ども・子育てフェスタ事業」が1.8%となっている。

事業別の評価・参加度の「評価」をみると、「良い」では、「橘ふるさと祭り 子どもイベント」が27.8%、「高津区文化振興事業」が19.6%、「子ども・子育てフェスタ事業」が23.2%となっている。

### (3) 各事業への評価・閲覧度①



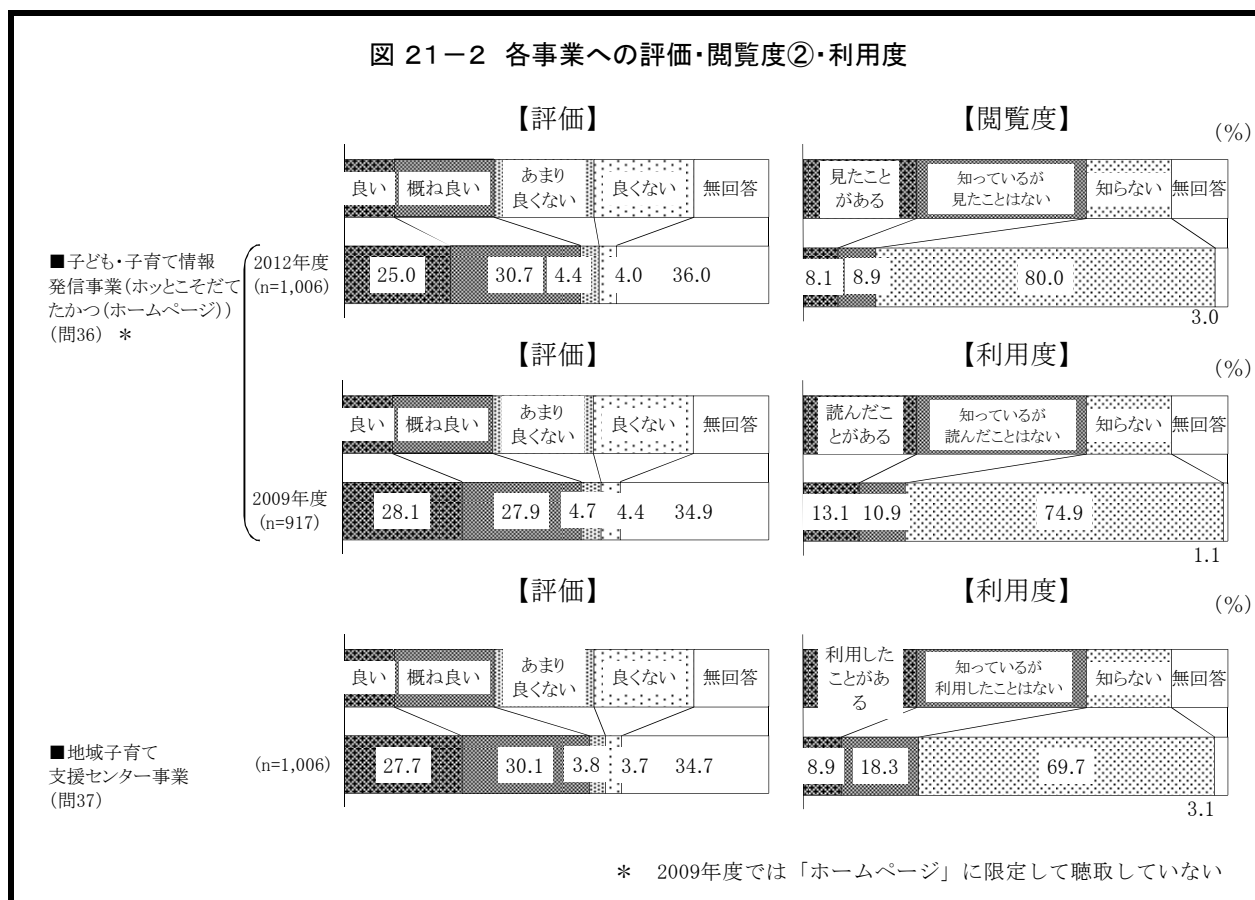
事業別の評価・閲覧度の「閲覧度」をみると、「読んだことがある」では、「子育て情報誌発行事業 (あったかつうしん)」が7.9%、「子ども・子育て情報発信事業 (ホットこそだて・たかつ (情報ガイドブック))」が13.6%、「高津区総合ガイドマップ作成事業」が25.8%となっている。

2009年度と比較すると、「子育て情報誌発行事業 (あったかつうしん)」を「知っているが読んだことはない」割合が3.7ポイント減少、「高津区総合ガイドマップ作成事業」を「読んだことがある」割合が3.8ポイント増加、「知らない」割合が4.1ポイント減少している。

事業別の評価・閲覧度の「評価」をみると、「良い」では、「子育て情報誌発行事業 (あったかつうしん)」が23.0%、「子ども・子育て情報発信事業 (ホットこそだて・たかつ (情報ガイドブック))」が26.7%、「高津区総合ガイドマップ作成事業」が39.8%となっている。

2009年度と比較すると、「子ども・子育て情報発信事業 (ホットこそだて・たかつ (情報ガイドブック))」で「概ね良い」が3.4ポイント増加している。

### (3) 各事業への評価・閲覧度②・利用度



事業別の評価・閲覧度・利用度の「閲覧度」をみると、「子ども・子育て情報発信事業（ホットこそだて たかつ（ホームページ））」を「見たことがある」割合は8.1%となっている。

事業別の評価・閲覧度・利用度の「利用度」をみると、「地域子育て支援センター事業」を「利用したことがある」割合は8.9%となっている。

事業別の評価・閲覧度・利用度の「評価」をみると、「良い」では、「子ども・子育て情報発信事業（ホットこそだて たかつ（ホームページ））」が25.0%、「地域子育て支援センター事業」が27.7%となっている。

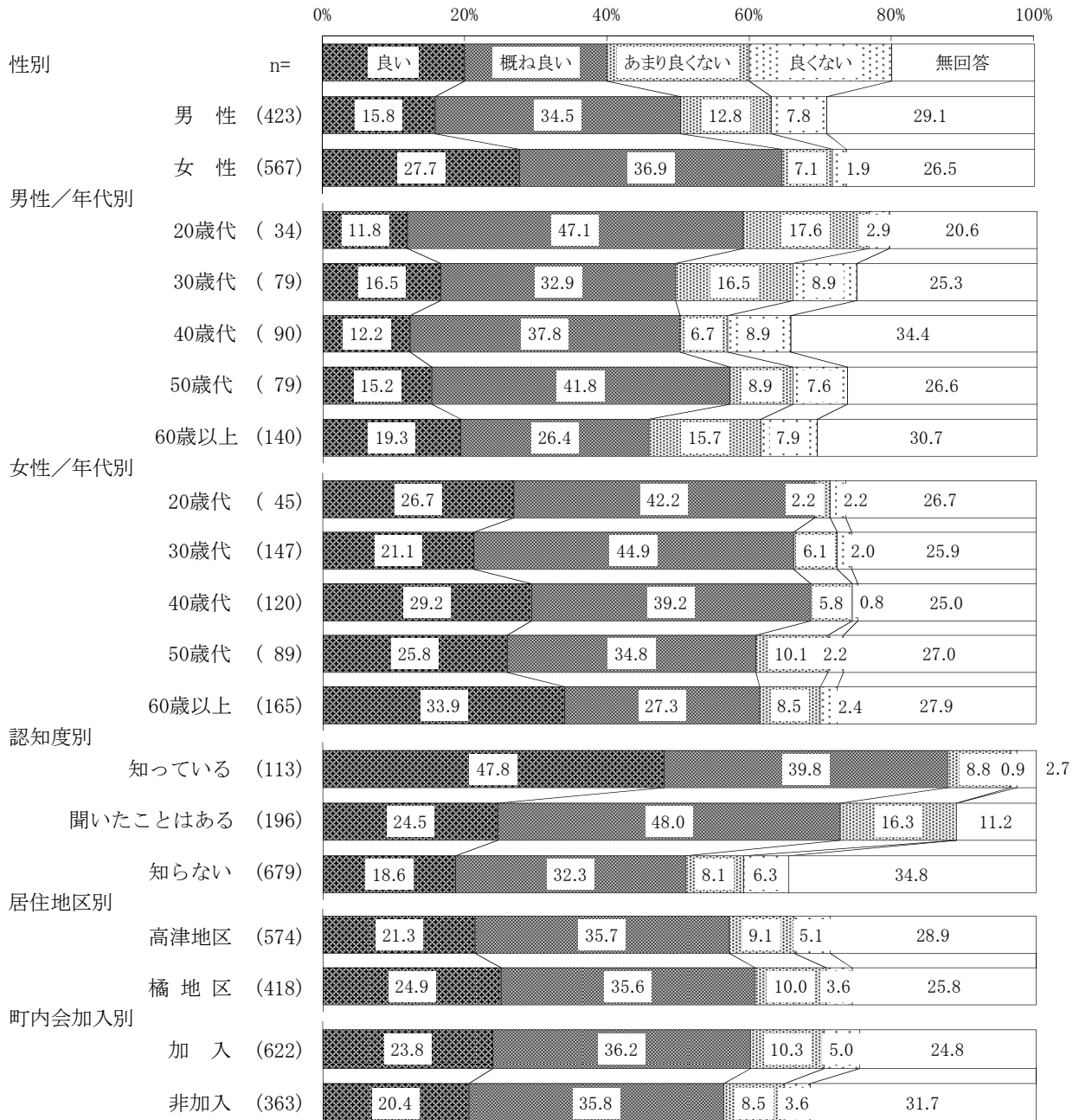
2009年度と比較すると、「子ども・子育て情報発信事業（ホットこそだて たかつ（ホームページ））」で「良い」が3.1ポイント減少している。

(4) 各事業の評価

問20 「エコシティたかつ」推進事業

事業内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化対策などの環境問題に取り組む方針。この方針に沿って、ゴーヤーなどによる高津区「緑のカーテン」大作戦、「たかつエコ・エネライフコンクール」、学校ビオトープの推進など様々なプロジェクトを実施している。

図 23-1 性別／性年代別／認知度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも11.9ポイント高く、女性『60歳以上』が3割を超えている。

認知度別で見ると、『知っている』では「良い」が47.8%、「概ね良い」が39.8%となっている。

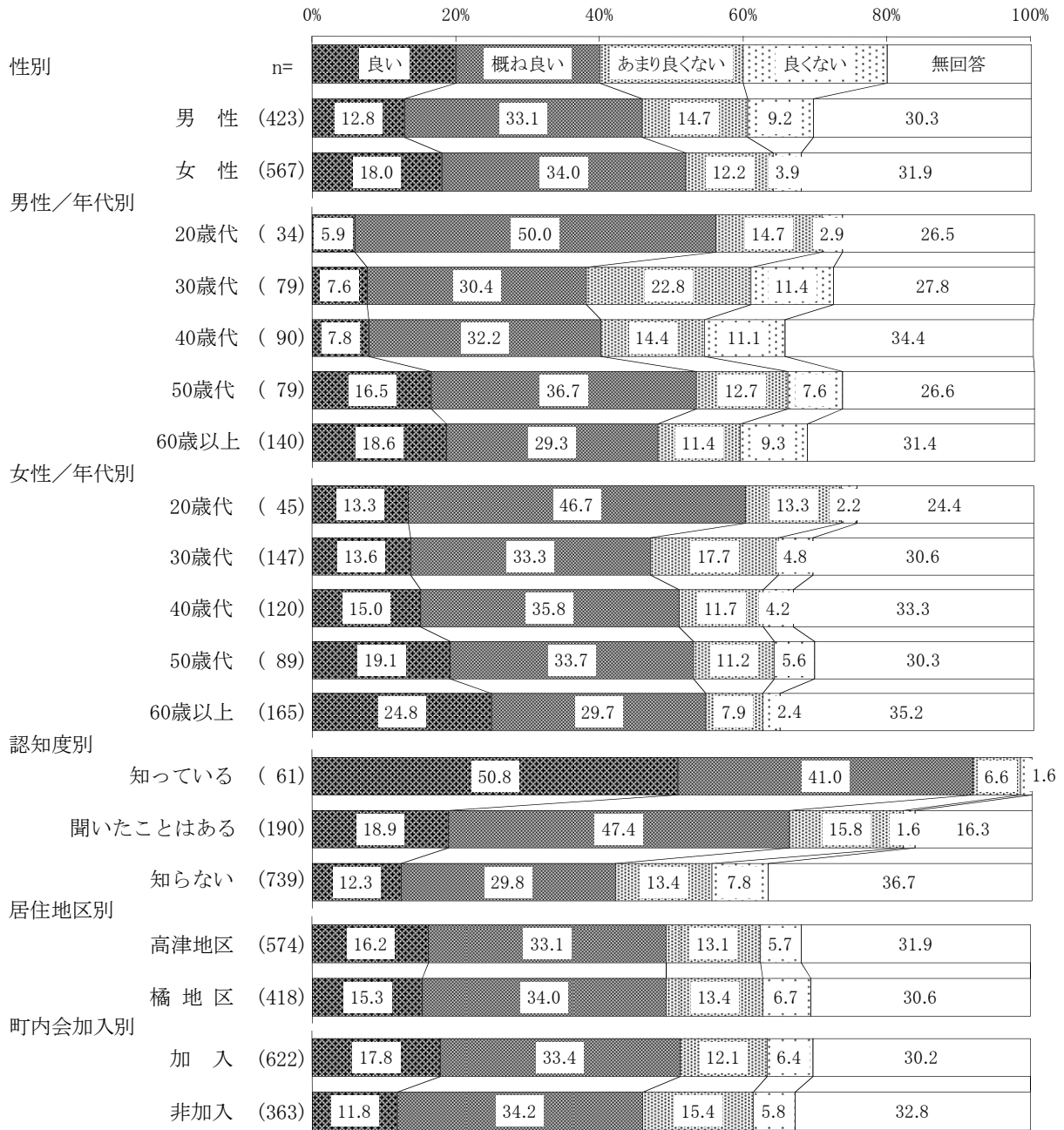
居住地区別で見ると、「良い」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも3.6ポイント高くなっている。

町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも3.4ポイント高くなっている。

問21 高津大山街道周辺整備活性化事業

事業内容： 地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。現在は、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組みを進めるとともに、プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。

図 24-1 性別／性年代別／認知度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも5.2ポイント高く、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

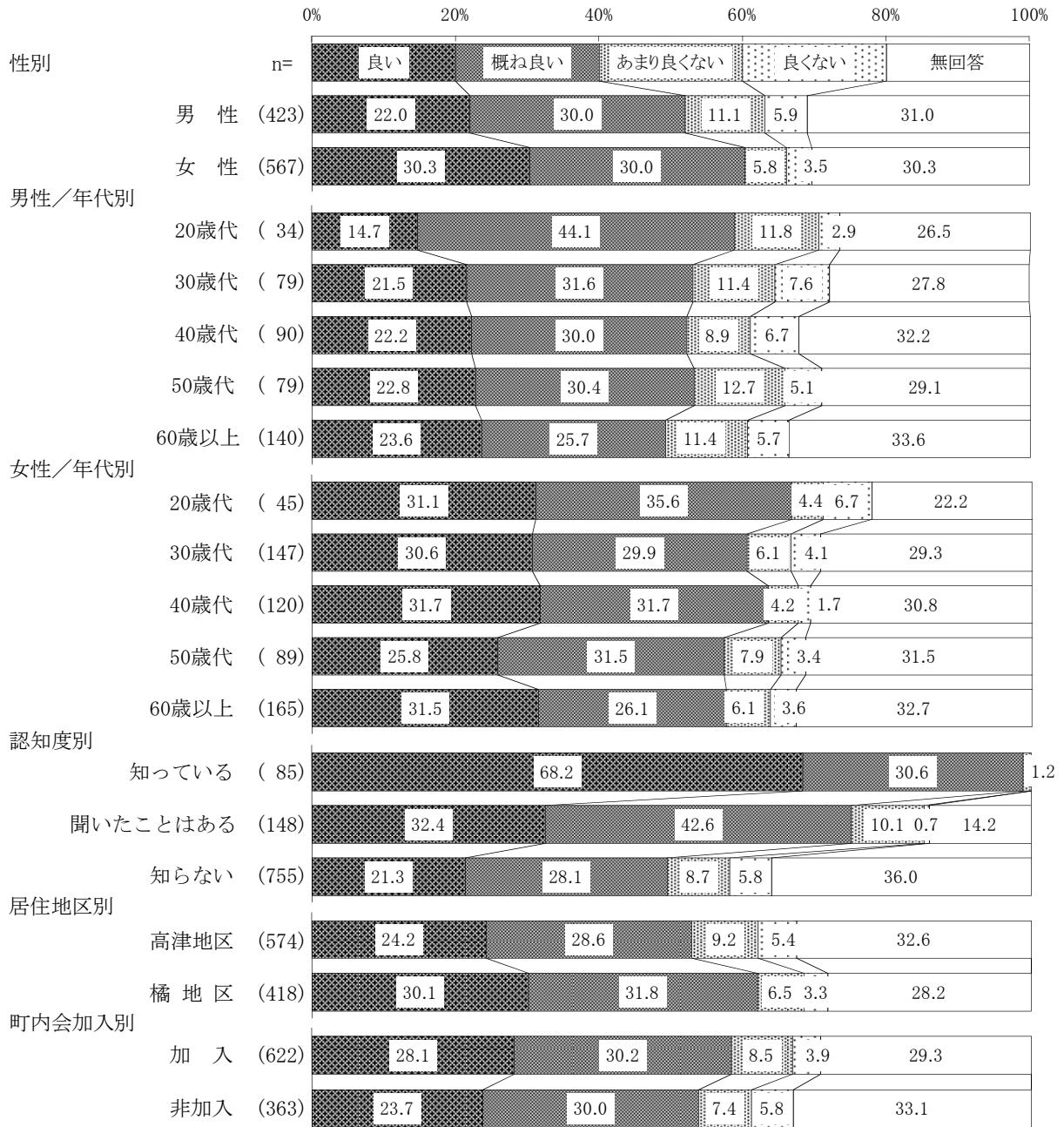
認知度別で見ると、『知っている』では「良い」が50.8%、「概ね良い」が41.0%となっている。

町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも6ポイント高くなっている。

問22 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

事業内容： 橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取り組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取り組みを行っている。

図 25-1 性別／性年代別／認知度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも8.3ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

認知度別で見ると、『知っている』では「良い」が68.2%、「概ね良い」が30.6%となっている。

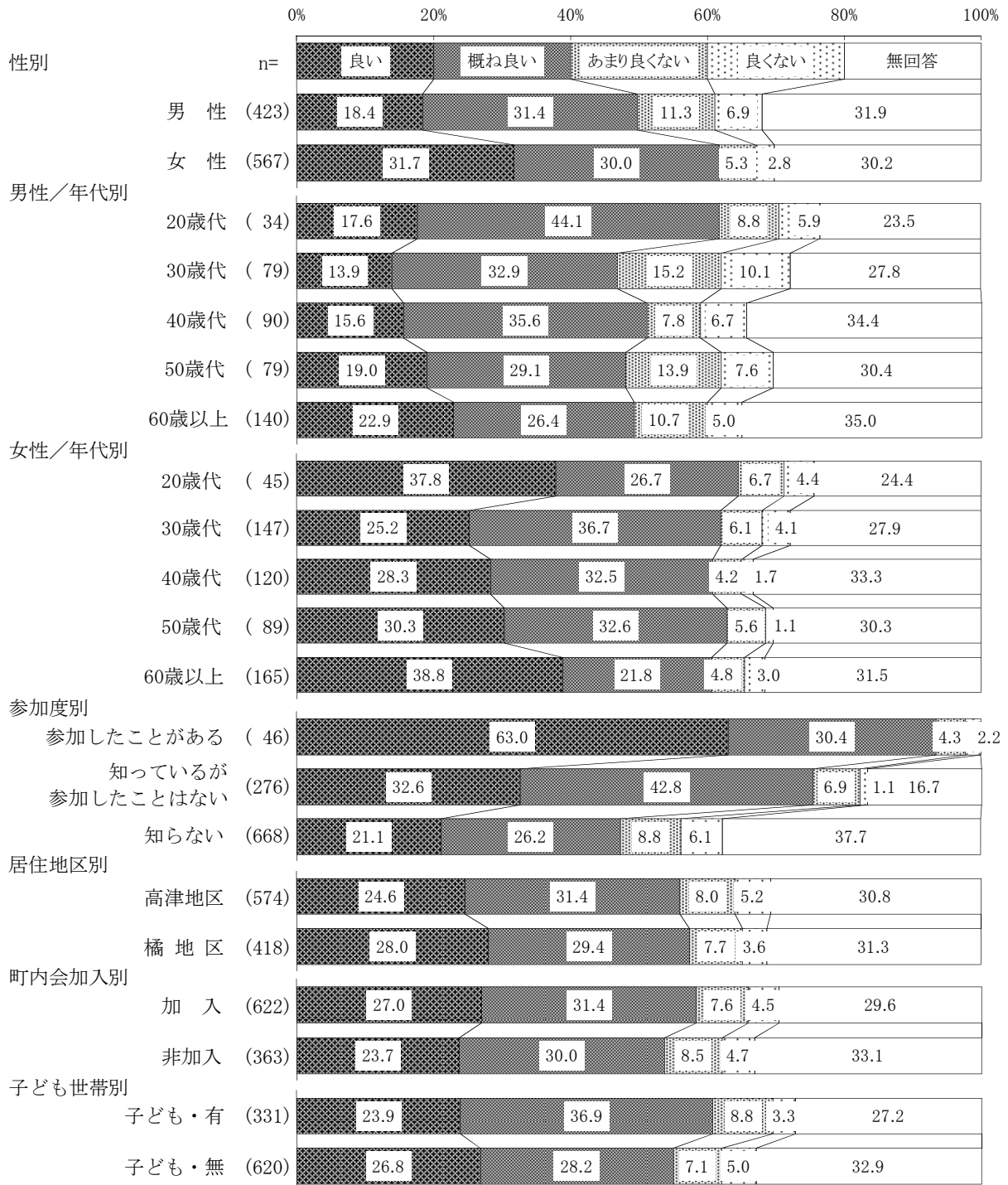
居住地区別で見ると、「良い」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも5.9ポイント高くなっており、同様に「概ね良い」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも3.2ポイント高くなっている。

町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも4.4ポイント高くなっている。

問23 たかつ区健康福祉まつり

事業内容： 区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。

図 26-1 性別／性年代別／参加度別／居住地区別／町内会加入別／子ども世帯別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも13.3ポイント高く、女性の『20歳代』と『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

参加度別でみると、『参加したことがある』では「良い」が63.0%、「概ね良い」が30.4%となっている。

居住地区別ではみると、「良い」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも3.4ポイント高くなっている。

町内会加入別でみると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも3.3ポイント高くなっている。

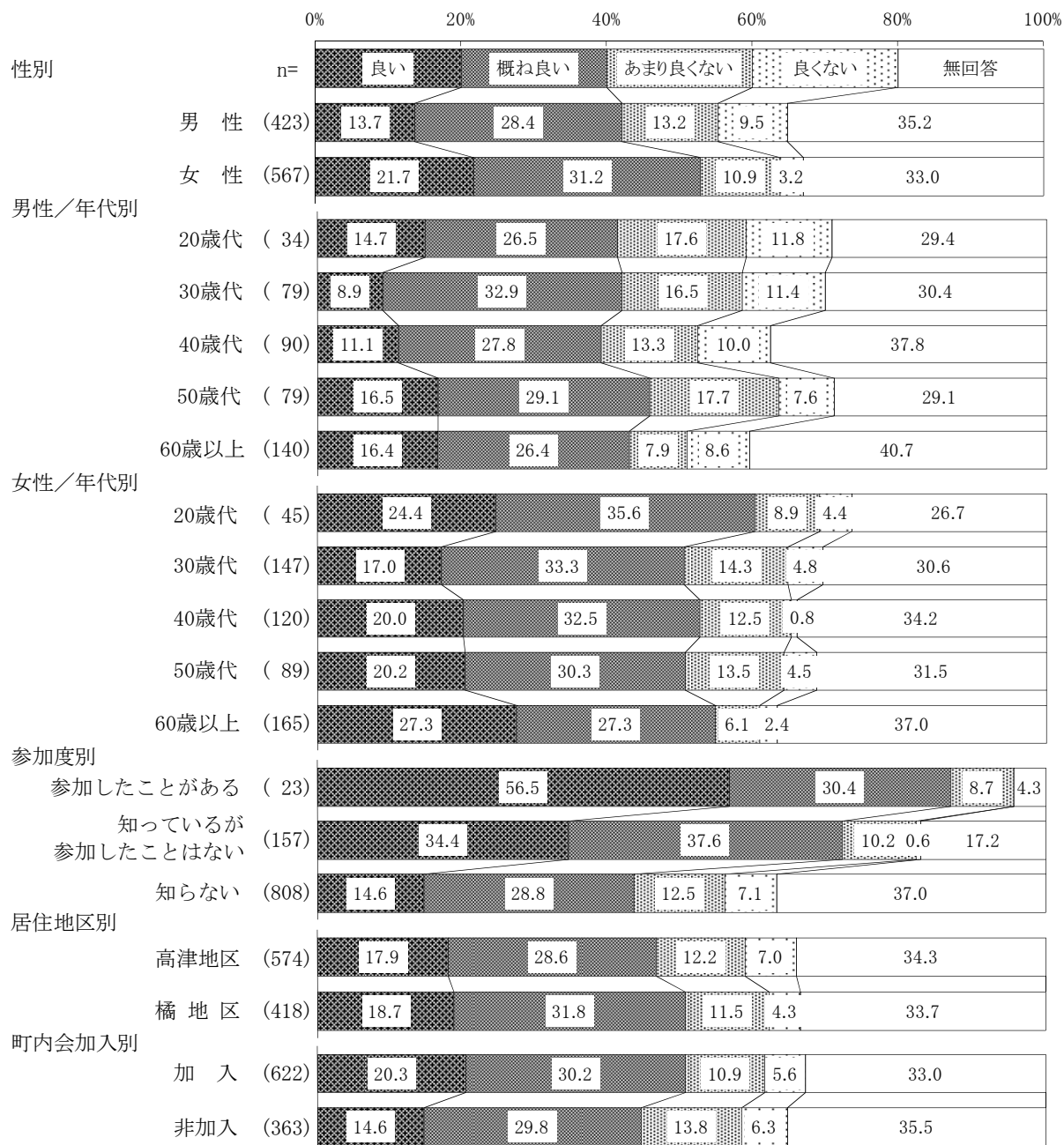
子ども世帯別でみると、「概ね良い」では『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも8.7ポイント高くなっている。



問24 高津公園体操推進事業

事業内容： 区内の関係機関やヘルスパートナー高津、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとに研修会を実施している。また、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施し、普及し啓発するためのリーフレット、DVDの作成を行っている。

図 27-1 性別／性年代別／参加度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも8ポイント高く、女性の『20歳代』と『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

参加度別で見ると、『参加したことがある』では「良い」が56.5%、「概ね良い」が30.4%となっている。

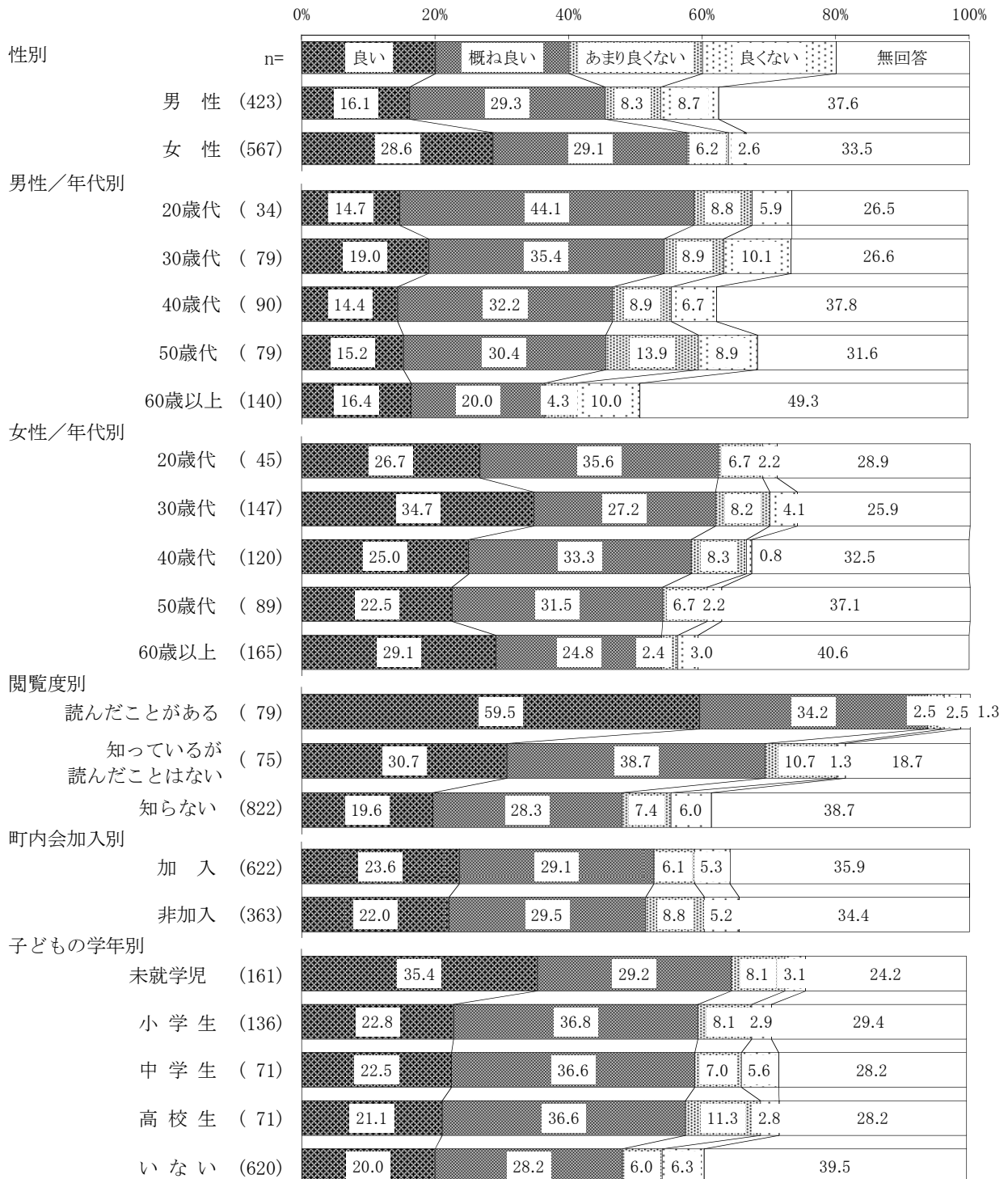
居住地区別で見ると、「概ね良い」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも3.2ポイント高くなっている。

町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも5.7ポイント高くなっている。

問25 子育て情報誌発行事業(あったかつうしん)

事業内容： 子育て中の親の視点からニーズにあった情報発信を目的とし、区民と行政が協働で情報誌「あったかつうしん」の発行を行っている。

図 28-1 性別／性年代別／閲覧度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも12.5ポイント高く、女性『30歳代』が3割を超えている。

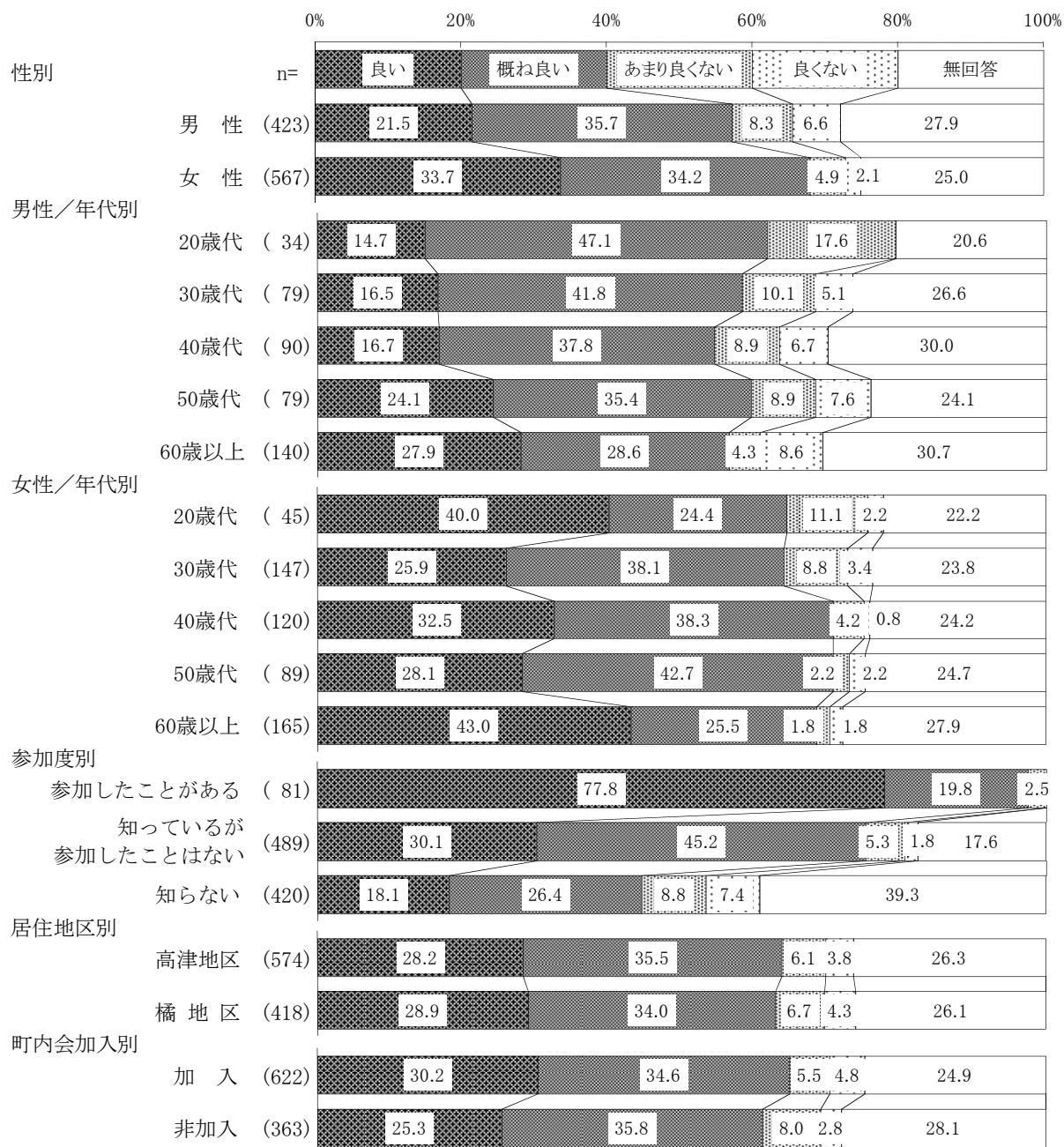
閲覧度別でみると、『読んだことがある』では「良い」が59.5%、「概ね良い」が34.2%となっている。

子どもの学年別でみると、「良い」では学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

問26 高津区「音楽のまち」推進事業

事業内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花・コンサート」、「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。

図 29-1 性別／性年代別／参加度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも12.2ポイント高く、女性の『20歳代』と『60歳以上』が4割を超えている。また、男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

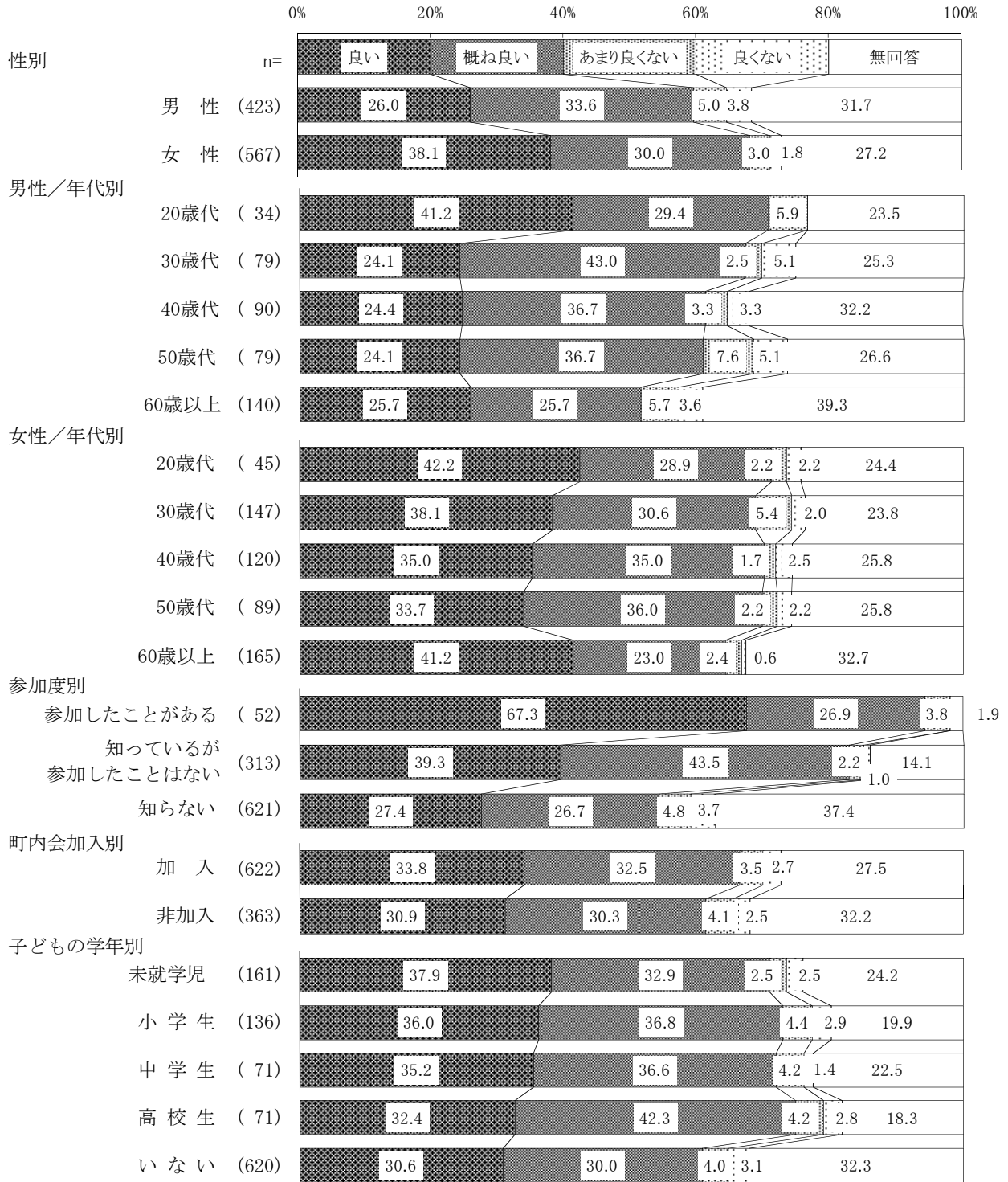
参加度別でみると、『参加したことがある』では「良い」が77.8%、「概ね良い」が19.8%となっている。

町内会加入別でみると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも4.9ポイント高くなっている。

問27 高津区子どもフェア

事業内容：子どもの健全育成を図るため、夏休み最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょうの掴み捕り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。

図 30-1 性別／性年代別／参加度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも12.1ポイント高く、男性『20歳代』、女性『20歳代』、女性『60歳以上』が4割を超えている。

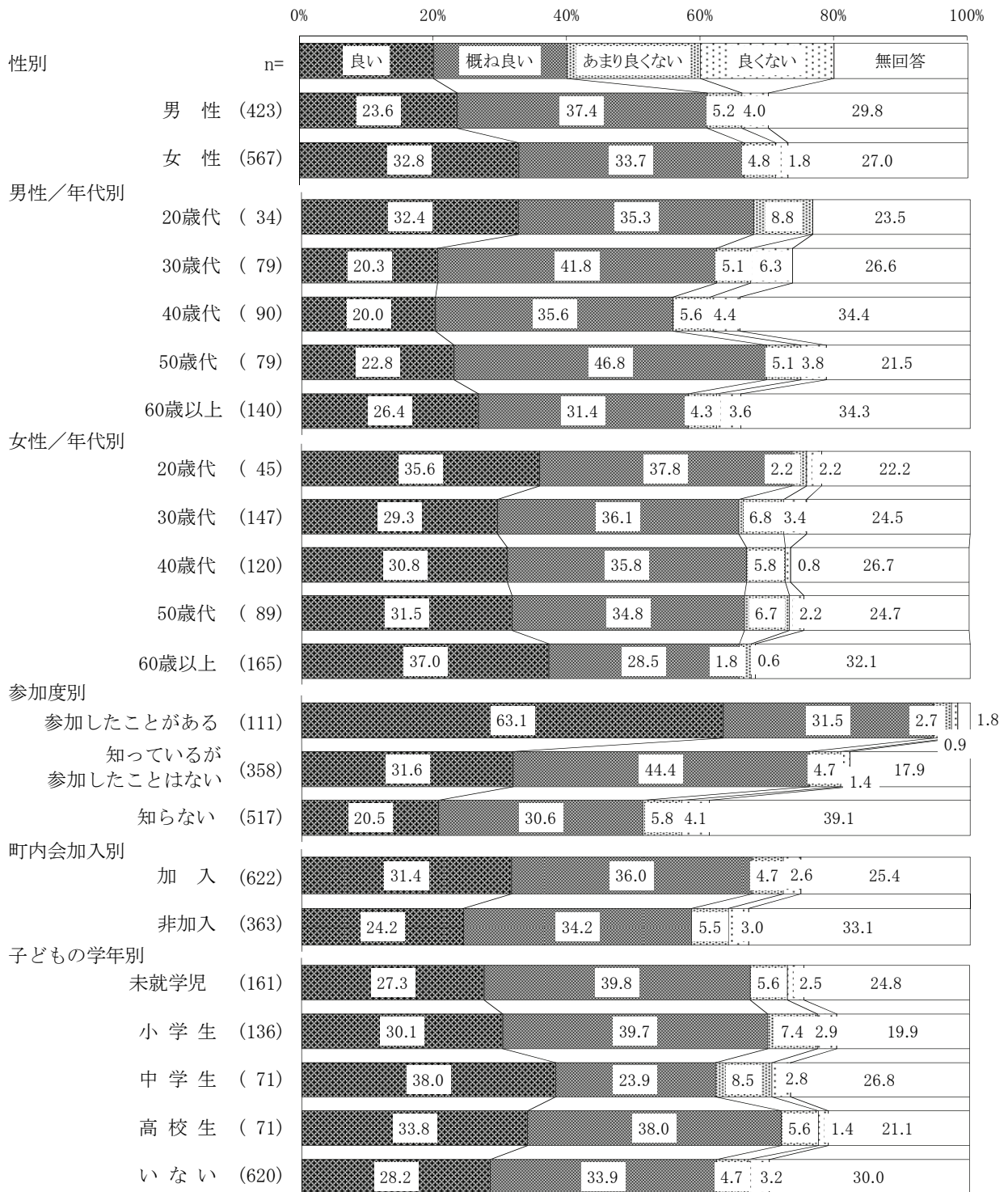
参加度別で見ると、『参加したことがある』では「良い」が67.3%、「概ね良い」が26.9%となっている。

子どもの学年別で見ると、「良い」では学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

問28 高津地区親子運動会事業

事業内容： 毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子を対象に運動会を行っている。  
 昨年は、町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

図 31-1 性別／性年代別／参加度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも9.2ポイント高く、男性『20歳代』、女性『20歳代』、女性『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

参加度別で見ると、『参加したことがある』では「良い」が63.1%、「概ね良い」が31.5%となっている。

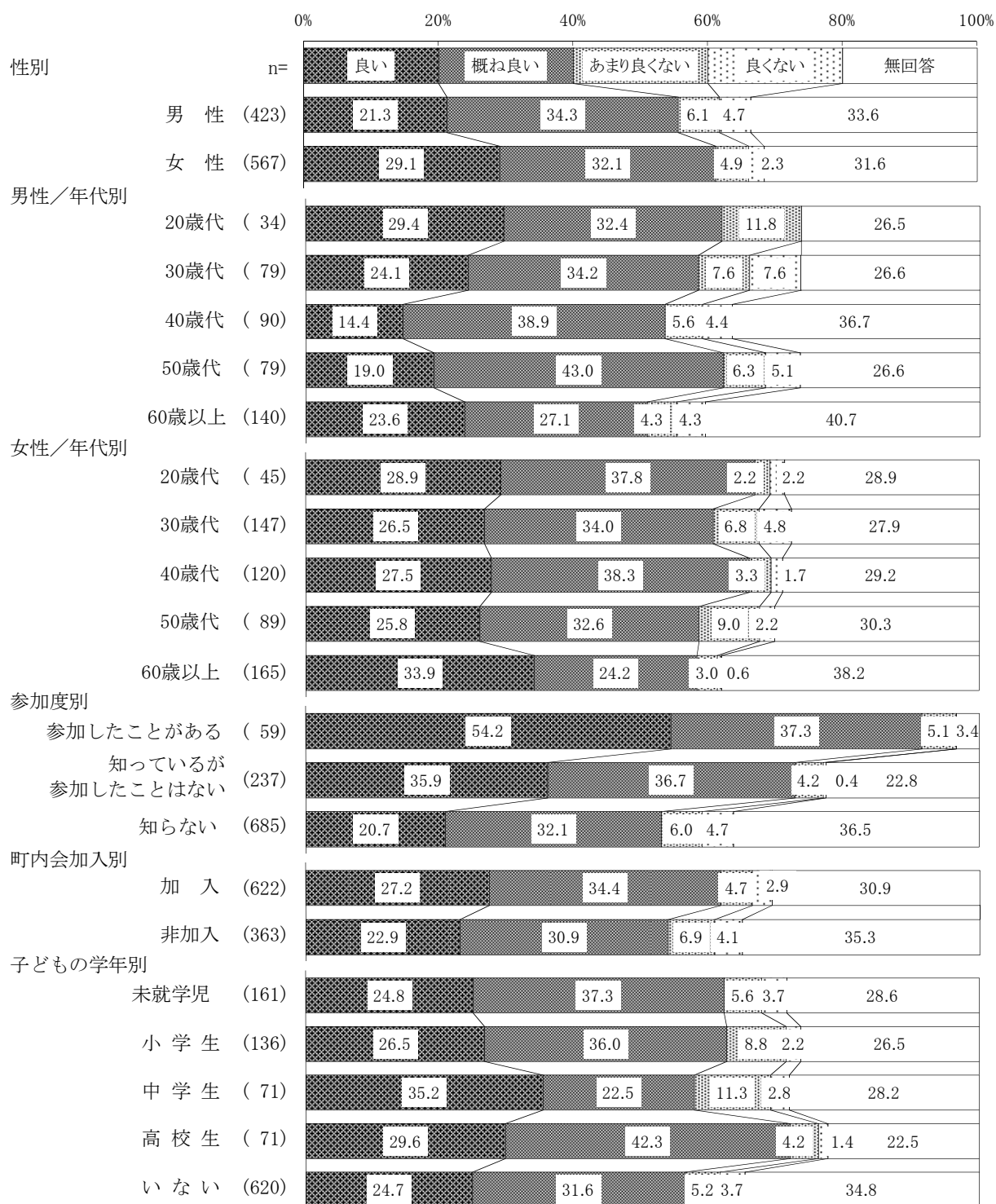
町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも7.2ポイント高くなっている。

子どもの学年別で見ると、「良い」では『中学生』が他の学年よりも高くなっている。

問29 橘地区親子運動会事業

事業内容： 毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子を対象に運動会を行っている。  
100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

図 32-1 性別／性年代別／参加度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも7.8ポイント高く、女性の『60歳以上』が3割を超えている。

参加度別で見ると、『参加したことがある』では「良い」が54.2%、「概ね良い」が37.3%となっている。

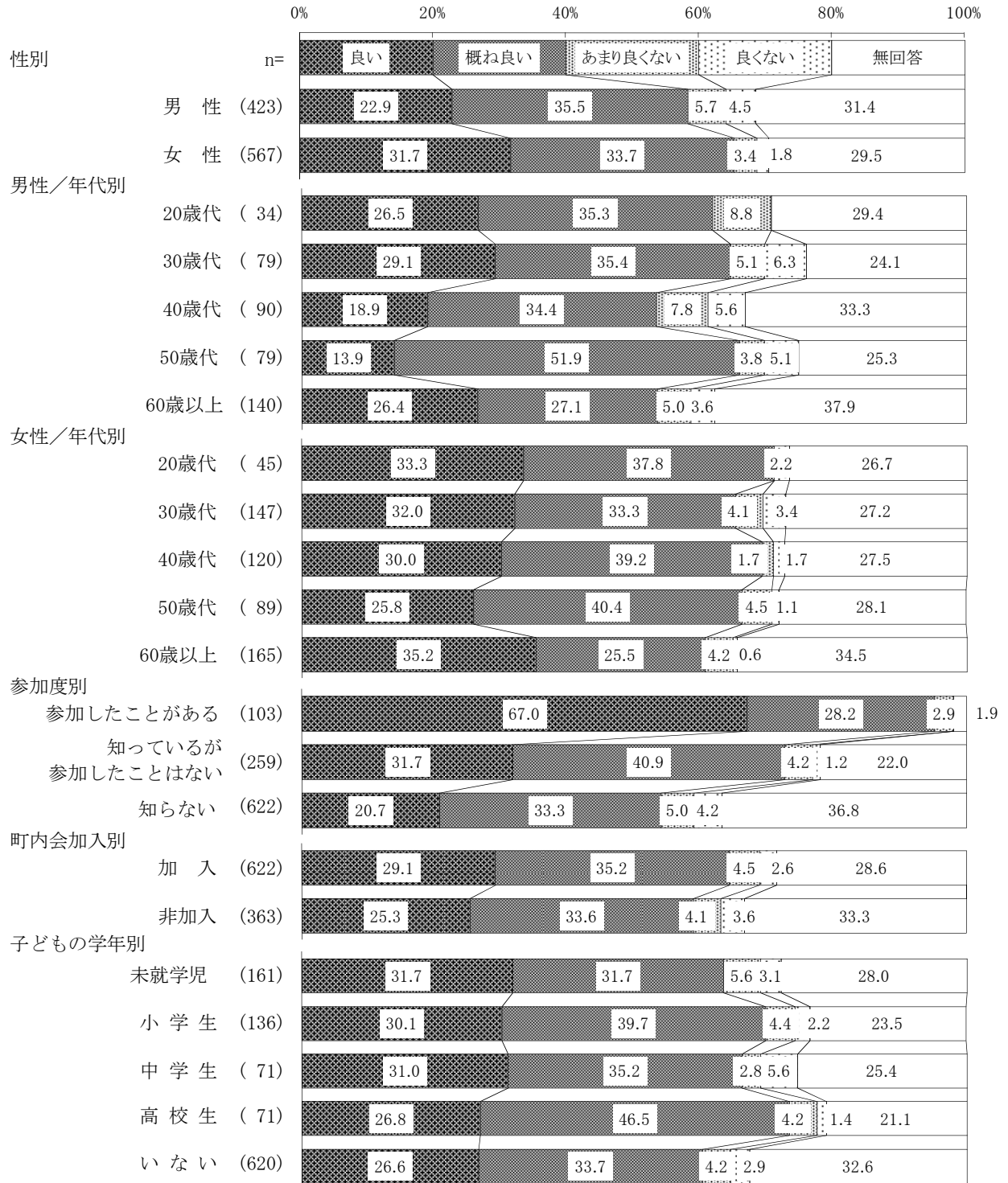
町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも4.3ポイント高く、同様に「概ね良い」では『加入』の方が『非加入』よりも3.5ポイント高くなっている。

子どもの学年別で見ると、「良い」では『中学生』が他の学年よりも高くなっている。

問30 橋ふるさと祭り 子どもイベント

事業内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される橋ふるさと祭り(8月上旬の日曜日)において、移動動物園、ストラックアウト、おもちゃの釣り堀、ポスター展など子どもを対象としたイベントを実施している。

図 33-1 性別／性年代別／参加度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも8.8ポイント高く、男性は『30歳代』、女性は『60歳以上』が他の年代に比べて高くなっている。

参加度別でみると、『参加したことがある』では「良い」が67.0%、「概ね良い」が28.2%となっている。

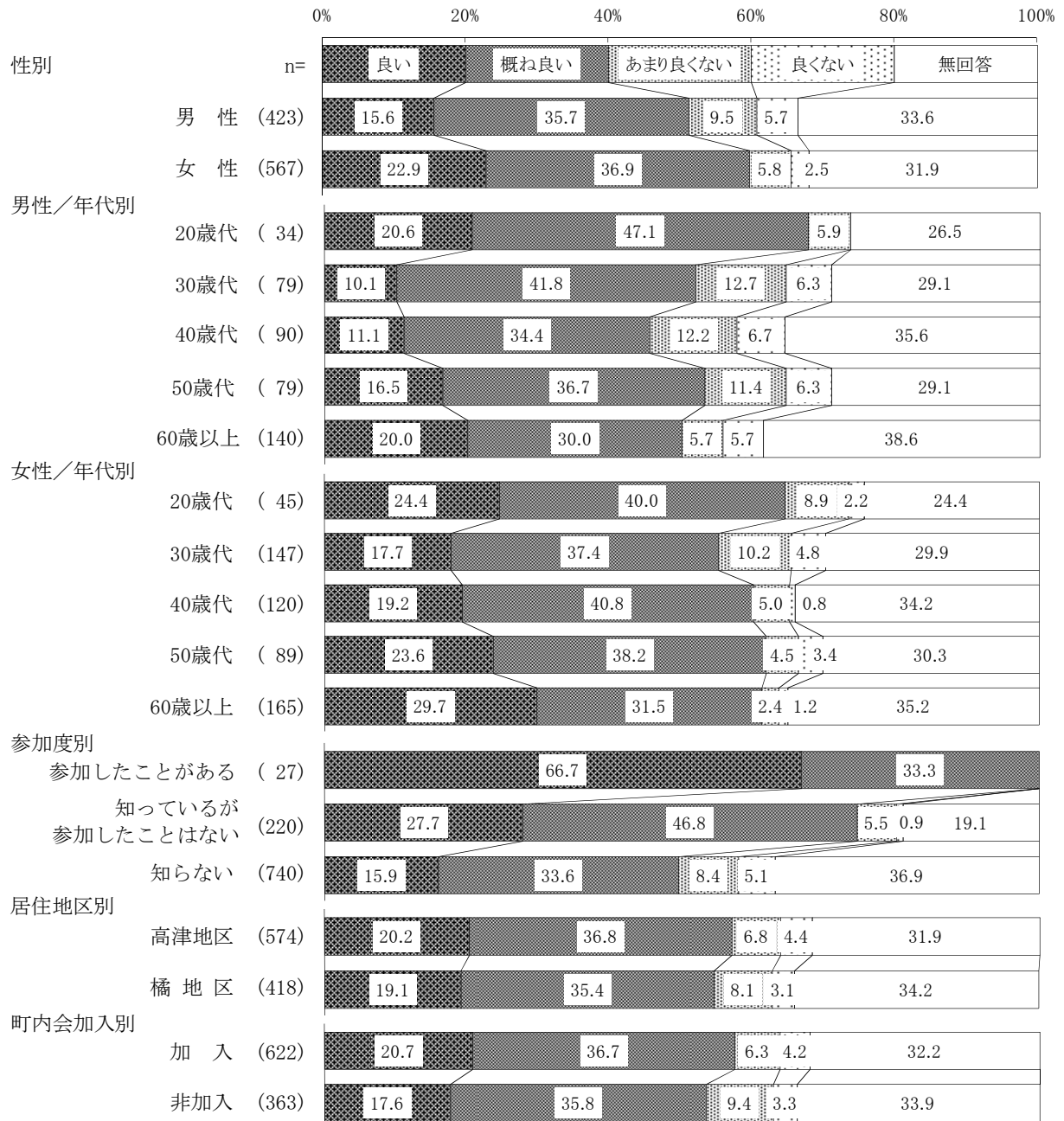
町内会加入別でみると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも3.8ポイント高くなっている。

子どもの学年別でみると、「良い」では学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

問31 高津区文化振興事業

事業内容： 区の文化の振興を図るため、10月に高津市民館で開催された高津区文化祭にあわせて、区や市にゆかりのある著名な文化人を招き文化講演会やコンサートを行っている。また、昨年は、地域の身近な文化遺産である大山街道周辺の文化財や久本薬医門公園などを巡り、その文化価値を学ぶ高津区文化探訪講座を2回開催した。

図 34-1 性別／性年代別／参加度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも7.3ポイント高く、男女ともに『20歳代』と『60歳以上』が他の年代に比べて高くなっている。

参加度別で見ると、『参加したことがある』では「良い」が66.7%、「概ね良い」が33.3%となっている。

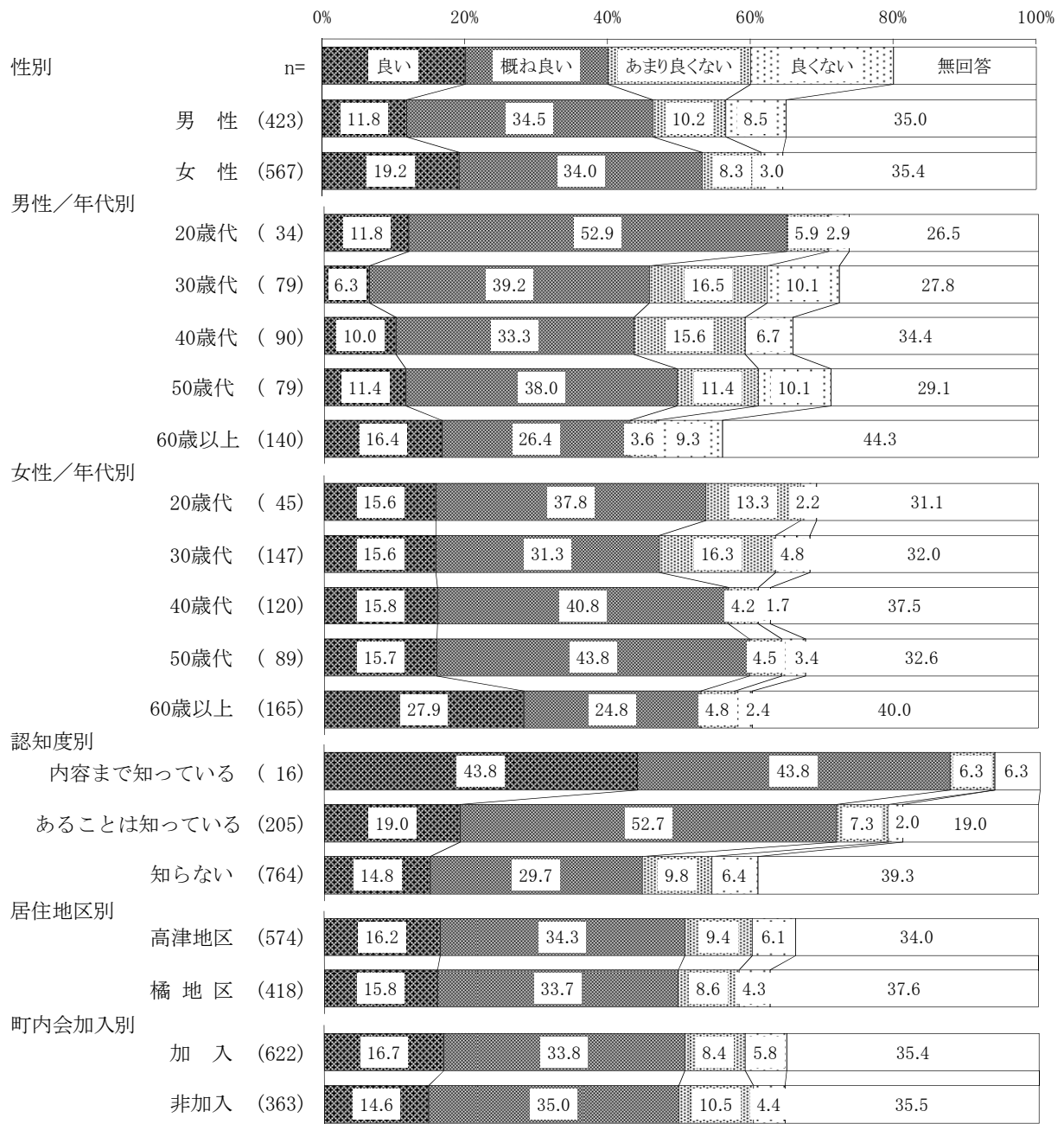
町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも3.1ポイント高くなっている。



問32 高津区まちづくり推進事業

事業内容： 区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまねっ」との運営を行っている。

図 35-1 性別／性年代別／認知度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



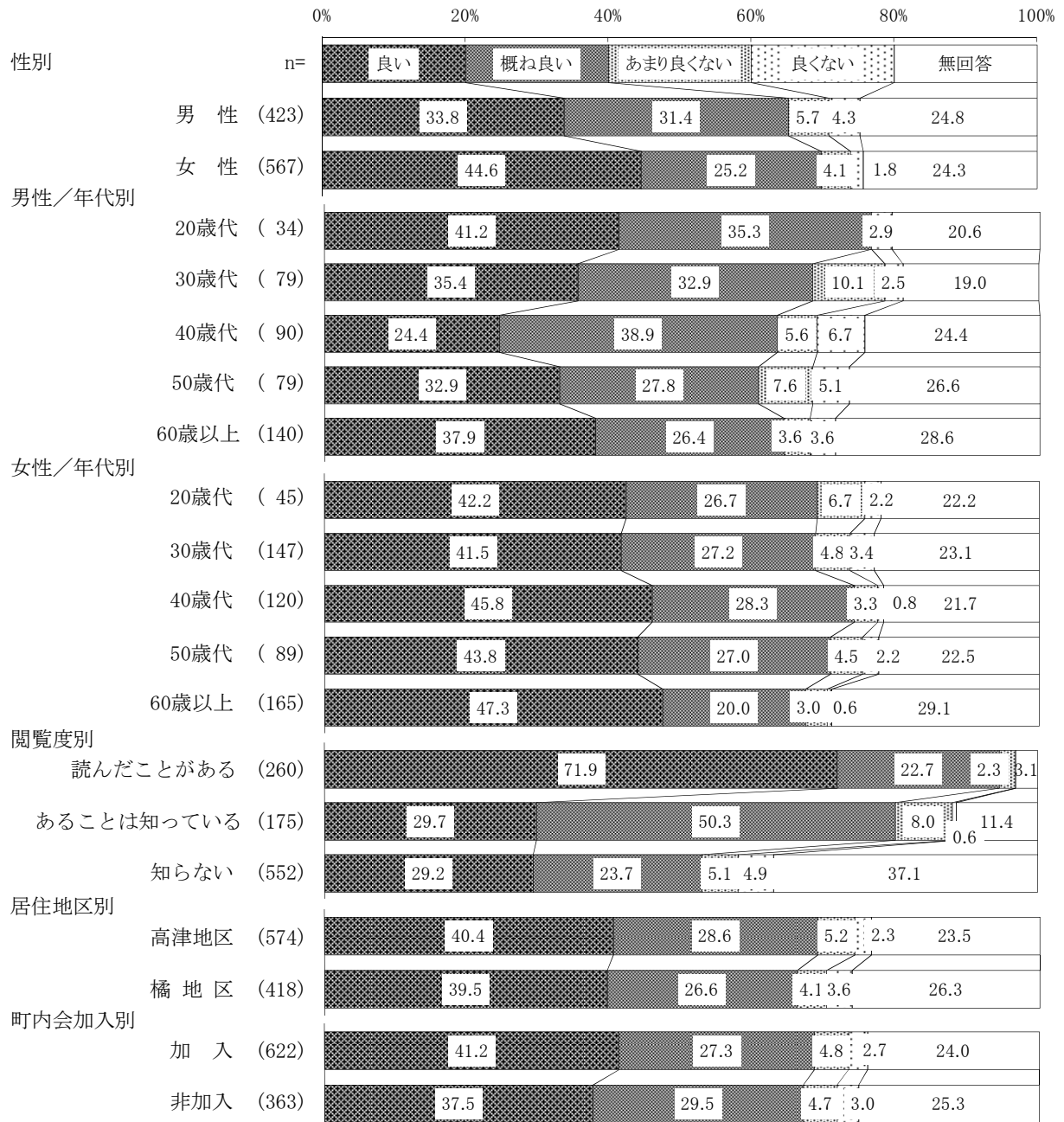
性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも7.4ポイント高く、女性『60歳以上』が27.9%と他の年代よりも高くなっている。

認知度別でみると、『あることは知っている』では「良い」が19.0%、「概ね良い」が52.7%となっている。

問33 高津区総合ガイドマップ作成事業

事業内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、緊急時の連絡先、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。

図 36-1 性別／性年代別／閲覧度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも10.8ポイント高くなっており、男性は『20歳代』が4割を超え、女性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

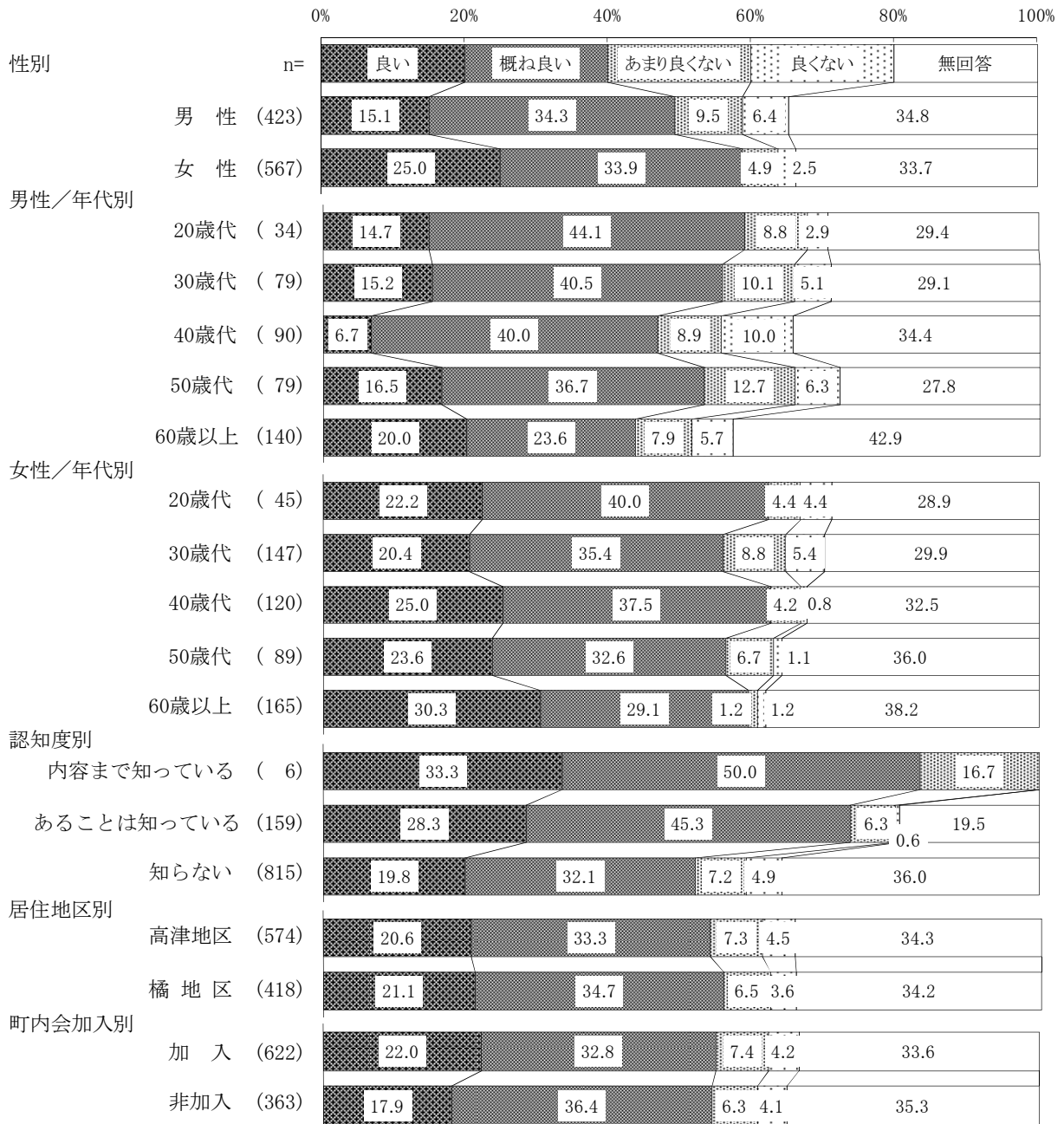
閲覧度別でみると、『読んだことがある』では「良い」が71.9%、「概ね良い」が22.7%となっている。

町内会加入別でみると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも3.7ポイント高くなっている。

問34 高津区区民会議

事業内容： 区民の参加と協働による地域課題の解決に向けた調査審議を行うために、平成18年度から実施している。第3期区民会議では、「新しいコミュニティづくり」をテーマに取り組みを進め、現在第4期区民会議では「地域防災対策」等をテーマに調査審議を進めていく予定である。

図 37-1 性別／性年代別／認知度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも9.9ポイント高く、女性『60歳以上』が3割を超えている。

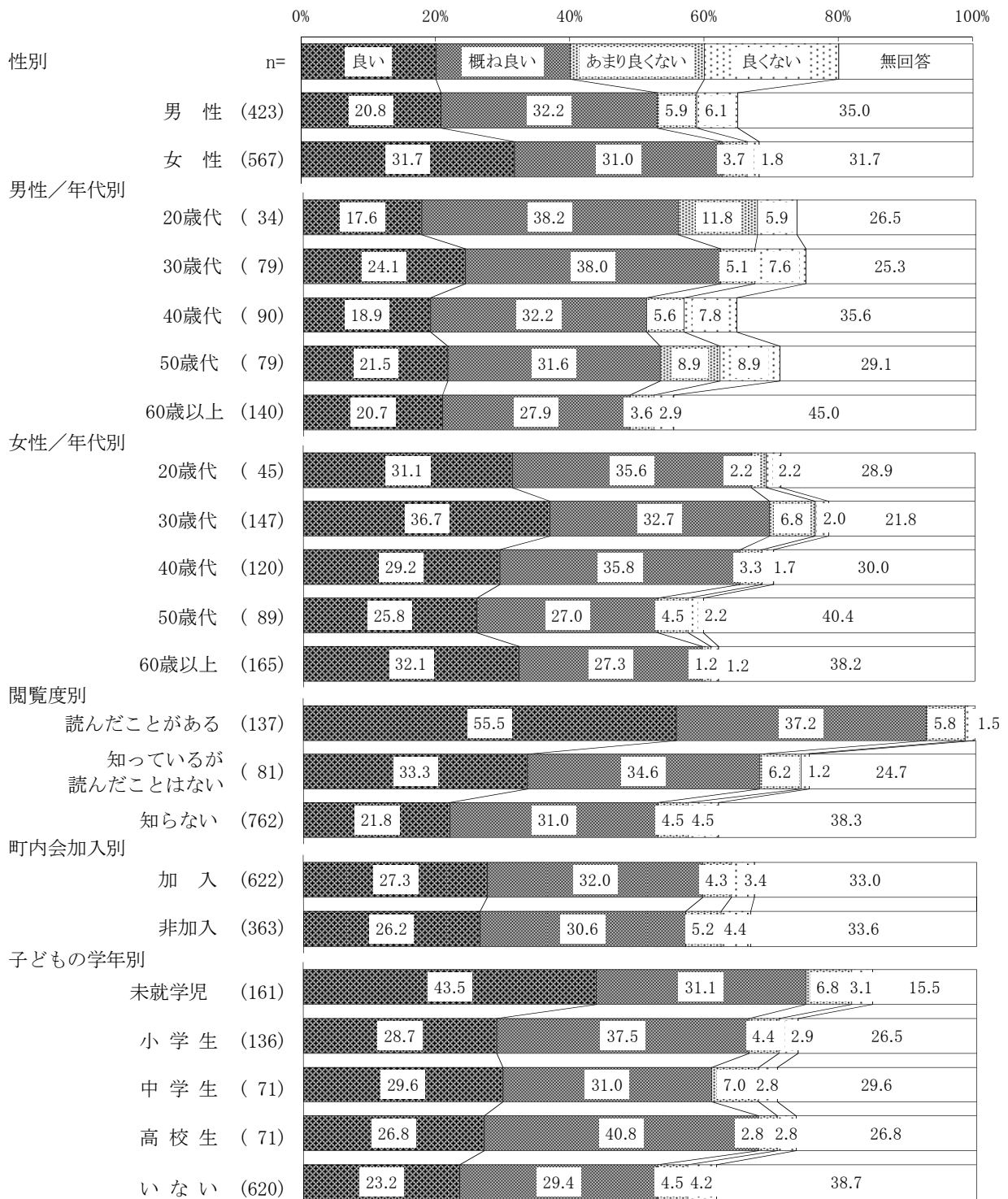
認知度別で見ると、『あることは知っている』では「良い」が28.3%、「概ね良い」が45.3%となっている。

町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも4.1ポイント高く、「概ね良い」では『非加入』の方が『加入』よりも3.6ポイント高くなっている。

問35 子ども・子育て情報発信事業(ホッとこそだて・たかつ(情報ガイドブック))

事業内容： 地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホッとこそだて・たかつ」の情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。

図 38-1 性別／性年代別／閲覧度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも10.9ポイント高く、女性『30歳代』が36.7%と他の年代よりも高くなっている。

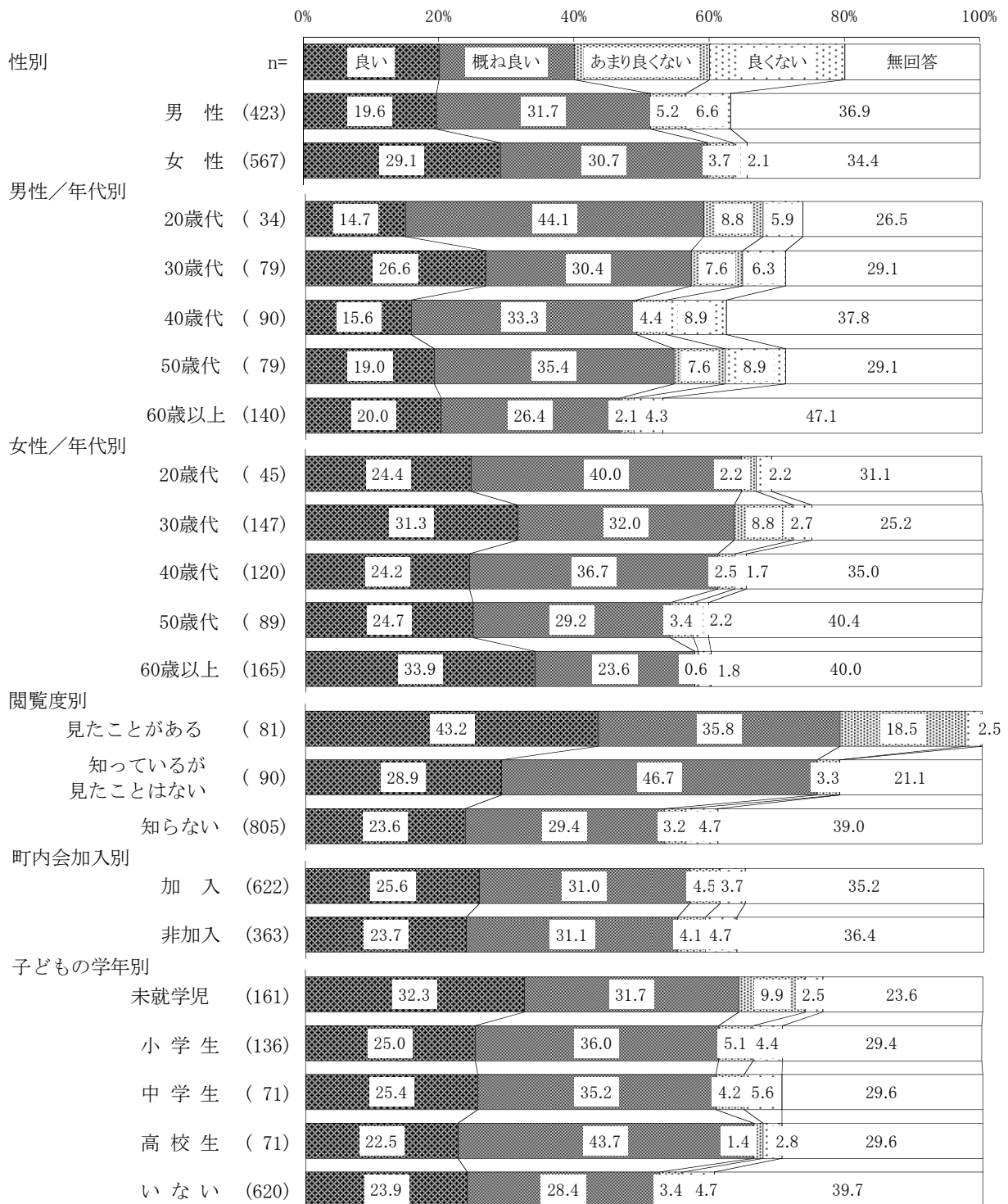
閲覧度別でみると、『読んだことがある』では「良い」が55.5%、「概ね良い」が37.2%となっている。

子どもの学年別でみると、「良い」では『未就学児』が4割を超えている。

問36 子ども・子育て情報発信事業(ホッとこそだて たかつ(ホームページ))

事業内容： 地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、ホームページ「ホッとこそだて たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。

図 39-1 性別／性年代別／閲覧度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも9.5ポイント高く、男女の『30歳代』と女性『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

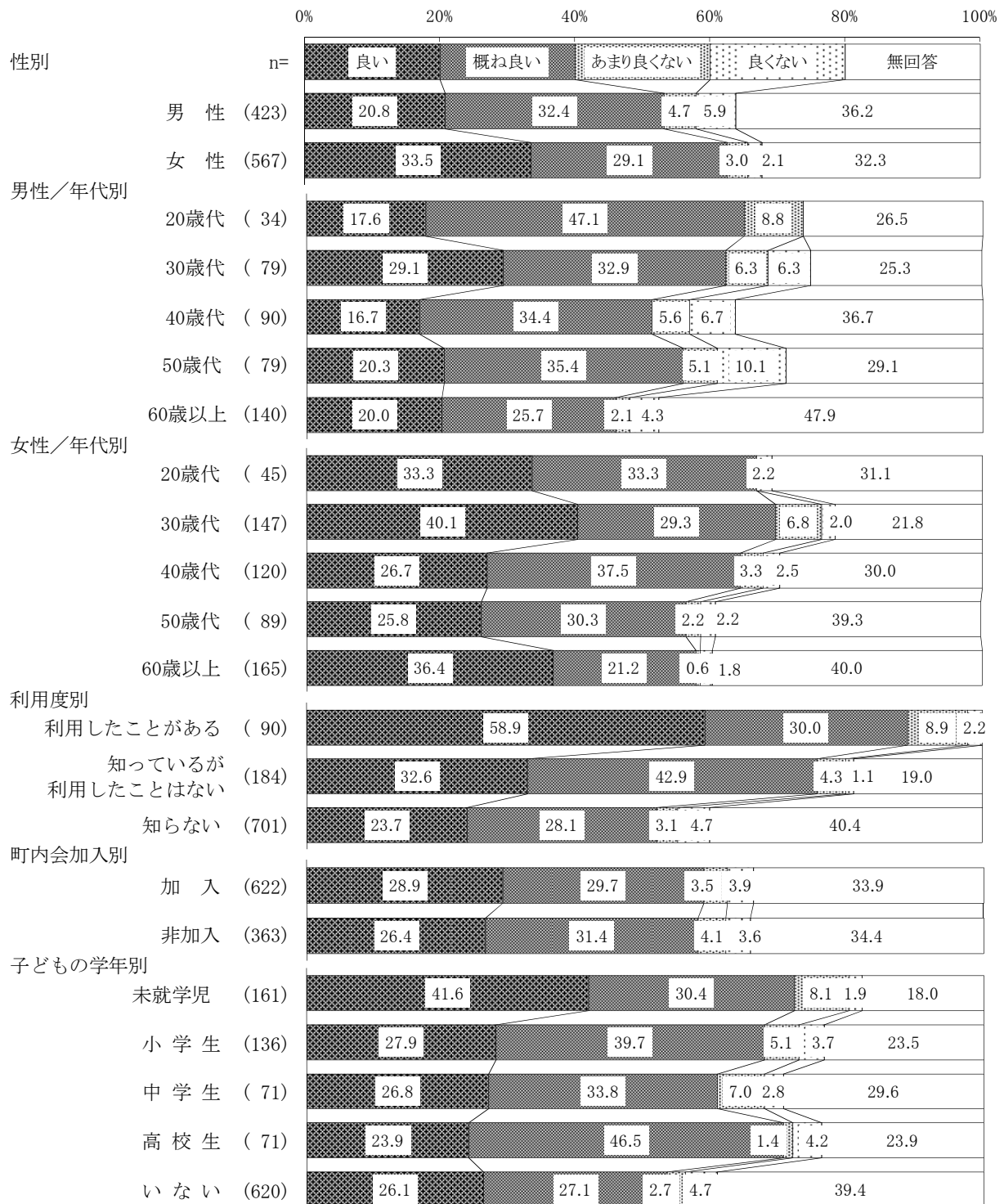
閲覧度別でみると、『見たことがある』では「良い」が43.2%、「概ね良い」が35.8%となっている。

子どもの学年別でみると、「良い」では『未就学児』が3割を超えている。

問37 地域子育て支援センター事業

事業内容：乳幼児とその保護者同士が交流をしたり、子育てに関する情報を得たり、子育て講座に参加したりする事が出来る場として開設している。

図 40-1 性別／性年代別／利用度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも12.7ポイント高く、男女ともに『30歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

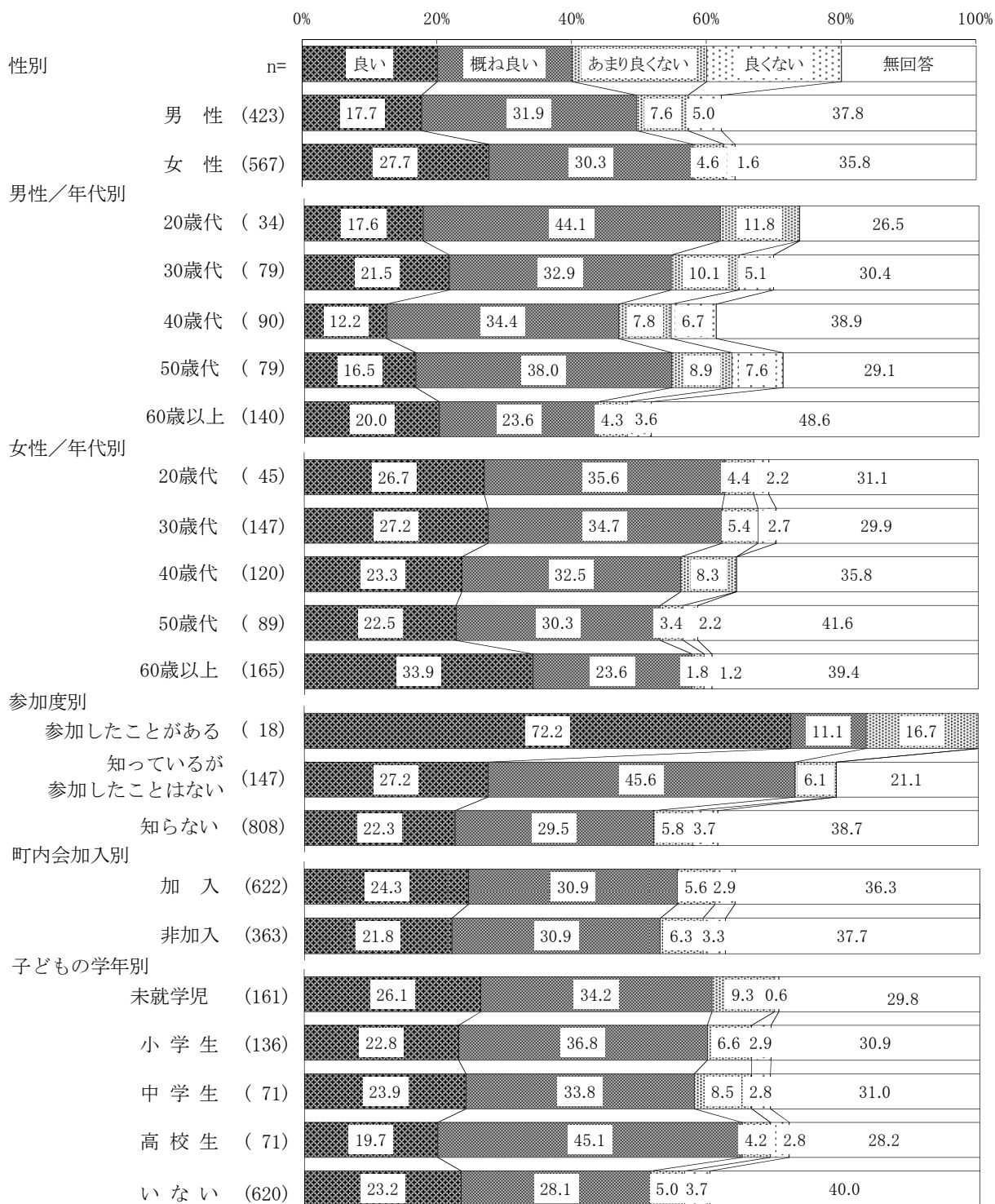
利用度別で見ると、『利用したことがある』では「良い」が58.9%、「概ね良い」が30.0%となっている。

子どもの学年別で見ると、「良い」では『未就学児』が4割を超えている。

問38 子ども・子育てフェスタ事業

事業内容： 毎年11月の土曜日に高津市民館において、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介や交流などを実施している。その中で、市民と行政との協働による子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。

図 41-1 性別／性年代別／参加度別／町内会加入別／子どもの学年別 事業評価



性・年代別でみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも10ポイント高く、女性『60歳以上』が3割を超えている。

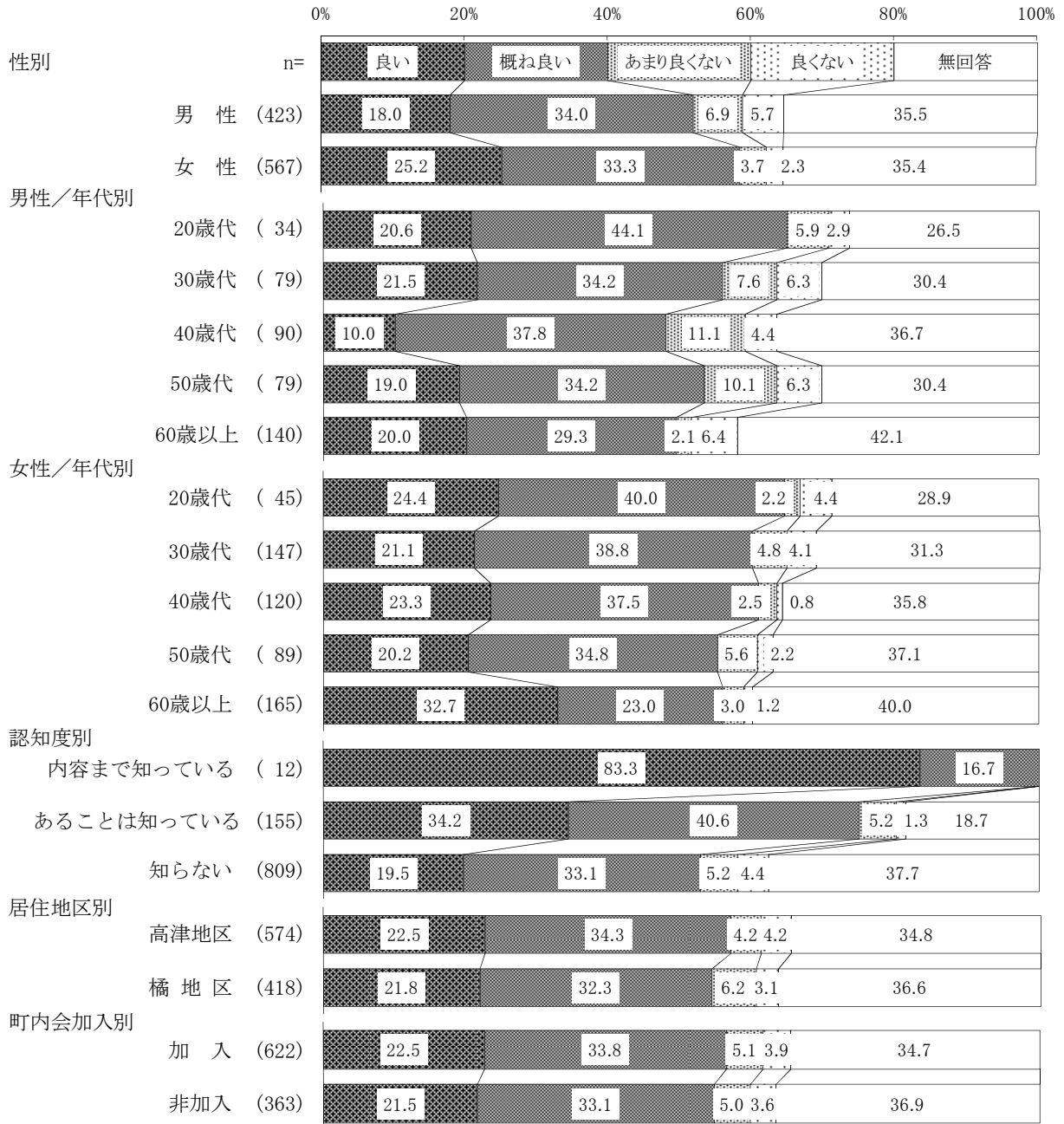
参加度別でみると、『知っているが参加したことはない』では「良い」が27.2%、「概ね良い」が45.6%となっている。

子どもの学年別でみると、「良い」では学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

問39 高津区スポーツネットワーク事業

事業内容： スポーツの力で健康づくり・仲間づくり・まちづくりを推進することを目的に、高津区内のスポーツ関連団体に関する情報をとりまとめ、団体間の連携を促進するとともに、ホームページ「たかつスポーツネット」において、高津区内のスポーツ活動情報を発信している。

図 42-1 性別／性年代別／認知度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも7.2ポイント高く、女性『60歳以上』が3割を超えている。

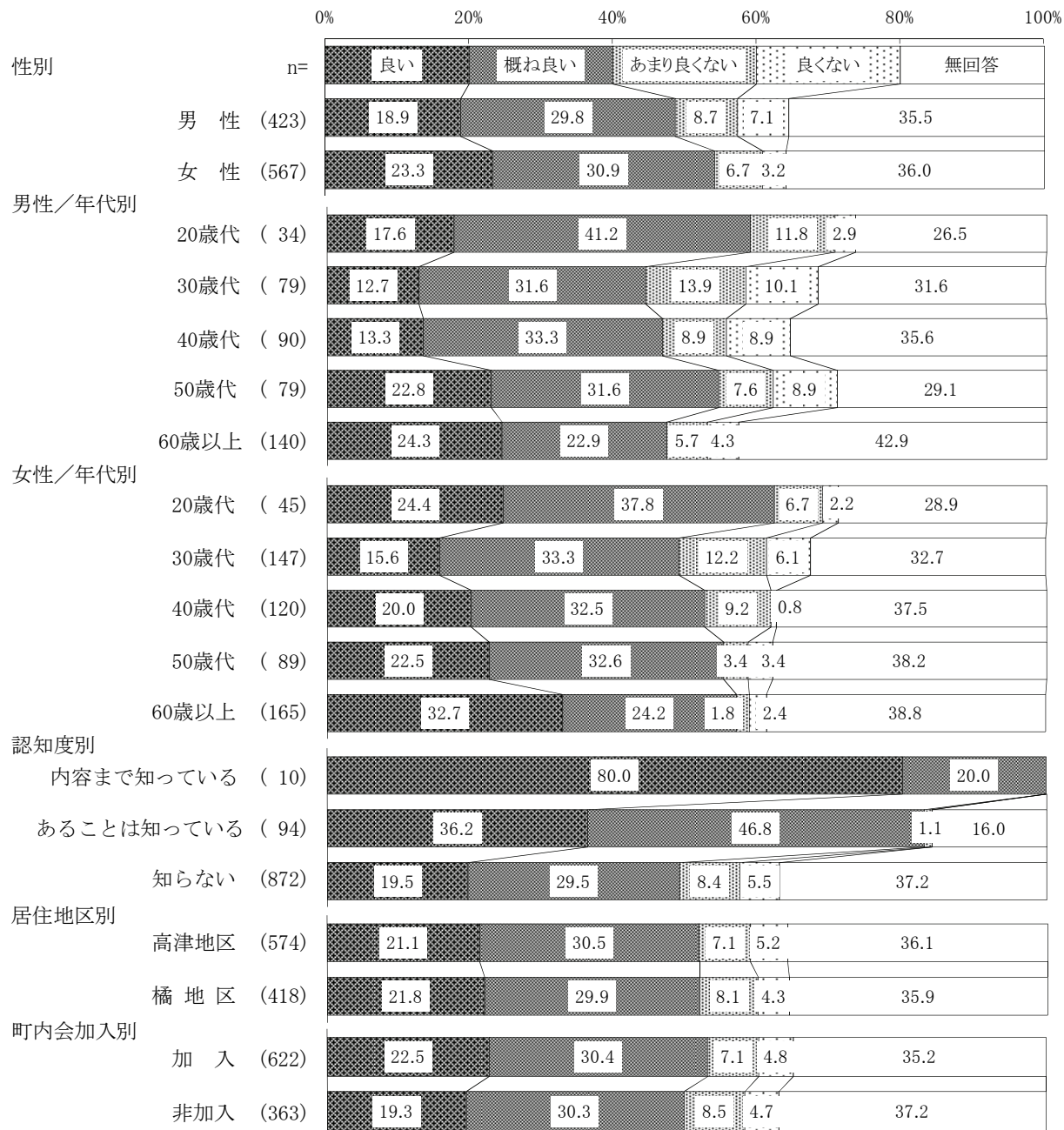
認知度別で見ると、『あることは知っている』では「良い」が34.2%、「概ね良い」が40.6%となっている。



問40 高津区ふるさとアーカイブ事業

事業内容： 高津区に親しみを持っていただくとともに高津区の歴史を次代に伝えるため、高津のまちに関する資料(写真等)を収集・活用していく方針を、平成23年度に「高津区ふるさとアーカイブ基本構想」として策定した。現在は、古写真等の収集や区制40周年記念誌(本年12月発行予定)の編集を行っている。

図 43-1 性別／性年代別／認知度別／居住地区別／町内会加入別 事業評価



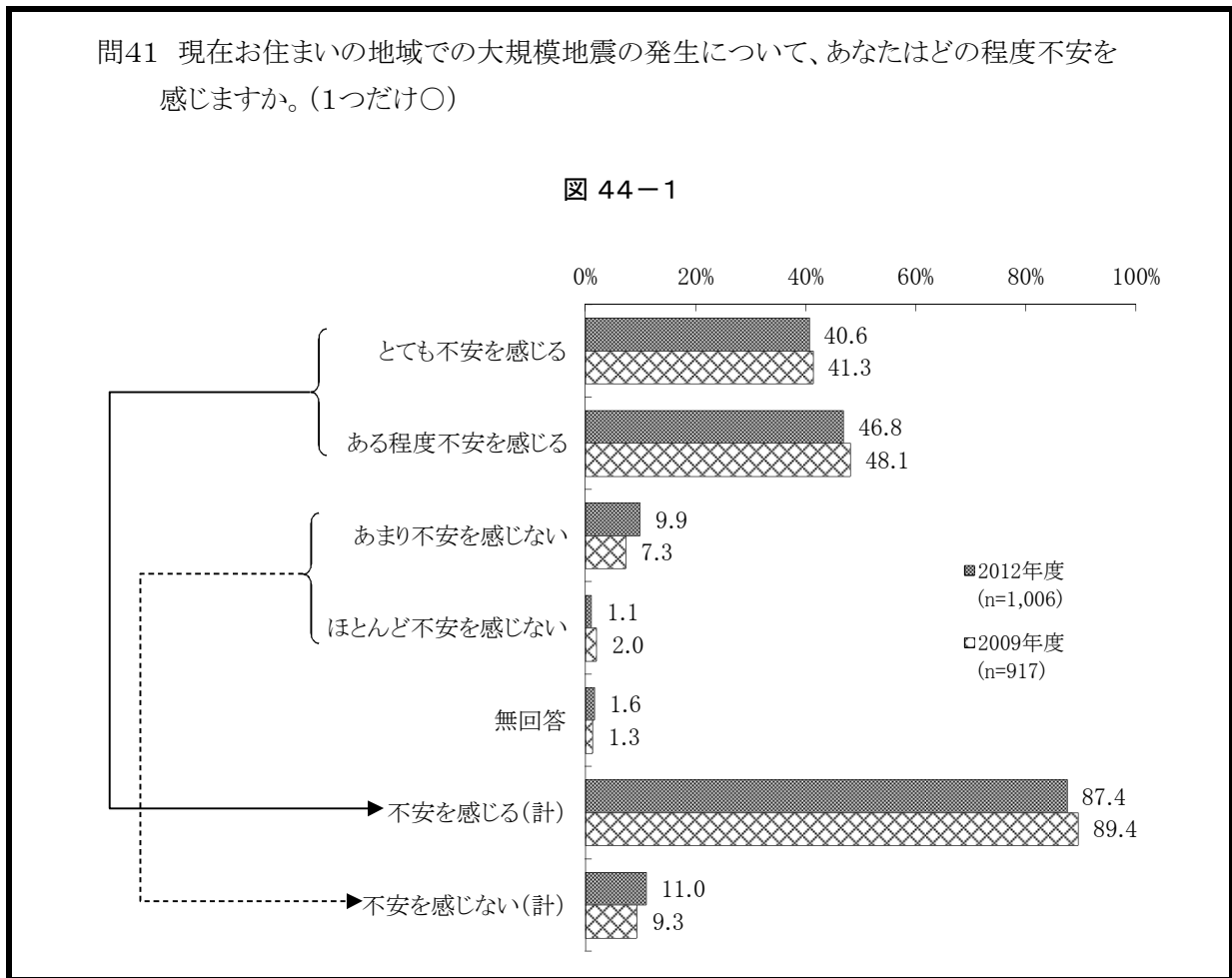
性・年代別で見ると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも4.4ポイント高く、女性『60歳以上』が3割を超えている。

認知度別で見ると、『あることは知っている』では「良い」が36.2%、「概ね良い」が46.8%となっている。

町内会加入別で見ると、「良い」では『加入』の方が『非加入』よりも3.2ポイント高くなっている。

### 3. 地域防災について

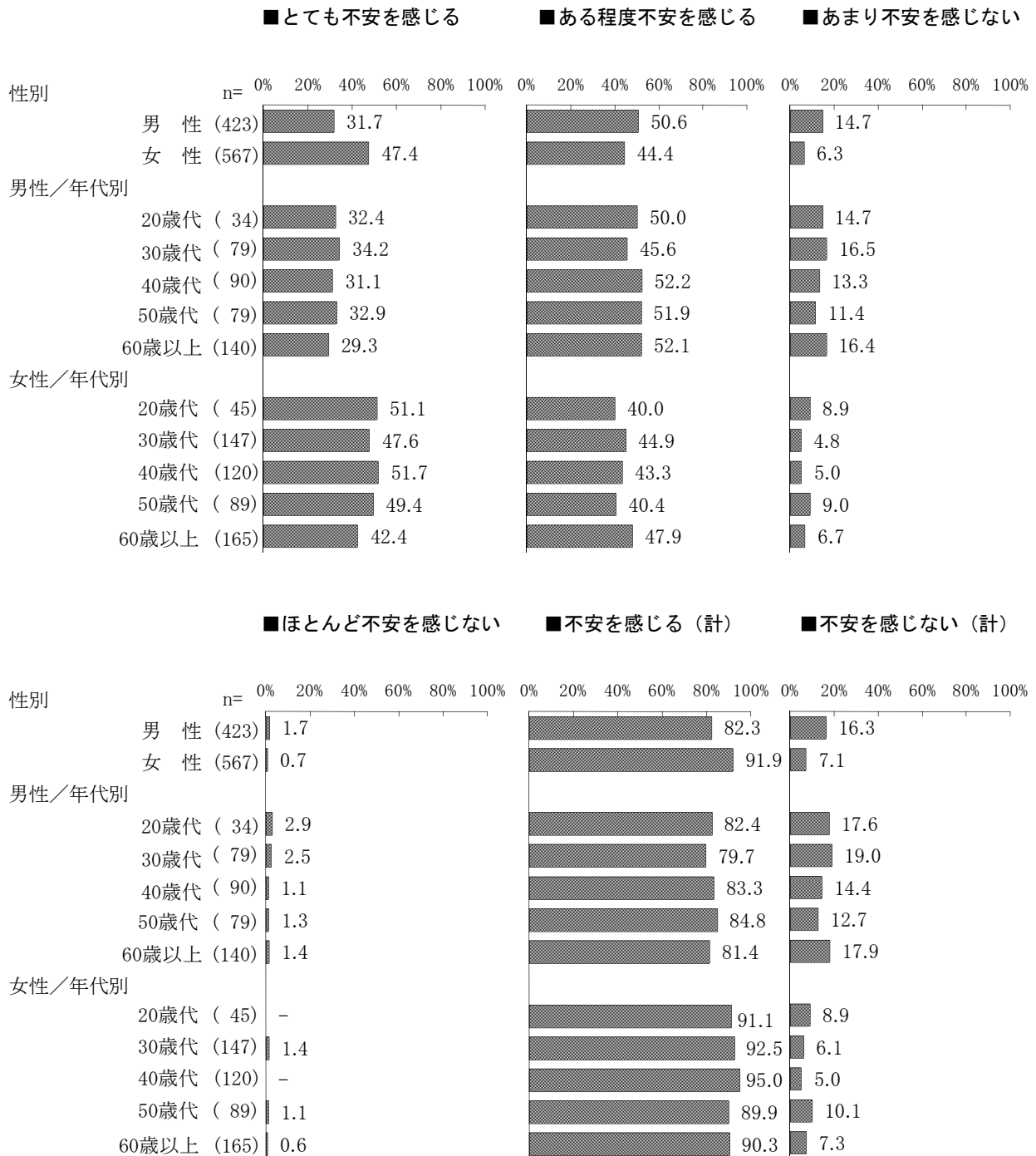
#### (1) 大規模地震発生時の「不安度」



大規模地震発生時の「不安度」については、「とても不安を感じる」が40.6%、「ある程度不安を感じる」が46.8%、「あまり不安を感じない」が9.9%、「ほとんど不安を感じない」が1.1%となっている。また、「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」を合わせた『不安を感じる(計)』は87.4%、「あまり不安を感じない」と「ほとんど不安を感じない」を合わせた『不安を感じない(計)』は11.0%となっている。

2009年度と比較すると、「不安を感じる(計)」は2ポイント減少、「不安を感じない(計)」は1.7ポイント増加している。

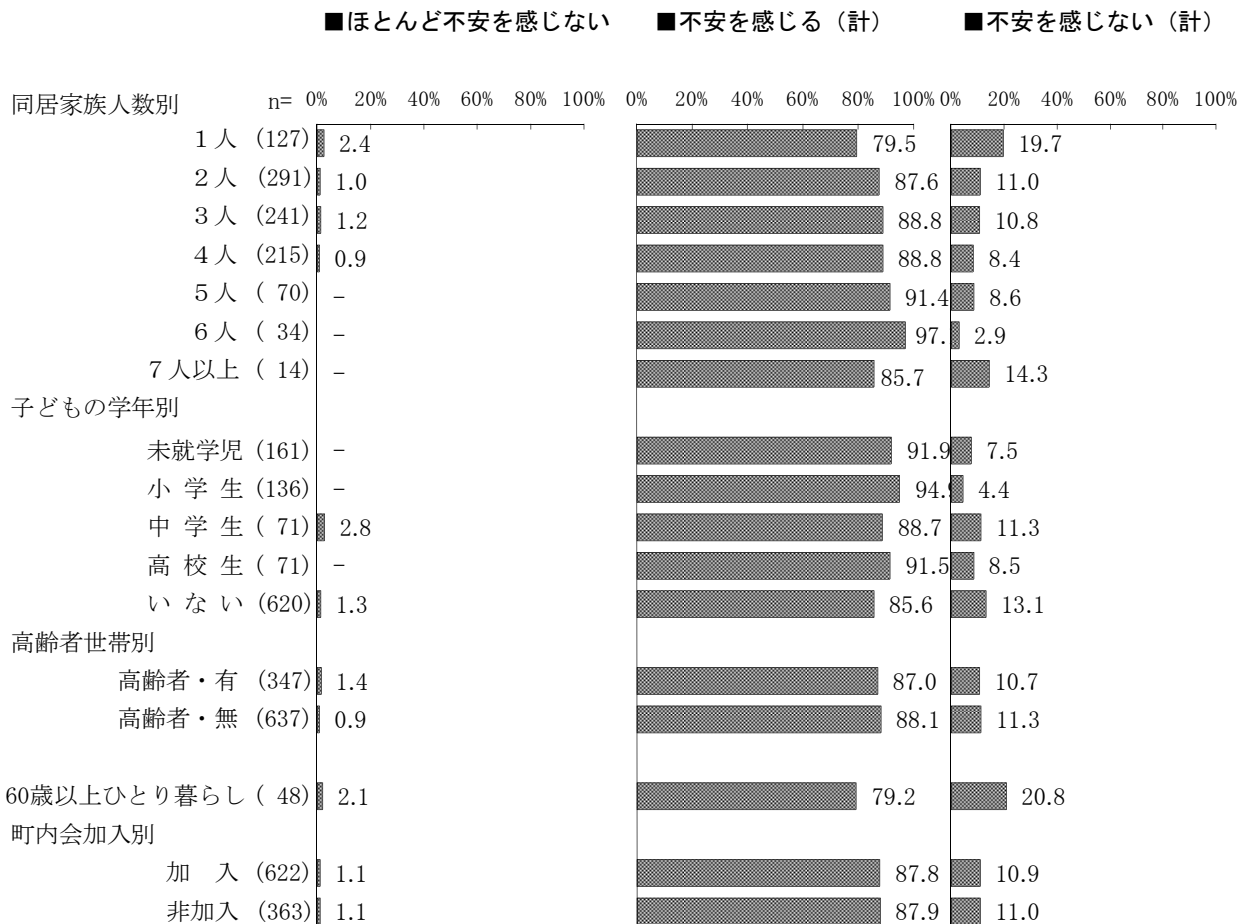
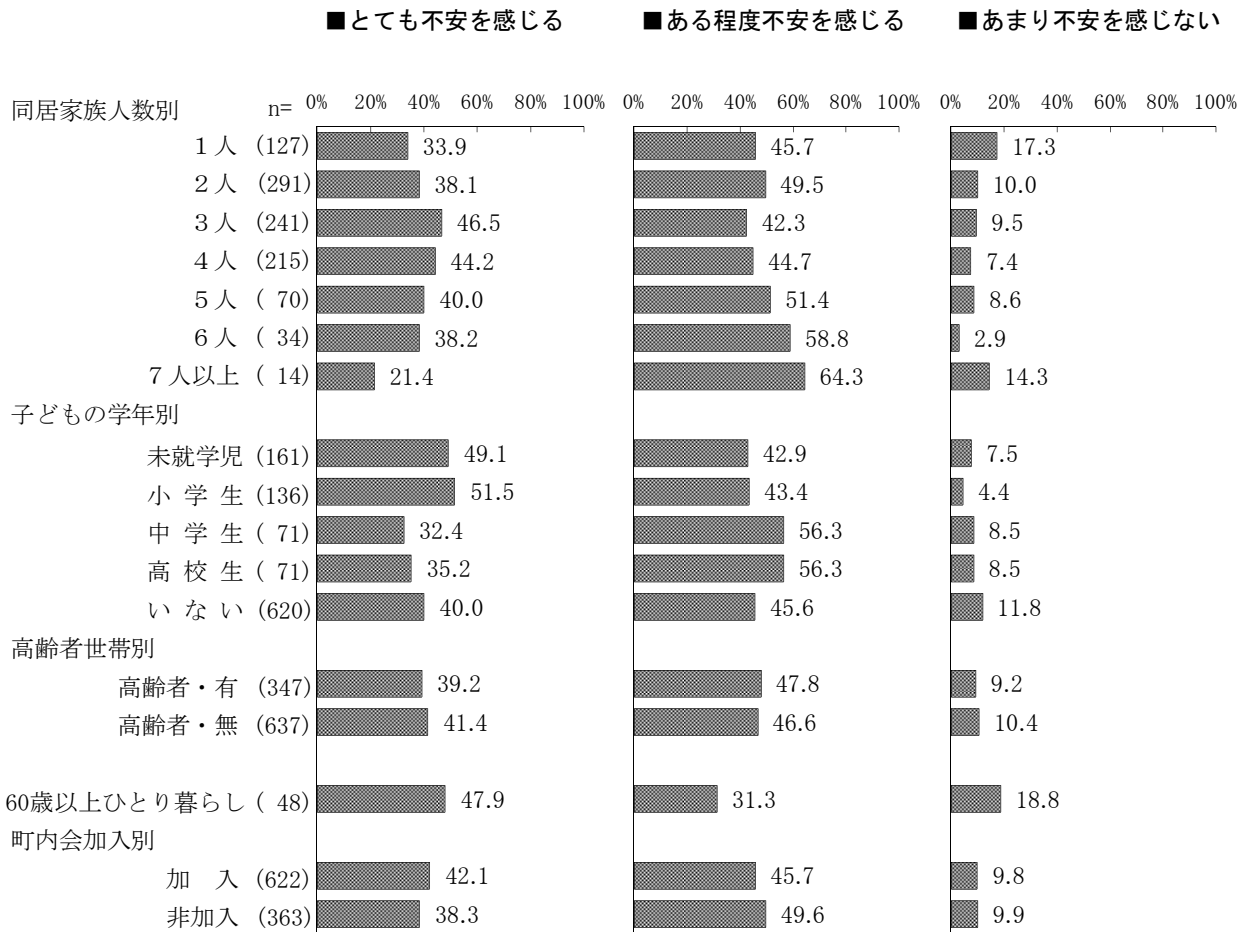
図 44-2 性別／性年代別



性・年代別では、「とても不安を感じる」では『女性』の方が『男性』よりも15.7ポイント高く、女性の『20歳代』と『40歳代』は5割を超えている。

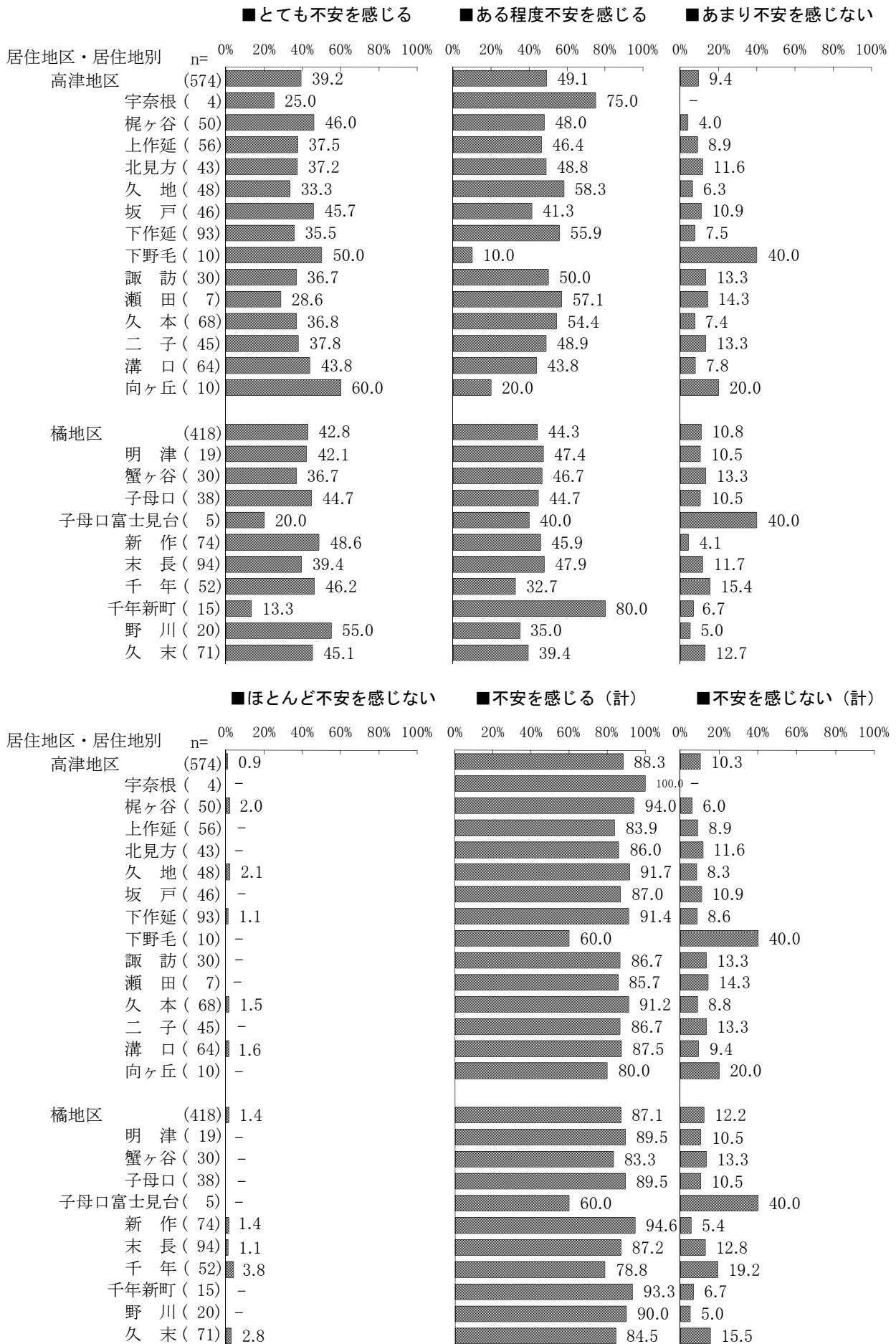
「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」を合わせた「不安を感じる(計)」では、『女性』の方が『男性』よりも9.6ポイント高くなっている。

図 44-3 同居家族人数別／子どもの学年別／高齢者世帯別  
／町内会加入別



「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」を合わせた「不安を感じる(計)」は、全ての分析項目で75%を超えて高くなっている。

図 44-4 居住地区・居住地別

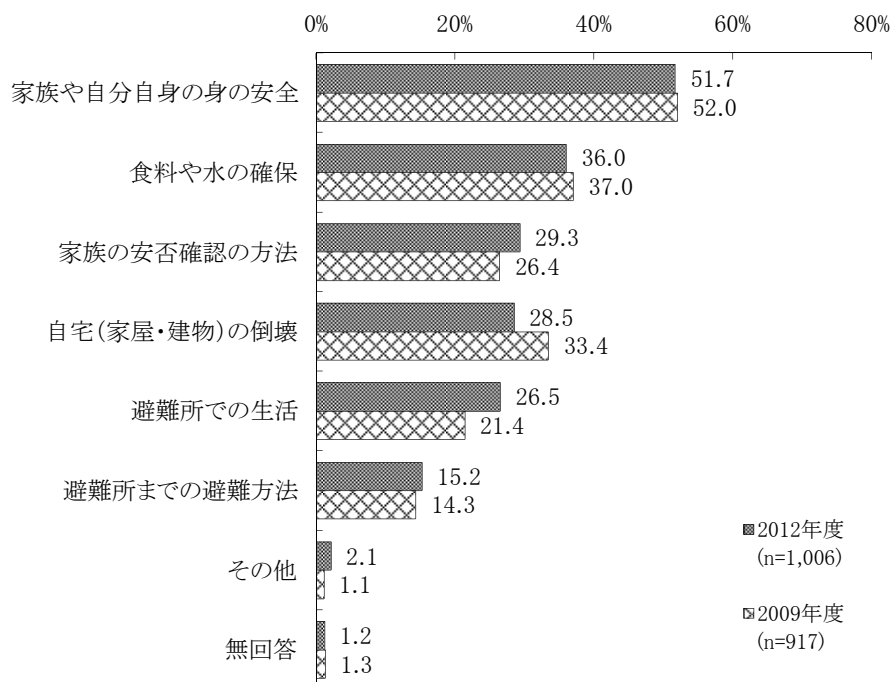


居住地区別をみると、「不安を感じる（計）」で『高津地区』が88.3%、『橘地区』が87.1%となっている。

## (2) 大規模地震発生時の「不安内容」

問42 現在お住まいの地域での大規模地震の発生に対して、特に不安なことは何ですか。  
(2つまで○)

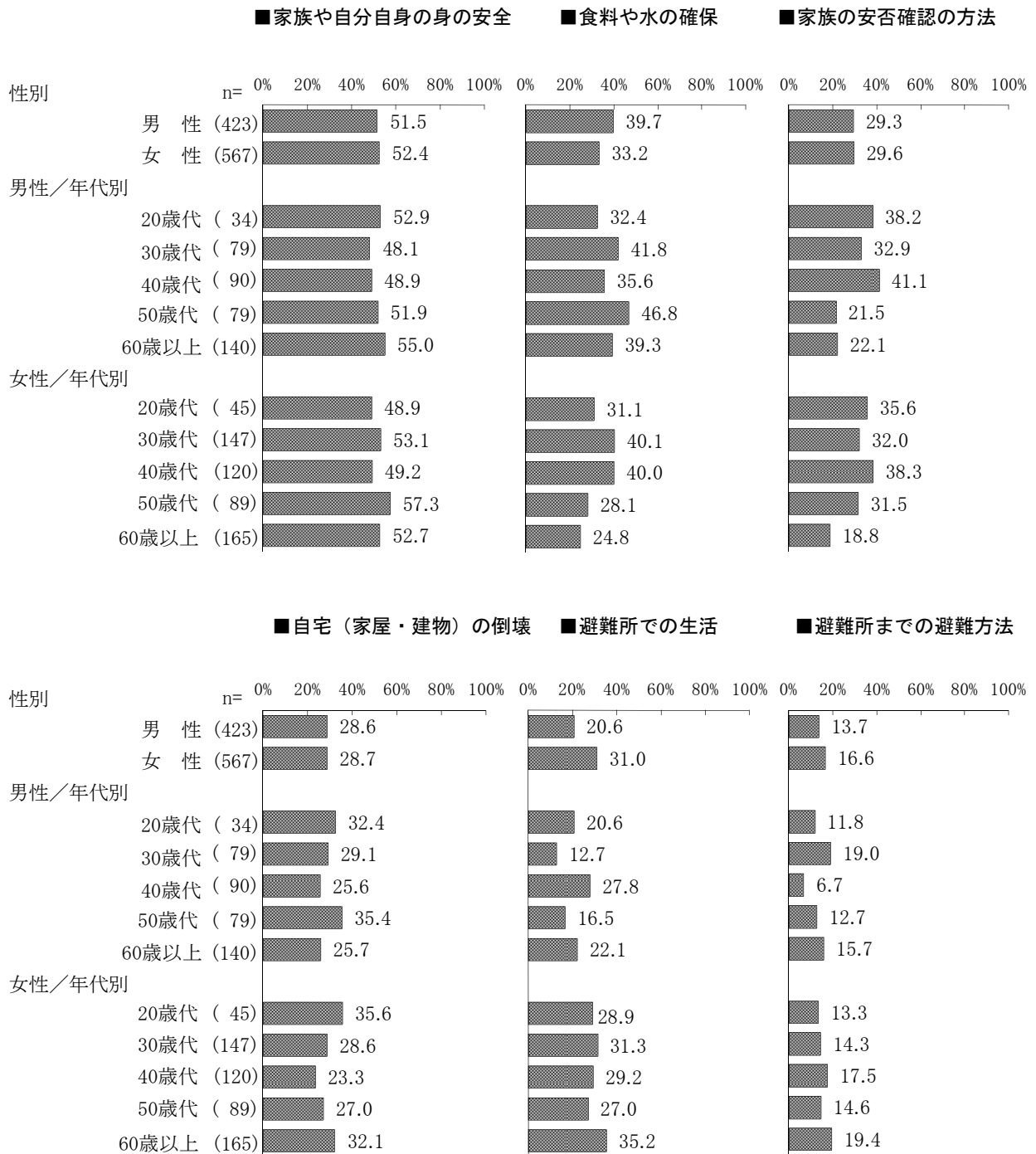
図 45-1



大規模地震発生時の「不安内容」については、「家族や自分自身の身の安全」が51.7%で最も高く、「食料や水の確保」(36.0%)、「家族の安否確認の方法」(29.3%)、「自宅(家屋・建物)の倒壊」(28.5%)、「避難所での生活」(26.5%)、「避難所までの避難方法」(15.2%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「家族の安否確認の方法」が4位から3位へと順位が上がり、「自宅(家屋・建物)の倒壊」が4.9ポイント減少、「避難所での生活」が5.1ポイント増加している。

図 45-2 性別／性年代別



性別では、「食料や水の確保」で『男性』の方が『女性』よりも6.5ポイント高く、「避難所での生活」では『女性』の方が『男性』よりも10.4ポイント高くなっている。

性・年代別では、「家族や自分自身の身の安全」で女性『50歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

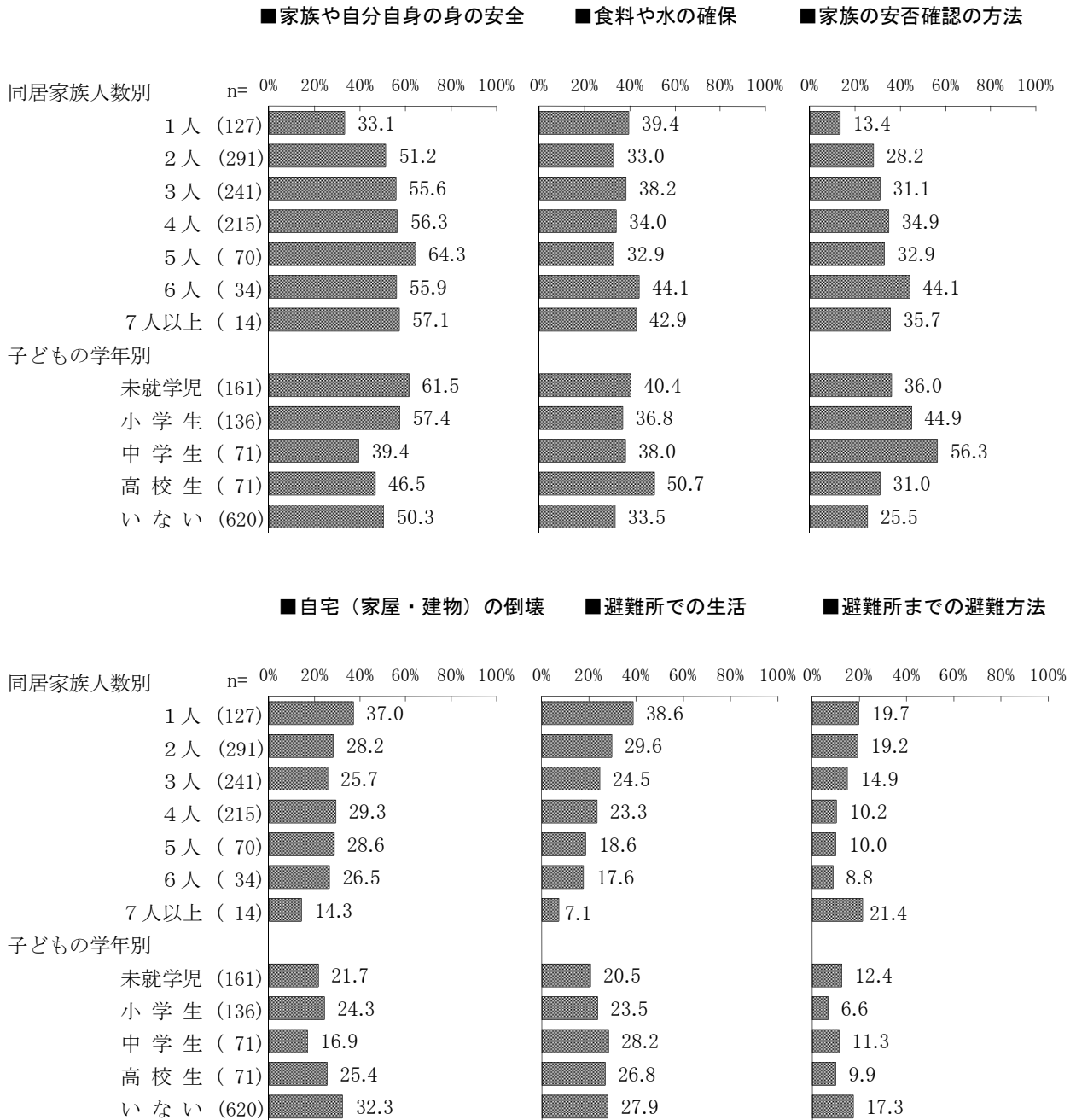
「食料や水の確保」では、男性は『30歳代』と『50歳代』、女性は『30歳代』と『40歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

「家族の安否確認の方法」では、男女ともに『20歳代』と『40歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

「避難所での生活」では、男性は『40歳代』、女性は『60歳以上』が他の年代よりも高くなっている。

「避難所までの避難方法」では、男性は『30歳代』が他の年代よりも高くなっている。

図 45-3 同居家族人数別／子どもの学年別

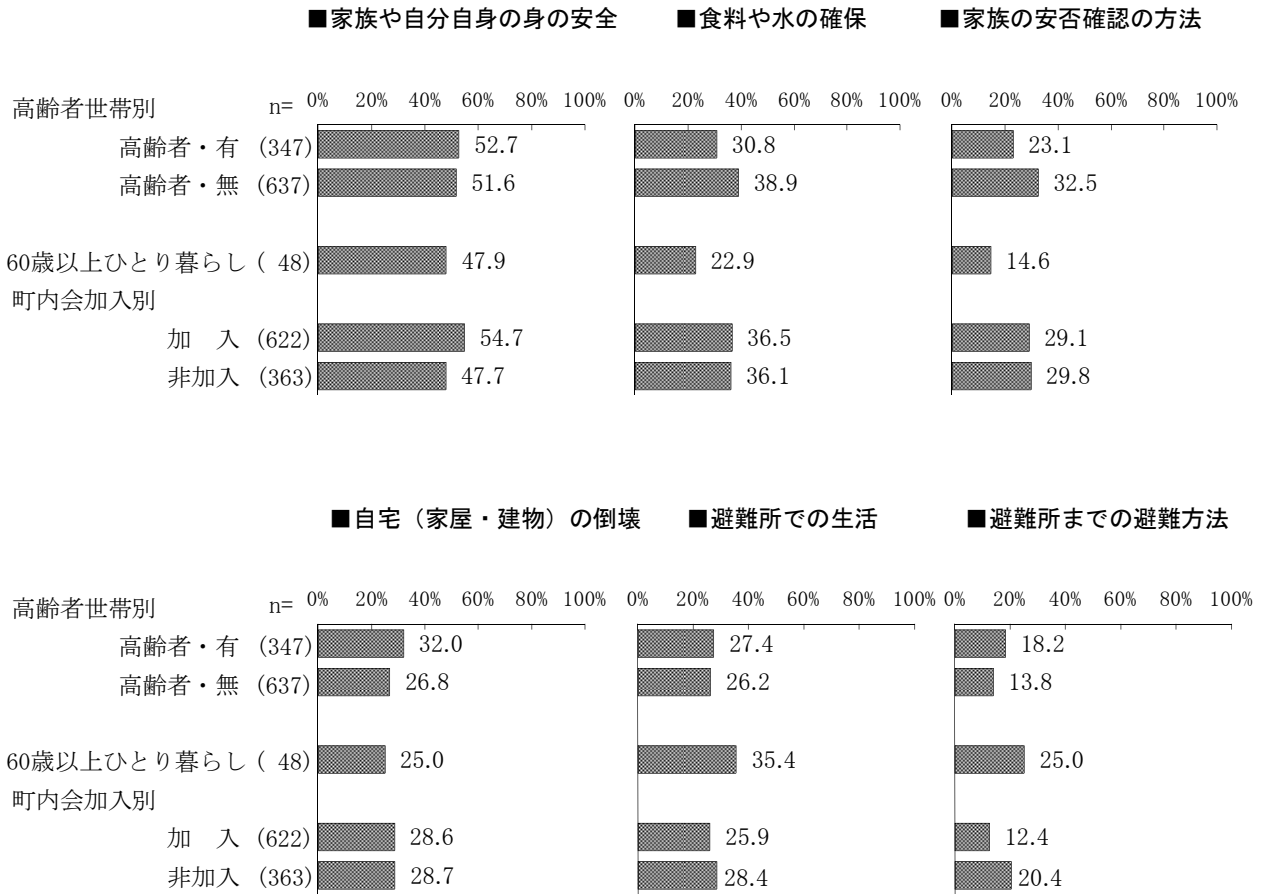


同居家族人数別では、「家族や自分自身の身の安全」と「家族の安否確認の方法」で同居家族の人数が多くなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、「自宅（家屋・建物）の倒壊」「避難所での生活」「避難所までの避難方法」では同居家族の人数が少なくなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

子どもの学年別では、「家族や自分自身の身の安全」で『未就学児』と『小学生』が他の学年よりも高く、「食料や水の確保」では『高校生』が、「家族の安否確認の方法」では『中学生』が他の学年よりも高くなっている。



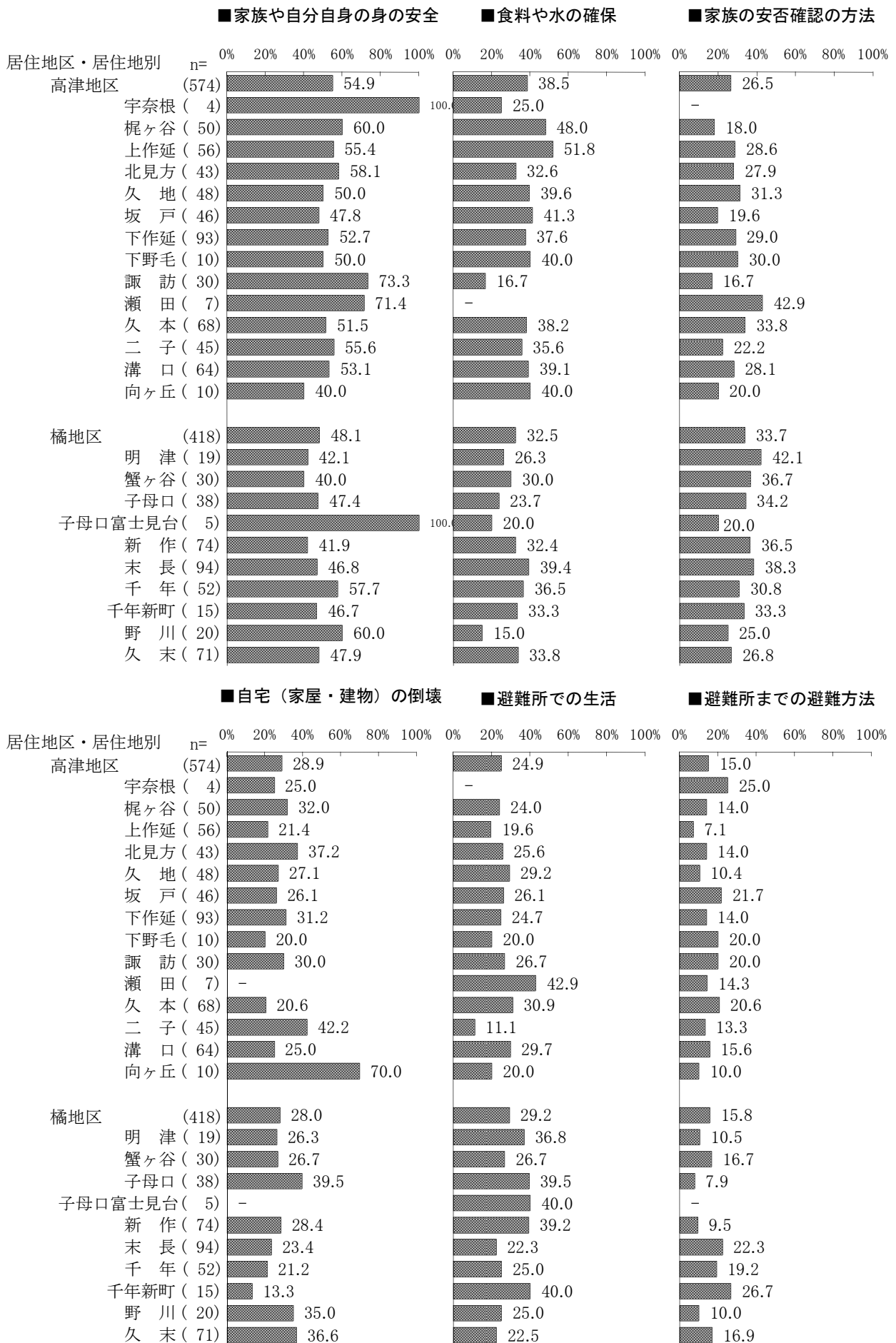
図 45-4 高齢者世帯別／町内会加入別



高齢者世帯別では、「自宅（家屋・建物）の倒壊」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも5.2ポイント高く、同様に「避難所までの避難方法」では『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも4.4ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「家族や自分自身の身の安全」が47.9%と最も高く、次いで「避難所での生活」（35.4%）、「自宅（家屋・建物）の倒壊」（25.0%）、「避難所までの避難方法」（25.0%）、「食料や水の確保」（22.9%）、「家族の安否確認の方法」（14.6%）と続いている。

図 45-4 居住地区・居住地別

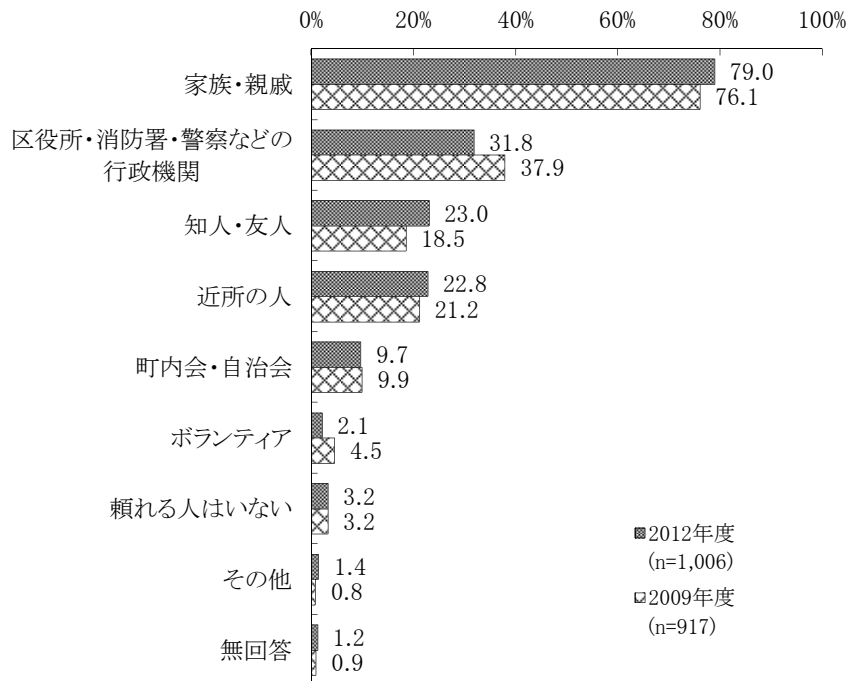


居住地区別では、「家族や自分自身の身の安全」と「食料や水の確保」で『高津地区』の方が『橋地区』よりも高く、「家族の安否確認の方法」と「避難所での生活」では『橋地区』の方が『高津地区』よりも高くなっている。

### (3) 大規模地震発生後に「頼る人」

問43 大規模地震の発生直後に、あなたは誰を頼りにすると思いますか。(2つまで○)

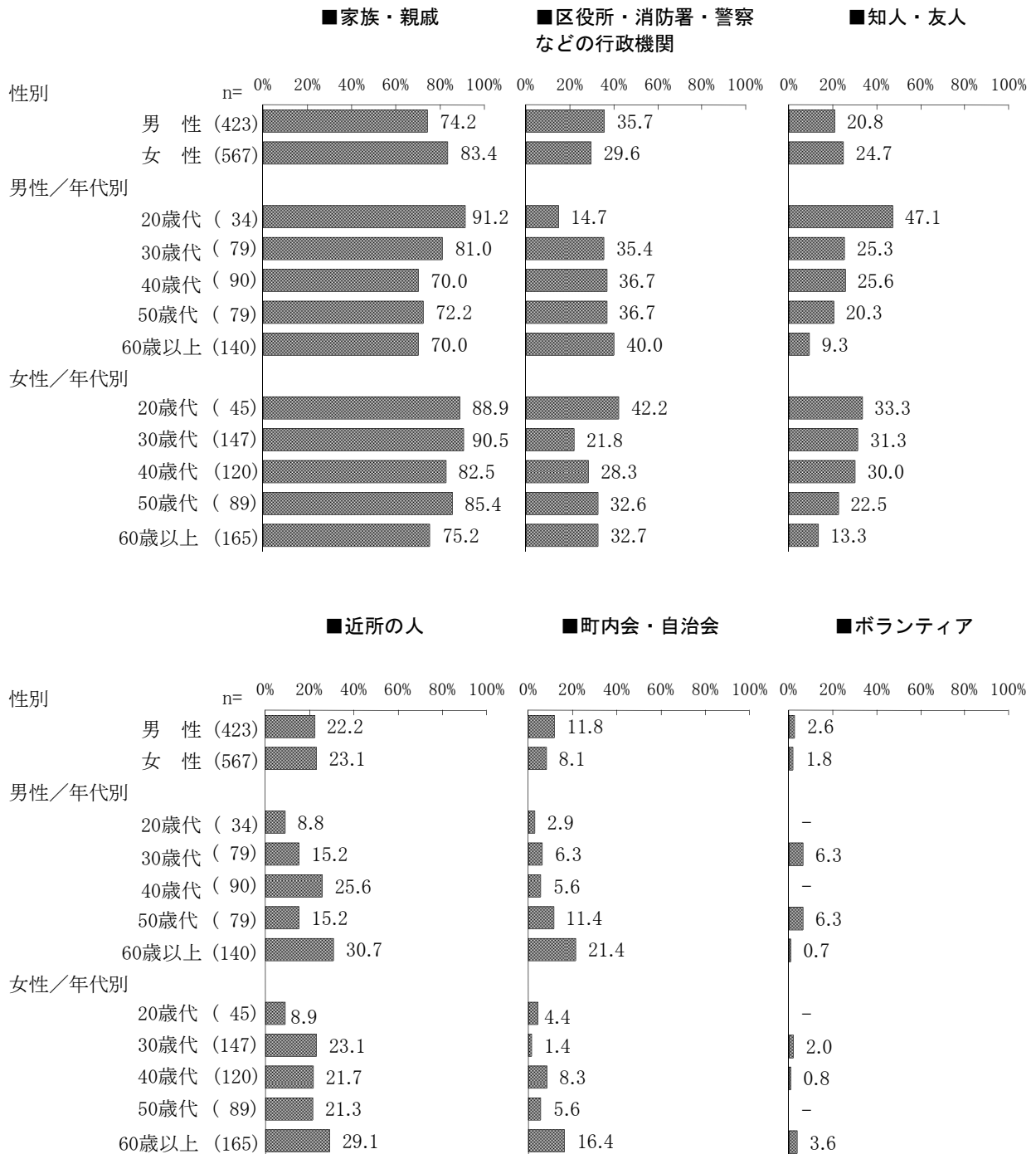
図 46-1



大規模地震発生後に「頼る人」については、「家族・親戚」が79.0%で最も高くなっている。次いで、「区役所・消防署・警察などの行政機関」(31.8%)、「知人・友人」(23.0%)、「近所の人」(22.8%)、「町内会・自治会」(9.7%)、「ボランティア」(2.1%)の順となっており、「頼れる人はいない」は3.2%となっている。

2009年度と比較すると、「区役所・消防署・警察などの行政機関」は6.1ポイント減少しており、「知人・友人」は4.5ポイント増加で4位から3位へと順位が上がっている。

図 46-2 性別／性年代別（上位6項目）



性別では、「家族・親戚」「知人・友人」で『女性』の方が『男性』よりも高く、「区役所・消防署・警察などの行政機関」「町内会・自治会」で『男性』の方が『女性』よりも高くなっている。

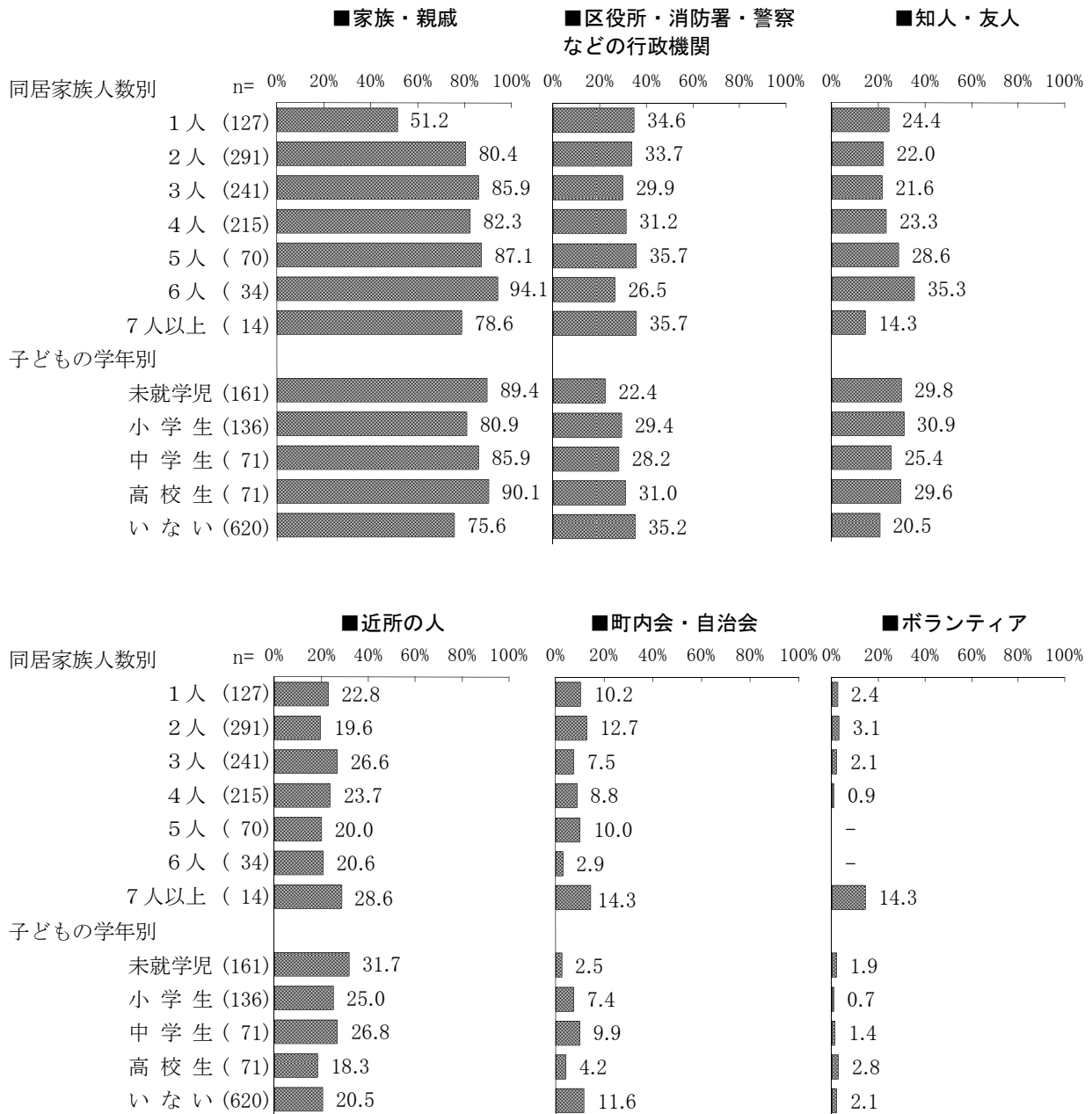
性・年代別では、「家族・親戚」で『女性』の方が『男性』よりも9.2ポイント高く、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「区役所・消防署・警察などの行政機関」では、『男性』の方が『女性』よりも6.1ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。また、女性『20歳代』は42.2%と最も高い。

「知人・友人」では、『女性』の方が『男性』よりも3.9ポイント高く、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「近所の人」と「町内会・自治会」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

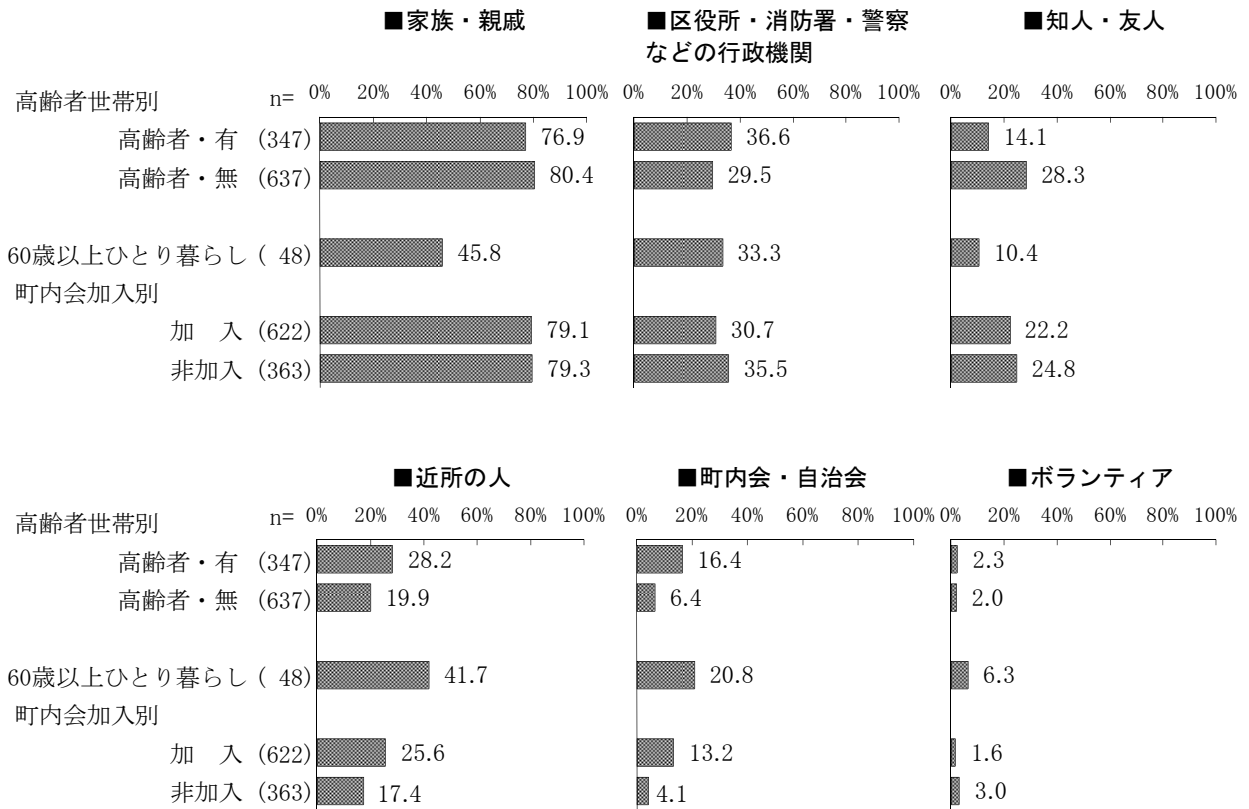
図 46-3 同居家族人数別／子どもの学年別（上位6項目）



同居家族人数別では、「家族・親戚」と「知人・友人」で同居家族の人数が多くなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

子どもの学年別では、「区役所・消防署・警察などの行政機関」で学年が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、反対に「近所の人」では学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

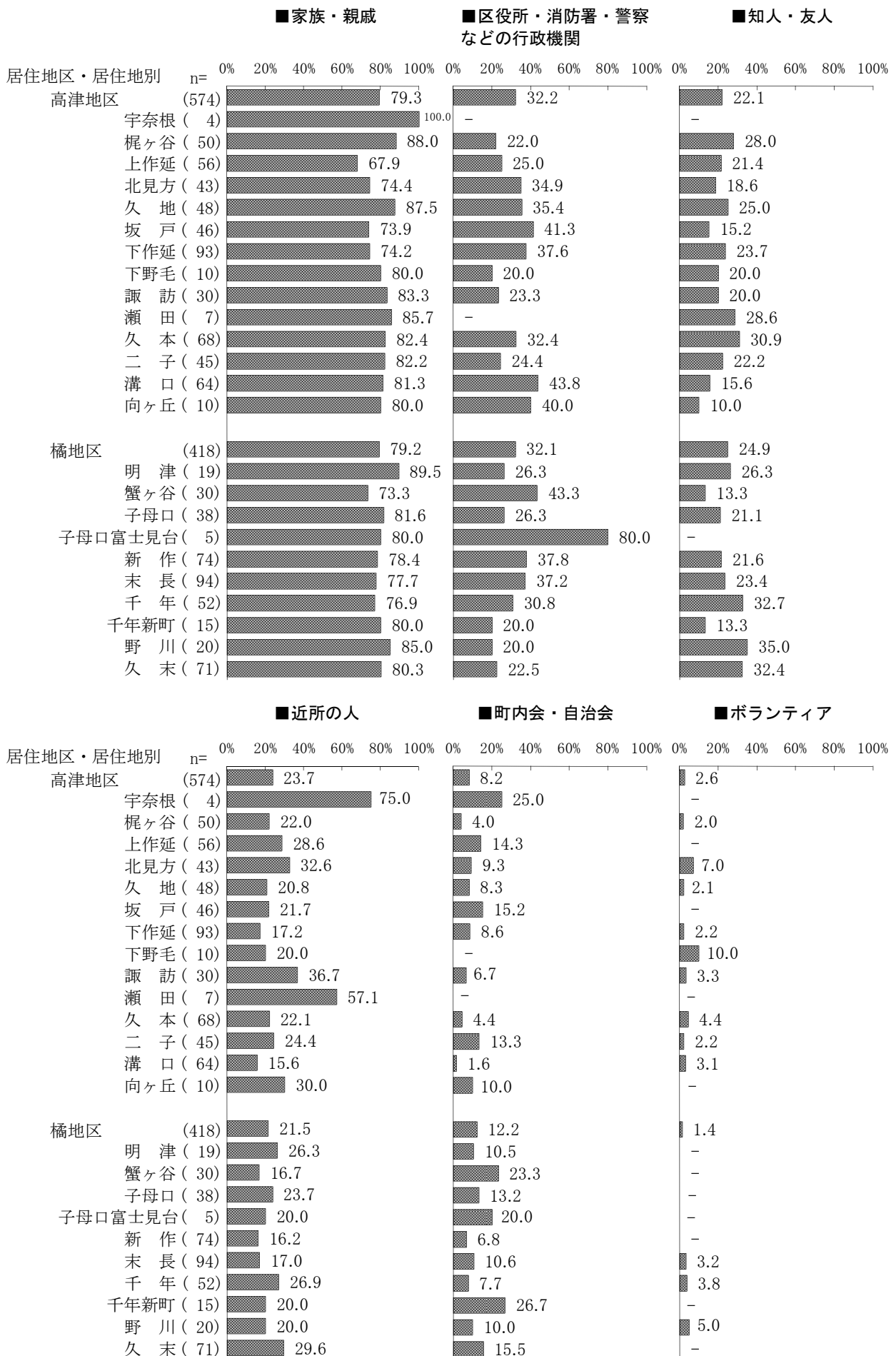
図 46-4 高齢者世帯別／町内会加入別（上位6項目）



高齢者世帯別では、「区役所・消防署・警察などの行政機関」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも7.1ポイント高く、同様に「近所の人」で8.3ポイント、「町内会・自治会」で10ポイント、『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「家族・親戚」が45.8%と最も高く、次いで「近所の人」（41.7%）、「区役所・消防署・警察などの行政機関」（33.3%）、「町内会・自治会」（20.8%）、「知人・友人」（10.4%）、「ボランティア」（6.3%）と続いている。

図 46-4 居住地区・居住地別（上位6項目）

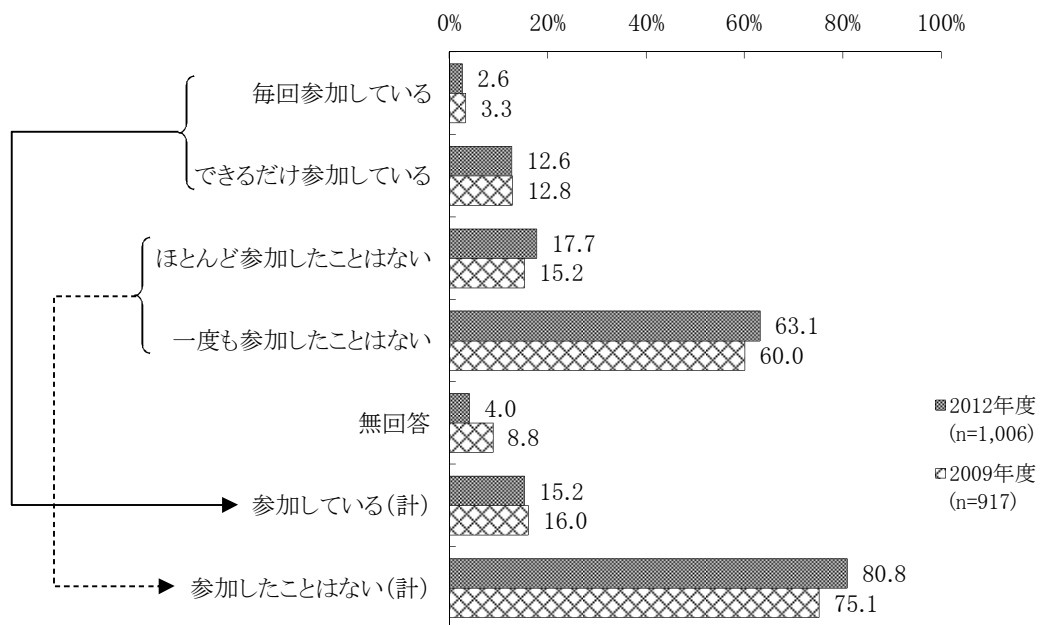


居住地区別では、「町内会・自治会」で『橋地区』の方が『高津地区』よりも4ポイント高く、橋地区の『蟹ヶ谷』は23.3%と他の地域よりも高くなっている。

#### (4) 町内会・自治会主催の防災訓練参加有無

問44 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。  
(1つだけ○)

図 47-1

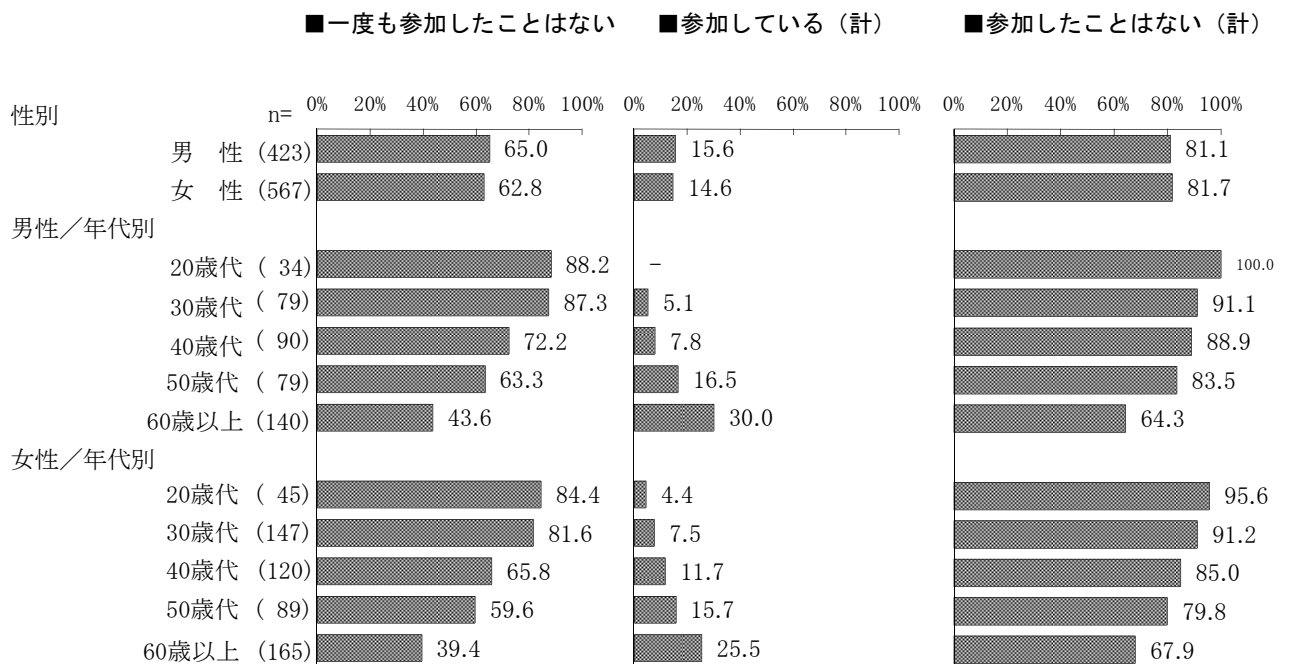
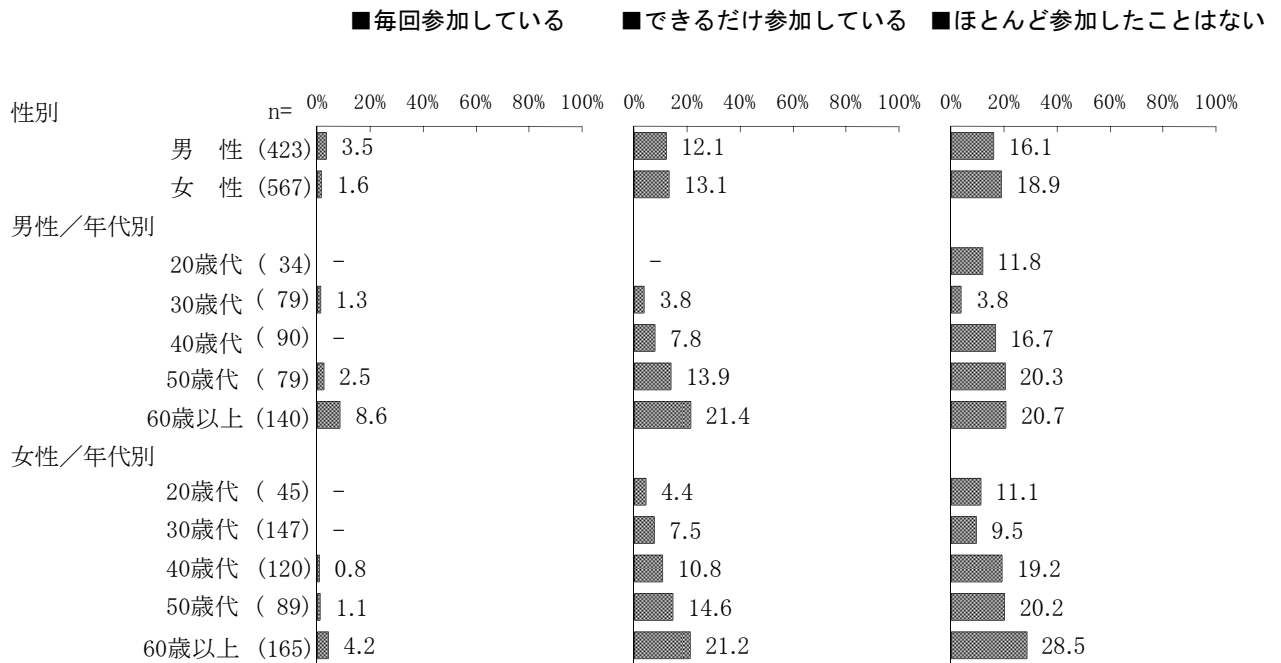


町内会・自治会主催の防災訓練に参加しているかどうかを尋ねたところ、「毎回参加している」が2.6%、「できるだけ参加している」が12.6%、「ほとんど参加したことはない」が17.7%、「一度も参加したことはない」が63.1%となっている。また、「毎回参加している」と「できるだけ参加している」を合わせた『参加している(計)』は15.2%、「ほとんど参加したことはない」と「一度も参加したことはない」を合わせた『参加したことはない(計)』は80.8%となっている。

2009年度と比較すると、「一度も参加したことはない」は3.1ポイント増加、「参加したことはない(計)」は5.4ポイント増加している。

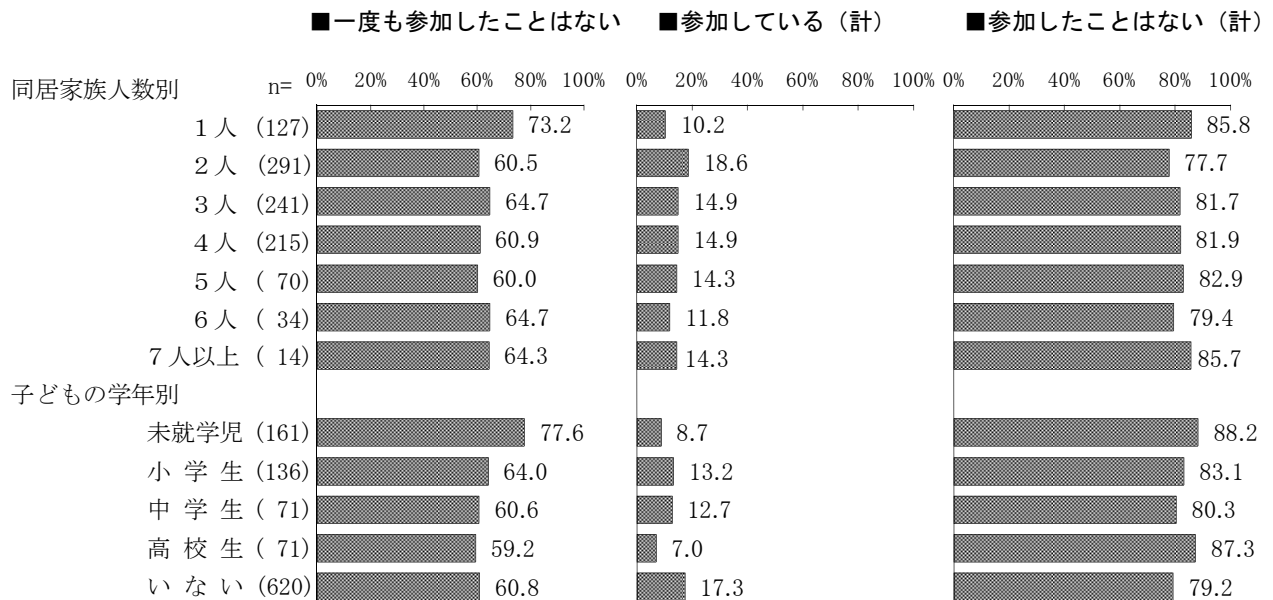
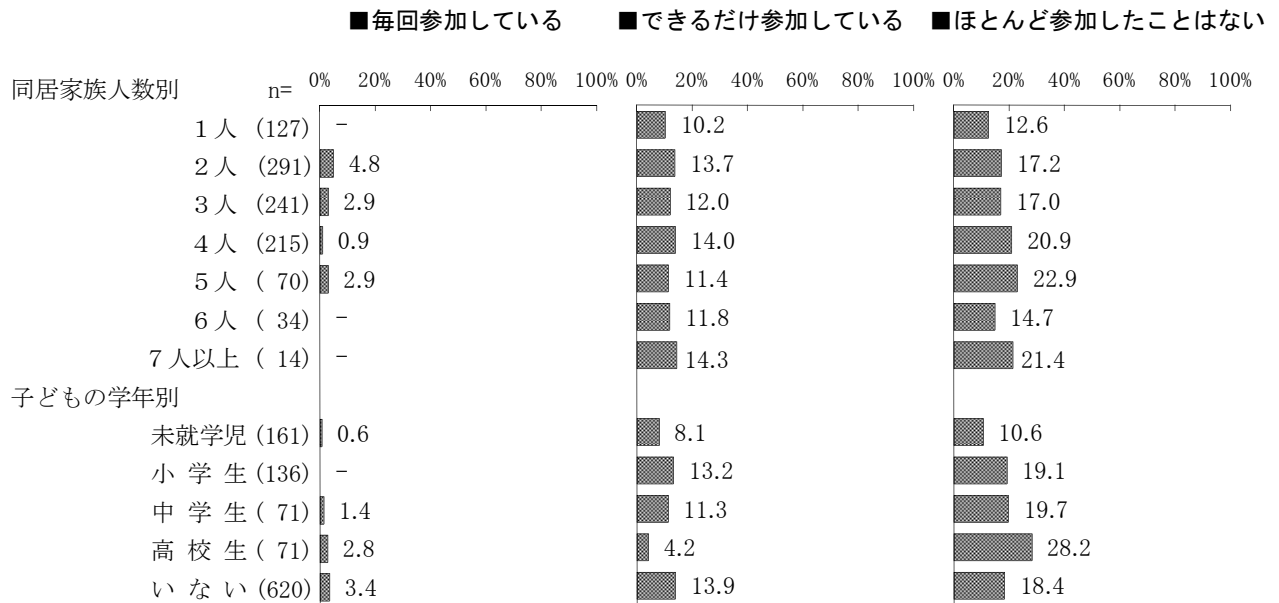


図 47-2 性別／性年代別



性・年代別では、「毎回参加している」と「できるだけ参加している」を合わせた「参加している(計)」で、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男性『60歳以上』が3割と最も高くなっている。反対に「ほとんど参加したことはない」と「一度も参加したことはない」を合わせた「参加したことはない(計)」で、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、男性『20歳代』は回答者全員が参加経験がないことがわかる。

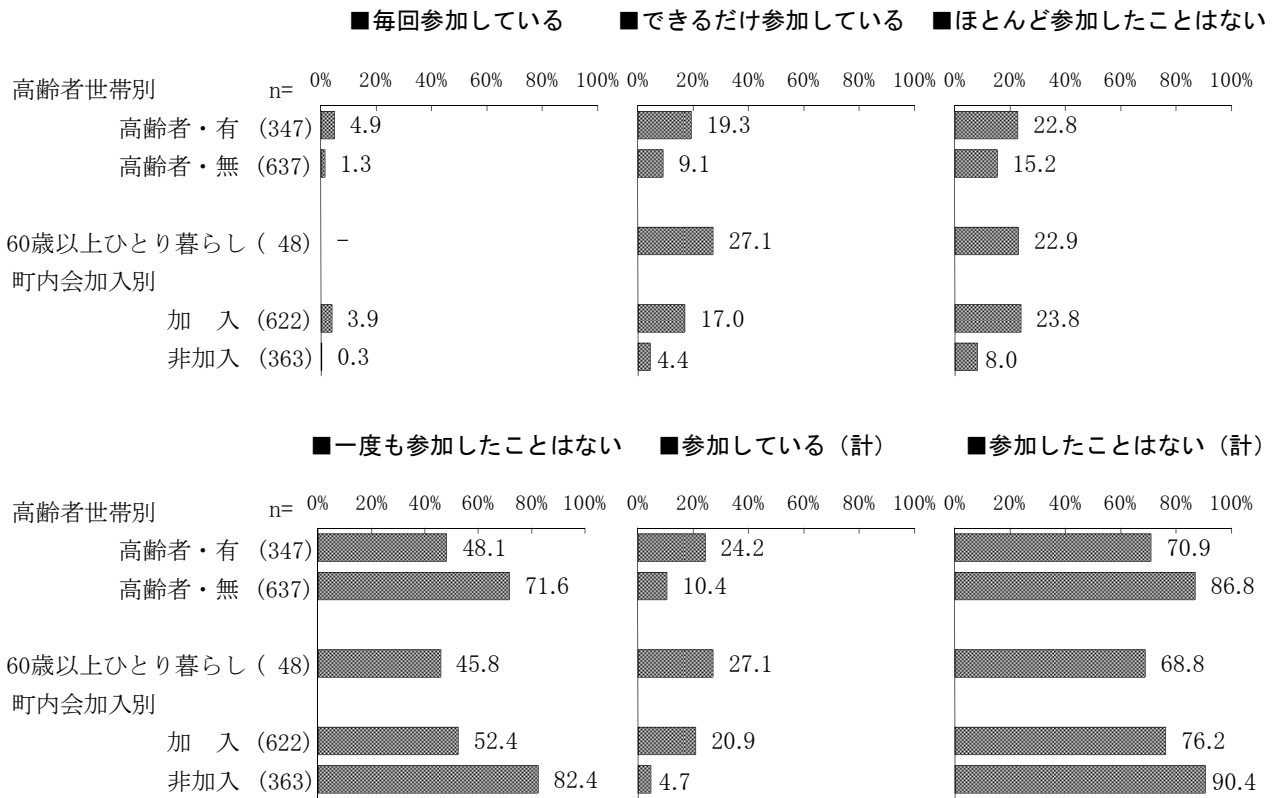
図 47-3 同居家族人数別／子どもの学年別／高齢者世帯別  
／町内会加入別



同居家族人数別では、「一度も参加したことはない」で『1人』が7割を超えている。

子どもの学年別では、「一度も参加したことはない」で『未就学』が77.6%と最も高くなっている。

図 47-3 同居家族人数別／子どもの学年別／高齢者世帯別  
／町内会加入別

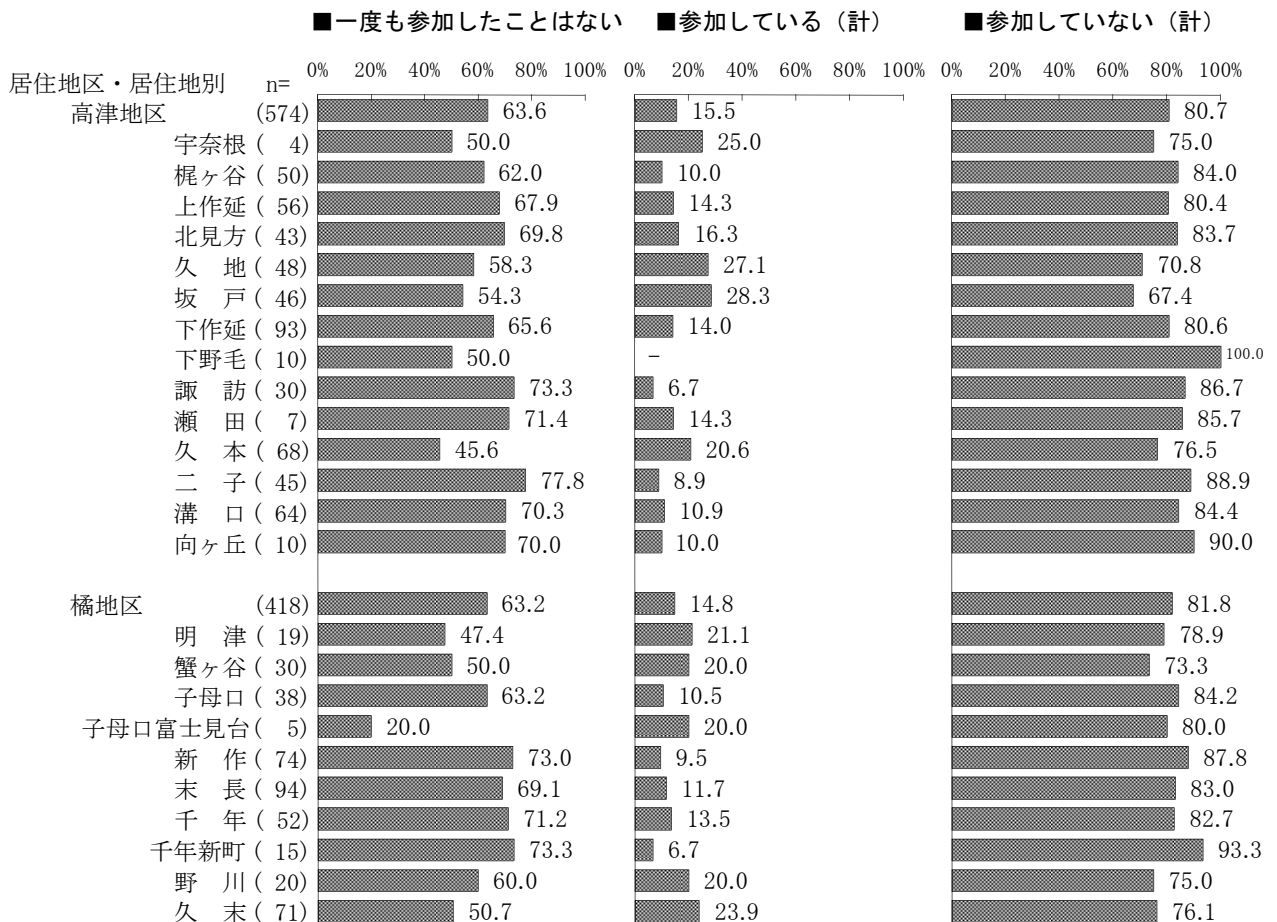
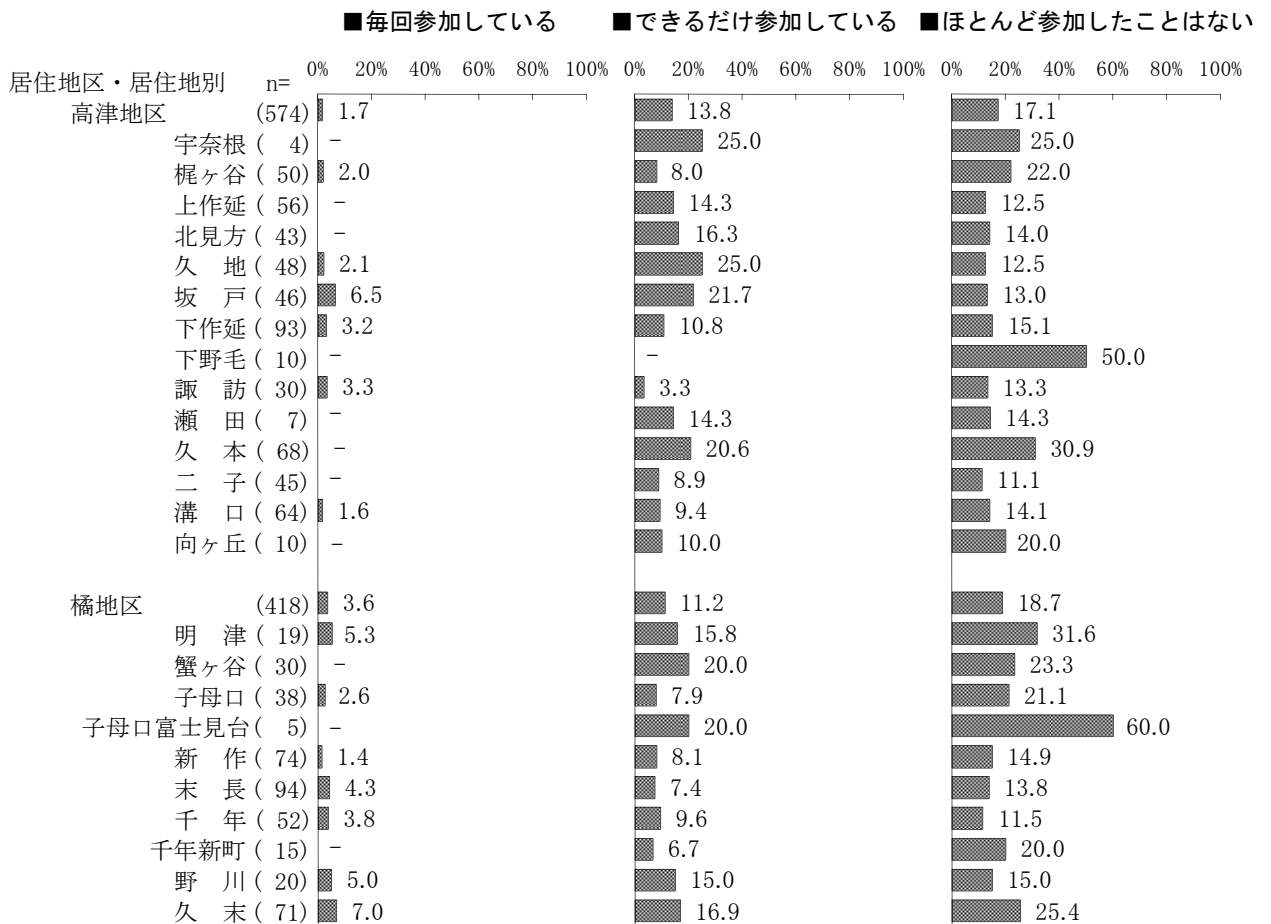


高齢者世帯別では、「参加している(計)」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも13.8ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「参加している(計)」で27.1%となっている。

町内会加入別では、「参加している(計)」で『加入』の方が『非加入』よりも16.2ポイント高くなっている。

図 47-4 居住地区・居住地別

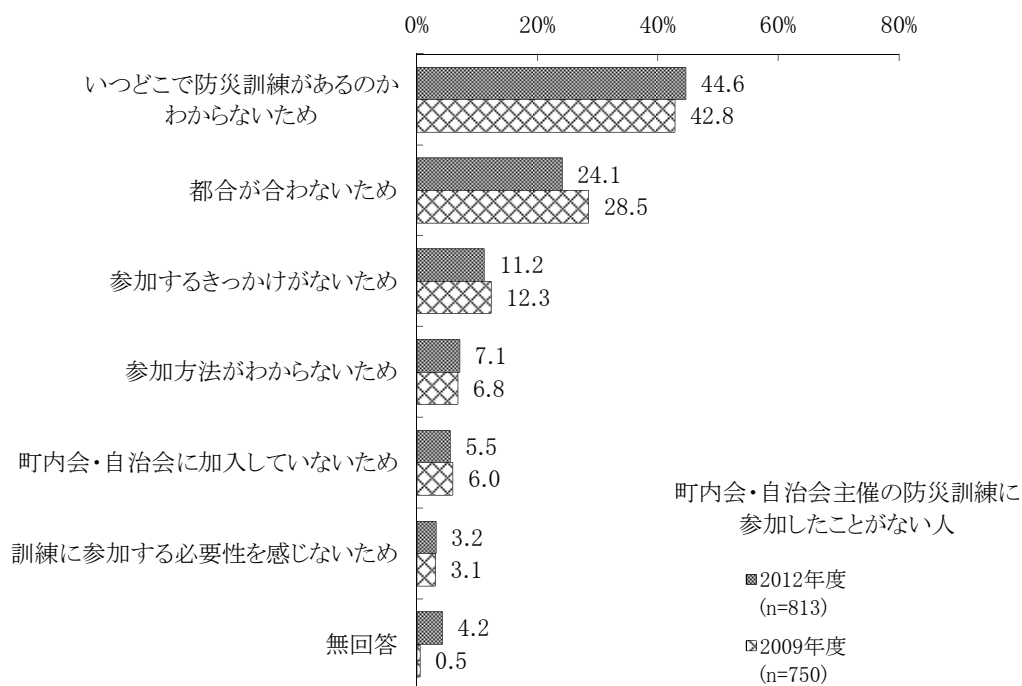


居住地別では、「参加している (計)」で高津地区の『久作』と『坂戸』が他の地域よりも高く、「参加していない (計)」で高津地区の『二子』と橘地区の『新作』が他の地域よりも高くなっている。

### (5) 町内会・自治会主催の防災訓練に参加しない理由

《問44で「3. ほとんど参加したことはない」「4. 一度も参加したことはない」を選択した方にうかがいます》  
 問45 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。(1つだけ○)

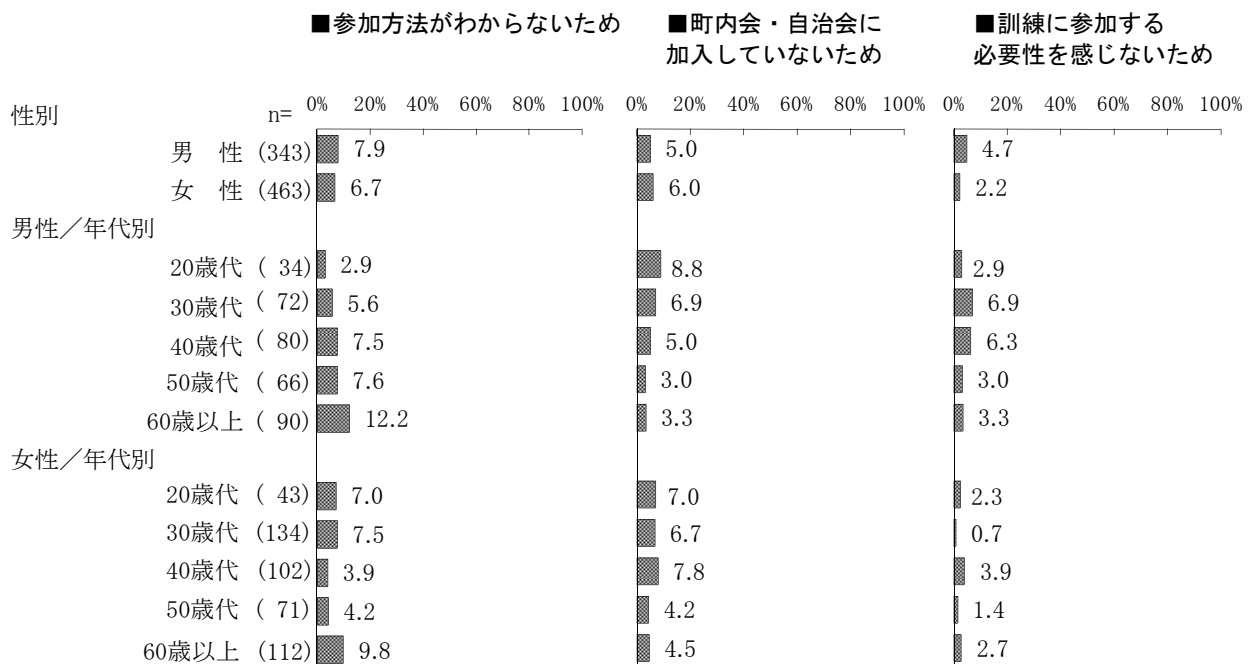
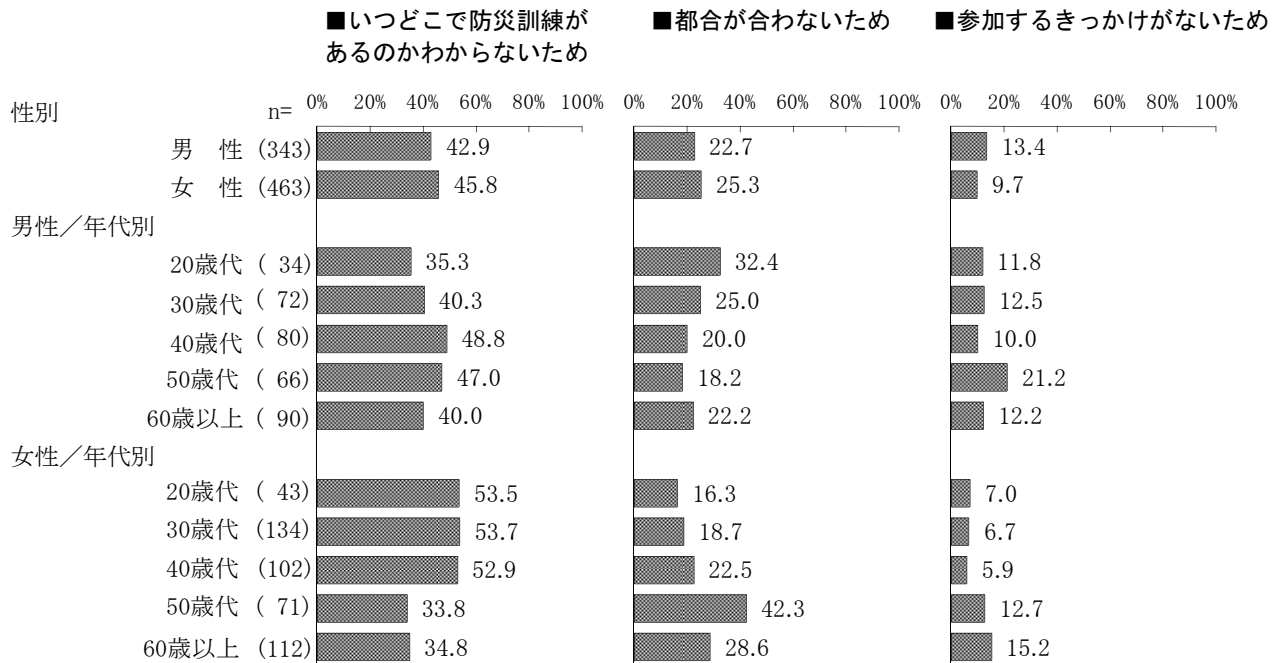
図 48-1



町内会・自治会主催の防災訓練に参加しない理由を尋ねたところ、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」が44.6%と最も高く、次いで、「都合が合わないため」(24.1%)、「参加するきっかけがないため」(11.2%)、「参加方法がわからないため」(7.1%)、「町内会・自治会に加入していないため」(5.5%)、「訓練に参加する必要性を感じないため」(3.2%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「都合が合わないため」が4.4ポイント減少している。

図 48-2 性別／性年代別



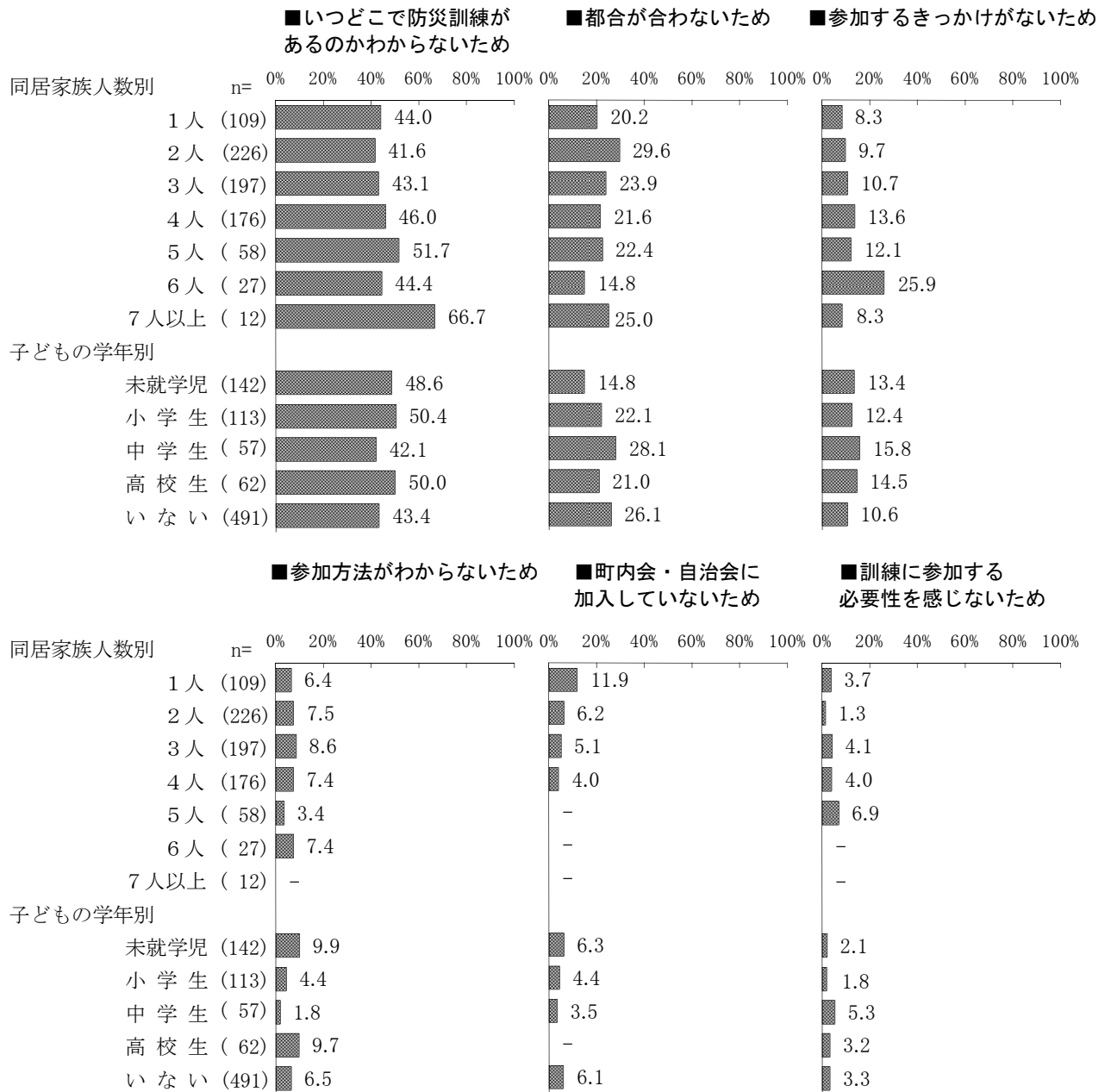
性別では、「参加するきっかけがないため」で『男性』の方が『女性』よりも3.7ポイント高くなっている。

性・年代別では、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」で女性の『20歳代』『30歳代』『40歳代』が5割を超えている。

「都合が合わないため」では、男性は年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。また、女性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、女性『50歳代』は4割を超えている。

「参加するきっかけがないため」では、男性『50歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

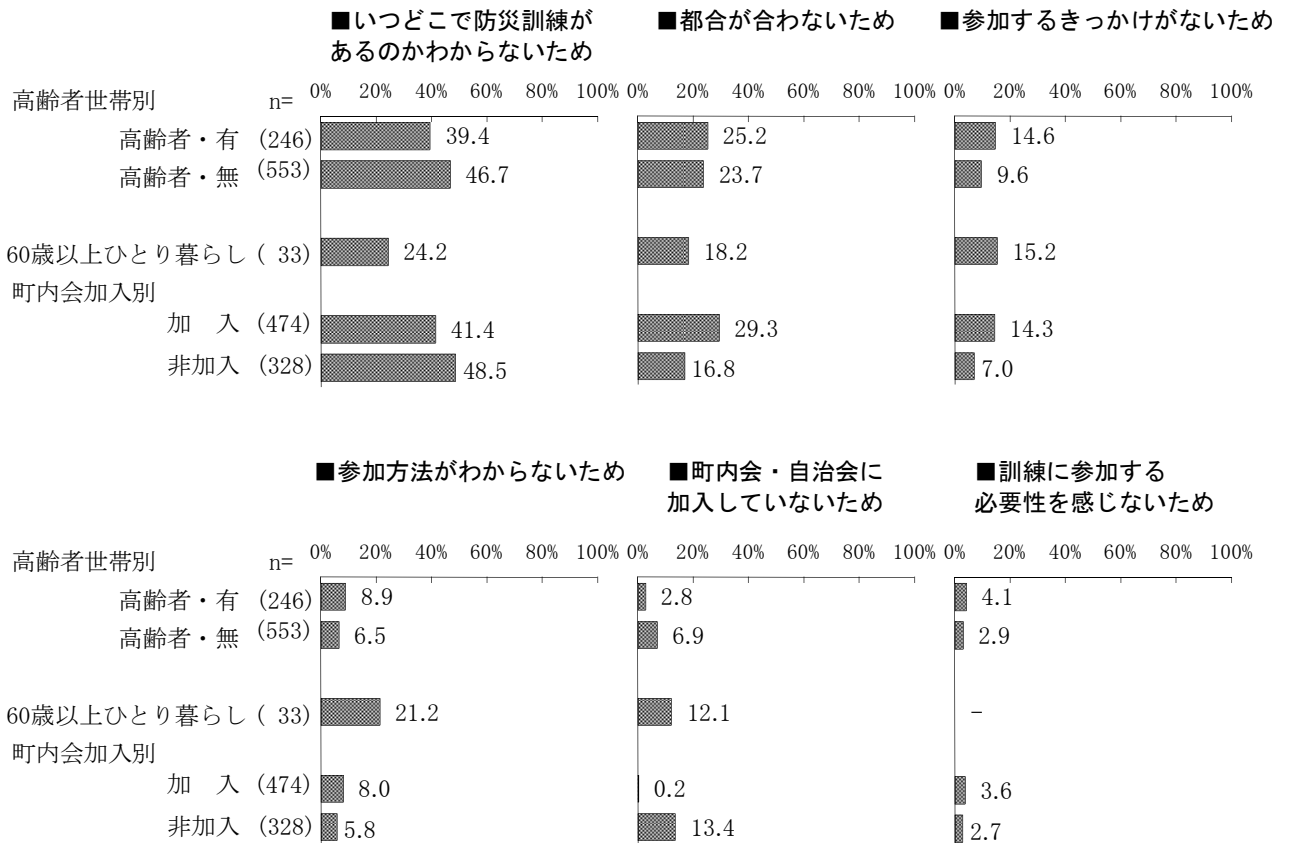
図 48-3 同居家族人数別／子どもの学年別



同居家族人数別では、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」と「参加するきっかけがないため」で同居家族の人数が増えるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、「都合が合わないため」と「町内会・自治会に加入していないため」では同居家族の人数が少なくなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

子どもの学年別では、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」で『小学生』と『高校生』が5割を超えている。

図 48-4 高齢者世帯別／町内会加入別



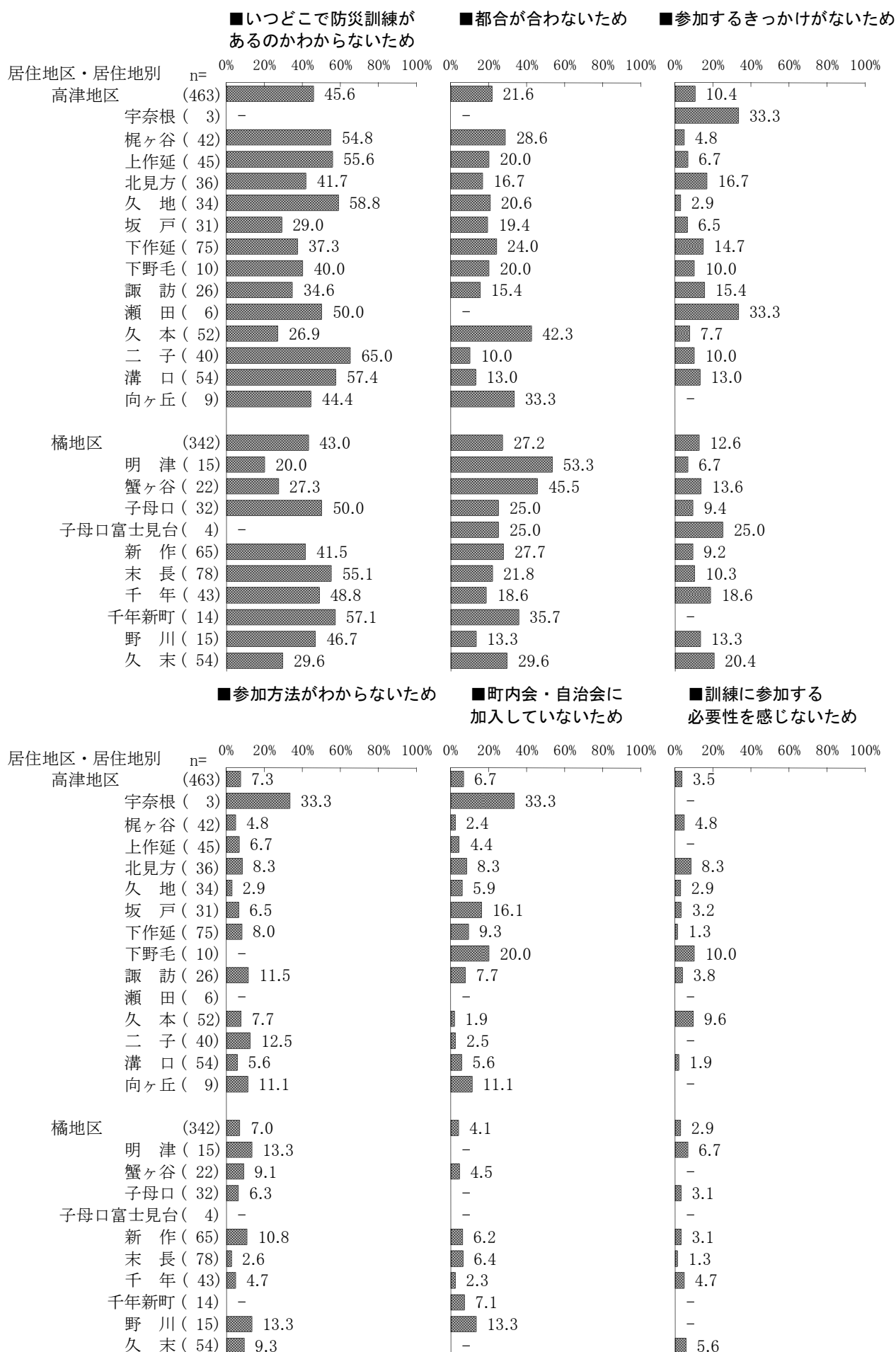
高齢者世帯別では、「参加するきっかけがないため」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも5ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」が24.2%と最も高く、次いで「参加方法がわからないため」(21.2%)、「都合が合わないため」(18.2%)と続いている。

町内会加入別では、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」で『非加入』の方が『加入』よりも7.1ポイント高くなっている。また、「都合が合わないため」では『加入』の方が『非加入』よりも12.5ポイント高く、同様に「参加するきっかけがないため」では『加入』の方が『非加入』よりも7.3ポイント高くなっている。



図 48-5 居住地区・居住地別

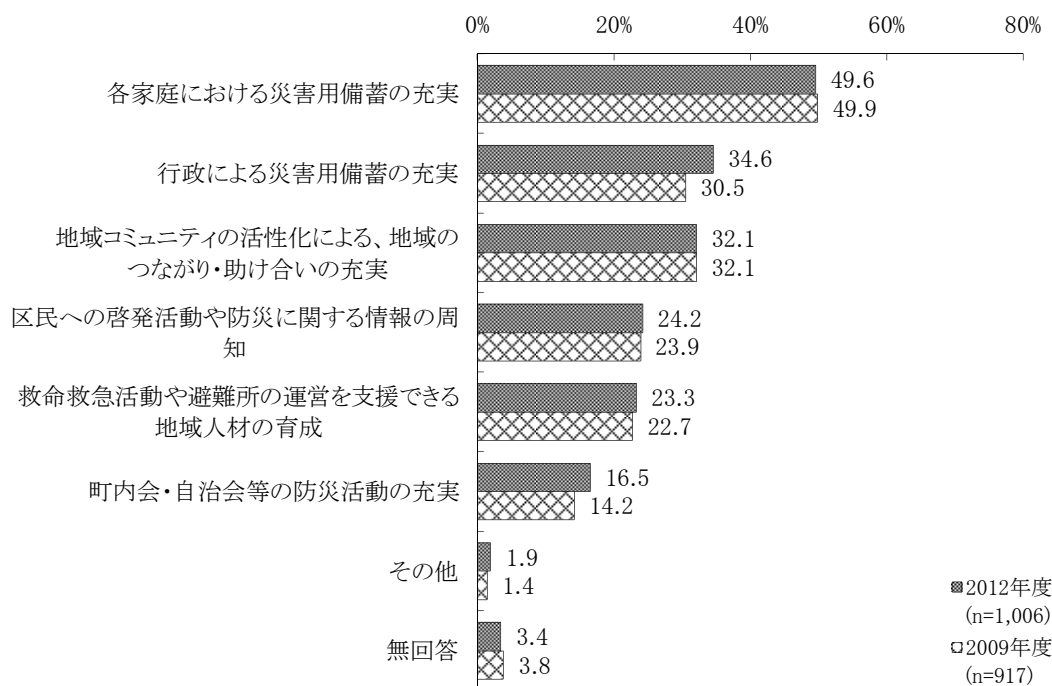


居住地別では、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」で、高津地区の『二子』が65.0%と他の地域よりも高くなっている。

## (6) 防災力を高めるために必要なこと

問46 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。(2つまで○)

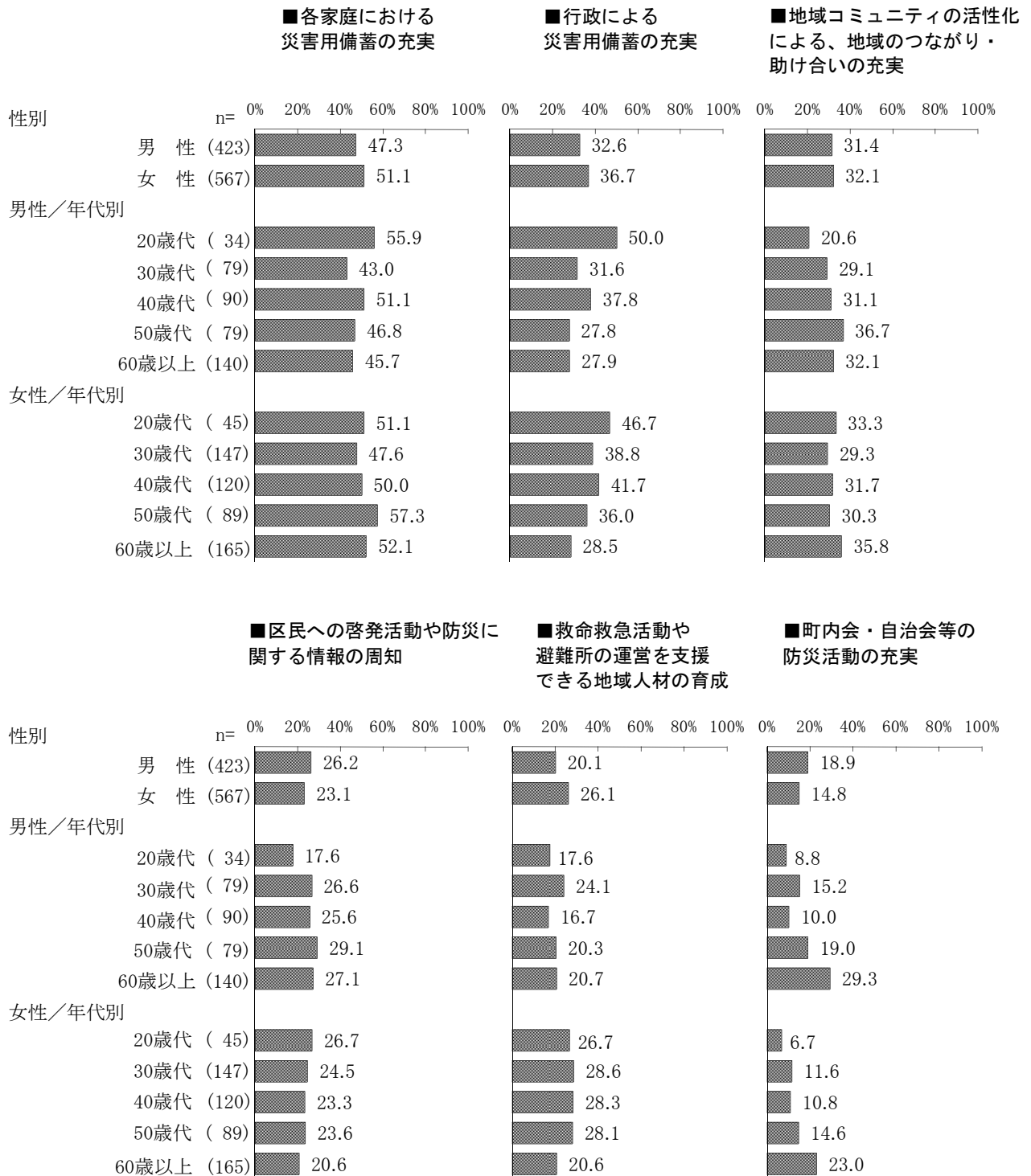
図 49-1



防災力を高めるために必要なことについては、「各家庭における災害用備蓄の充実」が49.6%と最も高くなっている。次いで、「行政による災害用備蓄の充実」(34.6%)、「地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実」(32.1%)、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」(24.2%)、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」(23.3%)、「町内会・自治会等の防災活動の充実」(16.5%)の順となっている。

2009年度と比較すると、「行政による災害用備蓄の充実」が4.1ポイント増加で3位から2位へと順位が上がっている。

図 49-2 性別／性年代別



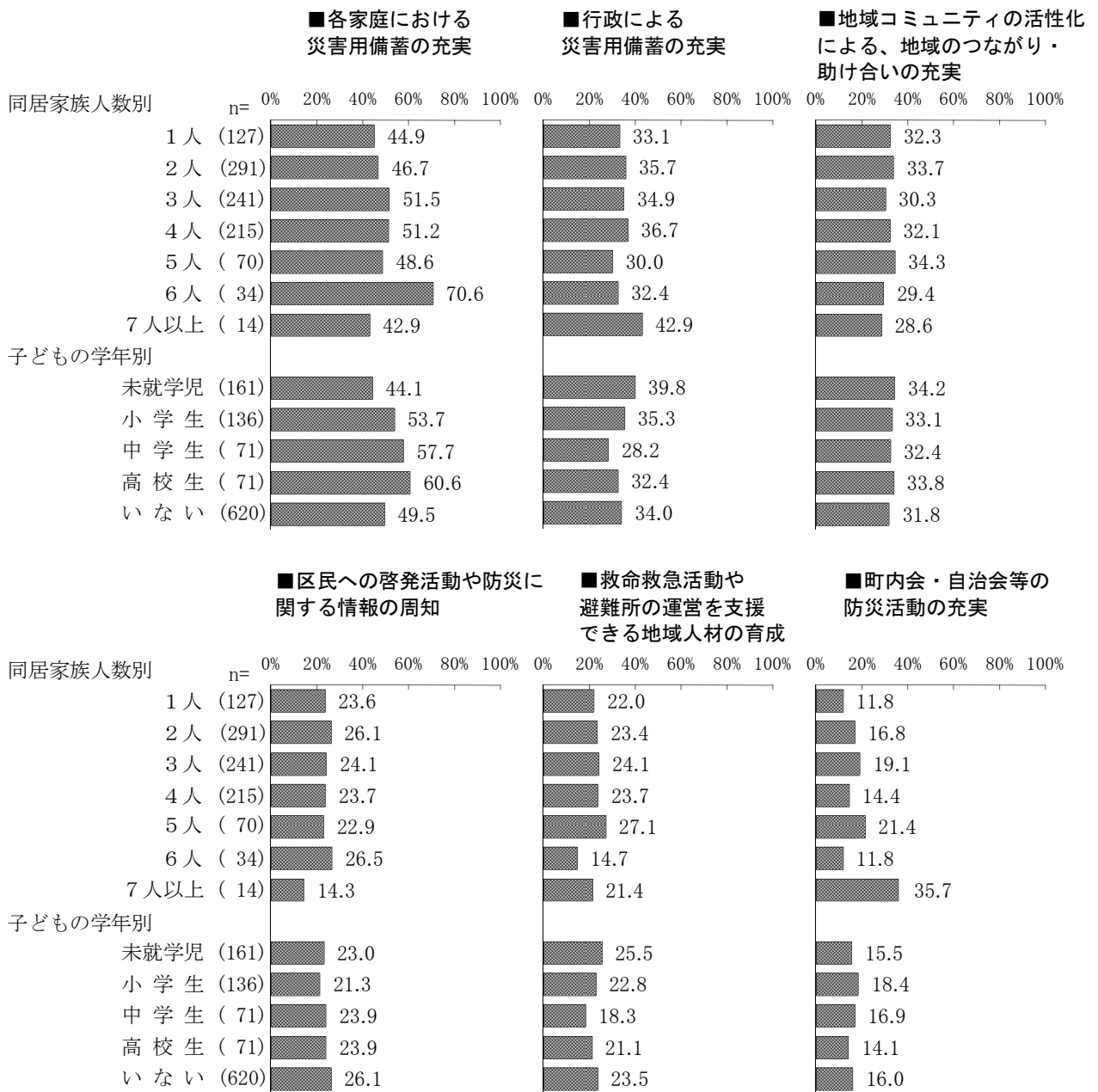
性別では、「各家庭における災害用備蓄の充実」で3.8ポイント、「行政による災害用備蓄の充実」で4.1ポイント、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」で6ポイント、『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。また、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」と「町内会・自治会等の防災活動の充実」では『男性』の方が『女性』よりも3ポイント以上高くなっている。

性・年代別では、「各家庭における災害用備蓄の充実」で男性は『20歳代』、女性は『50歳代』が他の年代に比べて高くなっている。

「行政による災害用備蓄の充実」では、男性『20歳代』が5割と最も高く、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

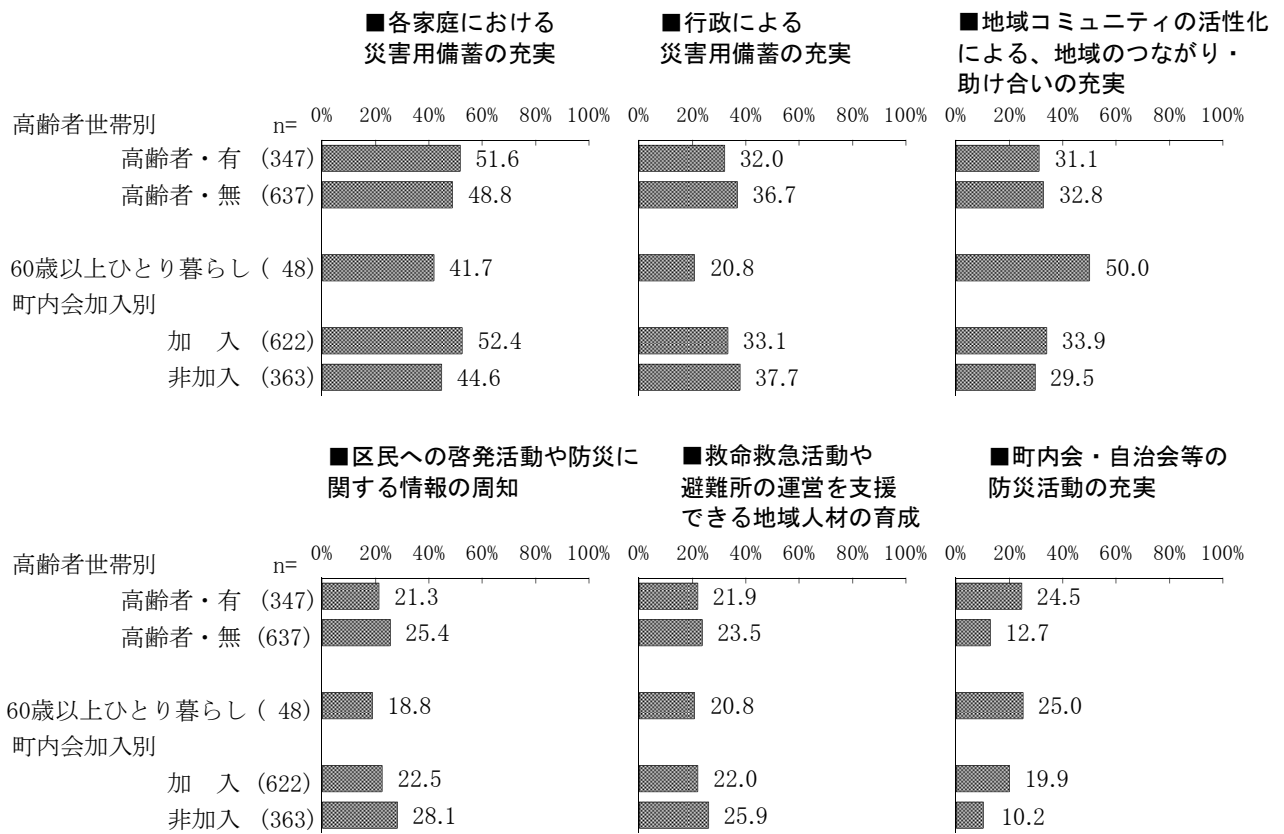
「町内会・自治会等の防災活動の充実」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 49-3 同居家族人数別／子どもの学年別



子どもの学年別では、「各家庭における災害用備蓄の充実」で学年が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、「地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実」では『未就学児』が39.8%と他の学年よりも高くなっている。

図 49-4 高齢者世帯別／町内会加入別

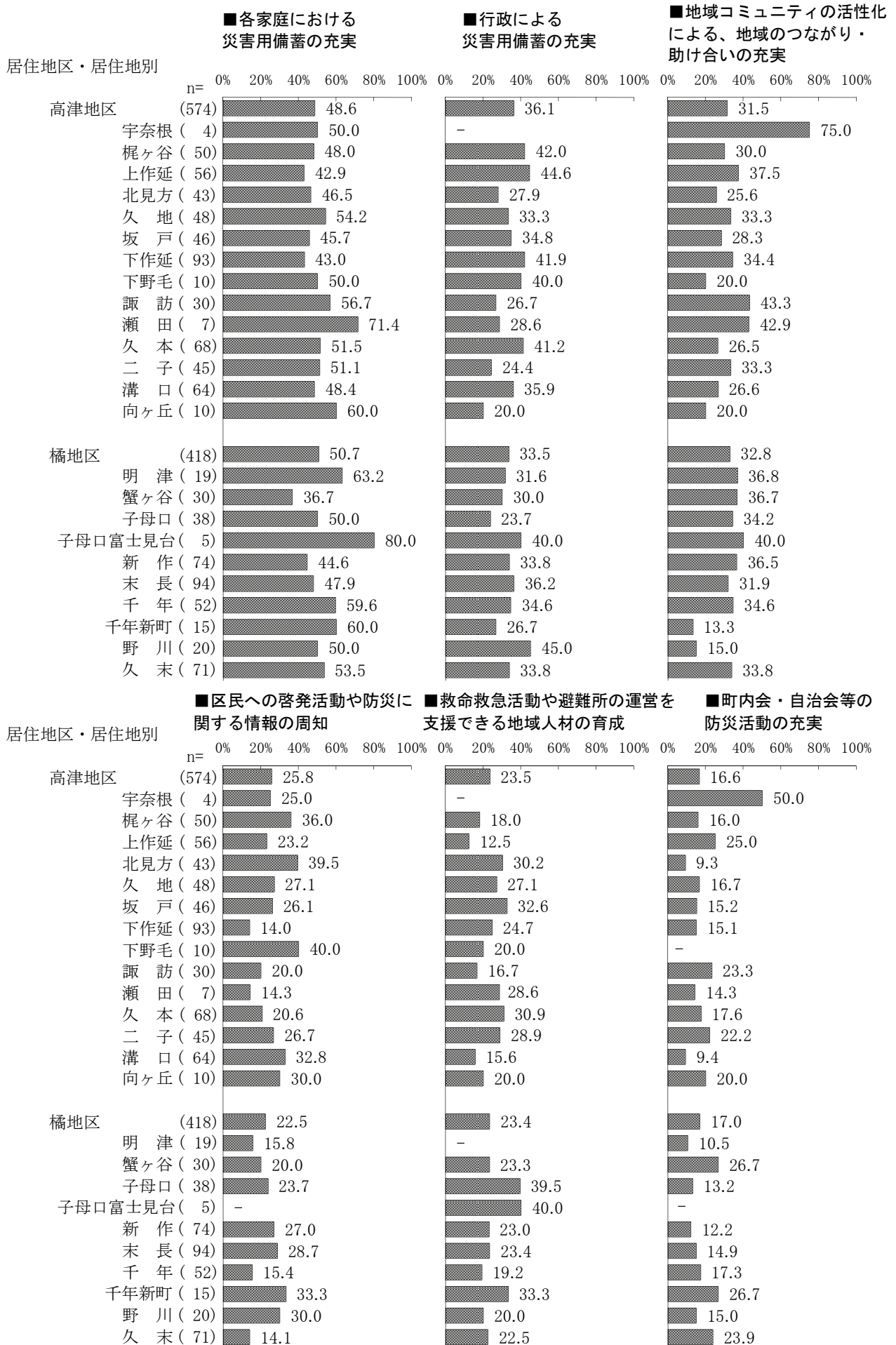


高齢者世帯別では、「町内会・自治会等の防災活動の充実」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも11.8ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実」が50.0%と最も高く、「各家庭における災害用備蓄の充実」（41.7%）、「町内会・自治会等の防災活動の充実」（25.0%）と続いている。

町内会加入別では、「行政による災害用備蓄の充実」で『非加入』の方が『加入』よりも4.6ポイント高く、同様に「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」では『非加入』の方が『加入』より5.6ポイント高くなっている。

図 49-5 居住地区・居住地別

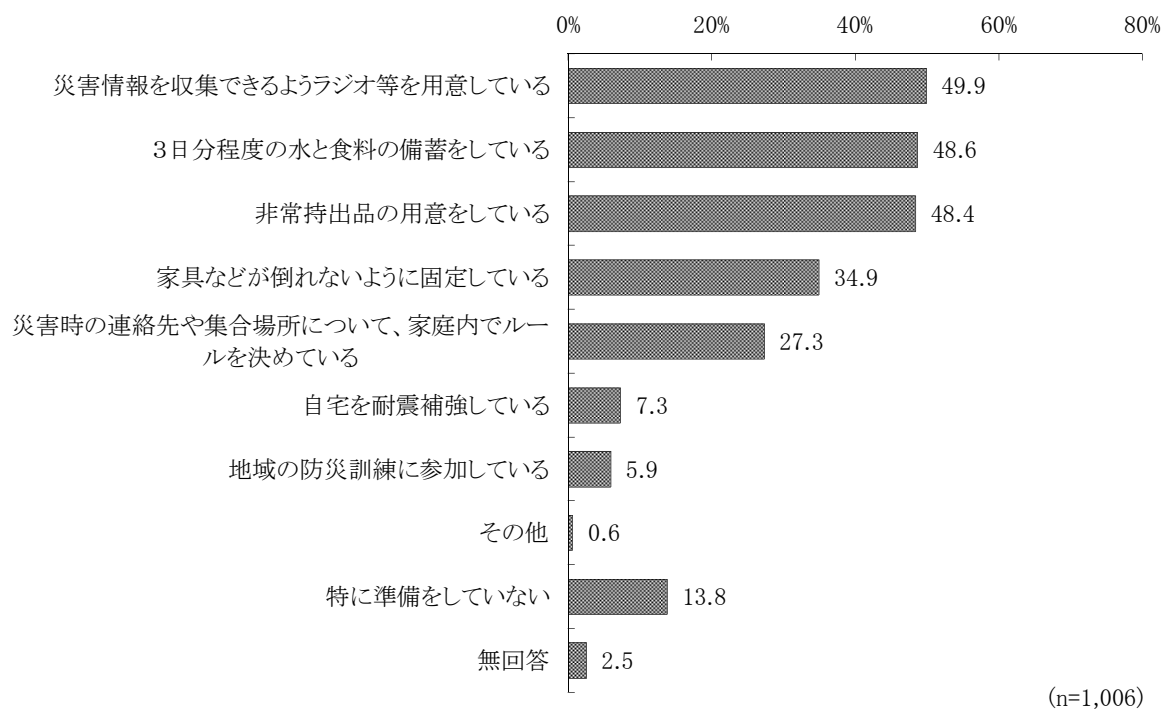


居住地区別では、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも3.3ポイント高くなっている。

## (7) 大規模地震発生への備え

問47 あなたの家庭では、普段から大規模地震の発生に備え、どのようなことをしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

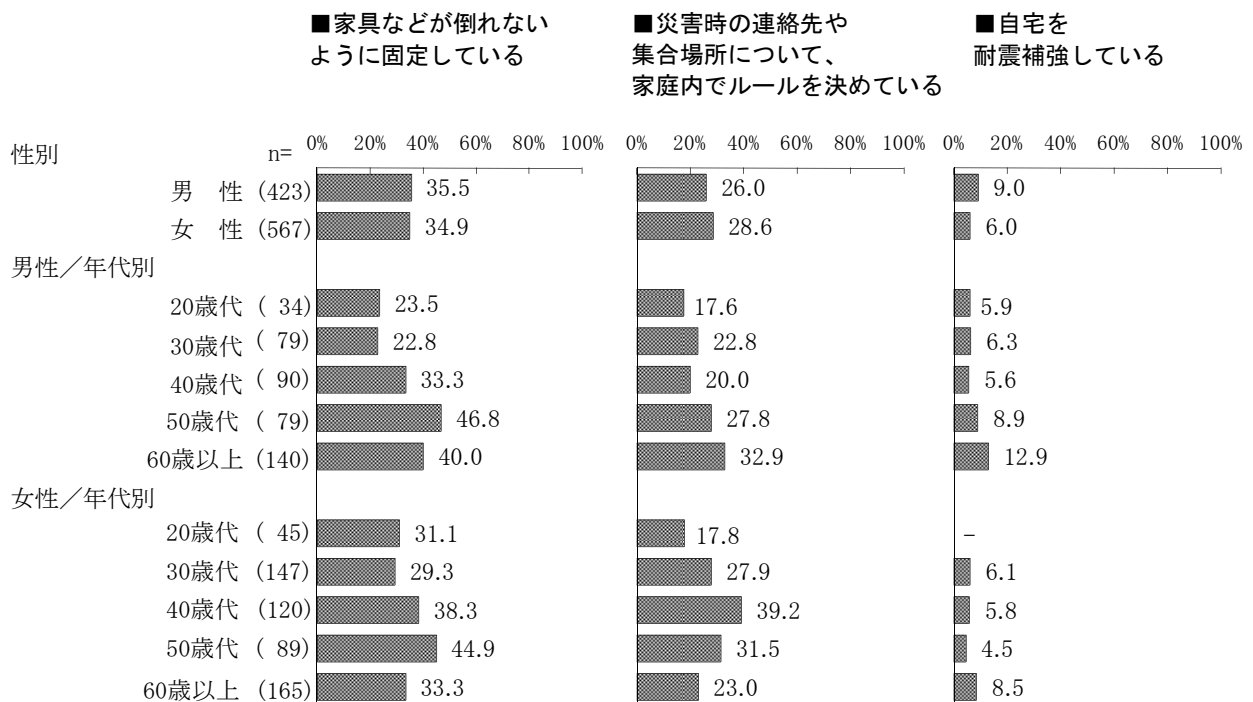
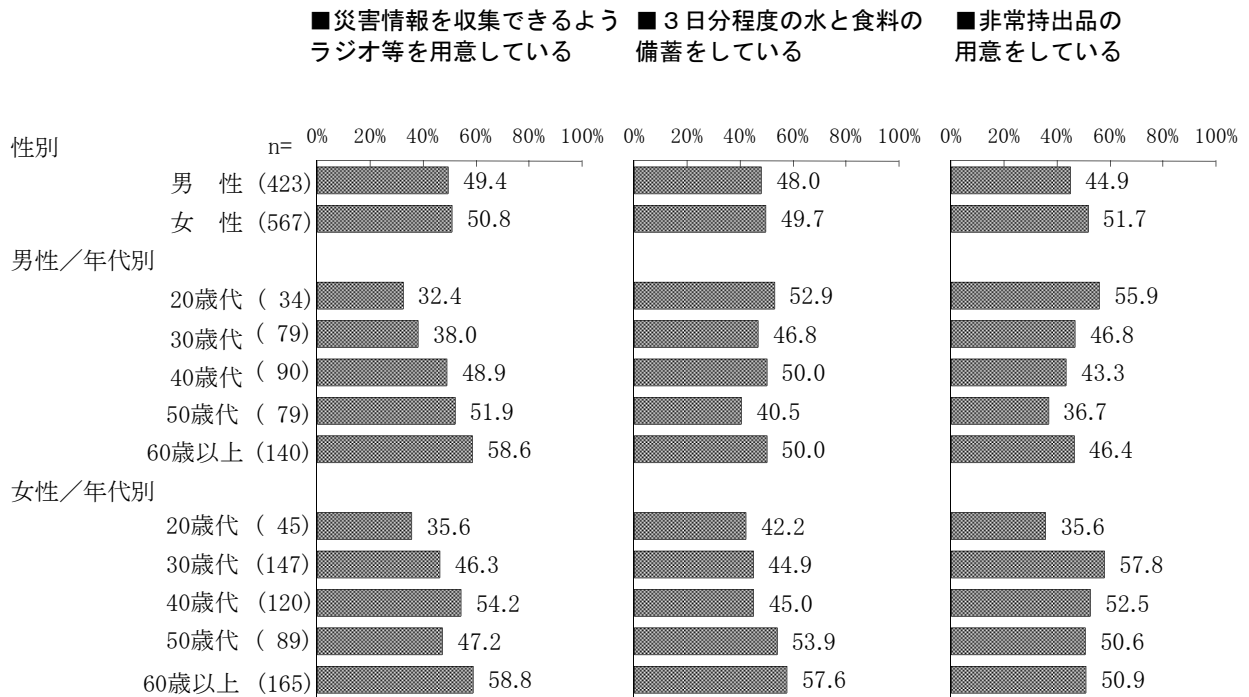
図 50-1



\* この項目は2009年度では聴取していない。

大規模地震発生への備えについては、「災害情報を収集できるようなラジオ等を用意している」が49.9%と最も高くなっている。次いで、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」(48.6%)、「非常持出品の用意をしている」(48.4%)、「家具などが倒れないように固定している」(34.9%)、「災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている」(27.3%)、「自宅を耐震補強している」(7.3%)、「地域の防災訓練に参加している」(5.9%)の順となっている。一方、「特に準備をしていない」は13.8%となっている。

図50-2 性別／性年代別(上位6項目)



性別では、「非常持出品の用意をしている」で『女性』の方が『男性』よりも6.8ポイント高く、「自宅を耐震補強している」では『男性』の方が『女性』よりも3ポイント高くなっている。

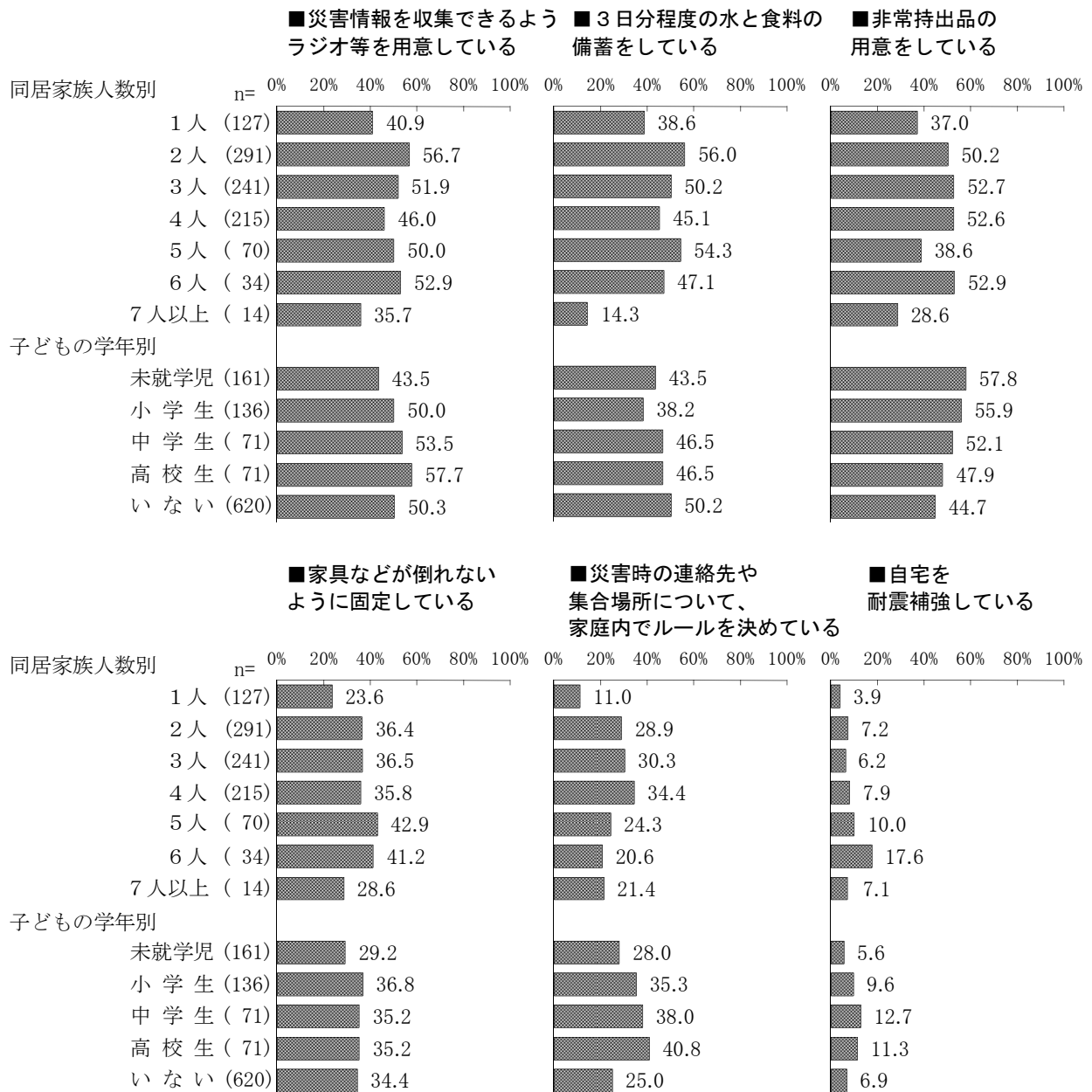
性・年代別では、「災害情報を収集できるようなラジオ等を用意している」で男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」では、女性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「非常持出品の用意をしている」では、男性『50歳代』と女性『20歳代』が3割台にとどまっている。



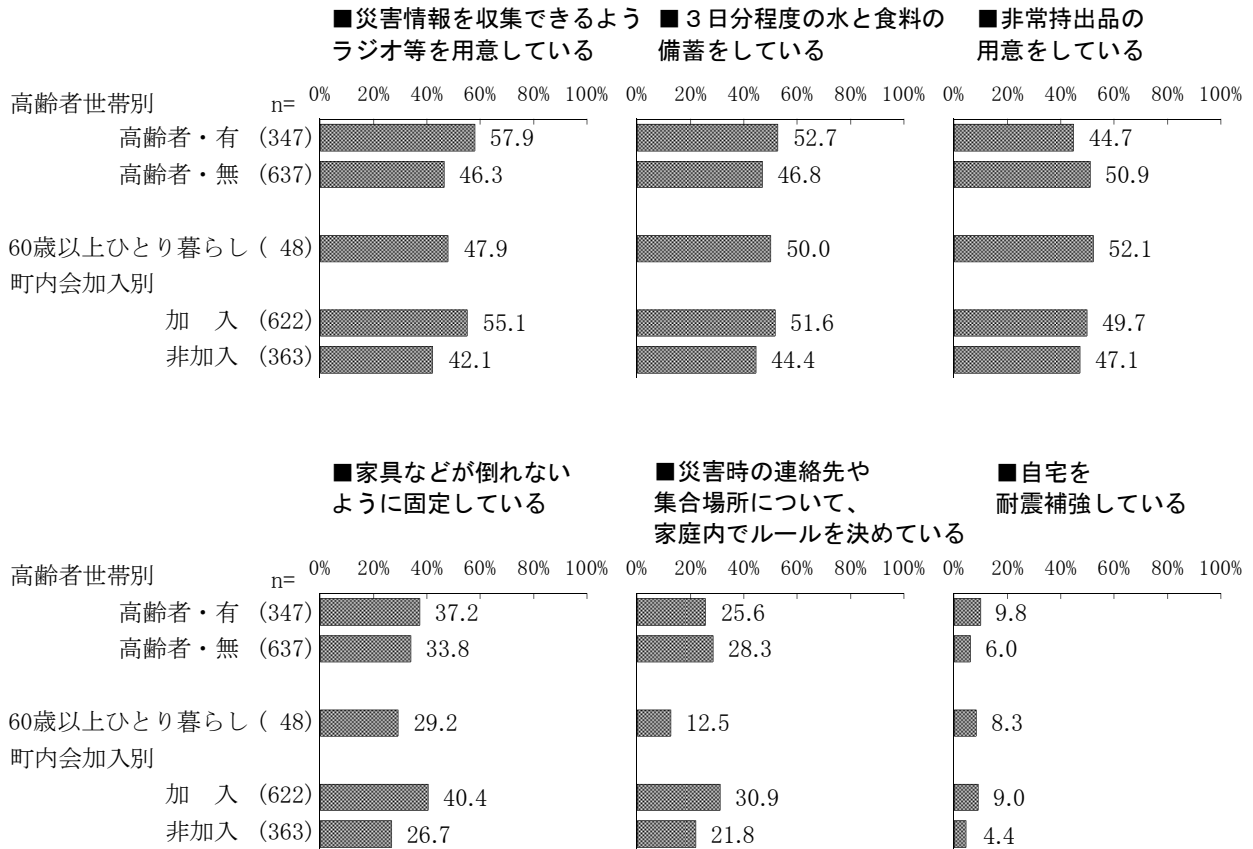
図 50-3 同居家族人数別／子どもの学年別(上位6項目)



同居家族人数別では、上位6項目において『1人』が最も低くなっている。

子どもの学年別では、「災害情報を収集できるようにラジオ等を用意している」と「災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている」で学年が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、反対に「非常持出品の用意をしている」とで学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 50-4 高齢者世帯別／町内会加入別(上位6項目)

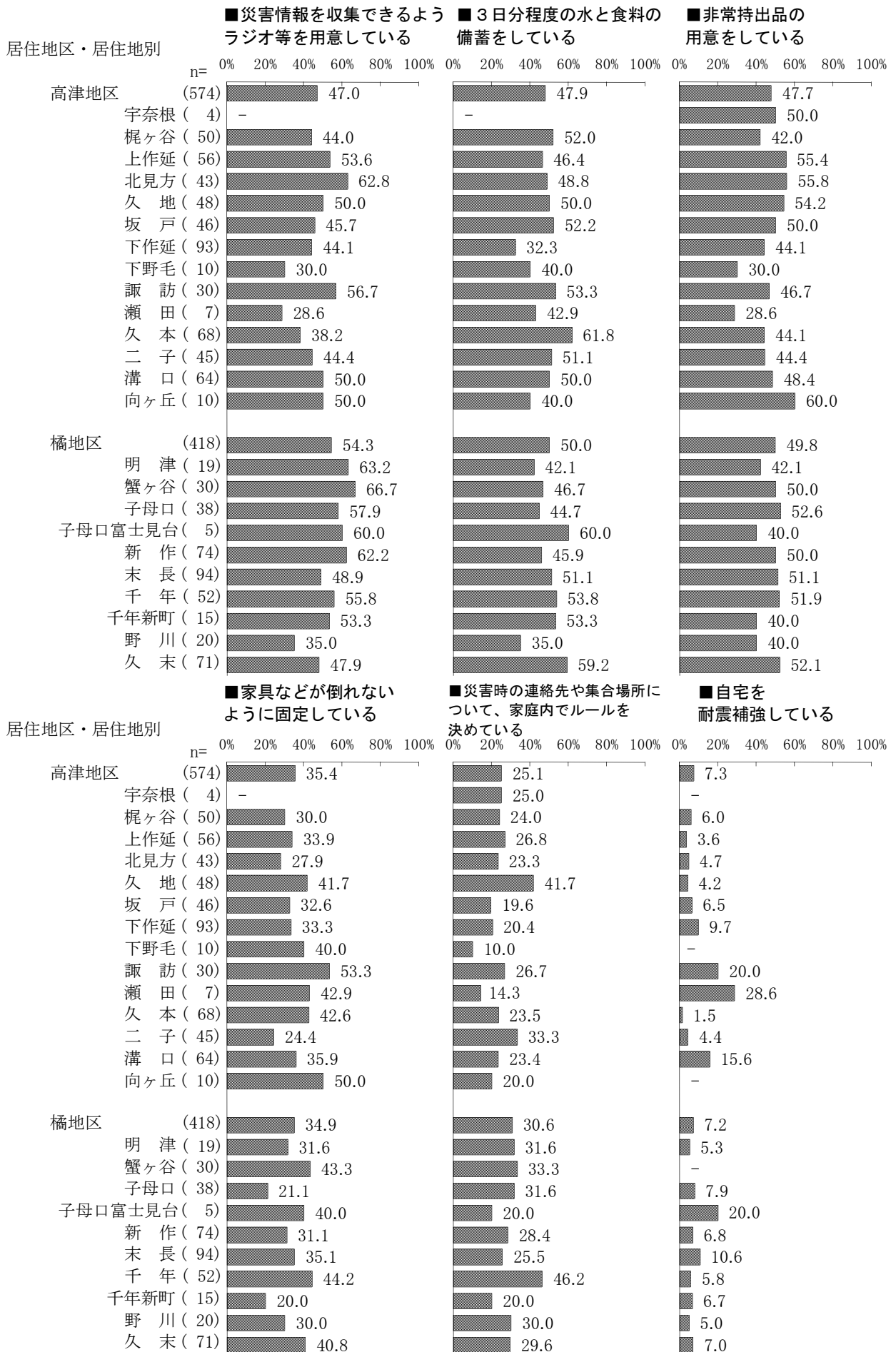


高齢者世帯別では、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも11.6ポイント高く、同様に「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」で5.9ポイント、「家具などが倒れないように固定している」で3.4ポイント、「自宅を耐震補強している」で3.8ポイント、『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。反対に「非常品持出品の用意をしている」では『高齢者・無』の方が『高齢者・有』よりも6.2ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「非常持出品の用意をしている」が52.1%と最も高く、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」(50.0%)、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」(47.9%)と続いている。

町内会加入別では、上位6項目において『加入』の方が『非加入』よりも高くなっている。

図 50-5 居住地区・居住地別（上位6項目）



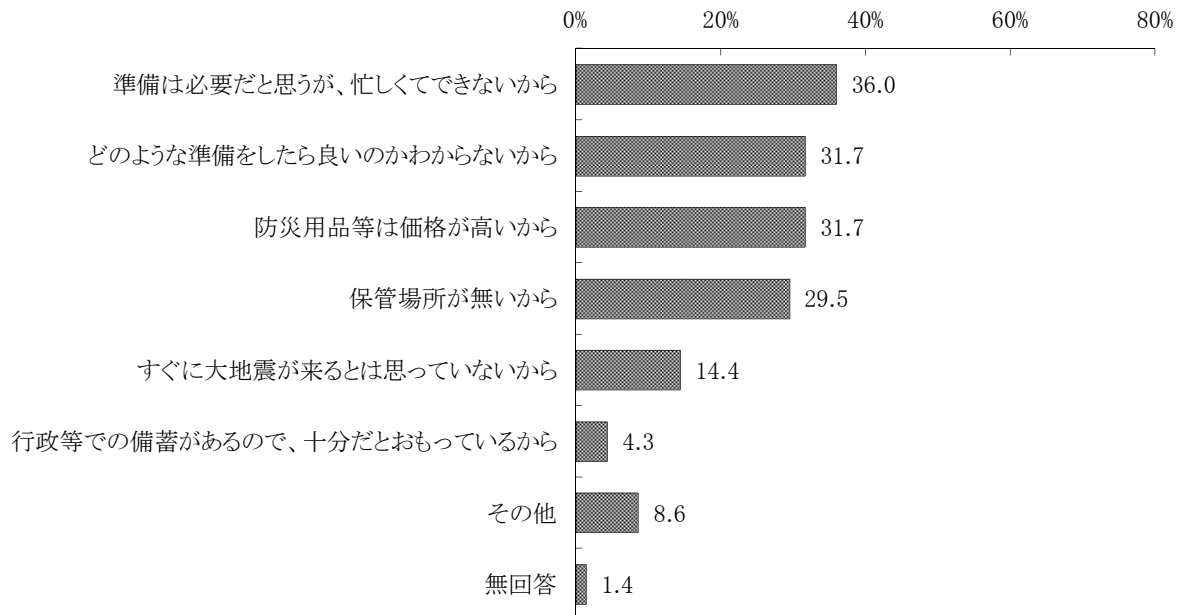
居住地区別では、「災害情報を収集できるようなラジオ等を用意している」で『橘地区』の方が『高津地区』よりも7.3ポイント高く、同様に「災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも5.5ポイント高くなっている。

## (8) 大規模地震発生に備え、特に準備をしていない理由

《問47で「9 特に準備をしていない」を選択した方にかがいます》

問48 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。(2つまで○)

図 51-1

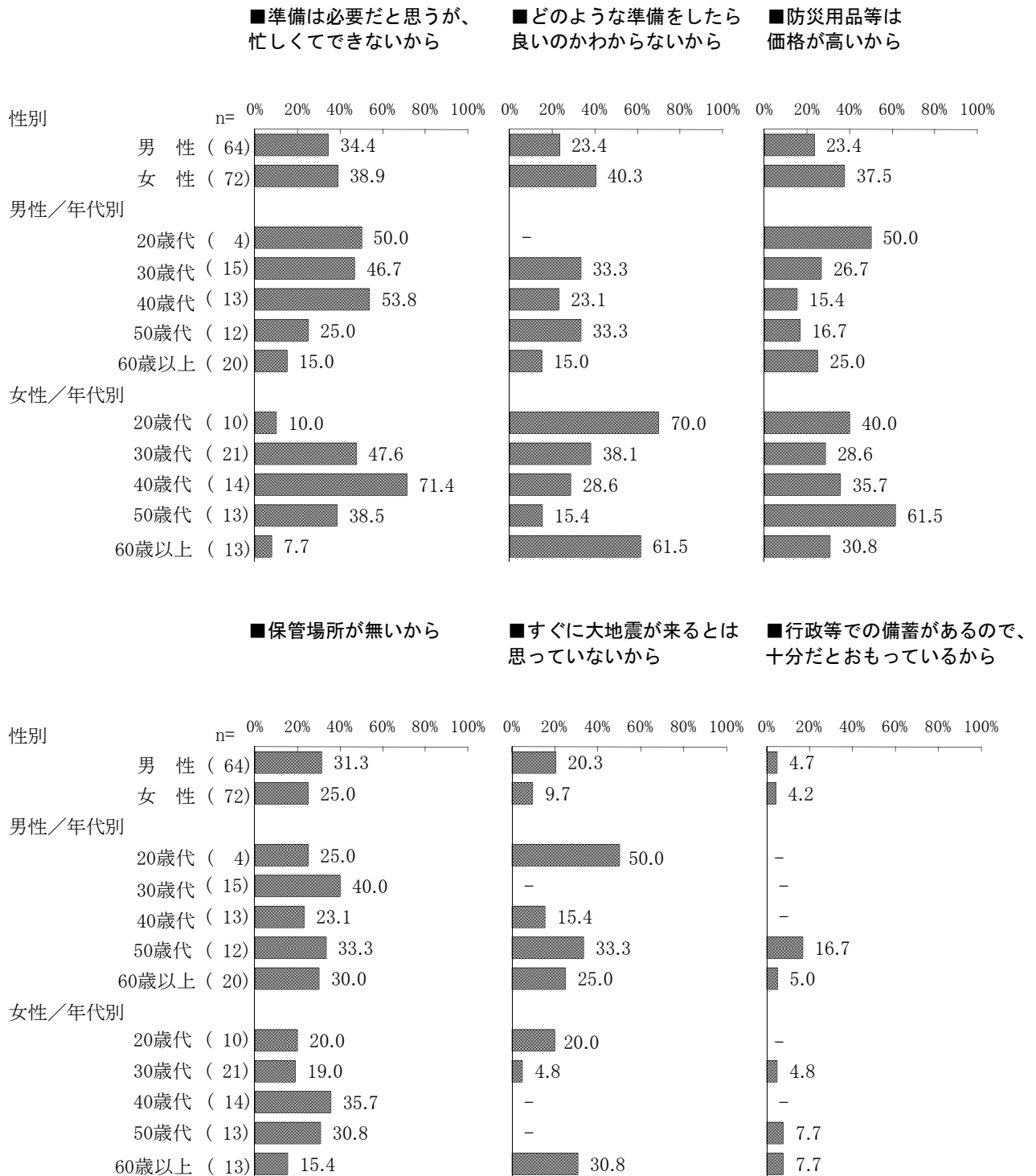


大規模地震発生に備え、特に準備をしていない人(n=139)

\* この項目は2009年度では聴取していない。

大規模地震発生に備えて特に準備をしていない理由については、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」が36.0%と最も高くなっている。次いで、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」(31.7%)、「防災用品等は価格が高いから」(31.7%)、「保管場所が無いから」(29.5%)、「すぐに大地震が来るとは思っていないから」(14.4%)、「行政等での備蓄があるので、十分だとおもっているから」(4.3%)の順となっている。

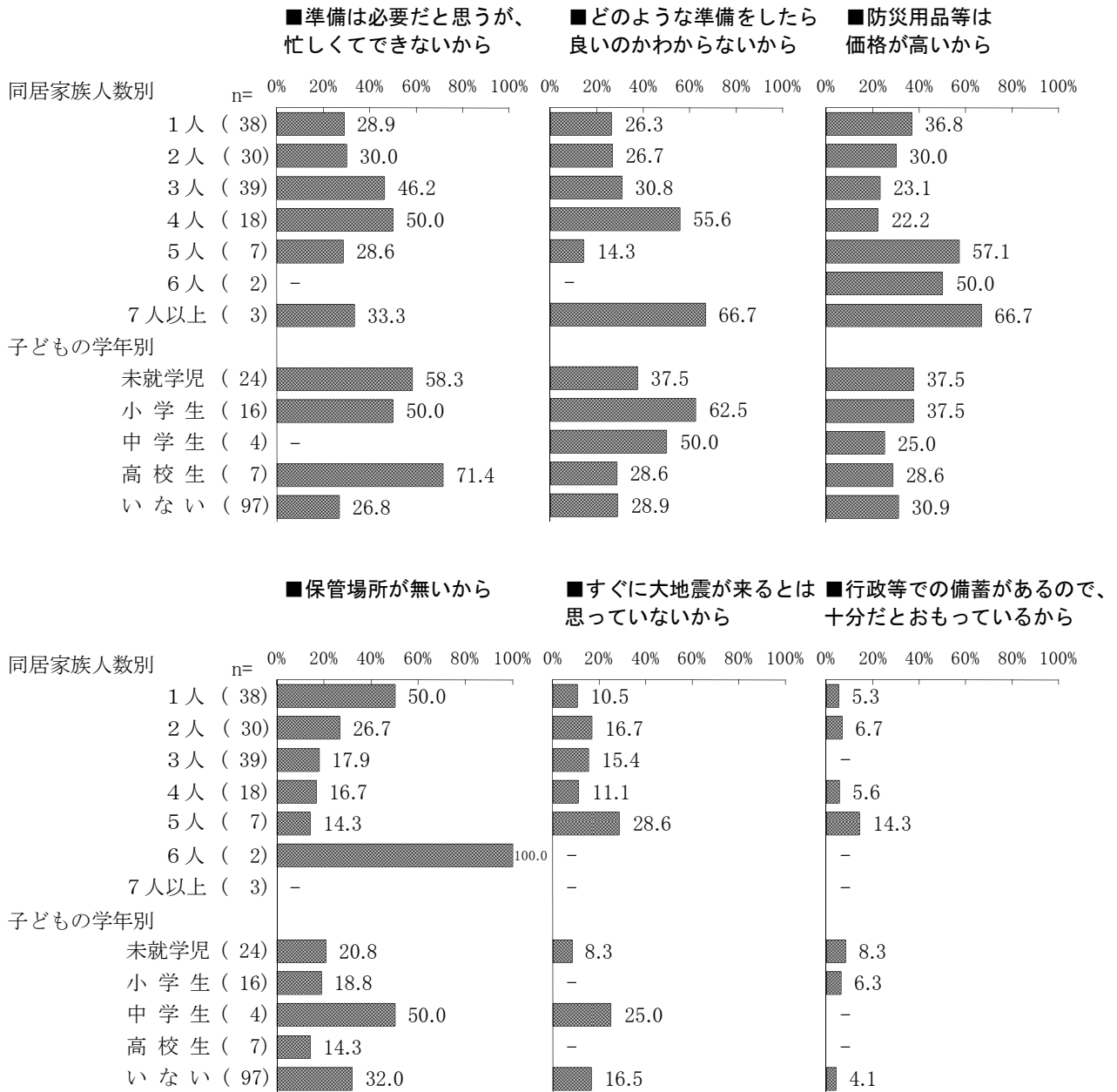
図 51-2 性別／性年代別



性別では、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」で『女性』の方が『男性』よりも4.5ポイント高く、同様に「どのような準備をしたら良いかわからないから」で16.9ポイント、「防災用品等は価格が高いから」で14.1ポイント、『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。また、「保管場所が無いから」では『男性』の方が『女性』よりも6.3ポイント高く、同様に「すぐに大地震が来るとは思っていないから」では『男性』の方が『女性』よりも10.6ポイント高くなっている。

性・年代別では、基数は少ないものの、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」で男性は年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、女性は『40歳代』が7割を超えている。また、「どのような準備をしたら良いかわからないから」では女性の『20歳代』と『60歳以上』が、「防災用品等は価格が高いから」では男性『20歳代』と女性『50歳代』が、他の年代よりも高くなっている。

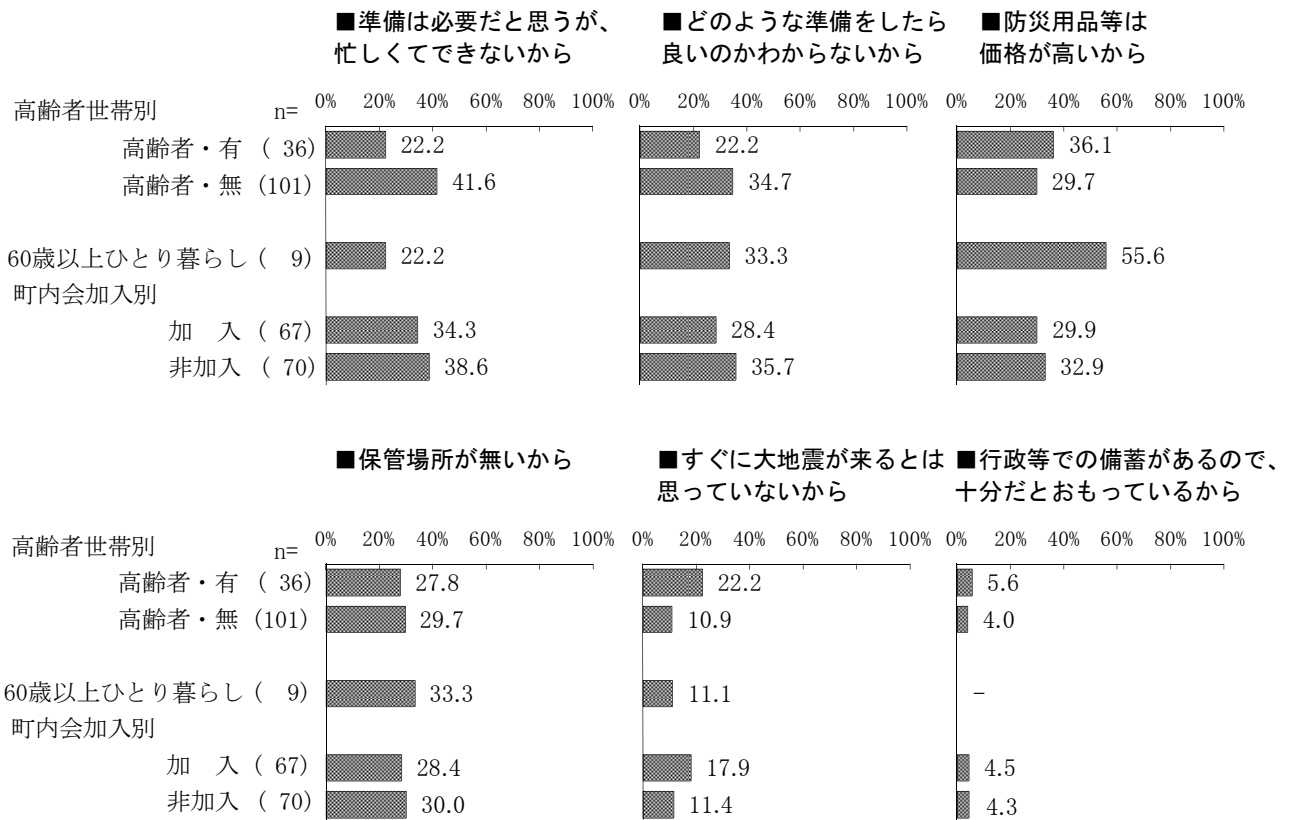
図 51-3 同居家族人数別／子どもの学年別



同居家族人数別では、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」と「どのような準備をしたら良いのかわからないから」で同居家族の人数が多くなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、反対に「防災用品等は価格が高いから」と「保管場所が無いから」では同居家族の人数が少なくなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

子どもの学年別では、基数は少ないものの、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」で『小学生』が6割を超えている。

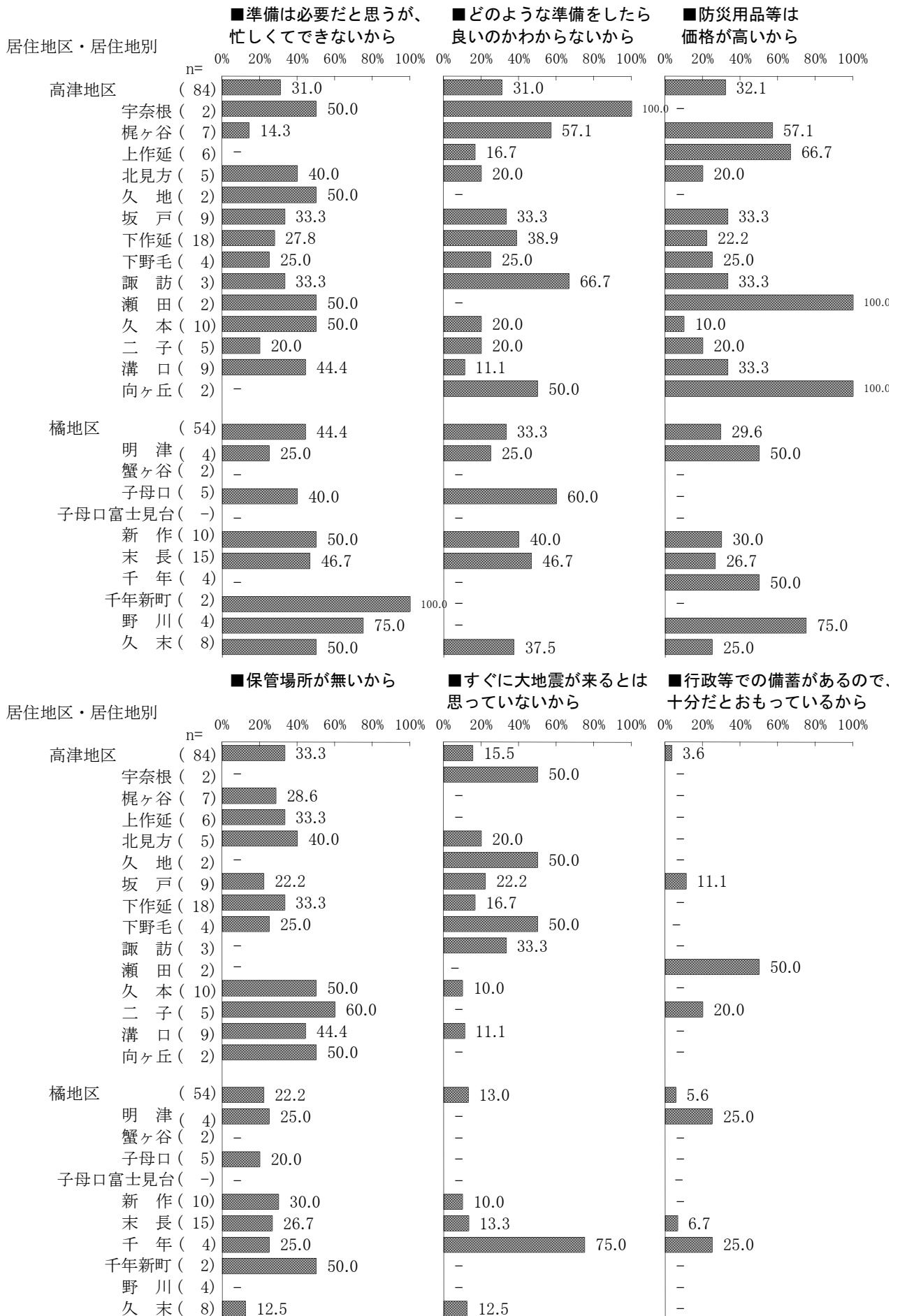
図 51-4 高齢者世帯別／町内会加入別



高齢者世帯別では、「防災用品等は価格が高いから」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも6.4ポイント高く、同様に「すぐに大地震が来るとは思っていないから」では『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも11.3ポイント高くなっている。また、『高齢者・有』および60歳以上ひとり暮らし世帯では、「防災用品等は価格が高いから」が最も高くなっている。

町内会加入別では、「どのような準備をしたら良いかわからないから」で『非加入』の方が『加入』よりも7.3ポイント高くなっている。

図 51-5 居住地区・居住地別

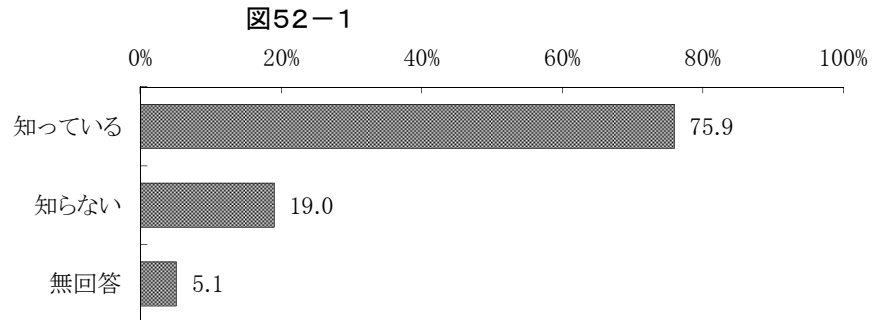


居住地区別では、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」で『橘地区』の方が『高津地区』よりも13.4ポイント高く、「保管場所が無いから」では『高津地区』の方が『橘地区』よりも11.1ポイント高くなっている。



## (9) 最寄りの避難所の認知

問49 川崎市では市立小中高等学校等を地震災害時の避難所として位置づけていますが、あなたは、最寄りの避難所を知っていますか。(1つだけ○)

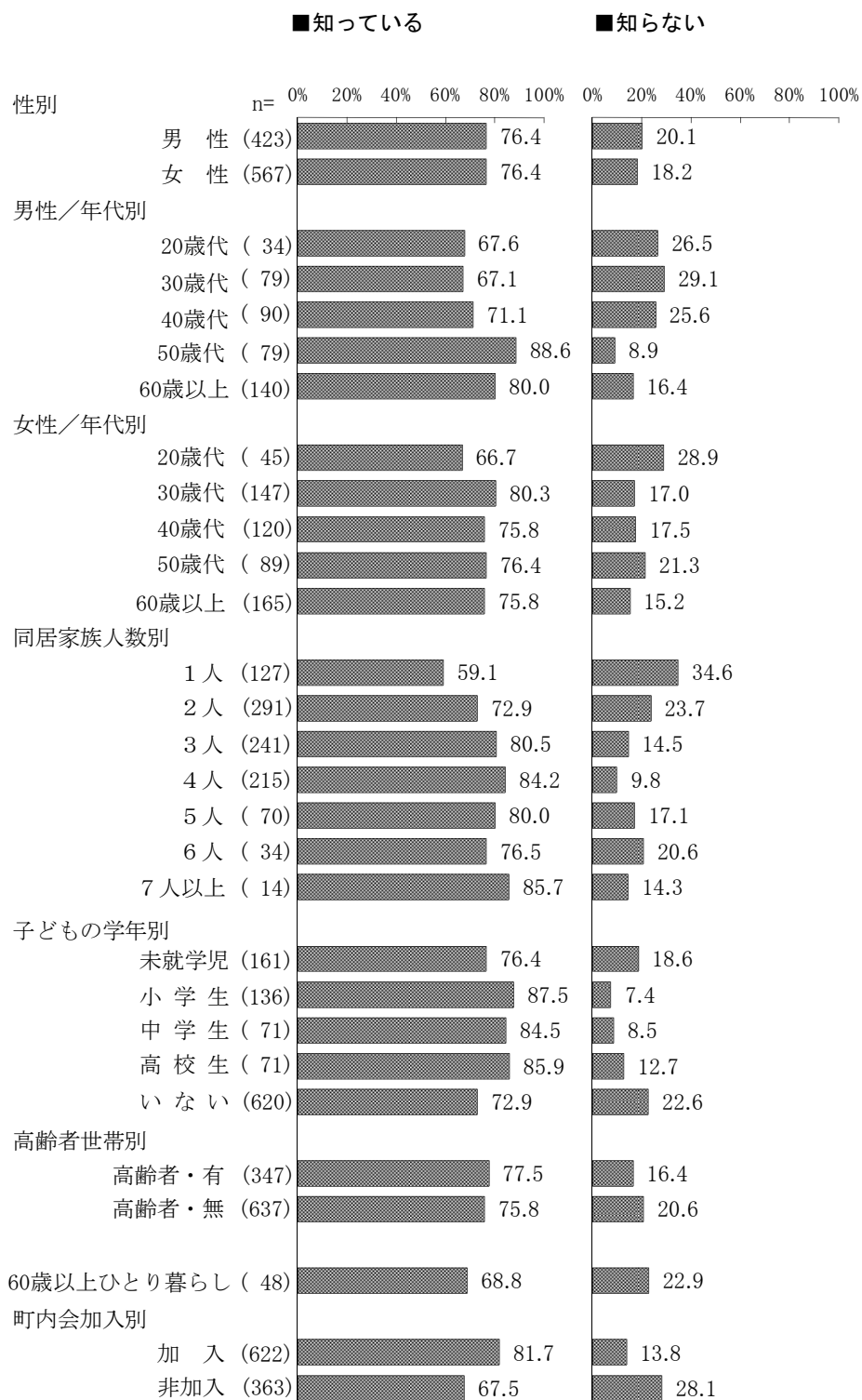


(n=1,006)

\* この項目は2009年度では聴取していない。

最寄りの避難所の認知度は、「知っている」が75.9%、「知らない」が19.0%となっている。

図 52-2 性別／性年代別／同居家族人数別／子どもの学年別  
／高齢者世帯別／町内会加入別



性・年代別では、「知っている」で男性の『20歳代』と『30歳代』、女性『20歳代』が6割台にとどまっている。

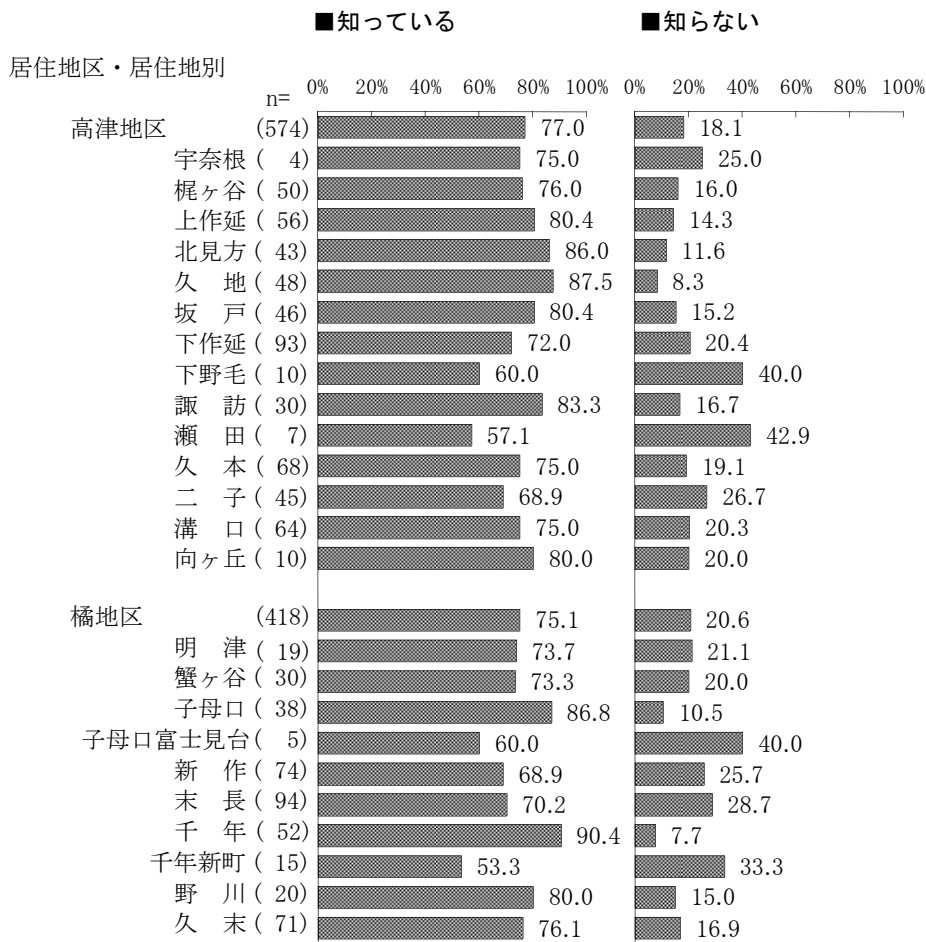
同居家族人数別では、「知っている」で同居家族の人数が多くなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、単身世帯は「知っている」の割合が小さい。

子どもの学年別では、「知っている」で『小学生』が87.5%と最も高く、次いで『高校生』(85.9%)、『中学生』(84.5%)、『未就学児』(76.4%)となっている。

高齢者世帯別および60歳以上ひとり暮らし世帯では、「知っている」で『高齢者・有』が77.5%であるのに対し、60歳以上ひとり暮らし世帯は68.8%となっている。

町内会加入別では、「知っている」で『加入』の方が『非加入』よりも14.2ポイント高くなっている。

図 52-3 居住地区・居住地別

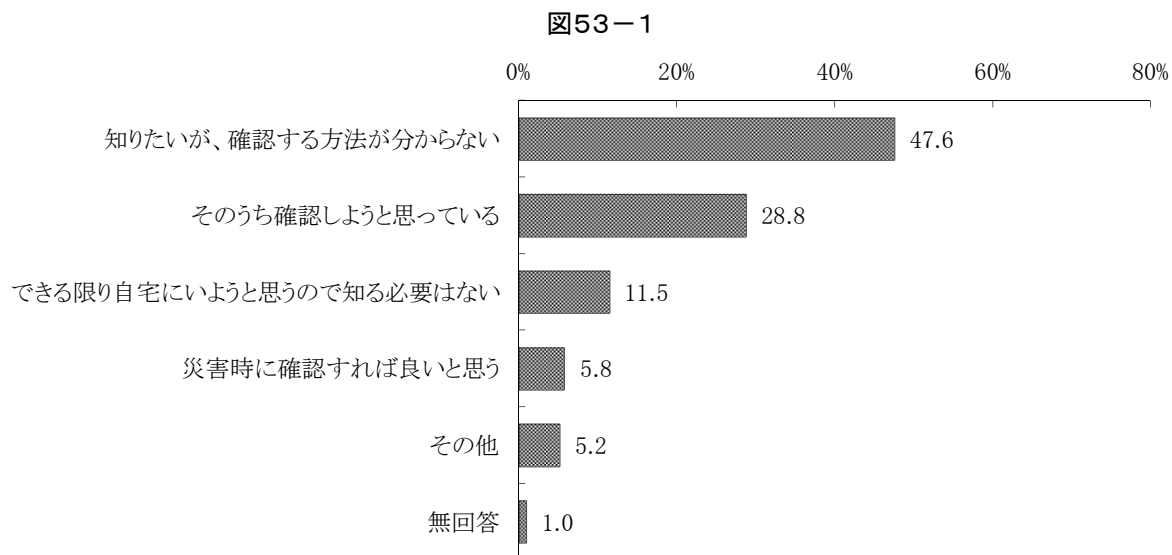


居住地別では、「知っている」で橘地区の『千年』が9割を超えて最も高く、次いで高津地区の『久地』(87.5%)、橘地区の『子母口』(86.8%)、高津地区の『北見方』(86.0%)と続いている。

## (10) 最寄りの避難所を知らないことについての意識

《問49で「2 知らない」を選択した方にうかがいます》

問50 避難所を知らないことについてどのように思いますか。(1つだけ○)

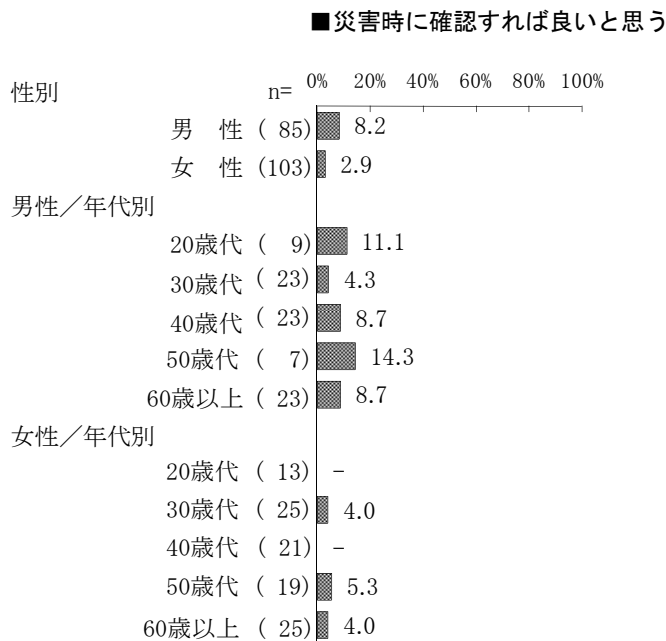
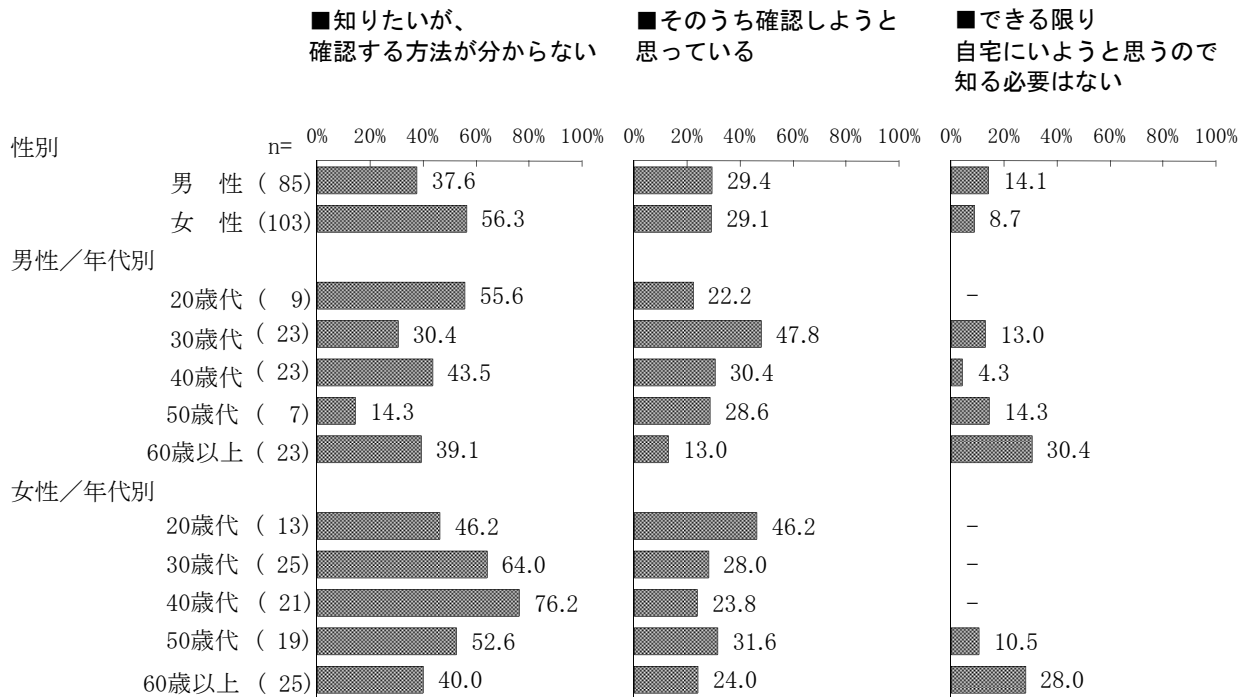


最寄りの避難所を知らない人(n=191)

\* この項目は2009年度では聴取していない。

最寄りの避難所を知らないことについては、「知りたいが、確認する方法が分からない」が47.6%と最も高くなっている。次いで、「そのうち確認しようと思っている」(28.8%)、「できる限り自宅にしようと思うので知る必要はない」(11.5%)、「災害時に確認すれば良いと思う」(5.8%)の順となっている。

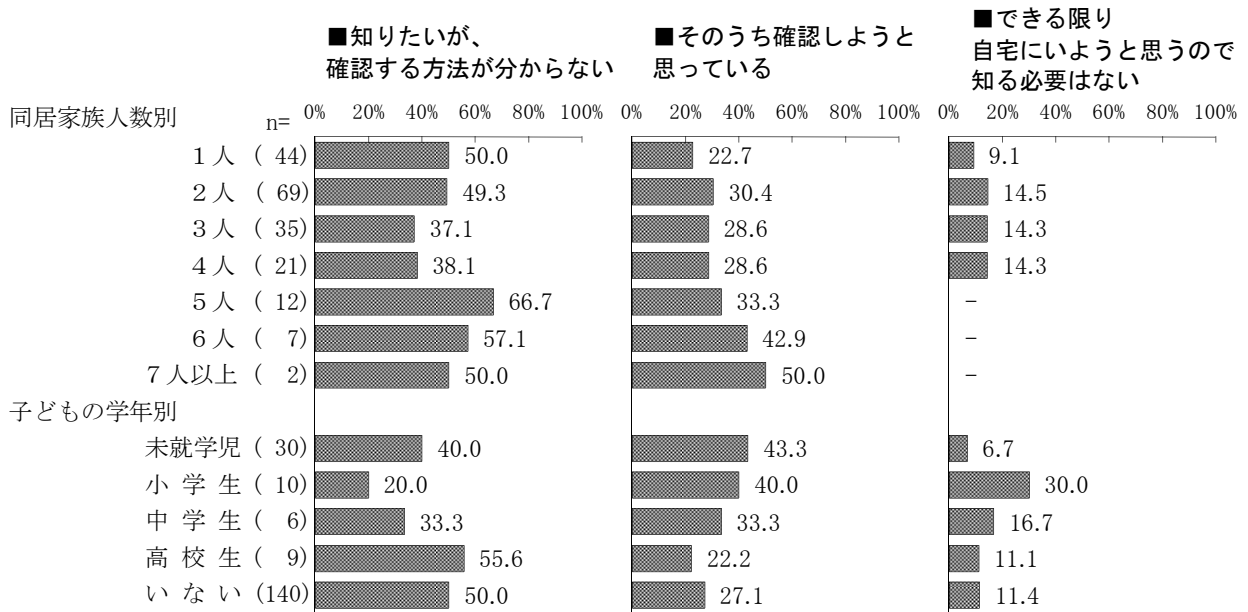
図 53-2 性別／性年代別



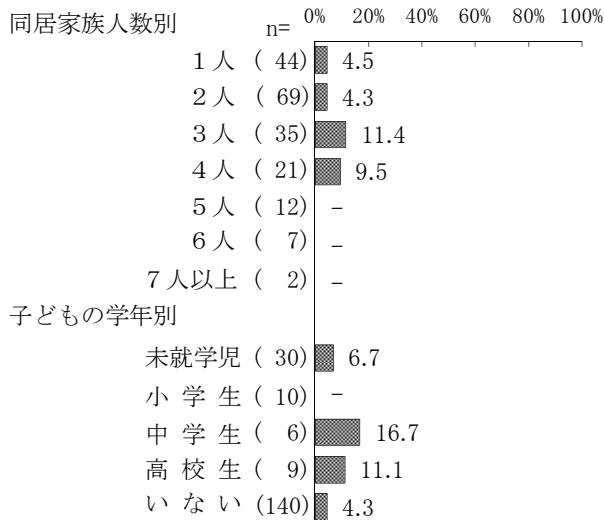
性別では、「知りたいが、確認する方法が分からない」で『女性』の方が『男性』よりも18.7ポイント高くなっている。また、「できる限り自宅にいようと思うので知る必要はない」では、『男性』の方が『女性』よりも5.4ポイント高く、同様に「災害時に確認すれば良いと思う」では、『男性』の方が『女性』よりも5.3ポイント高くなっている。

性・年代別では、基数は少ないものの、「知りたいが、確認する方法が分からない」で女性『40歳代』が7割を超えている。また、「そのうち確認しようと思っている」では男性『30歳代』と女性『20歳代』が4割台で、「できる限り自宅にいようと思うので知る必要はない」では男女ともに『60歳以上』が3割前後と他の年代よりも高くなっている。

図 53-3 同居家族人数別／子どもの学年別



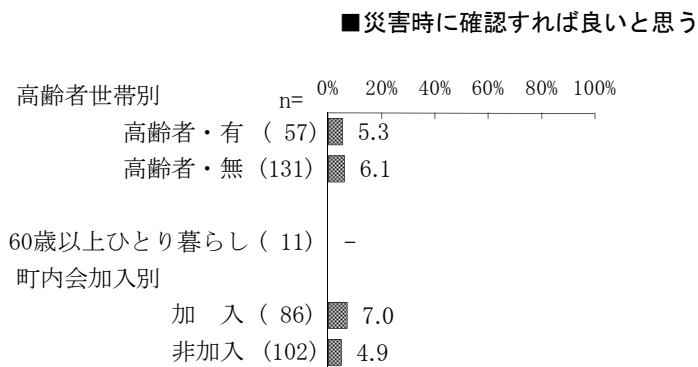
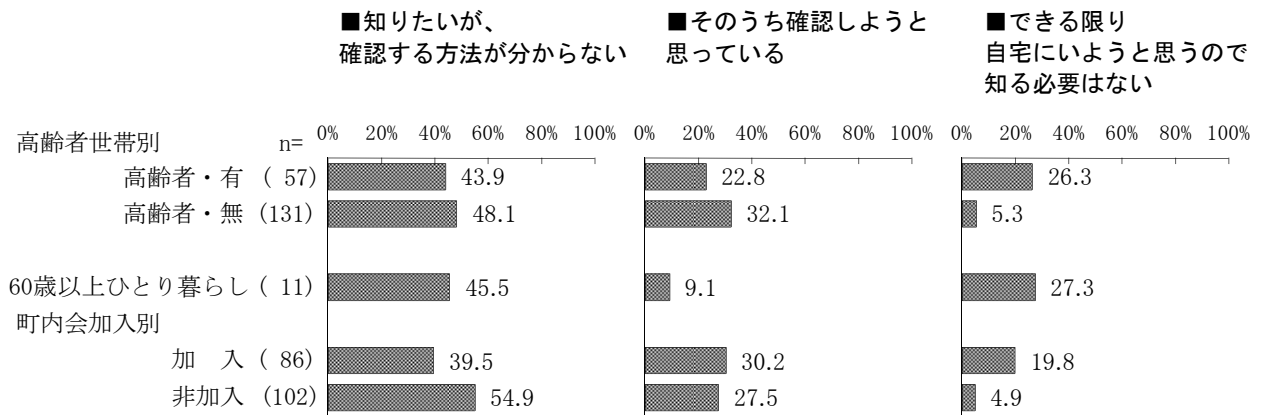
■災害時に確認すれば良いと思う



同居家族人数別では、「知りたいが、確認する方法が分からない」で同居家族の人数が少なくなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、反対に「そのうち確認しようと思っている」では同居家族の人数が多くなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

子どもの学年別では、基数は少ないものの、「そのうち確認しようと思っている」で学年が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられ、『未就学児』が4割を超えている。

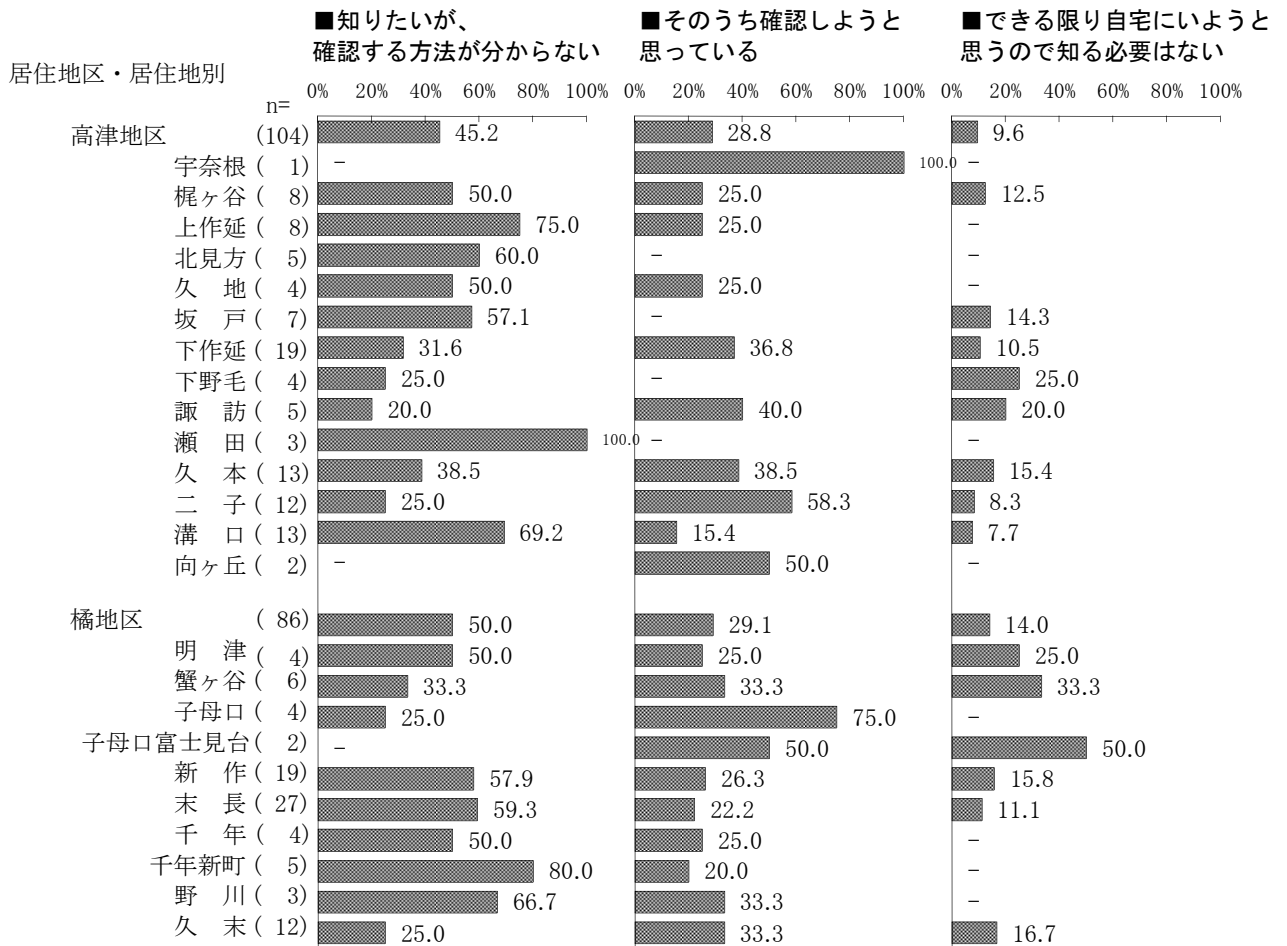
図 53-4 高齢者世帯別／町内会加入別



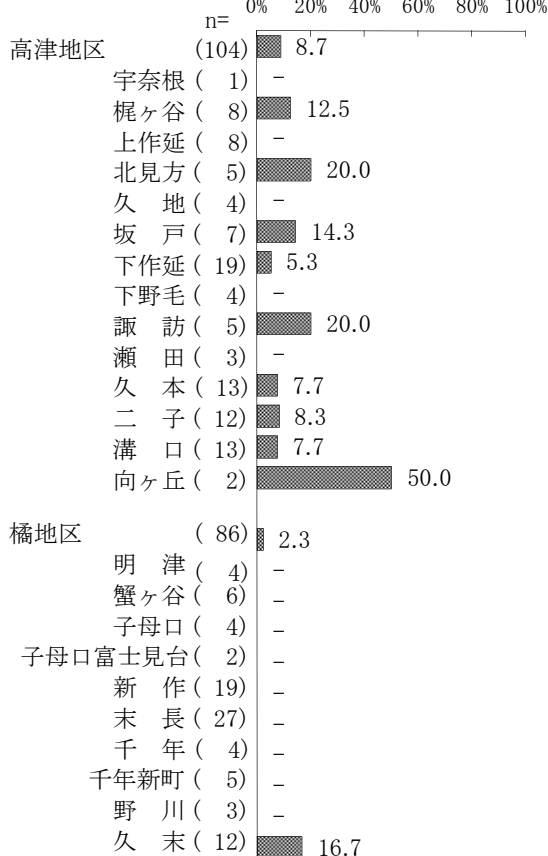
『高齢者・有』および60歳以上ひとり暮らし世帯では、「できる限り自宅にしようと思うので知る必要はない」で2割台と高くなっている。

町内会加入別では、「知りたいが、確認する方法が分からない」で『非加入』の方が『加入』よりも15.4ポイント高くなっている。

図 53-5 居住地区・居住地別



居住地区・居住地別 ■災害時に確認すれば良いと思う



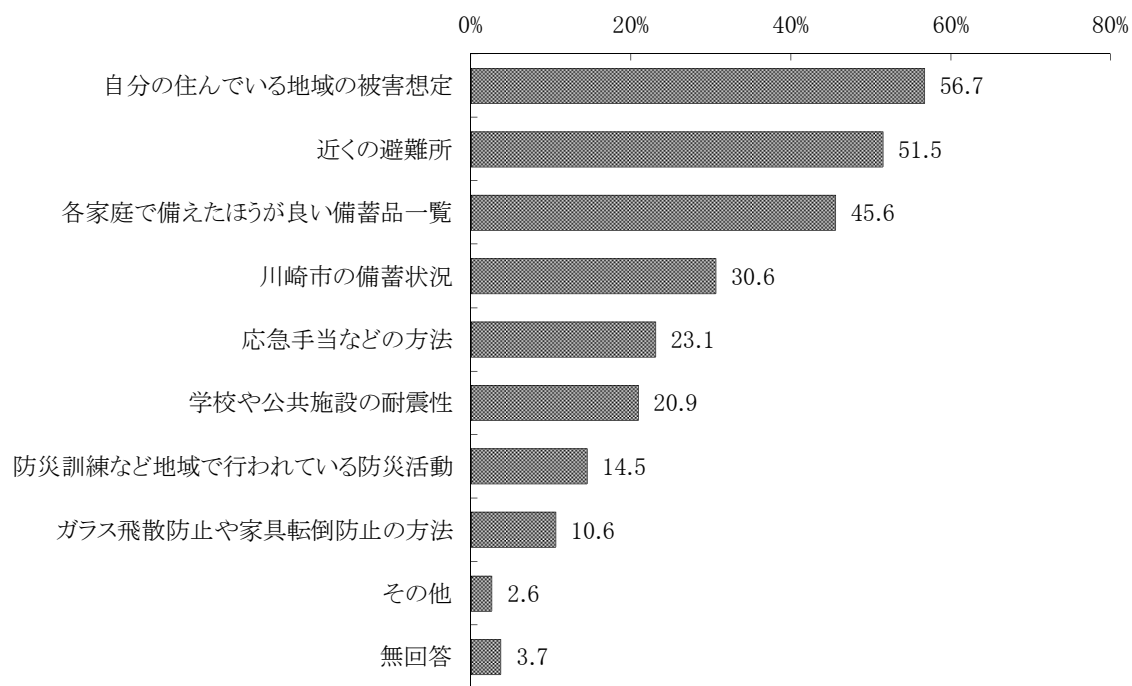
居住地区別では、「知りたいが、確認する方法が分からない」で『橘地区』の方が『高津地区』よりも4.8ポイント高く、「災害時に確認すれば良いと思う」で『高津地区』の方が『橘地区』よりも6.4ポイント高くなっている。



(11) 防災について必要な情報

問51 防災についてどのような情報が必要だと思いますか。(3つまで○)

図54-1

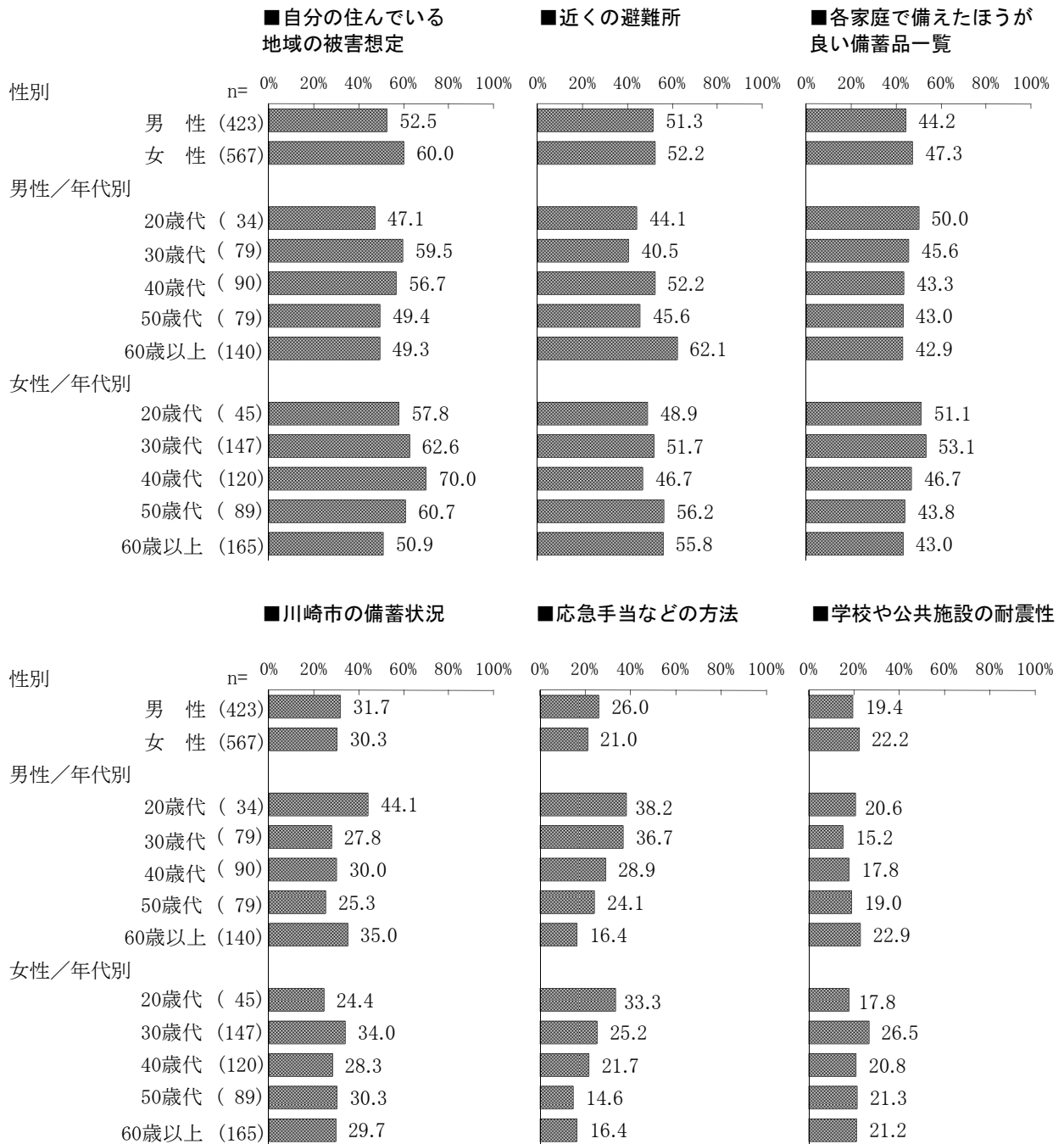


(n=1,006)

\* この項目は2009年度では聴取していない。

防災についてどのような情報が必要か尋ねたところ、「自分の住んでいる地域の被害想定」が56.7%と最も高くなっている。次いで、「近くの避難所」(51.5%)、「各家庭で備えたほうが良い備蓄品一覧」(45.6%)、「川崎市の備蓄状況」(30.6%)、「応急手当などの方法」(23.1%)、「学校や公共施設の耐震性」(20.9%)、「防災訓練など地域で行われている防災活動」(14.5%)、「ガラス飛散防止や家具転倒防止の方法」(10.6%)の順となっている。

図 54-2 性別／性年代別(上位6項目)



性別では、「自分の住んでいる地域の被害想定」で『女性』の方が『男性』よりも7.5ポイント高く、同様に「各家庭で備えたほうが良い備蓄品一覧」では『女性』の方が『男性』よりも3.1ポイント高くなっている。また、「応急手当などの方法」で『男性』の方が『女性』よりも5ポイント高くなっている。

性・年代別では、「自分の住んでいる地域の被害想定」で女性『40歳代』が7割となっている。

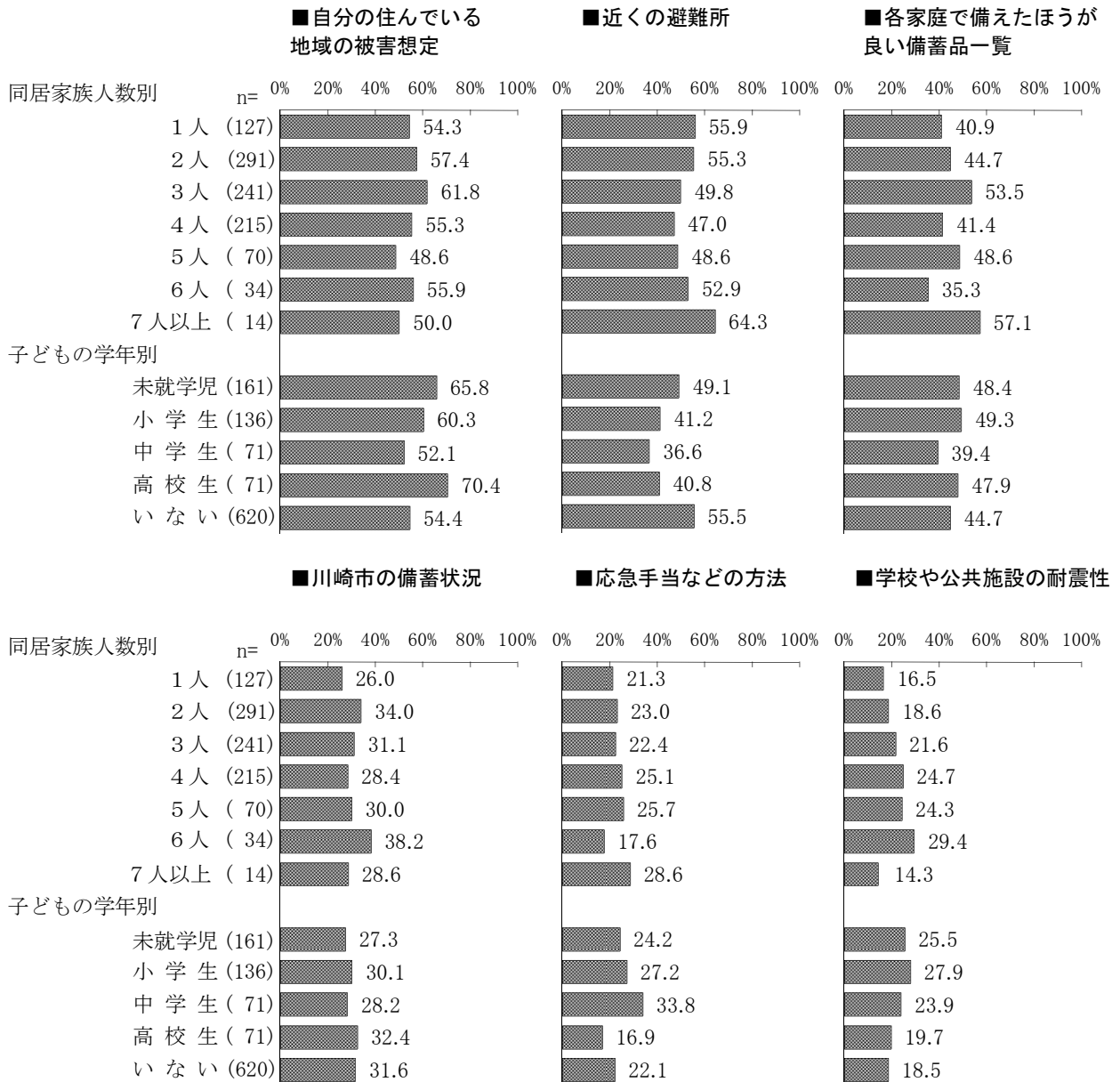
「近くの避難所」では、男性『60歳以上』が6割を超えている。

「各家庭で備えたほうが良い備蓄品一覧」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

「川崎市の備蓄状況」では、男性『20歳代』が4割を超えている。

「応急手当などの方法」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

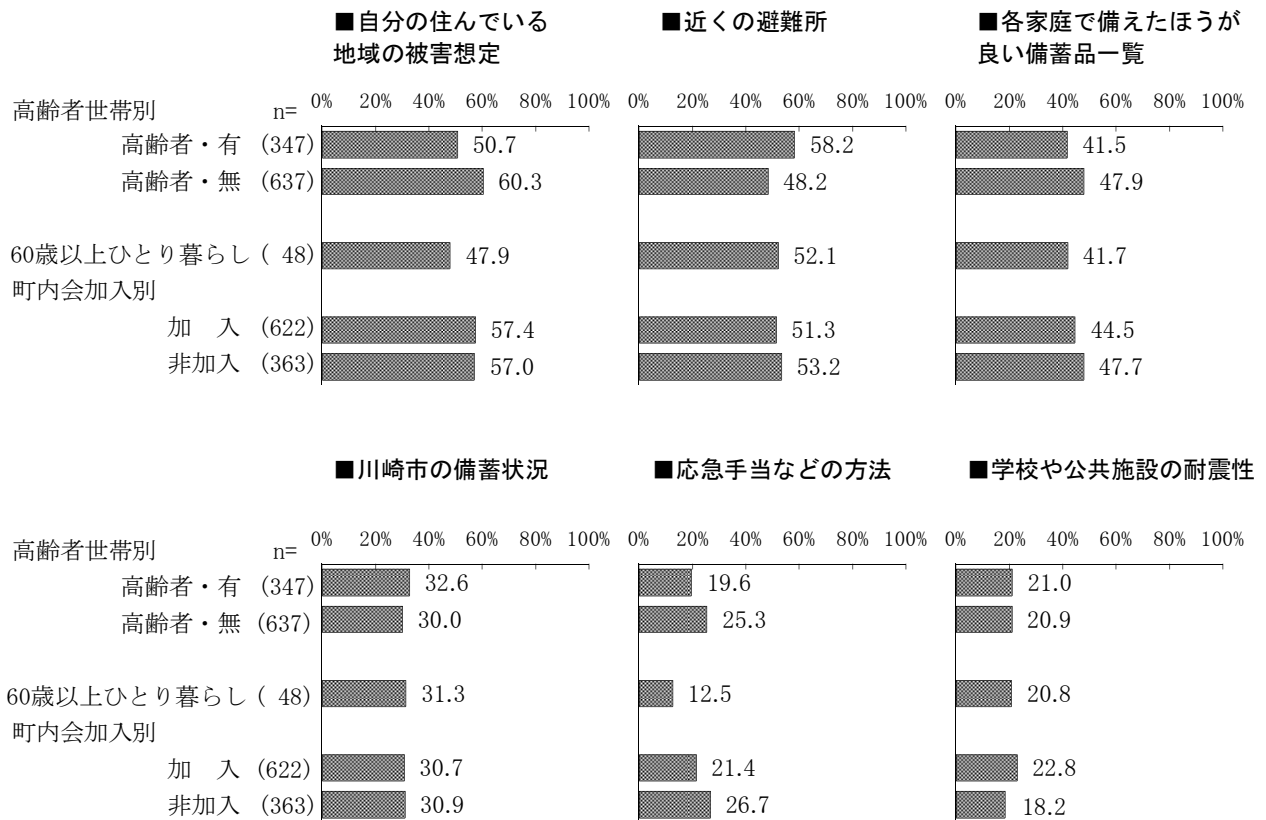
図 54-3 同居家族人数別／子どもの学年別(上位6項目)



同居家族人数別では、「応急手当などの方法」と「学校や公共施設の耐震性」で、同居家族の人数が多くなるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

子どもの学年別では、「自分の住んでいる地域の被害想定」で『高校生』が7割を超えている。

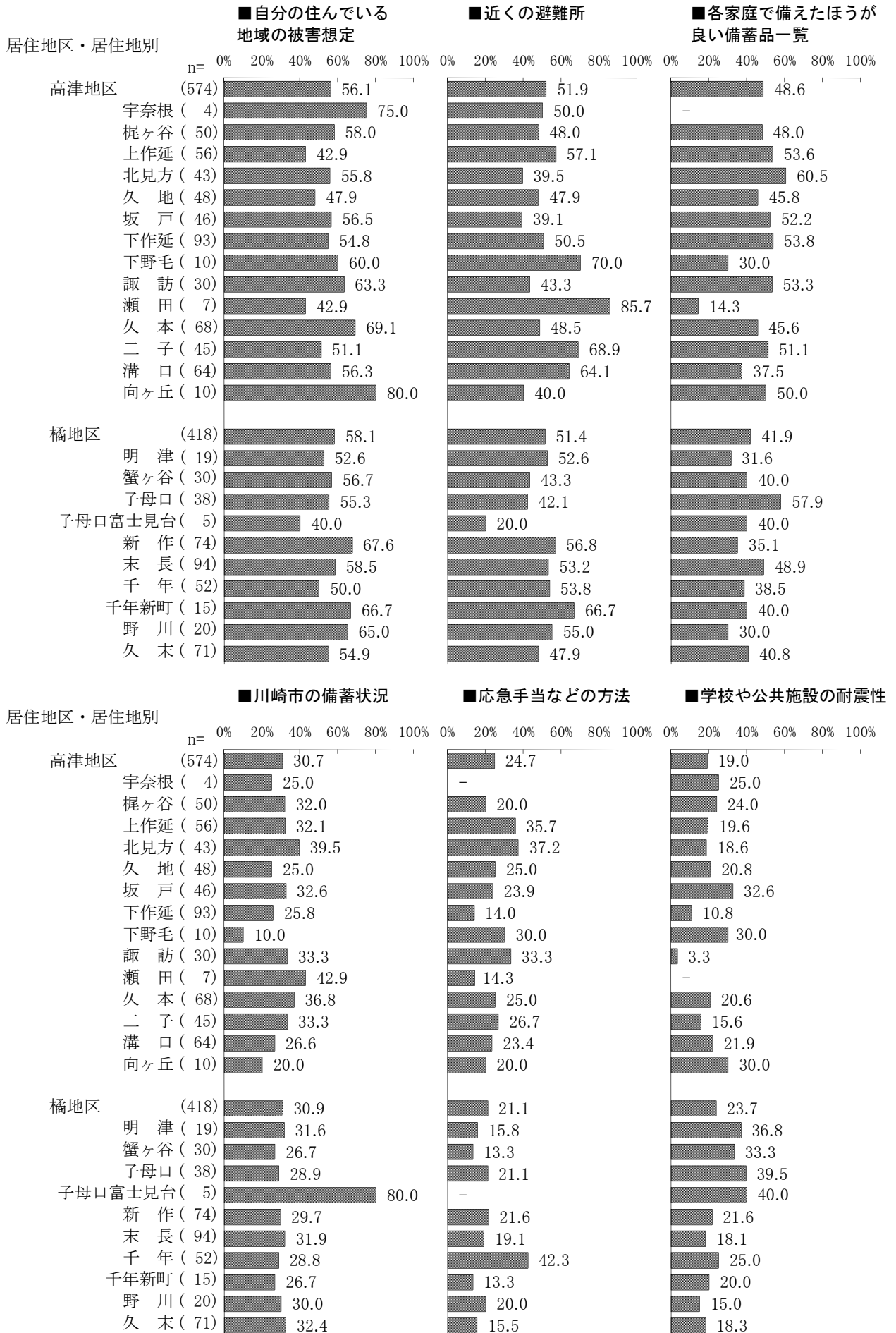
図 54-4 高齢者世帯別／町内会加入別(上位6項目)



『高齢者・有』および60歳以上ひとり暮らし世帯では、「近くの避難所」が最も高く、次いで「自分の住んでいる地域の被害想定」、「各家庭で備えたほうが良い備蓄品一覧」の順となっている。

町内会加入別では、「応急手当などの方法」で『非加入』の方が『加入』よりも5.3ポイント高く、「学校や公共施設の耐震性」では『加入』の方が『非加入』よりも4.6ポイント高くなっている。

図 54-5 居住地区・居住地別(上位6項目)

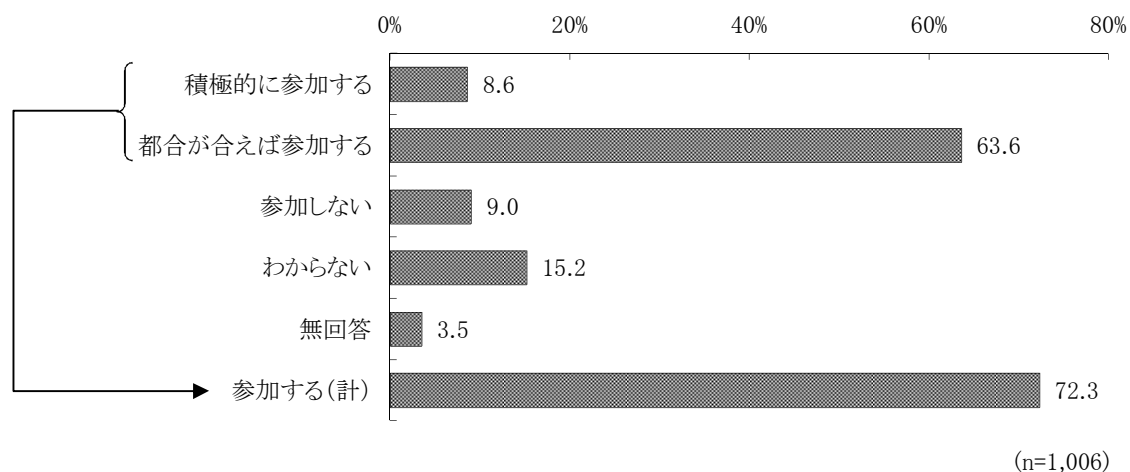


居住地区別では、「各家庭で備えたほうが良い備蓄品一覧」と「応急手当などの方法」では『高津地区』の方が『橘地区』よりも高く、「学校や公共施設の耐震性」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも高くなっている。

## (12) 防災知識の向上を図る学習会への参加意向

問52 防災知識の向上を図る学習会のようなものが実施されれば、あなたは参加しますか。  
(1つだけ○)

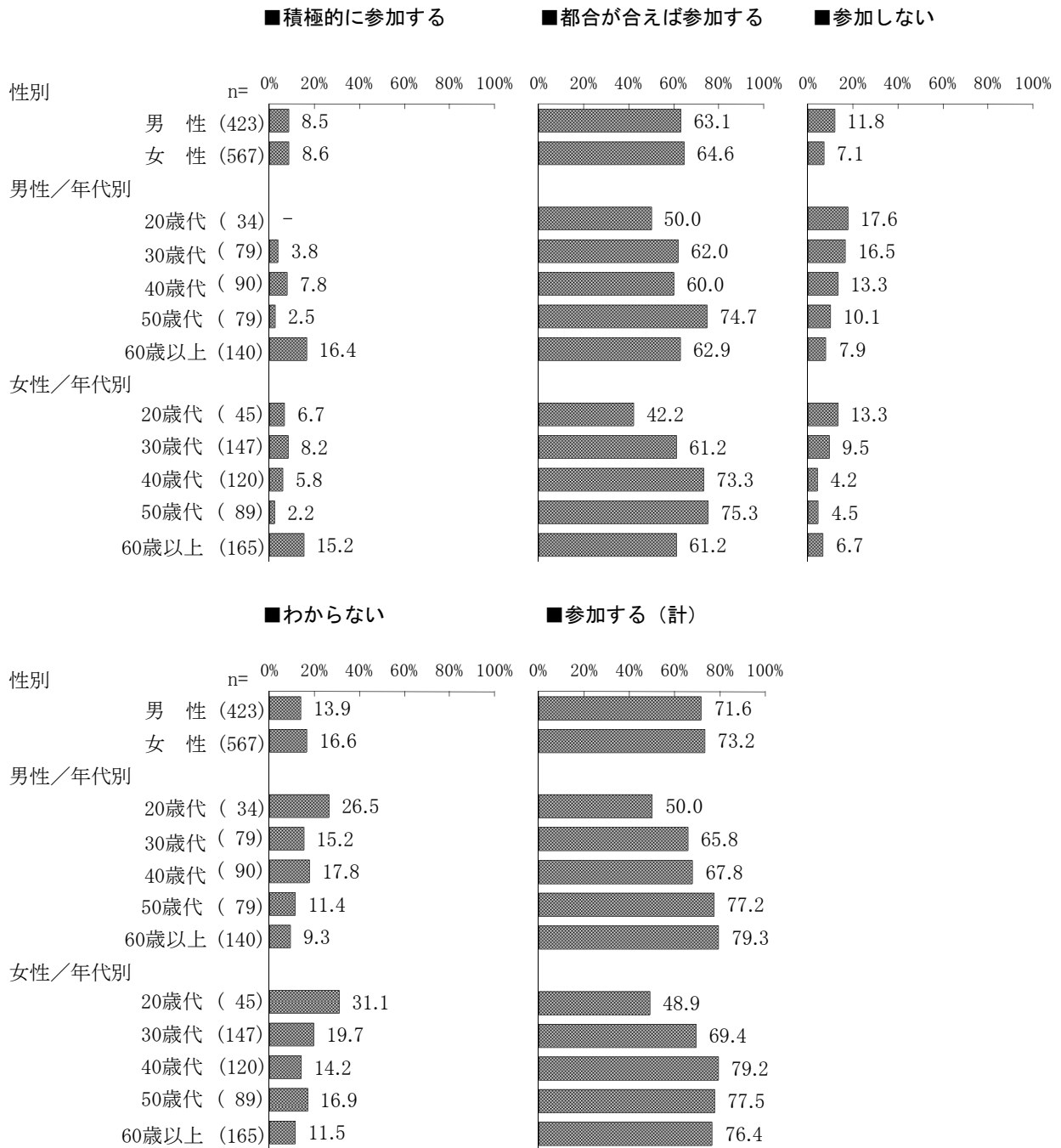
図 55-1



\* この項目は2009年度では聴取していない。

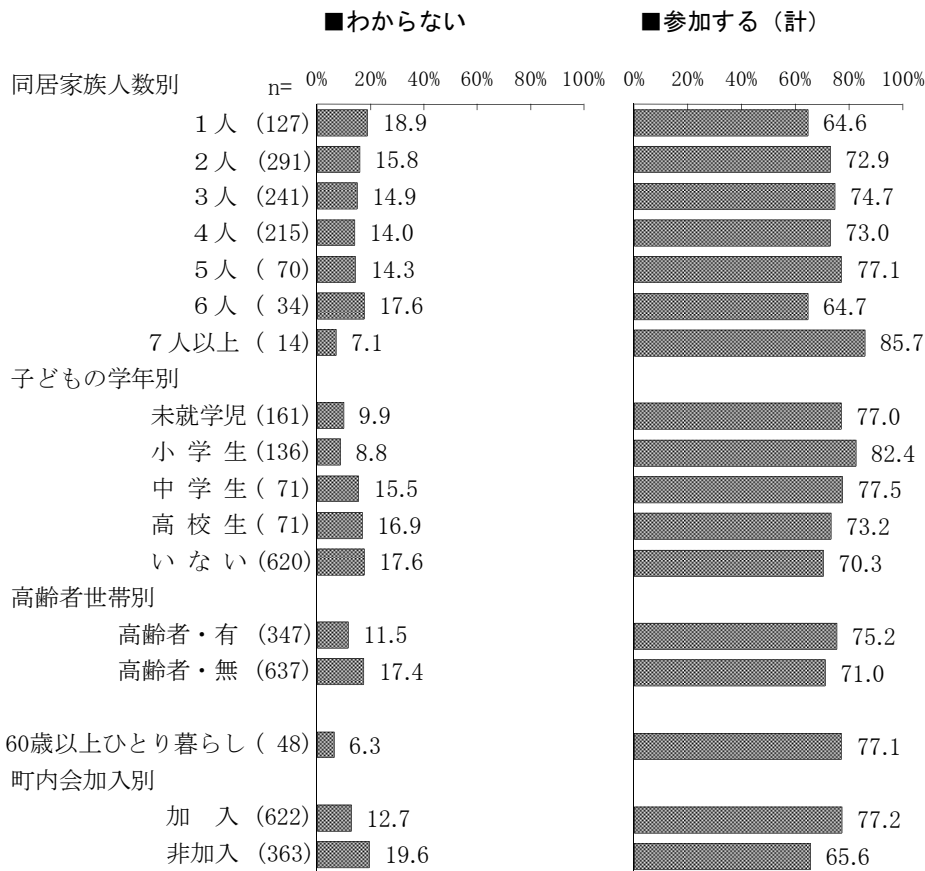
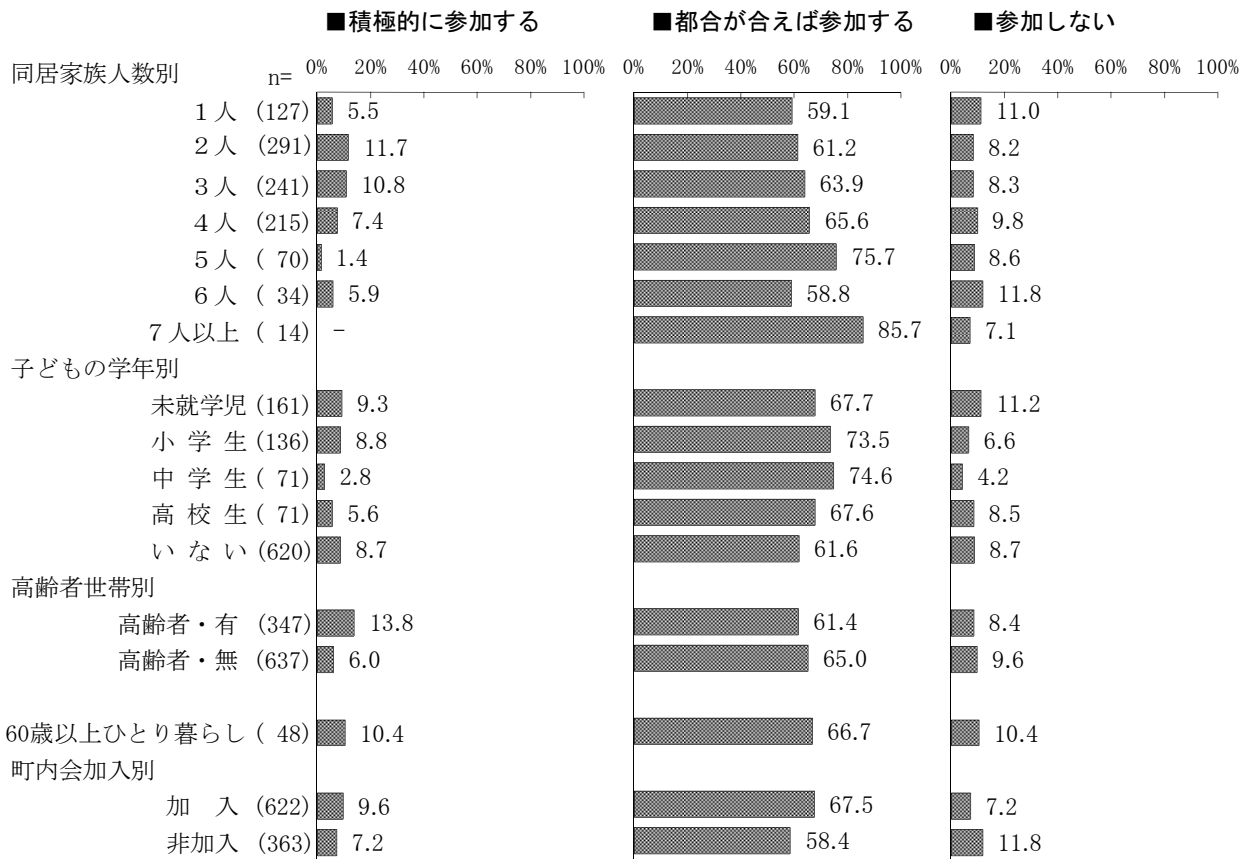
防災知識の向上を図る学習会への参加意向は、「積極的に参加する」が8.6%、「都合が合えば参加する」が63.6%、「参加しない」が9.0%、「わからない」が15.2%となっている。また、「積極的に参加する」と「都合が合えば参加する」を合わせた「参加する(計)」は72.3%となっている。

図 55-2 性別／性年代別



性別では、「参加しない」で『男性』の方が『女性』よりも4.7ポイント高くなっている。性・年代別では、「参加する(計)」で男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。反対に「参加しない」と「わからない」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向がみられる。

図 55-3 同居家族人数別／子どもの学年別／高齢者世帯別  
／町内会加入別



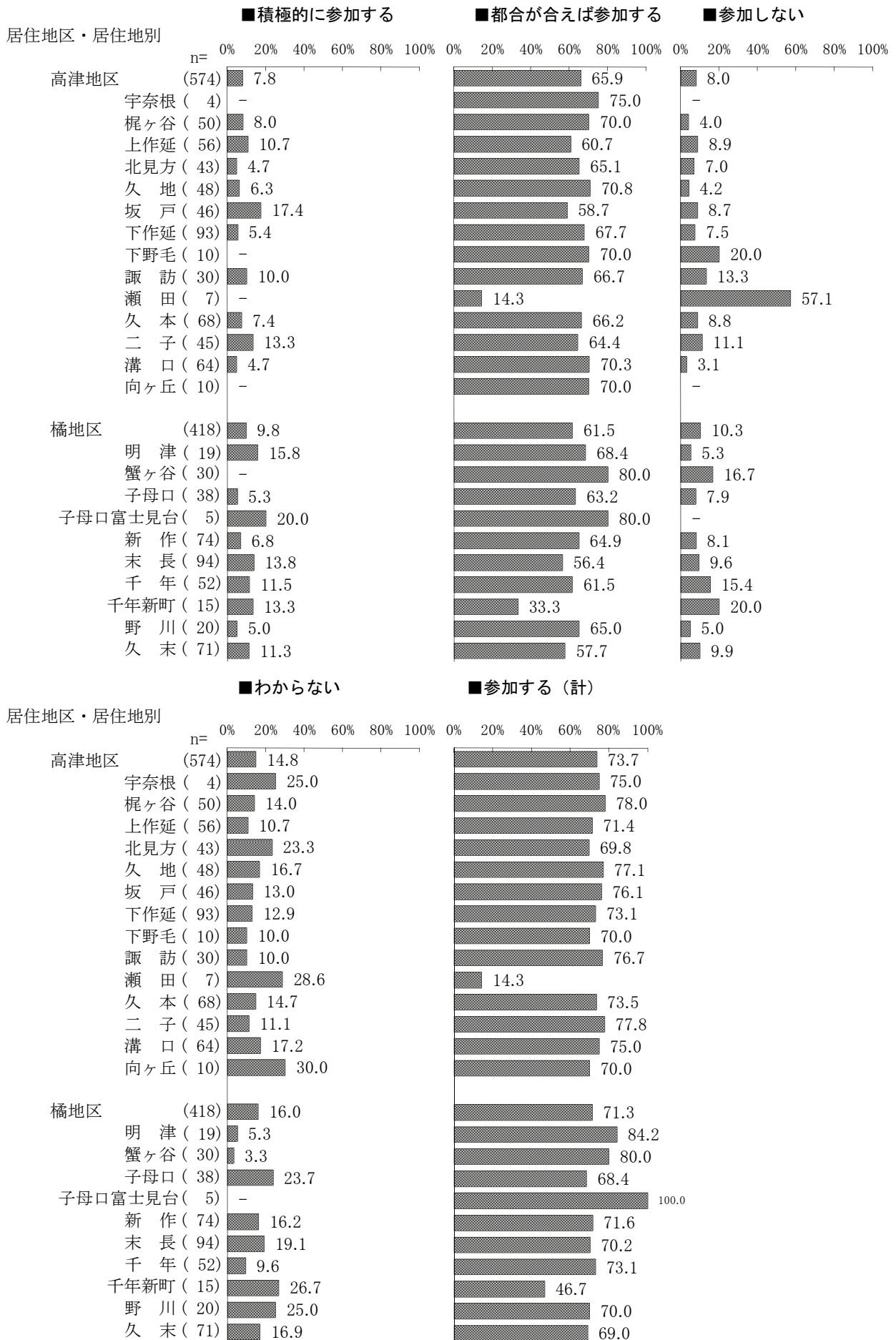
子どもの学年別では、「参加する(計)」で『小学生』が8割を超えている。

高齢者世帯別では、「積極的に参加する」で『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも7.8ポイント高くなっている。

町内会加入別では、「参加する(計)」で『加入』の方が『非加入』よりも11.6ポイント高くなっている。



図 55-4 居住地区・居住地別



居住地別では、「参加する(計)」で橘地区の『蟹ヶ谷』が80.0%、僅差で高津地区の『梶ヶ谷』が78.0%、『二子』が77.8%となっている。



#### IV. 使用した調査票



# 高津区区民生活に関わるニーズ調査

2012年10月

高津区では、区政を進める上での参考資料を得ることを目的として、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を実施いたします。

今年度の実施に当たり、全区民の方々を対象に、偏ることのないよう統計的な方法（住民基本台帳から無作為抽出）で選ばせていただきましたところ、あなた様にご意見をお伺いすることになりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力の程お願い申し上げます。

調査の結果は、「こういう方々のご意見が何パーセント」というように数表としてまとめますので、あなた様のお名前が外部に洩れたり、ご意見をお聞きしたことでご迷惑をおかけするようなことは絶対にございませぬ。ご安心ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに、10月31日（水）までにご投函ください。

なお、調査結果の内容につきましては、2013年3月頃に、区役所に閲覧用の調査結果報告書をご用意いたしますので、そちらをご参照ください。

## ご記入に際してのお願い

- 1 アンケートのご回答は、必ずご本人が行ってください。
- 2 ご回答は、次の要領で行ってください。
  - 各項目について、お気軽に感じたままをお答えください。
  - 回答項目のうち、あてはまると思われる番号に○をつけてください。
  - ○の数は、（3つまで○）（いくつでも○）といった（ ）内の指示に合わせてつけてください。
  - 「その他」の（ ）内や  内には、ご意見を具体的にお書きください。
- 3 質問内容など不明な点がございましたら、下記の調査実施機関の担当までご連絡ください。

川崎市高津区役所企画課

TEL 044-861-3131

FAX 044-861-3103

調査実施機関 株式会社 総合企画（ソウゴウキカク）

〒111-0053

東京都台東区浅草橋1-7-2 岩崎ビル4階

TEL 03-5829-6203

（受付時間／平日9:30～18:30）担当 杉本／松本



古紙配合率100%再生紙を使用しています

**第1部  
通常アンケート**

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。  
(いくつでも○)

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。  
(いくつでも○)

問1	問2
とよ しく うや もつ てい る	れ今 て後 ほ特 しに い力 もを の入



	問1	問2
1 放置自転車対策	1	1
2 街頭犯罪の防止	2	2
3 地震や風水害への対策	3	3
4 駅周辺の環境整備	4	4
5 道路、歩道の整備	5	5
6 緑地や水辺の整備	6	6
7 建築、開発計画、景観ルールなどまちづくりに関する相談・支援	7	7
8 健康づくりに関する事業	8	8
9 高齢者関係の事業	9	9
10 子ども・子育ての支援	10	10
11 心身の不自由な人の支援	11	11
12 地域の住民同士のつながりを深める事業	12	12
13 市民活動の支援	13	13
14 区の広報・広聴の充実	14	14
15 花と緑のまちづくりの推進	15	15
16 文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催	16	16
17 区のイメージアップを図り、地域に愛着を持たせる事業	17	17
18 区民と行政が協働でまちづくりを進める仕組みづくり	18	18
19 区役所の窓口サービスの向上	19	19
20 地球温暖化対策に関する事業	20	20
21 区内在住の外国人に対する支援	21	21
22 特になし	22	22
23 わからない	23	23
24 その他( )	24	24

問3 放置自転車対策として、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 駅周辺に駐輪場を整備・増設する
- 2 放置自転車の撤去や整理誘導員による指導を強化する
- 3 自転車利用者へマナーを啓発する
- 4 自転車共用システム(※)を導入する
- 5 バス・電車など公共交通機関の利用を促す
- 6 駅まで歩くように啓発する
- 7 その他( )

※ 自転車共用システム・・・共用の自転車を用意し、システムに登録した人がその自転車を利用できるようにする。自宅からの利用者は、共用の自転車に乗り、駅前の駐輪場に停める。駅から駅周辺の会社・学校に通う者がその自転車を利用することにより、駐輪場に停めておく自転車を減少させるというもの。

問4 街頭犯罪などを防止するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 住民が自分たちで地域をパトロールする
- 2 区内で発生する犯罪情報を発信する
- 3 防犯教室を開催する
- 4 防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする
- 5 地域の危険箇所を記した安全マップを作成する
- 6 広報物などにより防犯の啓発活動をする
- 7 防犯灯を増設する
- 8 その他( )

問5 地震や風水害への対策として、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 防災訓練を充実させる
- 2 被災時に必要な物資を充実させる
- 3 消火や救命活動のできる人材を育成する
- 4 地域のつながりの充実を図る
- 5 防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う
- 6 耐震診断を充実させる
- 7 地域の防災組織の活性化を図る
- 8 その他( )

問6 区民の健康づくりを推進していくためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 健康づくりに関する情報を提供する
- 2 健康づくりに関する講座・イベントを開催する
- 3 市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する
- 4 タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする
- 5 レストランや食品の栄養表示を充実させる
- 6 その他( )

問7 高齢者を支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 高齢者が集まれる場所をつくる
- 2 高齢者の支援などに関する情報を提供する
- 3 ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する
- 4 悩みなどの相談を受け付ける場を設ける
- 5 送迎サービス・ボランティアの拡充を図る
- 6 配食サービスを充実させる
- 7 高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する
- 8 その他( )

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 子どもや子育てに関する情報を発信する
- 2 子どもの遊び場を提供する
- 3 子育て中の親が交流できる場を提供する
- 4 家事を補助する仕組みを作る
- 5 区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る
- 6 幼稚園・保育園等の施設を増設する
- 7 子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する
- 8 その他( )

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する
- 2 既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する
- 3 身近に集い、憩える場所を作る
- 4 「地域のコミュニティ」というテーマで講演会・シンポジウムを開催する
- 5 地域の活動(清掃、花壇の管理など)を通して、地域の連帯感を深める
- 6 町内会、自治会の活動を行政が支援する
- 7 その他( )



問10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 活動資金を助成する
- 2 団体同士が交流する機会を設ける
- 3 市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける
- 4 市民活動の情報を共有する
- 5 区内で活動する人材バンクをつくる
- 6 有益な活動をしている団体を表彰する
- 7 その他( )

問11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 市政だより区版を拡充する
- 2 区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる
- 3 ホームページを充実させる
- 4 携帯電話からも情報を得られるようにする
- 5 ポスターなどを掲示板に貼る
- 6 チラシを様々な施設におく
- 7 メールマガジンを発行する
- 8 タウン誌を活用する
- 9 町内会で回覧する
- 10 その他( )

問12 区民の要望を収集するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う
- 2 公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く
- 3 「市長への手紙」だけでなく、「区長への手紙」の制度を設ける
- 4 地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する
- 5 ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する
- 6 その他( )

問13 花と緑のまちづくりを推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 街路樹による緑化を推進する
- 2 シンボルとなる魅力ある公園づくりをする
- 3 公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする
- 4 公園緑地や学校での環境教育・学習をする
- 5 ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する
- 6 その他( )

問14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 音楽会、コンサートを開く
- 2 映画鑑賞会を開く
- 3 伝統芸能に触れる機会を作る
- 4 「文化」をテーマとした講演会、シンポジウムを開く
- 5 区内の文化財・史跡を巡る催しを開く
- 6 区の文化に関する冊子などを作成する
- 7 その他( )

問15 高津区において「音楽のまち」を推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 区役所などの公共施設でコンサートを開催する
- 2 市民の音楽活動の発表の場を設ける
- 3 路上で歌うミュージシャンを支援する
- 4 小学校、中学校に音楽教育をする
- 5 区のイメージソングを作成する
- 6 区民の音楽団体の活動を支援する
- 7 良質な音楽イベントを誘致する
- 8 その他( )

問16 区のイメージアップを図り、区民が地域に愛着をもつようにするためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 区を紹介する広報誌を発行する
- 2 高津区を特徴づけるイベントを開催する
- 3 駅前など人が多く集まるところをきれいにする
- 4 区内に花や緑を増やす
- 5 名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する
- 6 その他( )

問17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 窓口案内人(コンシェルジェ)を配置する
- 2 窓口の案内表示を分かりやすくする
- 3 申請書の書き方を分かりやすくする
- 4 土曜・日曜・祝日に窓口を開く
- 5 職員の窓口対応を区民が評価する
- 6 職員に接客方法の研修を受けさせる
- 7 区役所の窓口に通わず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす
- 8 その他( )

問18 あなたのまちの課題・問題点と思うものは何ですか。(いくつでも○)

- 1 地震や風水害に対する準備が不足している
- 2 小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある
- 3 駅周辺に放置自転車が多い
- 4 駅前広場の整備が不十分である
- 5 駅までの交通の利便性がよくない
- 6 高齢者を地域ぐるみで支える仕組みが不十分である
- 7 近所に公園が少ない、または公園の維持管理が行き届いていない
- 8 子どもや子育てを地域ぐるみで支援する仕組みが不十分である
- 9 まちに木や草花など、緑が少なくなっている
- 10 多摩川、二ヶ領用水などの水辺に親しめる環境がない
- 11 ごみの散乱や壁への落書きなど、まちが汚い
- 12 ごみの出し方などのマナーが守られていない、またはリサイクルへの関心が少ない
- 13 カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い
- 14 商店街に活気がない
- 15 地域の中で住宅と工場が混在し、周辺の環境に問題がある
- 16 名所・旧跡など魅力となる場所が少ない、または知られていない
- 17 近隣の住民同士の関係が薄れている
- 18 市民団体の活動への支援が少ない
- 19 市民の意見を区の行政へ反映する仕組みがない
- 20 退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない
- 21 特になし
- 22 わからない
- 23 その他( )

問19 区役所に希望すること、期待することをご自由に記入してください。

## 第2部 事業に対する認知度と事業に対して点数をつけて評価するアンケート

あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。（○は各1つだけ）

### 問20 「エコシティたかつ」推進事業

内 容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化対策などの環境問題に取り組む方針。この方針に沿って、ゴーヤーなどによる高津区「緑のカーテン」大作戦、「たかつエコ・エネライフ コンクール」、学校ビオトープの推進など様々なプロジェクトを実施している。

認知度 (○は1つだけ) ⇒	1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
評価 (○は1つだけ) ⇒	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない

### 問21 高津大山街道周辺整備活性化事業

内 容：地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。現在は、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組みを進めるとともに、プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。

認知度 (○は1つだけ) ⇒	1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
評価 (○は1つだけ) ⇒	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない

### 問22 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

内 容：橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取組みを行っている。

認知度 (○は1つだけ) ⇒	1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
評価 (○は1つだけ) ⇒	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない

問23 たかつ区健康福祉まつり

内 容 : 区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問24 高津公園体操推進事業

内 容 : 区内の関係機関やヘルスパートナー高津、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとに研修会を実施している。また、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施し、普及し啓発するためのリーフレット、DVDの作成を行っている。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問25 子育て情報誌発行事業（あったかつうしん）

内 容 : 子育て中の親の視点からニーズにあった情報発信を目的とし、区民と行政が協働で情報誌「あったかつうしん」の発行を行っている。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問26 高津区「音楽のまち」推進事業

内 容 : 音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花・コンサート」、「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問27 高津区子どもフェア

内 容 : 子どもの健全育成を図るため、夏休み最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょうの掴み捕り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問28 高津地区親子運動会事業

内 容 : 毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子を対象に運動会を行っている。昨年は、町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問29 橘地区親子運動会事業

内 容 : 毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子を対象に運動会を行っている。100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問30 橘ふるさと祭り 子どもイベント

内 容 : 「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される橘ふるさと祭り（8月上旬の日曜日）において、移動動物園、ストラックアウト、おもちゃの釣り堀、ポスター展など子どもを対象としたイベントを実施している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問31 高津区文化振興事業

内 容 : 区の文化の振興を図るため、10月に高津市民館で開催された高津区文化祭にあわせて、区や市にゆかりのある著名な文化人を招き文化講演会やコンサートを行っている。また、昨年、地域の身近な文化遺産である大山街道周辺の文化財や久本薬医門公園などを巡り、その文化価値を学ぶ高津区文化探訪講座を2回開催した。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問32 高津区まちづくり推進事業

内 容 : 区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取り組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまねっと」の運営を行っている。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問33 高津区総合ガイドマップ作成事業

内 容 : 区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、緊急時の連絡先、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 読んだことがある	2 あることは知っている	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問34 高津区区民会議

内 容 : 区民の参加と協働による地域課題の解決に向けた調査審議を行うために、平成18年度から実施している。第3期区民会議では、「新しいコミュニティづくり」をテーマに取組みを進め、現在第4期区民会議では「地域防災対策」等をテーマに調査審議を進めていく予定である。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問35 子ども・子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（情報ガイドブック））

内 容： 地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホッとこそだて・たかつ」の情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問36 子ども・子育て情報発信事業（ホッとこそだて たかつ（ホームページ））

内 容： 地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、ホームページ「ホッとこそだて たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 見たことがある	2 知っているが見たことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問37 地域子育て支援センター事業

内 容： 乳幼児とその保護者同士が交流をしたり、子育てに関する情報を得たり、子育て講座に参加したりする事が出来る場として開設している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 利用したことがある	2 知っているが利用したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問38 子ども・子育てフェスタ事業

内 容： 毎年11月の土曜日に高津市民館において、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介や交流などを実施している。その中で、市民と行政との協働による子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない



問39 高津区スポーツネットワーク事業

内 容 : スポーツの力で健康づくり・仲間づくり・まちづくりを推進することを目的に、高津区内のスポーツ関連団体に関する情報をとりまとめ、団体間の連携を促進するとともに、ホームページ「たかつスポーツネット」において、高津区内のスポーツ活動情報を発信している。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない
評価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問40 高津区ふるさとアーカイブ事業

内 容 : 高津区に親しみを持っていただくとともに高津区の歴史を次代に伝えるため、高津のまちに関する資料（写真等）を収集・活用していく方針を、平成23年度に「高津区ふるさとアーカイブ基本構想」として策定した。現在は、古写真等の収集や区制40周年記念誌（本年12月発行予定）の編集を行っている。

認知度 (○は1つだけ)	⇒ 1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない
評価 (○は1つだけ)	⇒ 1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

### 第3部 区民意識アンケート

特定のテーマについて、区民意識を把握するためのアンケート調査です。

#### ■地域防災について

第4期高津区区民会議では「地域防災」を調査審議課題の一つとしています。  
今後の調査審議の基礎資料とするため、以下の設問にお答えください。

問41 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安を感じますか。(1つだけ○)

- 1 とても不安を感じる
- 2 ある程度不安を感じる
- 3 あまり不安を感じない
- 4 ほとんど不安を感じない

問42 現在お住まいの地域での大規模地震の発生に対して、特に不安なことは何ですか。(2つまで○)

- 1 家族や自分自身の身の安全
- 2 家族の安否確認の方法
- 3 避難所までの避難方法
- 4 自宅(家屋・建物)の倒壊
- 5 食料や水の確保
- 6 避難所での生活
- 7 その他( )

問43 大規模地震の発生直後に、あなたは誰を頼りにすると思いますか。(2つまで○)

- 1 家族・親戚
- 2 知人・友人
- 3 近所の人
- 4 町内会・自治会
- 5 区役所・消防署・警察などの行政機関
- 6 ボランティア
- 7 頼れる人はいない
- 8 その他( )

問44 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。  
(1つだけ○)

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| 1 毎回参加している      | } 問46へ |
| 2 できるだけ参加している   |        |
| 3 ほとんど参加したことはない |        |
| 4 一度も参加したことはない  |        |

《問44で「3. ほとんど参加したことはない」「4. 一度も参加したことはない」を選択した方にうかがいます》

問45 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。  
(1つだけ○)

- |                         |
|-------------------------|
| 1 都合が合わないため             |
| 2 いつどこで防災訓練があるのかわからないため |
| 3 参加方法がわからないため          |
| 4 参加するきっかけがないため         |
| 5 町内会・自治会に加入していないため     |
| 6 訓練に参加する必要性を感じないため     |

《全員の方へうかがいます》

問46 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。  
(2つまで○)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 各家庭における災害用備蓄の充実                 |
| 2 行政による災害用備蓄の充実                   |
| 3 区民への啓発活動や防災に関する情報の周知            |
| 4 救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成      |
| 5 地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実 |
| 6 町内会・自治会等の防災活動の充実                |
| 7 その他( )                          |

問47 あなたの家庭では、普段から大規模地震の発生に備え、どのようなことをしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1 3日分程度の水と食料の備蓄をしている	} 次ページ問49へ
2 非常持出品の用意をしている	
3 家具などが倒れないように固定している	
4 自宅を耐震補強している	
5 災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている	
6 地域の防災訓練に参加している	
7 災害情報を収集できるようラジオ等を用意している	
8 その他( )	
9 特に準備をしていない	

《問47で「9 特に準備をしていない」を選択した方にうかがいます》

問48 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。  
(2つまで○)

1 どのような準備をしたら良いのかわからないから
2 準備は必要だと思うが、忙しくてできないから
3 防災用品等は価格が高いから
4 保管場所が無いから
5 すぐに大地震が来るとは思っていないから
6 行政等での備蓄があるので、十分だとおもっているから
7 その他( )

《全員の方へうかがいます》

問49 川崎市では市立小中高等学校等を地震災害時の避難所として位置づけていますが、あなたは、最寄りの避難所を知っていますか。(1つだけ○)

- 1 知っている ⇒ 問51へ
- 2 知らない

《問49で「2 知らない」を選択した方へうかがいます》

問50 避難所を知らないことについてどのように思いますか。(1つだけ○)

- 1 できる限り自宅にしようと思うので知る必要はない
- 2 災害時に確認すれば良いと思う
- 3 知りたいが、確認する方法が分からない
- 4 そのうち確認しようと思っている
- 5 その他( )

《全員の方へうかがいます》

問51 防災についてどのような情報が必要だと思いますか。(3つまで○)

- 1 近くの避難所
- 2 各家庭で備えたほうが良い備蓄品一覧
- 3 ガラス飛散防止や家具転倒防止の方法
- 4 川崎市の備蓄状況
- 5 防災訓練など地域で行われている防災活動
- 6 自分の住んでいる地域の被害想定
- 7 応急手当などの方法
- 8 学校や公共施設の耐震性
- 9 その他( )

問52 防災知識の向上を図る学習会のようなものが実施されれば、あなたは参加しますか。(1つだけ○)

- 1 積極的に参加する
- 2 都合が合えば参加する
- 3 参加しない
- 4 わからない

ここからの質問は、あなたご自身とご家族のことについてお伺いします。  
この数字は統計的に処理されるため、個人にご迷惑をおかけすることは一切ありません。

F1 あなたの性別を伺わせてください。(1つだけ○)

- |      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F2 あなたのご年齢を伺わせてください。(1つだけ○)

- |          |          |
|----------|----------|
| 1 20～24歳 | 6 45～49歳 |
| 2 25～29歳 | 7 50～54歳 |
| 3 30～34歳 | 8 55～59歳 |
| 4 35～39歳 | 9 60～64歳 |
| 5 40～44歳 | 10 65歳以上 |

F3 あなたのお住まいを伺わせてください。(1つだけ○)

- |       |       |        |            |         |
|-------|-------|--------|------------|---------|
| 1 宇奈根 | 6 坂戸  | 11 久本  | 16 蟹ヶ谷     | 21 千年   |
| 2 梶ヶ谷 | 7 下作延 | 12 二子  | 17 子母口     | 22 千年新町 |
| 3 上作延 | 8 下野毛 | 13 溝口  | 18 子母口富士見台 | 23 野川   |
| 4 北見方 | 9 諏訪  | 14 向ヶ丘 | 19 新作      | 24 久末   |
| 5 久地  | 10 瀬田 | 15 明津  | 20 末長      |         |

F4 高津区にお住まいになって、何年になりますか。(1つだけ○)

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 1年未満     | 5 10年～20年未満 |
| 2 1年～3年未満  | 6 20年以上     |
| 3 3年～5年未満  |             |
| 4 5年～10年未満 |             |

F5 あなたの現在のご職業を伺わせてください。(1つだけ○)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 自営業主        | 6 主婦(仕事はしていない) |
| 2 家族従業(家業手伝い) | 7 学生           |
| 3 勤め(全日)      | 8 無職           |
| 4 勤め(パートタイム)  | 9 その他( )       |
| 5 内職          |                |

F6 あなたは町内会・自治会に加入していますか。(1つだけ○)

- |      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

F7 あなたはインターネットを利用していますか。(1つだけ○)

- |      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

F8 現在、一緒にお住まいのご家族は、あなたを含めて何人いらっしゃいますか。(1つだけ○)

- |      |        |
|------|--------|
| 1 1人 | 5 5人   |
| 2 2人 | 6 6人   |
| 3 3人 | 7 7人以上 |
| 4 4人 |        |

F8-1 また、ご家族の中に、未就学児(0歳~小学校入学前まで)、小学生、中学生、高校生は何人いらっしゃいますか。(該当する年代に○を付け、人数をお書きください)

- |        |       |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 1 未就学児 | 2 小学生 | 3 中学生 | 4 高校生 | 5 いない |
| ↓      | ↓     | ↓     | ↓     |       |
| ( )人   | ( )人  | ( )人  | ( )人  |       |

F9 65歳以上の方は同居していらっしゃいますか。(ご自分が65歳以上の方は1に○をつけてください。)(1つだけ○)

- |      |       |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

**以上でアンケートは終了です。**

**同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、10月31日(水)までにご投函ください。**

**ご協力誠にありがとうございました。**

# 高津区区民生活に関わるニーズ調査 報告書

2013（平成25）年3月

調査主体 高津区役所企画課  
〒213-8570 川崎市高津区下作延2-8-1  
電話：044-861-3131

調査実施 株式会社 総合企画  
東京都台東区浅草橋1丁目7番地2号 岩崎ビル4F  
電話：03-5829-6203





高津区